

まえがき

このたびは、BYD 車をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。車両を正しく利用、メンテナンスしていただくために、利用前に必ず本オーナーズマニュアルをお読みになり、大切に保管してください。

特記事項：BYD は、純正部品を使用し、マニュアルに従って正しく利用、メンテナンス、整備することをおすすめしています。非純正部品への交換や車両の改造を行うと、車両の性能、特に安全性や耐久性に影響を与えるおそれがあります。それにより発生した車両の破損および性能上の不具合は品質保証対象外となります。また、車両の改造は、国の法規や地方条例に違反する場合があります。

より良いサービスをお届けするために、皆さまからの貴重なご意見やアドバイスをいただきましたら幸いです。そのためには正確な連絡先情報をご提供ください。また、変更が生じた場合は速やかに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にご連絡いただき、システム情報の更新をお願いいたします。あわせて、国の関連法規および地方条例に常に注意を払い、速やかに車両登録を行ってください。そうしないと、車両登録ができなくなるおそれがあります。

車両を譲渡する際は、本マニュアルも次のオーナーにお渡しください。

本オーナーズマニュアルに「＊」記号が付いている内容は、一部の車種にのみ適用されます。使用しているイラストは代表例です。お買い上げの車両と異なる場合は、実車をご確認ください。

本オーナーズマニュアルに「警告」、「注意」および「お願い」が記載されているところは、怪我や車両の破損を防ぐため、記載内容を必ずお守りください。シンボルマークの表示や使い方は、次の通りです。

警告

警告

身の安全を守るために守らなければならない事項。

注意

注意

車両の損傷を防ぐために守らなければならない事項。

お願い

お願い

メンテナンスなどを容易にするために守らなければならない事項。



左図に示す禁止マークは、「このようにしないでください」、または「このようなことを起こさないでください」を意味します。

本オーナーズマニュアルは、製品を正しくお使いいただくためのものであり、本製品の仕様およびソフトウェアバージョンに関する説明を表すものではありません。製品仕様やソフトウェアバージョンについては、本製品に関する契約書（ある場合）をご参照していただくか、製品をお買い上げいただいた販売店までお問い合わせください。

著作権は、BYD に帰属します。

BYD から書面による許可を得ずに、本マニュアルの一部または全部の内容を転載、複製、保存または翻訳することを禁じます。そして、電子またはその他のいかなる形式でも配布することを禁じます。

無断での転載・複製・配布を禁じます。違反が認められた場合、法的措置を取ることがあります。

目次

車外.....	9
インストルメントパネル.....	11
ドア.....	12
車内.....	13

安全

シートベルト.....	16
シートベルトについて.....	16
シートベルトの着用.....	16
エアバッグ.....	19
エアバッグについて.....	19
エアバッグタイプ.....	21
エアバッグの作動条件および注意事項....	23
幼児用補助装置 (チャイルドシート)	26
お子様の乗車に関する安全事項.....	26
幼児用補助装置 (チャイルドシート)	27
幼児用補助装置の取り付けについて.....	27
イモビライザー.....	30
イモビライザー.....	30
データの収集および処理.....	31
データの収集および処理.....	31
車両データの処理.....	31
車両の第三者への譲渡、およびオフラインモード.....	33
当局への個人情報開示.....	33
ユーザーのデータ保護の権利.....	34

メータークラスター

コンビネーションメーター.....	36
コンビネーションメーターイメージ.....	36

コンビネーションメーター表示灯.....	37
----------------------	----

コントローラーの操作

ドアとキー.....	48
キーについて.....	48
ドアの施錠/解錠.....	52
スライドドア.....	58
スマートエントリー&スタートシステム	64
チャイルドロック.....	66
シート.....	66
シートについて.....	66
フロントシートの調節.....	67
リアシートの調節.....	69
ヘッドレストの調節.....	71
ステアリングホイール.....	72
ステアリングホイールコンビネーションスイッチ.....	72
ステアリングホイールの調節.....	75
ワイパー.....	76
ワイパースイッチ.....	76
ワイパーの交換.....	77
バックミラー.....	79
ルームミラー.....	79
ドアミラー.....	79
ブラインドスポット補助ミラー*.....	80
スイッチ.....	81
ライトスイッチ.....	81
運転席側ドアスイッチユニット.....	84
助手席側パワーウィンドウスイッチ.....	86
走行距離切替スイッチ.....	86
モードスイッチユニット.....	86
ハザードランプスイッチ.....	87

ルームランプスイッチ.....	87
自動緊急通報システム E-Call.....	88

使用および運転

充電/放電について.....	92
充電について.....	92
充電方法.....	96
外部給電*.....	103
充電ポート盗難防止ロック機能.....	105
航続可能距離の表示設定.....	106
回生ブレーキの設定.....	107
バッテリー.....	108
パワーバッテリー.....	108
起動バッテリー.....	110
ご利用要領.....	112
安全運転上のご注意.....	112
利用時のアドバイス.....	113
節電で車両を長持ちさせる方法につ いて.....	114
荷物の積み込み.....	115
冠水路の走行.....	116
火災予防.....	117
発進と運転.....	118
車両の始動.....	118
インテリジェントパワー ON/OFF*.....	120
車両の運転.....	121
シフト機構.....	122
電動パーキングブレーキ (EPB)	123
オートビークルホールド (AVH)	126
運転要領.....	128
運転支援機能.....	131
運転支援システム概要.....	131

アダプティブクルーズコントロール (ACC)	137
インテリジェントクルーズコントロ ール (ICC)	145
スピードリミットコントロール(ISLC)	148
前方衝突予測警告 (FCW)	149
自動緊急ブレーキ (AEB)	152
交通標識認識システム (TSR)	155
先行車発進通知 (LCDN)	157
車線逸脱防止支援システム (LDA)	158
アダプティブヘッドライト (AFL)	161
ドライバー注意喚起警告 (DAW)	162
幼児置き去り検知 (CPD) *.....	162
アクセルペダル踏み間違い防止 (AMAP)	164
タイヤ空気圧モニタリング*.....	166
車両接近通報装置 (AVAS)	167
BYD アラウンドビューシステム*.....	168
バックモニターシステム*.....	169
駐車支援システム.....	171
安全運転支援システム.....	173

車内装置

マルチメディアシステム.....	180
マルチメディアコントロールパネル PAD.....	180
ナビゲーションバー.....	181
ジェスチャーおよび応答.....	181
シーンモード.....	181
スマートフォンと車載システムの連携*.....	182
OTA アップデート.....	185
Bluetooth.....	186
空調システム.....	186
エアコンパネルイメージ.....	186

エアコン操作画面.....	187
機能定義.....	188
ご利用要領.....	190
吹き出し口.....	191
BYD App.....	191
BYD App.....	191
収納ボックス.....	192
グローブボックス.....	192
駐車券収納ボックス.....	193
フロント収納ボックス.....	193
フロントシート収納ボックス*.....	193
センターコンソールボックス*.....	194
ドアポケット.....	195
トランクポケット.....	195
メガネケース*.....	195
シートバックポケット*.....	195
フロントカップホルダー.....	196
傘ホルダー.....	196
その他の装置.....	197
サンバイザー.....	197
アシストグリップ.....	197
フック.....	197
USB ポート.....	198
車載電源.....	199
後席小型テーブル*.....	199
リアウィンドウサンシェード.....	200
 お手入れとメンテナンス	
メンテナンスについて.....	204
メンテナンス周期およびメンテナ ス内容.....	204
定期メンテナンス.....	208
定期メンテナンス.....	208

車両の防食について.....	209
塗装メンテナンスのお願い.....	210
ホイールのメンテナンス.....	210
スライドドアシステムの点検.....	211
車両外部洗浄.....	211
車内の清掃.....	213
セルフメンテナンス.....	216
セルフメンテナンス.....	216
車両の保管.....	218
ボンネット.....	218
冷却システム.....	219
ブレーキシステム.....	219
ウォッシュャ.....	220
空調システム.....	220
ワイパーメンテナンス.....	221
タイヤ.....	222
フューズ.....	224

故障が発生した時

非常信号灯.....	228
非常信号灯.....	228
リモートキーのバッテリーが切れたら..	228
リモートキーのバッテリーが切れたら..	228
緊急時シャットダウンシステム.....	229
緊急時シャットダウンシステム.....	229
衝突事故が発生したら.....	229
衝突事故が発生したら.....	229
バッテリーの液漏れが発生したら.....	230
バッテリーの液漏れが発生したら.....	230
車両火災が発生したら.....	231
車両火災が発生したら.....	231
レッカー移動が必要なとき.....	231

レッカー移動が必要なとき	231
タイヤの空気漏れまたは空気圧が足りない場合.....	233
タイヤの空気漏れまたは空気圧が足りない場合.....	233

車両仕様

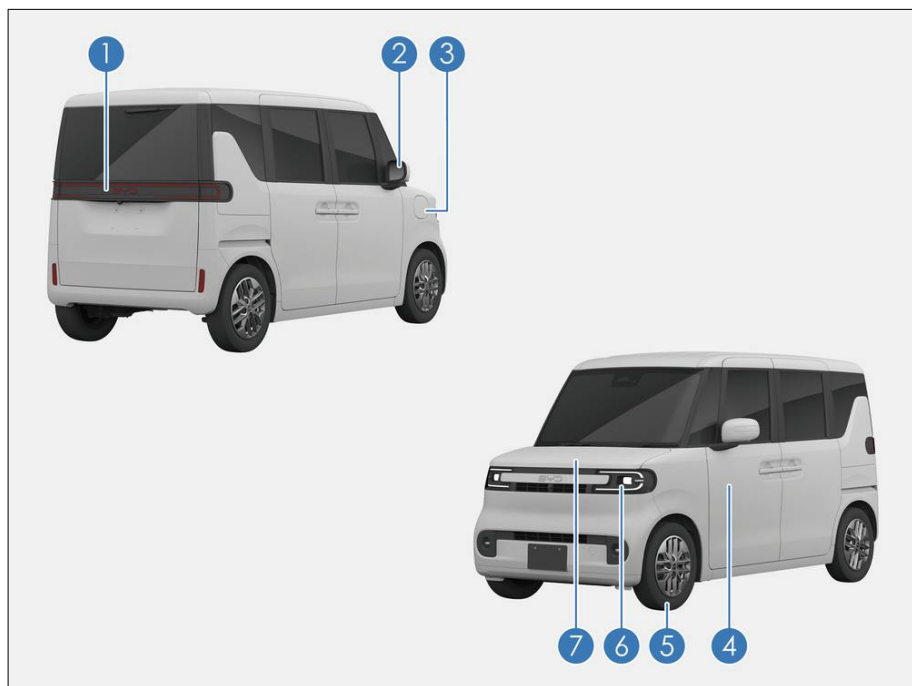
データ情報.....	238
車両諸元.....	238
表示情報.....	241
車両の表示.....	241
警告ラベル.....	242
マイクロ波通信用ウインドウ.....	245
適合宣言書.....	245
適合宣言書.....	245

略語一覧

略語.....	251
----------------	------------

図目次

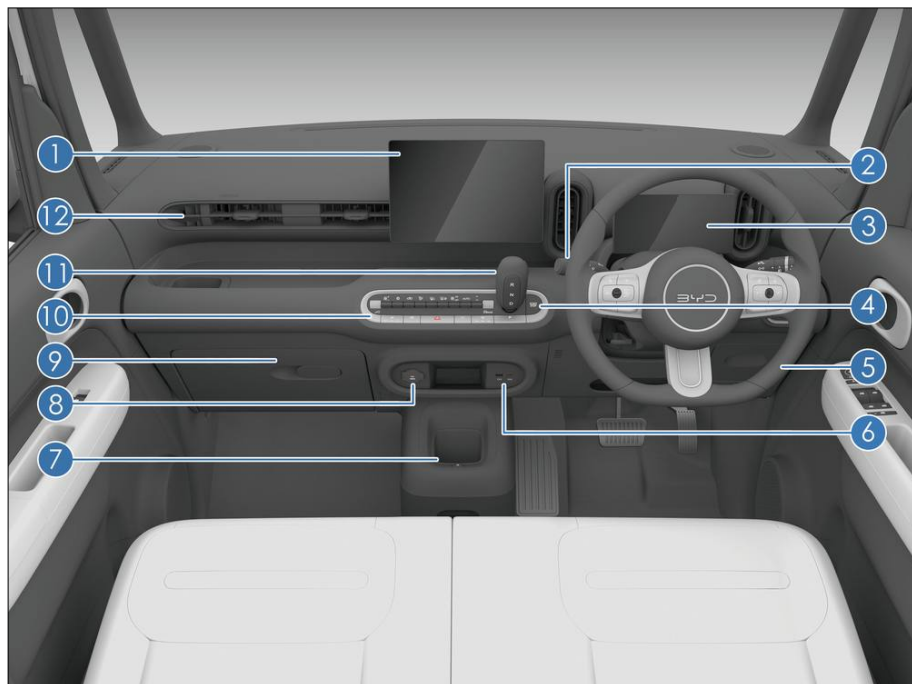
車外



- | | | | |
|---|-------------------------------|---|----------------------------|
| 1 | テールゲート (56 ページ) | 5 | タイヤ (222 ページ) |
| 2 | 電動ドアミラー (79 ページ) | | タイヤの空気漏れが発生したら (233 ページ) |
| 3 | 充電方法 (96 ページ) | 6 | ランプ (217 ページ) |
| | 家庭用 AC 普通充電 (96 ページ) | | ライトスイッチ (81 ページ) |
| | 充電スタンドでの AC 充電 (99 ページ) | 7 | ボンネット (218 ページ) |
| | 充電スタンドでの DC 急速充電* (100 ページ) | | 冷却システム (219 ページ) |
| | 外部給電* (104 ページ) | | ブレーキシステム (219 ページ) |
| 4 | ドア (52 ページ) | | ウォッシャー (220 ページ) |

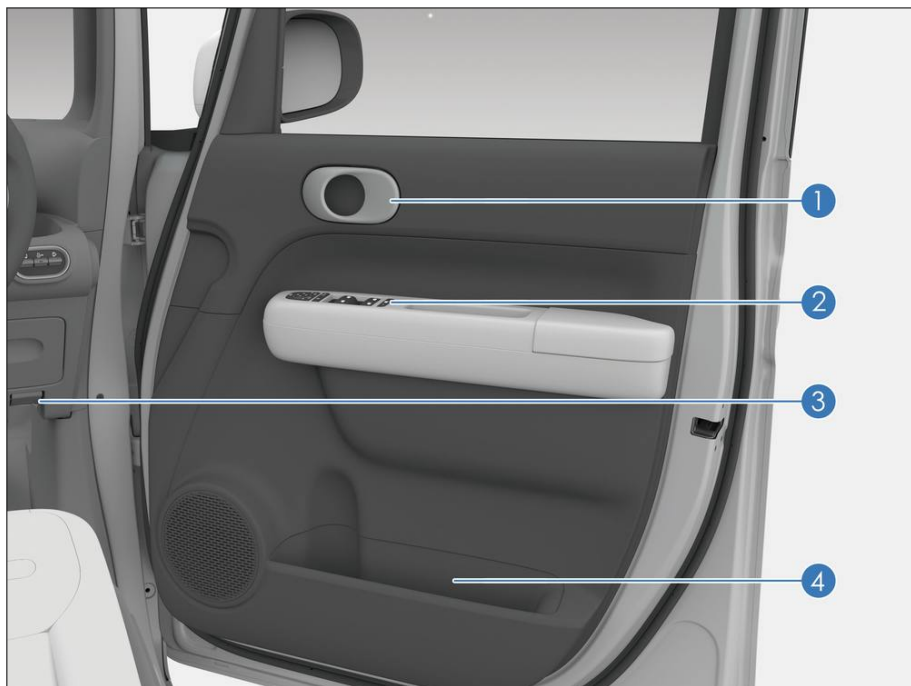
モータールームフューズボックス (**224**
ページ)

インストルメントパネル



- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 1 マルチメディアコントロールパネル (180 ページ) | 7 カップホルダー* (196 ページ) |
| 2 ワイパースイッチ (76 ページ) | 8 12V アクセサリー電源 (199 ページ) |
| 3 コンビネーションメーター (36 ページ) | 9 グローブボックス (192 ページ) |
| 4 スタート/ストップボタン (118 ページ) | 10 エアコンパネルボタン (186 ページ) |
| 5 ステアリングホイール (72 ページ) | 11 シフト機構 (122 ページ) |
| 6 USB ポート (198 ページ) | 12 エアコン吹き出し口 (191 ページ) |

ドア



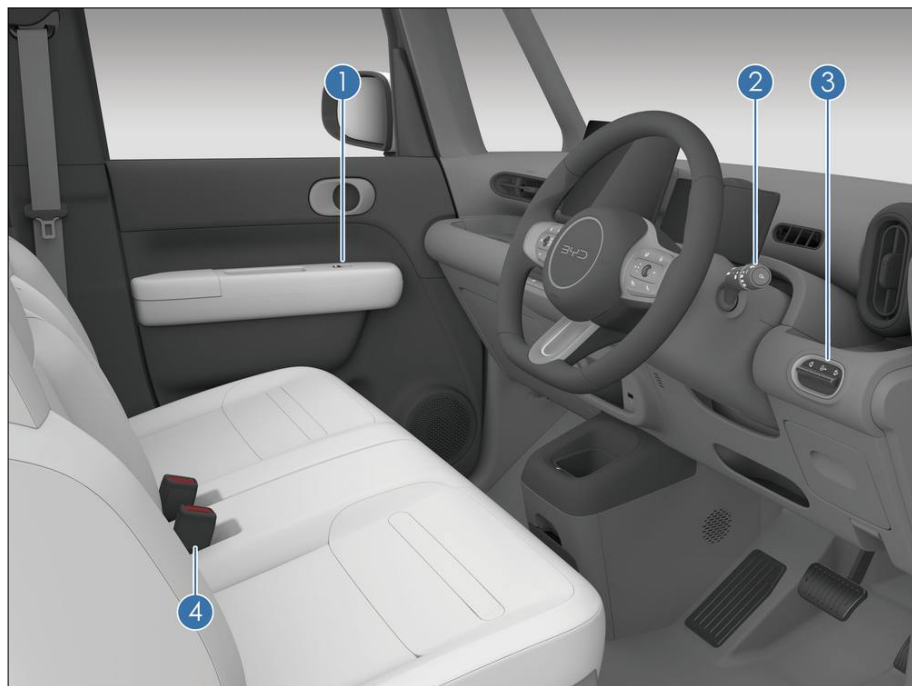
1 ドアノブ (52 ページ)

2 運転席側ドアスイッチユニット (84 ページ)

3 ボンネットリリースレバー (218 ページ)

4 ドアポケット (195 ページ)

車内



1 ウィンドウスイッチ (86 ページ)

2 ライトスイッチ (81 ページ)

3 電動スライドドアスイッチ* (59 ページ)

4 シートベルトバックル (16 ページ)

01

安全

シートベルト	16
エアバッグ	19
幼児用補助装置 (チャイルドシート)	26
イモビライザー	30
データの収集および処理	31

シートベルト

シートベルトについて

シートベルトを正しく使用することで、急ブレーキ、急ハンドル、衝突の際に乗員の死傷者数を大幅に減らすことが研究により明らかになっています。以下をよくお読みになり、厳守してください。

警告

- すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。急ブレーキや衝突事故の時に乗員が傷害を負い、死亡事故になるおそれるためです。
- 車両のシートベルトは大人のサイズに合わせて設計されているため、お子様向けではありません。お子様の年齢や体格にあった適切な幼児用補助装置（チャイルドシート）を選定してください（詳細は（27ページ）を参照してください）。
- シートベルトの破損または異常がある場合は、ただちにBYD 正規ディーラーまたはBYD 指定サービス工場に点検や処置を依頼してください。それまでは該当シートを使用しないでください。
- 事故による傷害または重傷を負わないために、ドライバーおよび乗員全員は常にシートベルトの着用を徹底してください。
- お子様に乗車する場合は、必ずリアシートに乘せてシートベルトと適切なチャイルドシートを使用してください。急ブレーキや衝突事故発生時に幼児用補助装置を利用していないと、生命にかかわる重大な傷害を負うおそれがあります。緊急ブレーキや衝突事故発生時にお子様を確実に守るため、お子様を膝の上に乗せないでください。

シートベルト緊急ロック (ELR) 機能

- 急ハンドル、急ブレーキ、衝突事故があった場合や、乗員の身体が勢いよく前へ傾くと、シートベルトは自動的にロックし、乗員を効果的に拘束および保護します。
- 走行中は、シートベルトが乗員の動きに合わせて伸縮するため、身体を動かしても支障はありません。
- シートベルトの引き出し方が速く、シートベルトがロックされた場合は、シートベルトを少し巻き戻してからゆっくり引き出すと、シートベルトをスムーズに引き出すことができます。

シートベルトのプリテンショナー/ロードリミット機能

- 重大な正面衝突事故が発生し、プリテンショナーの作動条件が揃った場合、プリテンショナーはシートベルトの緩みを瞬時に巻き取りロックし、乗員の身体を拘束します。
- ロードリミッターは、乗員にかかるシートベルトの過度な負荷を回避するため拘束力を一定レベルに保ち、乗員にかかる拘束力の強さの衝撃を緩和します。

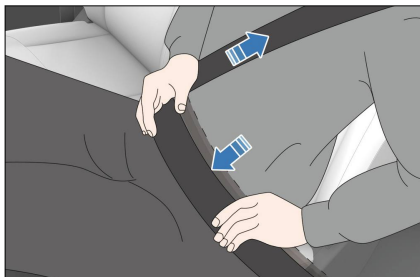
警告

- プリテンショナー機能が作動した場合は、必ずシートベルトを交換してください。
- シートベルトプリテンショナーが作動すると、音や白煙が発生することがあります。

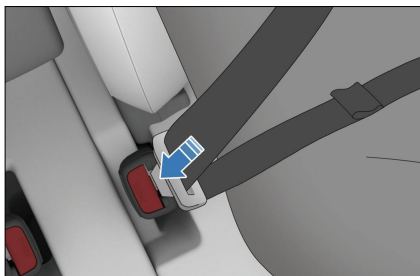
シートベルトの着用

1. シートおよびシートバックを適切な位置や角度に調節します。
2. 3点式シートベルトの位置を調節します。

- 正しい運転姿勢でシートベルトのストラップをゆっくり引き出し、肩部から胸骨を通るように装着します。このとき、シートベルトが首に触れたり、肩から滑り落ちたりしないようにしてください。腰ベルトは腰部を押さえず、できる限り骨盤部を通るように装着してください。



3. タングプレートをバックルに「カチッ」と音がするまで押し込んでから、反対方向にタングプレートを引っ張り、確実にロックできたかを確認します。シートベルトにねじれがないように注意してください。



⚠ 警告

- 肩ベルトは、肩の真ん中を通してください。また、シートベルトは首から遠く離し、肩から簡単に外れないようにしてください。そうしないと、急ブレーキや事故の時にシートベルトが十分に機能せず、乗員の重大な傷害につながるおそれがあります。
- 事故のときに、乗員の腹部にベルトがかかったことで発生する傷害を避

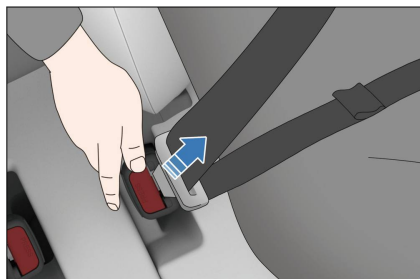
⚠ 警告

けるため、腰ベルトを骨盤部のできるだけ低い位置に掛けてください。

- シートベルトの保護機能をより発揮させるために、シートベルトを身体に密着させ、緩みやねじれがないようにしてください。

4. シートベルトのロックを解除します。

- バックルの赤い解除ボタンを押すと、タングプレートが外れ、シートベルトが戻ります。
- シートベルトがスムーズに戻らない場合は、シートベルトを引き出してねじれがないかをチェックしてください。



⚠ 警告

- シートベルトは1人用です。お子様も含めて、2人以上で1本のシートベルトを使わないでください。
- シートバックを倒しすぎないでください。シートバックを直立にすることで、シートベルトの保護機能が十分に発揮できます。
- 妊娠中の方も、他の乗員と同じようにシートベルトを正しく着用してください。事故発生時にベルトが腹部にかかることで妊婦や胎児に重大な傷害を起こさないために、腰ベルトを骨盤部のできるだけ低い位置に掛けてください。

警告

- ・リアシートのシートベルトの着用方法はフロントシートと同じです。リアシートのシートベルトが保護機能を確実に発揮できるように、タングプレートに対応するバックルに確実に挿し込んでください。ドライバーは、乗員にシートベルトを正しく着用させる責任があります。
- ・シートベルトが破損するおそれがあるため、シートベルトやタングプレート、およびバックルがドアに挟まれないようにしてください。
- ・車内に荷物を積載する際は、荷物がシートベルトのスムーズな引き出しや巻き取りを妨げないようにしてください。
- ・シートベルトの取り外し、分解、改造やシートベルト配線の修理を絶対にしないでください。シートベルト装置の電気回路を勝手に接続しないでください。プリテンショナー装置の誤作動や正常に作動しない原因となることがあります。
- ・事故発生後は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でシートベルトを点検してください。プリテンショナー機能が作動した場合は、シートベルトを交換してください。
- ・重大な事故が発生した場合は、明らかな損傷がなくても、シート ASSY と一緒にシートベルトを交換し、エアバッグシステムを十分に点検してください。
- ・また、シートベルトは必ず規格に適合したものと交換してください。
- ・タングプレートとバックルを確実に結合させるために、バックルには、コイン、クリップまたは他の異物を入れないでください。
- ・機能を正常に保つため、シートベルトを定期的に点検してください：

警告

- ・シートベルトを完全に引き出し、切り傷、摩耗、ほつれなどの異常がないか、シートベルトがスムーズに巻き取れるかを点検してください；
- ・バックルがシートベルトを確実に固定できることを確認してください；
- ・異常がある場合は、ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にチェックや処置を依頼し、それまでは該当するシートを使用しないでください。
- ・プリテンショナー付きシートベルトをご自身で廃棄しないでください。車両を廃棄する場合、またはシートベルトを廃棄する前に、必ず BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にご相談ください。

シートベルトリマインダー

車両の走行可能表示灯が「OK」の状態、ドライバーまたは乗員がシートベルトを着用していない場合、音と光による警報システムが作動します。

・ シートベルト非着用警告灯

ドライバーまたは乗員のいずれかがシートベルトを着用していない場合、インストルメントクラスターのシートベルト警告灯が点灯します。

・ 非着用座席の表示

ドライバーまたは乗員のいずれかがシートベルトを着用していない場合、インストルメントクラスターに未着用の座席位置が表示されます。

・ シートベルト非着用警告音

走行中、ドライバーまたはいずれかの乗員がシートベルトを着用していない場

合、警告音が鳴り、ドライバーや乗員に注意喚起します。

- ・リアシートベルト非着用警告灯

リアシートベルト非着用警告灯はフロントヘッドライニングにあります。リアシートのいずれかの乗員がシートベルトを着用していない場合、該当座席の表示灯が点灯します。



- ・ドライバーと乗員がシートベルトを着用すると、上記の警告灯が消え、警告音が停止します。

⚠ 警告

- ・上記機能の異常または故障がある場合は、ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場まで連絡してください。機能が正常に戻るまでは、該当シートを使用しないでください。
- ・走行中、乗員はシートに座ってシートベルトを確実に着用してください。着用しないと、急ブレーキや衝突事故時に、乗員の生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- ・バックソナー警告音が優先されるため、シートベルト非着用警告音が一時的に鳴らないことがあります。

! お願い

- ・助手席に荷物などを置いた場合、誤って音と光による警告が作動することがあります。

! お願い

- ・子供や小柄な乗員が助手席に座っている場合や、クッションなどを使用している場合、センサーが乗員を検知できず、正常に作動しないことがあります。

エアバッグ

エアバッグについて

- ・エアバッグは補助拘束システム（SRS）の一部分で、シートやシートベルトの働きを補助します。大きな衝突事故が発生してシステムの作動条件が揃うと、エアバッグが瞬時に膨張します。シートベルトと併用することで、ドライバーおよび乗員の頭部や胸部などを保護し、負傷や死亡の確率を軽減します。
- ・エアバッグシステムは、衝突の方向と条件によって、フロントエアバッグとサイドエアバッグに大別されます。フロントエアバッグには、運転席エアバッグ、助手席エアバッグがあり、サイドエアバッグには、シートサイドエアバッグとサイドカーテンエアバッグがあります。
- ・エアバッグシステムはシートベルトに取って代わるものではなく、パッシブセーフティシステム全体の一部に過ぎません。シートベルトを確実に締めていないと、保護機能を最大限に発揮できません。

⚠ 警告

- ・シートベルトとエアバッグシステムの保護機能を最大限に発揮できるように、正しい姿勢でシートベルトを着用してください。
- ・エアバッグの部品をご自身で取り外したり、取り付けたりしないでください。

警告

- BYD が装着を認めていないシートカバーでは、エアバッグ性能の低下につながったり、乗員に思わぬ傷害を及ぼしたりするおそれがあります。
- エアバッグと乗員との間には、絶対ものを置かないでください。
- エアバッグが装備されている部位（ステアリングホイール、インストールメントパネル、シートサイドなど）に過度な力を加えないでください。
- 衝突事故発生時にエアバッグモジュールが展開せず、プリテンショナーシートベルトがロックされなくても、エアバッグコントロールユニットが正常に作動することを確認するため、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。

エアバッグ警告灯

- エアバッグシステムは、電子コントロールユニットでモニタリングし、自己診断

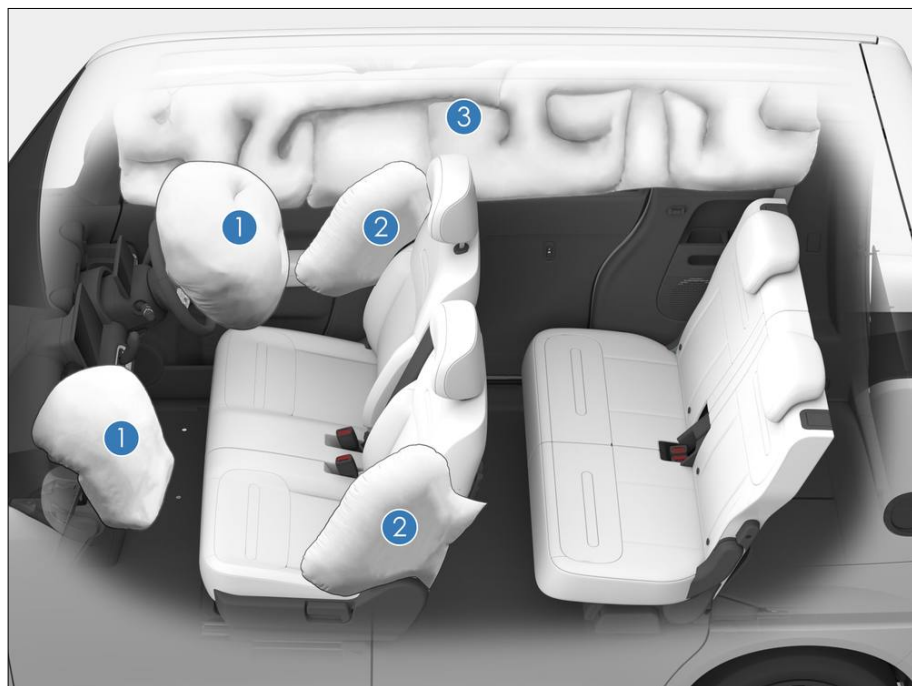
機能によりコンビネーションメーターの警告灯でシステムの状態を表示します。

- 車両の走行可能表示灯を「OK」にした後、エアバッグ警告灯が約 5 秒間点灯後に消灯した場合、システムに異常がないことを示します。

警告

- エアバッグ警告灯が常時点灯している場合は、システムに故障が発生していることを示しています。早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にてエアバッグシステムを点検してください。そうしないと、エアバッグの機能に影響を及ぼすおそれがあります。
- 車両が浸水した（カーペットが濡れている、車両が水没しているなど）、または浸水によって損傷した場合は、車両の電源を入れずに起動バッテリーの接続を外してください。エアバッグが展開して重大な人身事故につながるおそれがあります。

エアバッグタイプ



01

安全

①運転席および助手席エアバッグ

③サイドカーテンエアバッグ

②シートサイドエアバッグ*

運転席および助手席エアバッグ

- 運転席エアバッグはステアリングホイール内、助手席エアバッグはインストルメントパネル内に取り付けられており、「AIRBAG」の表示があります。車両電源投入後、中程度から重度の衝突によってエアバッグの作動条件が揃うと、エアバッグが展開して乗員の負傷を軽減します。

フロントエアバッグの作動プロセス

- 中程度から重度の正面衝突が発生すると、センサーは急激な減速を検知してコントロールユニットに信号を発信し、フ

ロントエアバッグを瞬時に膨張させます。

- 正面衝突の場合、シートベルトが下半身と胴体を固定し、エアバッグがクッションの役割を果たすことで、頭部と胸部を保護します。
- 衝突の強さがエアバッグ作動条件のしきい値に達しない場合は、シートベルトが主な保護機能を発揮します。エアバッグは最小限の補助保護を提供します。
- フロントエアバッグは膨張するとすぐに収縮するため、ドライバーの視線やステアリングホイール、またはその他の制御装置の操作を妨げることはありません。

- ・エアバッグは作動条件が揃うと瞬間的に膨張するため、事故発生時にドライバーや乗員をさらに保護することができません。
- ・エアバッグ作動時は大きな音が発生しますが、通常は人に傷害を与えることはありません（耳鳴りまたは一時的な聴力障害を起こすことはありますが、すぐに回復します）。

警告

- ・スマートフォンホルダー、カップホルダー、灰皿などのアクセサリは、エアバッグカバーの上またはエアバッグの作動範囲に取り付けしないでください。そうしないと、事故が発生してエアバッグが展開することで怪我をする危険性が高まります。
- ・衝突によりエアバッグが展開すると、煙や粉じんが発生することがあります。これらの煙や粉じんは無害ですが、呼吸器疾患のある人は一時的に何らかの不快感を感じる可能性があります。安全を確保した上で、速やかに車両から離れてください。深刻な不快感があるときは、速やかに医師の診断を受けてください。
- ・運転席および助手席乗員エアバッグが展開すると、フロントガラスが破損する可能性があります。
- ・車両が強い側面衝撃を受けた場合、ドライバーおよび助手席乗員エアバッグも展開する可能性があります。

シートサイドエアバッグ

- ・シートサイドエアバッグはフロントシートのシートバックの外側に備えられており、「AIRBAG」の表示があります。車両の電源ポジションが「ON」の場合、走行中に発生した中程度から重度の衝突により、シートサイドエアバッグの作動条件が揃うと、シートサイドエアバッグが作動し、衝突を受けた側の乗員の胸部を保護し、怪我を軽減します。

警告

- ・シートバックを濡らさないでください。シートサイドエアバッグが正常に動作できなくなるおそれがあります。
- ・シートバックにカバーを掛けたり、ご自身でシートバックのカバーを交換したりしないでください。不適切なシートバックカバーの交換や不適切なカバーの使用は、衝突発生時にシートサイドエアバッグの作動を妨げるおそれがあります。
- ・側面衝突がシステムの作動条件を満たした場合、通常は衝突を受けた側のエアバッグのみが作動します。
- ・シートサイドエアバッグの機能を最大限に発揮させるため、乗員はシートベルトを確実に着用し、正しい姿勢で身体をシートバックに密着させる必要があります。
- ・ドアを閉める際は過度な力を加えないでください。シートサイドエアバッグが誤作動するおそれがあります。

サイドカーテンエアバッグ

- ・左右サイドカーテンエアバッグは、ボディーサイドとヘッドライニングの結合部に内蔵されており、Bピラーパネル、Cピラーパネルに「AIRBAG」の表示があります。車両電源投入後、中程度から重度の衝突を受け、作動条件が揃うとサイドカーテンエアバッグが瞬時に膨らみ、乗員の頭部を保護し、怪我を軽減します。

警告

- ・サイドカーテンエアバッグの機能を最大限に発揮させるために、乗員はシートベルトを確実に着用し、正しい姿勢で身体をシートバックに密着させてください。

エアバッグの作動条件および注意事項

エアバッグの作動条件

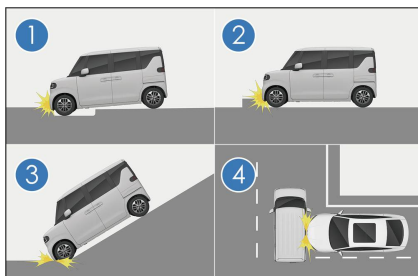
- エアバッグが作動する決定的な要素は、衝突発生時の衝撃力の強さ、事故パターン、衝突角度、障害物および速度が関係しています。また、特殊な衝突事故が発生したときも、エアバッグシステムが作動することがあります。
- エアバッグシステムは、すべての事故において機能するわけではありません。軽度な正面衝突、側面衝突、後面衝突、または横転事故が発生した場合は、エアバッグシステムは作動しません。ドライバーや乗員は、確実に保護を受けられるようにシートベルトを正しく着用してください。
- エアバッグシステムの作動を決定する要因：衝突時に生成され、エレクトロニックコントロールユニット (ECU) によって取得される減速度曲線と設定値を、総合的かつインテリジェントに比較したうえで判断します。衝突時に生成され検知される減速度曲線などの信号が、ECU 内部に予め設定された関連基準値より低い場合は、車両が衝撃で大きく変形したとしてもエアバッグは作動しません。
- BYD のエアバッグシステムの ECU は、一般的な誤使用や道路状況を十分に考慮して設計されています。衝突事故の発生には様々な原因やパターンがあります。安全のため、本オーナーズマニュアルの記載を遵守して正しくご使用ください。そうしないと、エアバッグが正しく機能しないおそれがあります。

エアバッグが作動するとき

- ① 深い溝を通り、車両の先端部が地面にぶつかったとき。
- ② 路肩の突起物、縁石などにぶつかったとき。

③ 急な下り坂を走り、車両の先端部が地面にぶつかったとき。

④ 車両側面に他の車両がぶつかったとき。

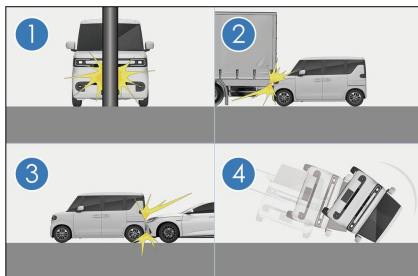


警告

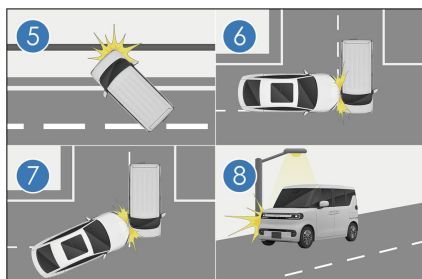
- 車両が高所から落下して地面に衝突した場合、エアバッグが展開する可能性があります。

エアバッグが作動しないとき

- ① コンクリートの柱、樹木、その他の細長い物にぶつかったとき。
- ② トラックの荷台の下に潜り込んだとき。
- ③ 後方から追突されたとき。
- ④ 車両が横転したとき。



- ⑤ 壁または車両に斜めにぶつかったとき。
- ⑥ 車室以外の部位で側面から衝突を受けたとき。
- ⑦ 側面が斜め方向から衝突されたとき。
- ⑧ 側面が柱のような物に衝突したとき。



⚠ 警告

- エアバッグは指定車種を対象に開発されているため、サスペンション、タイヤ寸法、バンパー、シャーシおよびオリジナルデバイスを変更すると、エアバッグシステムに悪影響を与えます。また、エアバッグシステムのすべての部品を他車種へ流用しないでください。エアバッグシステムが故障し、身体に危害を与えるおそれがあります。
- 当該システム作動時に最も効果的に保護機能を発揮させるため、ドライバーの場合は、胸部からステアリングホイールの間を 25cm 以上離してください。
- エアバッグシステムが展開すると、エアバッグ反応により発生した高温ガスがエアバッグ排気口から排出されますので、その部品に触れないでください。手はステアリングの正しい位置に置いてください。正しい位置に置かない場合、エアバッグ展開時に火傷、擦り傷、または打撲傷を負うおそれがあります。
- 走行中はシートベルトを確実に着用し、正しい姿勢を保ってください。シートベルトを着用せずに前かがみになるなど、正しく着席していない場合は、事故によりエアバッグが作動したときに怪我をする危険性が高まります。
- ステアリングホイールキャップと運転席フロントエアバッグキャップの

⚠ 警告

表面、インストルメントパネルエアバッグ近くの表面、A、B、C ピラーパネルの表面に何かを貼り付けたり、何かで覆ったり、装飾を施したりしないでください。汚れは、乾いた布や水で湿せた布で拭き取り、強く叩かないでください。

- お子様を補助装置なし、または大人が抱きかかえた状態でフロントシートに座らせないでください。事故の発生によりエアバッグが作動すると、生命にかかわる重大な怪我につながるおそれがあります。
- 前席の乗員および運転者の膝の上に物を置かないでください。
- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグは、展開速度が速く、かつ衝撃力が強いいため、このエアバッグを搭載している車両の走行中は、乗員はドアに寄りかからないでください。ドアに寄りかかった状態で事故に遭うと、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートサイドエアバッグやサイドカーテンエアバッグが機能する範囲、例えばフロントガラス、ウィンドウガラス、A ピラーパネル、ヘッドライニング、B ピラーパネル、C ピラーパネル、アシストグリップなどに、アクセサリーやものを置かないでください。エアバッグの展開により、アクセサリーなどが強く飛ばされたり、エアバッグが正常に展開できなくなることで、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- 車両を譲渡する場合は、新しい所有者がエアバッグの状況を把握できるように、購入時に入手したすべての資料を新しい所有者に渡してください。

⚠ 警告

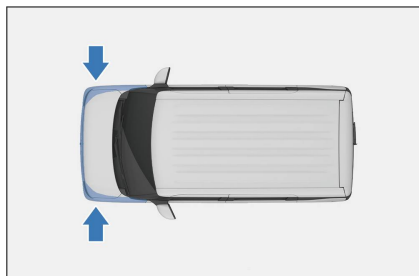
- ・シートまたはサイドエアバッグ付きシートのトリム部品を改造、交換しないでください。改造や交換によりシステムが機能できなくなる、またはサイドエアバッグが予期せず作動し、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- ・サイドカーテンエアバッグが内蔵されている A ピラーパネル、ヘッドライニング、B ピラーパネル、C ピラーパネルの分解や修理をしないでください。分解や修理により、システムが機能できなくなったり、サイドカーテンエアバッグが予期せず作動し、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- ・エアバッグシステムのすべての構成部品は、関連ラベルを含め、いかなる変更もしないでください。エアバッグに対するすべての作業は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に依頼してください。
- ・エアバッグは、1 回限りの使い捨てです。エアバッグが作動または破損した場合、当該システムを交換してください。
- ・車両またはエアバッグシステムの各部品を廃棄処分する場合は、関連する安全規定および廃却処分手順を守ってください。
- ・エアバッグシステムは、周囲の電磁環境に対して強い耐干渉性と耐妨害性を有します。事故を防ぐため、国が許可した電磁環境以外で車両を使わないでください。
- ・一般的な誤操作や道路状況を考慮したエアバッグシステムとなっていますが、事故を防ぐため、車両の底部をぶつけたり、悪路での乱暴な運転はしないでください。
- ・十分な検証を受け、オリジナルワイヤーハーネスシステムとエアバッグ

⚠ 警告

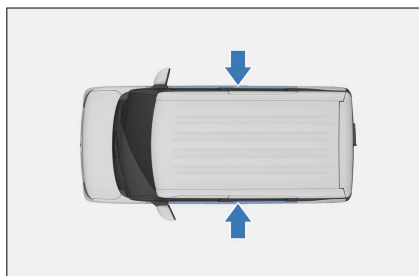
システムが完全にマッチングしているエアバッグシステムのため、車両のワイヤーハーネスを改造したり変更したりすると、エアバッグの誤作動または衝突発生時の不作動につながるおそれがあります。

下記のいずれかの場合は、ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

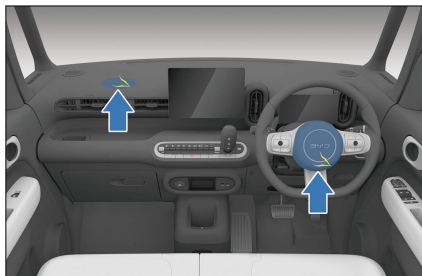
- ・いずれかのエアバッグが展開したとき。
- ・コンビネーションメーターのエアバッグ故障警告灯  が異常点灯しているとき。
- ・車両の前方（図の網かけ部）でエアバッグの展開に至らなかった衝突事故が発生したとき。



- ・車両ドア（図の網かけ部）でエアバッグの展開に至らなかった衝突事故が発生したとき。



- ・エアバッグカバー（図の網かけ部）に、破れ、割れまたはその他の破損があるとき。



- ・サイドエアバッグが格納されているシートの表面に傷、割れ、またはその他の類似破損があったとき。
- ・カーテンエアバッグが格納されている A ピラー、ルーフレール、および C ピラーの装飾（パッド）部に傷、割れ、またはその他の類似破損があったとき。
- ・エアバッグの取り外し、分解、取り付け、修理を行う必要があるとき。

幼児用補助装置(チャイルドシート)

お子様の乗車に関する安全事項

⚠ 警告

- ・お子様の年齢や体格にあったシートベルト、または適切なチャイルドシートを使用して、確実に保護してください。
- ・お子様を抱っこしたり、膝の上に座らせたりしないでください。事故の際、お子様が生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ・フロントエアバッグ作動時は、お子様に重大な傷害を負わせるおそれが

⚠ 警告

ありますから、お子様が乗車する場合は、必ずリアシートに乗せて、シートベルトまたは適切な幼児用補助装置を使用してください。

- ・お子様を幼児用補助装置に乗せていても、頭や体の一部をドア、シート、フロントおよびリアピラーやルーフサイドフレーム（サイドカーテンエアバッグの展開部）に寄りかからせないでください。そうしないと、サイドカーテンエアバッグ展開時の強い衝撃で、お子様が生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ・車両走行中は、お子様を車内で立たせたり、シートの上で膝立ちさせたりしないでください。緊急ブレーキや衝突事故発生時に、お子様が重大な傷害を負ったり、生命にかかわる危険があります。
- ・車両の走行時や停車時を問わず、お子様が手、足、頭などの身体の一部や物品を窓から出さないようにしてください。また、お子様がドア、ウィンドウ、その他の車内装置を自ら操作しないようにしてください。これらを怠ると、お子様が重大な傷害を負うおそれがあります。
- ・お子様が車内にいる場合は、ウィンドウロック（**85 ページ**参照）を作動させ、ドアのチャイルドロック（**66 ページ**参照）を施錠することをお勧めします。
- ・絶対に、お子様を車内に放置しないでください。暑い天候では、車内温度が急激に上昇し、お子様の生命の安全を脅かすおそれがあります。また、お子様が車内の装置を誤って操作し、車両の故障を引き起こすおそれがあり、最悪の場合、お子様の生命を脅かすおそれがあります。

幼児用補助装置 (チャイルドシート)

- ・ 幼児用補助装置 (チャイルドシート) は、事故発生時にお子様を適切に保護することができます。お子様の安全を確保するため、幼児用補助装置を取り付ける前に幼児用補助装置メーカーからの取扱説明書、および本オーナーズマニュアルをよくお読みください。

警告

- ・ 使用しない場合は、幼児用補助装置をシートに正しく固定してください。絶対に助手席やトランクルーム内に置かないでください。
- ・ お子様の体格が幼児用補助装置の適用範囲を超えた場合は、シートベルトを使用してお子様を拘束保護してください。

幼児用補助装置の取り付けについて

幼児用補助装置メーカーが提供する取扱説明書に従い、幼児用補助装置をリアシートにしっかり固定してください。また、幼児用補助装置を取り付けるときは、トップテザーを確実に固定してください。

- ・ リアシートのシートクッションとバックレストの間、アンカーラベル (写真) の下に、ISOFIX/i-Size アンカーが装備されています。



- ・ リアシートバックの後方に固定用アンカーベースがあり、トップテザーの固定に使用します。



幼児用補助装置の取り付け手順：

1. ISOFIX/i-Size アンカーの位置を確認し、幼児用補助装置をシートに取り付けます。



2. 幼児用補助装置にトップテザーストラップを使用する場合は、ヘッドレストを持ち上げ、トップテザーストラップとフックをヘッドレスト支柱の間に通し、シートバックの後ろに回し、フックを固定アンカーにしっかりと掛け、トップテザーストラップを締め付け、確実に固定してください。

- ① トップテザー
- ② トップテザー取り付け金具
- ③ アンカーベース



3. ヘッドレストを適切な位置に調整します。

❗ お願い

- ・ 幼児用補助装置にトップテザーが付いている場合は、トップテザーをアンカーに留めてください。
- ・ 幼児用補助装置の固定接続部とアンカーの位置合わせを容易にするため、ガイド溝付きの幼児用補助装置を購入するか、ガイド溝を追加装着して利便性を高めることをおすすめします。
- ・ 運転席シートとの干渉により、幼児用補助装置が正しく取り付けられない場合は、幼児用補助装置を右側リアシートに取り付けます。
- ・ フロントシートには、後ろ向き幼児補助装置（チャイルドシート）を取り付けしないでください。事故発生時にエアバッグが展開した衝撃により、お子様の生命にかかわる重大な傷害を負わせるおそれがあります。



⚠ 警告

- ・ それぞれの方向に幼児用補助装置を揺らし、確実に取り付けられていることを確認してください。幼児用補助装置がシートベルトのショルダアンカーの前方にあることを確認してください。
- ・ リアシートでトップテザーを利用する場合は、トップテザーをヘッドレストシャフトの外側に通してください。
- ・ リアシートに幼児用補助装置を取り付けている場合は、お子様がフロントシートに触れないようにフロントシートを前方へスライドさせてください。より広いスペースを確保するため、前席シートバックの角度を調節することもできます。
- ・ 前向きに取り付ける幼児用補助装置を使用する際に、ヘッドレストが幼児用補助装置のシートバックとリアシートの密着を妨げる場合は、ヘッドレストを取り外してください。
- ・ 幼児用補助装置にシートバックが付いていない場合は、ヘッドレストを取り外さないでください。また、ヘッドレストをロック位置に合わせてください。
- ・ ロアアンカーを使う場合、アンカーの周りに異物がなく、シートベルトが幼児用補助装置の裏側に引っ掛かっていないことを確認してください。そうしないと、急ブレーキや事故の時にお子様が生命にかかわる重大な傷害を負うおそれがあります。
- ・ 急ブレーキ時や衝突時にお子様が重傷を負うことを防ぐため、幼児用補助装置使用時は、ショルダーベルトが常にお子様の肩の中央に位置するようにしてください。ショルダーベルトはお子様の首から離し、肩から外れないようにしてください。

警告

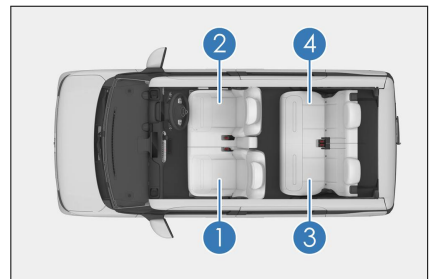
- ・フロントシートに幼児用補助装置を取り付けることはお勧めしません。やむを得ず助手席に幼児用補助装置を取り付ける場合は、シートをできるだけ後方に下げ、常に前向きで取り付けてください。必要に応じてフロントシートのシートバックの角度を調整し、座席に幼児用補助装置をしっかりと押し付けてください。
- ・お様が生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあるため、お様がシートベルトで遊ばないようにしてください。
- ・幼児用補助装置の固定バーは、正しく取り付けられた幼児用補助装置によって加えられる荷重にのみ耐えることができます。いかなる場合でも、大人用のシートベルトやハーネスとして使用したり、他の物や設備を車両に固定したりしないでください。

警告

- ・取り付け方の詳細については、幼児用補助装置に付いている取扱説明書をよくお読みください。

幼児用補助装置の取り付け方：

- ①助手席
- ②運転席
- ③リアシート左側席
- ④リアシート右側席



取り付け可能なシートベルト、ISOFIX、i-Size チャイルドシートの仕様：

区分：	座席			
	1 ^{a)}	2	3 ^{b)}	4 ^{b)}
汎用型シートベルトに適用する座席 (はい/いいえ)	はい 前向きのみ	×	はい	はい
i-Size 座席 (はい/いいえ)	いいえ	×	はい	はい
横向き固定装置に適用する座席 (L1/L2/いいえ)	いいえ	×	いいえ	いいえ
適用の最大後ろ向き固定装置	いいえ	×	R1/R2X/R2/R3	R1/R2X/R2/R3

区分：	座席			
	1 ^{a)}	2	3 ^{b)}	4 ^{b)}
(R1/R2X/R2/R3/ いいえ)				
適用の最大前向 き固定装置 (F2X/F2/F3/いい え)	F2X/F2/F3	×	F2X/F2/F3	F2X/F2/F3
適用の最大かさ 上げ固定装置 (B2/B3/いいえ)	B2/B3	×	B2/B3	B2/B3
^{a)} シートを前後へスライドしたり、シートバックの角度を必要に応じて調整したりすることができます。 ^{b)} ヘッドレストの高さ調整または取り外しをすることができます。また、お子様がフロントシートに触れないよう、必要に応じてフロントシートの位置を調整することができます。				

×：このシートの位置は、この重量グループのジュニアシートに適合していません。

・メカニカルキーでドアを解錠したとき。

警報の解除

- ・下記の操作を行うと警報を解除できません。
- ・リモートキー / スマートフォンアプリ* / スマートフォン NFC キー*でドアまたはテールゲートを解錠する。
- ・マイクロスイッチでドアを解錠する。
- ・リモートキーの遠隔操作で車両を始動する。
- ・リモートキーを携帯した状態で「スタート/ストップ」ボタンを押す。

イモビライザー

イモビライザー

イモビライザーを有効にする

1. 車両の電源ポジションを「OFF」にします。
2. すべての乗員が車両から降ります。
3. すべてのドアを施錠すると、8 秒後にイモビライザーが自動で設定されます。

警報の作動

- ・イモビライザーが有効になっている場合、次の状況が発生するとアラームが作動してターニングランプが点滅します。
- ・リモートキーを使わずに機能を ON にし、ドアやテールゲート、ボンネットを解錠したとき。



警告

- ・変更や追加によるイモビライザーの改造をしないでください。このような変更は、システム故障につながるおそれがあります。

 注意

- 盗難防止システムの盗難防止効果は限定的であり、すべての盗難行為を完全に防ぐことはできません。車両を離れる際は、貴重品を車内に残さないでください。

データの収集および処理

データの収集および処理

- 本節では、BYDの車両をご利用いただく際のシステムが、個人データを収集および処理する方法について、重要な情報を提供します。
- データ処理、データ保護およびデータ主体の権利についての詳細は、BYDのホームページにアクセスして最新版の車両プライバシーポリシーをご覧ください( →システム→一般→法的情報→プライバシーポリシー)。
- 本車両はイベントデータレコーダー(EDR)を備えています。主に特定の衝突事故またはこれに類する衝突事故(エアバッグの展開または障害物への衝突時など)が発生した場合、安全関連システムの状態データを記録し、以下の車両システムの稼働状況を把握するために使用します。
 - 車両の速度。
 - タイヤ空気圧の状況。
 - アダプティブクルーズコントロールシステムの状態。
 - シートベルトの着用状態。
- 衝突またはこれに類する事故が一定の水準に達した場合のみ、EDRデータを記録します。車両が正常に走行している間

は、EDRはいかなるデータも記録しません。

- EDRに記録された関係情報をもとに事故分析ができるように、事故発生時の車両安全に関するシステムの状態を把握します。
- EDRは、特別な機器で車両にアクセスして読み出す必要があります。BYDは、法律で許可されている、またはお客様の同意を得た場合にのみ第三者に対して個人データを開示します。車両メーカーの他に、専門機器を所有する第三者機関(例：政府機関)が車両EDRにアクセスする権限および機器を持っている場合は、EDRの情報を読み出すことができます(例：エアバッグコントロールユニットのデータを読み出し、事故分析を行うなど)。

 注意

- 車両故障診断コネクタのポートに他の電気機器を接続しないでください。接続すると、起動バッテリーの放電、車両電子機器の故障などを引き起こす可能性があります。

車両データの処理

- 車両センサーやコントロールユニットが収集または送信するデータなど、車両利用時にシステムが収集したデータは、車両の安全運転に必要なものです。
- 収集されたデータは、運転支援(ドライバー補助システム)や、特定の快適機能、インフォテインメント機能の作動に利用されます。
- 収集、処理される個人データは、主に車載データ、遠隔サービス関連のデータおよびその他のデータを含みます。詳細は次の通りです。

車載データ

走行データ

- 車両を使用している間、システムはそれぞれの車両状態データ（速度、バッテリー残量、ブレーキシステムなど）、または周囲のモード（距離センサー、温度など）の収集と処理をします。
- 通常、これらのデータは保存されませんが、コントロールユニット、センサーまたは車両に取り付けられたデータを記録するその他のユニットは、メンテナンス要求、エラー情報、その他の情報の記録に用いられます。
- 車載データは車載デバイスにのみ保存されますが、法律で義務付けられている OBD（「車載式故障診断装置」）のポートを介して、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場、もしくはその他の第三者などが読み取ることができません。
- 整備中にシステムへアクセスする場合、品質検査保証、製品不具合報告、またはユーザークレームの検証の目的として、これらの情報が BYD の技術者に提供されます。

遠隔サービス関連データ

遠隔監視サービス

- 安全性を確保するための遠隔診断や無線通信（OTA）によるアップデート、およびアップグレード（オーナーの了承が必要）などの遠隔監視サービスが含まれます。
- 監視サービスの目的：サービスの提供（遠隔支援/診断）、製品開発とセキュリティ/パブリックセーフティ。
- 使用する国または設定により、車両の位置情報、車両の状態（電力消費、速度、シフトポジション、電源ポジション、エレクトロニクススピードコントローラーの状態、ステアリングシステムの状態、バッテリーの状態、パワーユニットの状態、車両の性能状態など）を含む各種の車両情報は、上記の目的で BYD のサーバーに送信されることがあります。

その他

インフォテインメントシステム

- 車両の仕様により、ドライバーは自らインフォテインメントシステムでビデオを再生するためのメディアデータ、ナビゲーションシステムに用いられるアドレスデータ、またはオンラインサービスに用いられるデータなどを、インフォテインメントシステムに追加することができます。
- 車両の仕様により、車両の個人設定にアクセスできます。
- 車両に保存されているデータは、いつでも削除できます。
- BYD は、第三者に送信されたデータを管理することはできません（特に、オンラインサービスの一部として第三者のコンテンツを使用した場合）。

モバイルデバイスの集積

- 車両の仕様により、インフォテインメントシステムを介して、モバイルデバイスの接続や制御を行うことができます。
- デバイスの画面または音声は、インフォテインメントシステムを介して表示/再生、またはストリーミングが必要な場合があります。
- 位置情報や車両情報のような付加データは、アプリケーションを介して送信し、ナビゲーションシステムや通信、またはその他の第三者サービスに用いることができます。
- データ処理の具体的なパターンはそれぞれの機能に依存しており、ユーザーまたはデバイスや関連サービスを提供する第三者が制御します。

インターネットアクセスと接続サービス

- 車両の仕様により、インフォテインメントシステムのネットワークデバイスを介してインターネットにアクセスすることで、車両の特定の機能、または BYD のサービスを実現することができます。

- BYD は、第三者が提供するこのようなサービスについて一切の責任を負いません。
- その場合には、データ使用に関する情報について関連するオンラインサービスプロバイダーにお問い合わせください。

カメラ映像の記録/周辺区域の監視

- 車両には、複数のカメラ/センサーが搭載されています。
- 一部の機能は、車両の進路を感知して評価する必要があります。これは、車両周辺のもの（障害物など）を感知するカメラによって行われます。
- オペレーティングシステムで必要な更なる分析を行うため、映像は関連する制御モジュールに送信されます。
- 一部の映像はランダムアクセスメモリ（RAM）でのみ処理され、その他の映像は車両の装備に応じて保存されることがあります。
- 車両は、周囲の撮影に用いられる外向きカメラ（OFC）を搭載していることがあります（ドライブレコーダー）。
- 車内の撮影に用いられる内向きカメラ（IFC）を搭載することができます。
- 2種類の映像はすべて車内に保存されます。
- OFC または IFC を起動させる前に、関係法律の要求を確認してください（例えば、国によっては IFC の使用許可を得る必要があります、またドライブレコーダーに利用される OFC を厳しく制限する国もあります）。
- 搭載可能なカメラの詳細については、**(168 ページ)**のセクションを参照してください。

車両の第三者への譲渡、およびオフラインモード

- 車両を売却または譲渡する場合、新しい所有者はインフォテインメントシステムを介して設定されたカスタマイズ/ユーザー設定のすべてにアクセスできます（住所リスト、ナビゲーションシステムなど）。

! お願い

- 車両を廃車や譲渡する場合、お客様個人のプライバシーを守るため、工場出荷時の設定に戻すことをおすすめします。
- 車両をオフラインモードに設定することで、車両と BYD データサーバー間の通信、車両の関係データや個人データの処理を制限することができます。
- マルチメディアのドロップダウンメニューをタッチして→  Wi-Fi を OFF にします。
- 次の操作でも、Wi-Fi を OFF にできます。マルチメディア  → システム → ネット（ネットワーク）→ 接続から Wi-Fi を OFF にします。

当局への個人情報開示

- BYD は、法律で許可されている、またはお客様の同意を得た場合にのみ第三者に対して個人データを開示します。
- ただし、適用される法律に従って、政府機関は車両からデータを読み出す権限を付与されることがあります（例えば、事故究明のために、データをエアバッグコントロールユニットから読み出す）。
- 法律で義務付けられている場合、BYD は犯罪捜査などの要求に従って、お住まいの国/地域の政府当局に対してデータを開示する義務を負う場合があります。

ユーザーのデータ保護の権利

- BYD は、お客様のプライバシーを尊重し、すべてのデータ保護法、特に一般データ保護規則 (GDPR) および適用する現地の法律を厳格に遵守します。
- これらの法律によって個人データが処理される際、オーナーは特定の権利を有します。
 - データ主体は、情報の通知を受ける権利、アクセス権、訂正権、削除権 (「忘れられる権利」)、および個人データの処理に異議を唱える、または制限する権利 (または同意を撤回する権利、およびデータの移植性に対する権利) を有します。
- 場合によっては、これらの権利は制限されることがあります。たとえば、お客様のデータを処理する法的義務があると表明できる場合、または情報の提供により、別の人物に関する個人データが開示される場合、もしくは法律によりそれらの情報の開示が禁止される場合です。
- 場合によって、同意を撤回されたとしても、当社は関係データを保持できる場合があります。

02

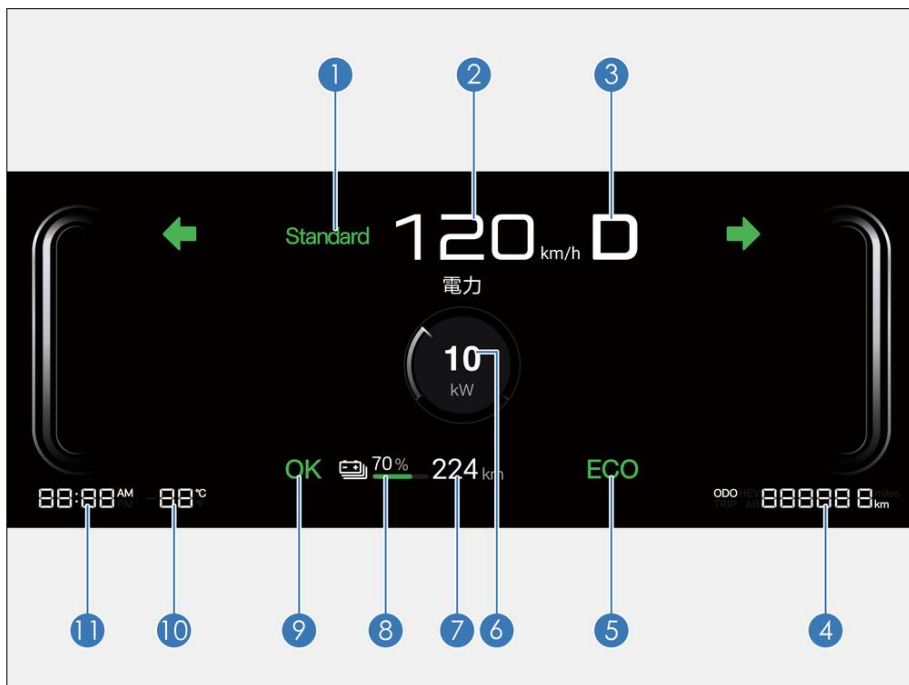
メータークラスター

コンビネーションメーター.....36

コンビネーションメーター

コンビネーションメーターイメージ

コンビネーションメーター



- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 1 回生ブレーキモード | 7 航続可能距離 |
| 2 スピードメーター | 8 パワーバッテリー残量計 |
| 3 シフトポジション | 9 OK 表示灯 (走行可能表示灯) |
| 4 総走行距離 | 10 気温 |
| 5 運転モード | 11 時間 |
| 6 車両情報表示 (図ではパワーメーターを表示) | |

- ステアリングホイール上のメーター/リターンボタンを押します 。メニューに入り、メーターパネルの車両情報表示内容を切り替えることができます。
- 、 を繰り返し押すと第1階層メニューのオプションが切り替わり、ホイー

ルを上下に回転させると第2階層メニューのオプションが切り替わります。表示したい内容を選択した後、ホイールを短く押すと確定します。

- 切り替え可能な表示内容は以下の通りです*：

第1階層メニュー	第2階層メニュー
走行情報	直近 50km の平均電力消費量
	タイヤ空気圧*
	累積平均電力消費量
	前輪ステアリング
出力	/
制限速度警告設定*	制限速度の設定

制限速度警告設定*

- 手動で制限速度警告を設定後、車両走行時に設定された制限速度を超えた場合、メーターを通じてドライバーに警告します。
- コンビネーションメーターメニューで、制限速度警告設定項目を選択し、ステアリングホイールのスクロールホイールを長押しして制限速度警告設定に入り、スクロールホイールを上下にスクロールして設定したい制限速度値を選択し、スクロールホイールを短押しすると設定できます。

! お願い

- コンビネーションメーターの表示内容は参考です。実際の表示は工場出荷時の設定をご確認ください。

! お願い

- 気温表示は外気温センサーの取り付け位置の温度に基づくため、実際の外気温と異なる場合があります。
- 制限速度警告機能は、ユーザーが設定した制限速度値に基づいて判断するのみで、実際の道路の制限速度に基づいてアラームを発することはできません。ドライバーは必ず道路の制限速度を確認してください。

コンビネーションメーター表示灯

表示灯/警告灯

表示灯アイコン	表示灯名称	表示灯アイコン	表示灯名称
	ターンシグナルランプ表示灯		ポジションランプ表示灯

表示灯アイコン	表示灯名称	表示灯アイコン	表示灯名称
	オートビークルホル ルド表示灯		給電表示灯
	ロービーム表示灯		フロントフォグラ ン ブ表示灯
NORMAL	ノーマルモード表示 灯	SPORT	スポーツモード表示 灯
ECO	エコモード表示灯	SNOW	スノーモード表示灯
OK	OK 表示灯 (走行可能 表示灯)		衝突予測警告表示灯 (緑)
	アダプティブヘッド ライト作動表示灯		ハイビーム表示灯
	ACC 作動表示灯		ICC 作動表示灯
	車線逸脱防止支援シ ステム ON 表示灯		リモートキーシス テム警告灯
	アダプティブヘッド ライト故障表示灯		自動緊急ブレーキ警 告灯点灯
	自動緊急ブレーキ OFF 表示灯		ドライバー注意喚起 警告システム故障警 告灯
	マスターウォーニ ング表示灯		駆動パワー制限警告 灯
	AVAS(車両接近通報装 置) 故障警告灯		ABS 故障警告灯
	タイヤ空気圧故障警 告灯		ESC OFF 警告灯
	ESC 故障警告灯		ACC 故障警告灯
	車線逸脱防止支援シ ステム故障警告灯		ICC 故障警告灯
	パワーバッテリー残 量低下警告灯		幼児置き去り検知故 障警告灯

表示灯アイコン	表示灯名称	表示灯アイコン	表示灯名称
	アダプティブヘッドライト待機表示灯		ACC 待機表示灯
	ACC 待機表示灯 (前回設定値を表示)		ICC 待機表示灯
	オートビークルホルドスタンバイ表示灯		パーキングシステム故障警告灯
	電動パーキングブレーキ表示灯		シートベルト非着用警告灯
	ステアリングシステム故障警告灯		パワーバッテリー充電接続表示灯
	衝突予測警報警告灯 (赤)		パワーバッテリー故障警告灯
	交通標識認識システム表示灯		冷却水オーバーヒート警告灯
	パワートレイン故障警告灯		モーター過熱警告灯
	パワーバッテリー過熱警告灯		低電圧給電システム故障警告灯
	エアバッグ故障警告灯		

警告灯/表示灯について



リモートキーシステム警告灯

- 車内にリモートキーが検知されなかった場合、「スタート/ストップ」ボタンを押すと警告灯が数秒間点灯し、コンビネーションメーターに「キー検出不可。車内にキーがあるか確認してください」と表示されます。
- 車内に有効なリモートキーが検知された場合は「スタート/ストップ」ボタンを押すと、警告灯は点灯せずに車両が始動できます。
- 「スタート/ストップ」ボタンを押したときに警告灯が点滅している場合は、リモ

ートキーのバッテリー残量が少ないことを表します。



ABS 故障警告灯

- 警告灯は車両の走行可能表示灯を「OK」にすると点灯し、アンチロックブレーキシステム (ABS) が正常に作動している場合は、数秒後に消灯します。システムに故障が発生したときは、故障が解消されるまで警告灯が点灯し続けます。



警告

- 下記のいずれかが発生した場合は、ABS システムが故障していることを表します。早めに BYD 正規ディ

警告

ラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、点検を依頼してください。

- ・ 走行可能表示灯が「OK」のときに警告灯が点灯しない、または点灯し続ける。
- ・ 運転中に警告灯が点灯し続ける。
- ・ ABS 故障警告灯が点灯し、パーキングシステム故障警告灯は消灯している場合は、ABS は作動しないが、ブレーキシステムは正常に作動しているため、急ブレーキや滑りやすい路面でブレーキを踏むと、ホイールがロックします。
- ・ 下記のいずれかが発生した場合は、ただちに安全な場所に停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- ・ パーキングシステム故障警告灯と ABS 故障警告灯が同時に点灯している時にブレーキをかけると、ABS システムが作動しないだけでなく、ブレーキシステムも作動しない可能性があり、車両は極めて不安定な状態になります。
- ・ 電子パーキングブレーキが完全に解除され、ABS 故障警告灯とパーキングシステム故障警告灯が同時に点灯している場合、前後輪の制動力配分システムも機能していません。

お願い

- ・ 運転中に警告灯がしばらく点灯することがありますが、異常ではありません。



タイヤ空気圧故障警告灯*

- ・ 走行可能表示灯が「OK」のときに警告灯が点灯します。タイヤ空気圧モニタリングシステムが正常に作動している場合は、数秒後に消灯します。システムに故障が発生したときは、故障が解消されるまで警告灯が点灯し続けます。
- ・ タイヤ空気圧故障警告灯が点灯または点滅すると同時に、コンビネーションメーターのインフォメーションディスプレイに「タイヤ空気圧モニタリングシステムを点検してください」と表示され、タイヤ空気圧表示画面の数値表示部に「---」と表示された場合は、タイヤ空気圧モニタリングシステムが故障していることを表します。
- ・ タイヤから「信号異常」が発信された場合は、タイヤ空気圧信号が干渉を受けている、またはタイヤ空気圧モニタリングモジュールが破損しているおそれがあります。
- ・ タイヤ空気圧故障警告灯が高速で点滅すると同時にコンビネーションメーター内のインフォメーションディスプレイに表示される、タイヤ空気圧表示画面の数値表示部の一部が赤くなった場合は、該当タイヤに急激な空気圧の減少があります。
- ・ タイヤ空気圧故障警告灯が常時点灯すると同時に、コンビネーションメーターのタイヤ空気圧表示画面において、1 つまたは複数の数値表示部が黄色になった場合は、該当タイヤが低圧力状態にあることを表します。1 つまたは複数のタイヤの温度数値が黄色になったときは、タイヤ温度が高すぎることを表します。

警告

- ・ タイヤ空気圧故障警告灯が点灯し続けるまたは点滅する場合は、早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、車両の点検を依頼してください。



ESC 故障警告灯

- ・ 走行可能表示灯が「OK」のときに警告灯が点灯します。横滑り防止装置（ESC）が正常に作動している場合は、数秒後に消灯します。システムに故障が発生したときは、故障が解消されるまで警告灯が点灯し続けます。

警告

- ・ 下記のいずれかが発生した場合は、ESC システムが故障していることを表します。早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、点検を依頼してください。
- ・ 走行可能表示灯を「OK」にしたときに、警告灯が点灯しない。
- ・ 運転中に警告灯が点灯し続ける。
- ・ ESC 故障警告灯が点灯し、ABS 故障警告灯、パーキングシステム故障警告灯は消灯している場合は、ESC システムは作動していないが、ABS システムとブレーキシステムは正常に作動しているため、急ハンドルや前方障害物の緊急回避時に、車両姿勢が極めて不安定な状態になります。
- ・ ESC 警告灯が点灯し、ABS 警告灯とパーキングシステム警告灯も点灯している場合、ABS システムとブレーキシステムが作動しない可能性があります。安全な場所にすぐに車両を停車させ、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

お願い

- ・ 運転中にこの警告灯が点滅している場合、ESC システムが作動していることを示し、異常ではありません。



ESC OFF 警告灯

- ・ ESC OFF を操作すると、ESC OFF 警告灯が点灯して横滑り防止装置（ESC）が機能しなくなります。再度 ESC OFF スイッチを押すと ESC OFF 警告灯が消灯し、ESC システムが機能するようになります。

警告

- ・ ESC OFF 警告灯が点灯した場合、ドライバーは特に注意を払い、低速で走行する必要があります。ESC システムの機能が作動していないため、急ハンドルや、突然現れた障害物を避ける際に、車両が不安定になる可能性があります。



駆動パワー制限警告灯

- ・ 車両の駆動パワーが制限された場合に点灯します。早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。



マスターウォーニング表示灯

- ・ 表示灯が点灯している場合は注意が必要であることを表します。また、インフォメーション表示部に故障や警告のメッセージが表示されます。



シートベルト非着用表示灯

- ・ 走行可能表示灯が「OK」で、いずれかのシートベルトが未着用の場合、シートベルト非着用表示灯は全部のシートベルトが着用されるまで点灯し続けます。



エアバッグ故障警告灯

- ・ 走行可能表示灯が「OK」のときに警告灯が点灯します。エアバッグシステムが正常に作動している場合は、数秒後に消灯します。システムに故障が発生したときは、故障が解消されるまで警告灯が点灯し続けます。

警告

- 下記のいずれかが発生した場合は、エアバッグシステムが故障していることを表します。早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、点検を依頼してください。
- 走行可能表示灯が「OK」のときに警告灯が点灯しない、または点灯し続ける。
- 運転中に警告灯が点灯する。

パーキングシステム故障警告灯

- ブレーキフルード量が低下している、またはブレーキシステムに故障があるとき、この警告灯が点灯し続けます。

警告

- 下記のいずれかが発生した場合は、ただちに安全な場所に停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- 走行可能表示灯を「OK」にしたときに警告灯が点灯する。
- 車両を始動後、ブレーキフルードの液量に問題がなく、電動パーキングブレーキシステムが正常に作動している（「電動パーキングブレーキシステムを確認」のメッセージが出ていない）が、警告灯が常時点灯している。
- パーキングシステム故障警告灯と ABS 故障警告灯が同時に点灯している。
- ブレーキフルードの液量が低下している状態での運転は非常に危険なため、運転を止めてください。

お願い

- 運転中に警告灯がしばらく点灯することがありますが、異常ではありません。

ステアリングシステム故障警告灯

- ステアリングシステムに故障が発生した場合、この警告灯が点灯し続けます。

警告

- ステアリングシステム故障警告灯が点灯している場合は、ただちに安全な場所に停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

注意

- ステアリングホイールを 5 秒以上全切り（限界位置を保持）のままにしないでください。5 秒を超えると過熱保護機能が作動し、操舵力が重くなります。この操作を継続すると、ステアリングシステムが損傷する可能性があります。
- 長時間頻繁に据え切りをした場合、ステアリングシステム故障警告灯が点灯していないのにステアリングが重く感じられることがあります。ステアリングシステムの過熱を防ぐため、アシスト力が低下しているためです。
- このようなときは、頻繁なハンドル操作を避ける、または停車して電源を切ってください。システムは、10 分以内に正常な状態に戻ります。
- 起動バッテリーの脱着やフューズの抜き差しなどの操作により、車両の電源が切れた場合、車両の電源が復旧すると、コンビネーションメータ

 注意

一の ESC 警告灯が点灯します。このようなときは、ハンドル角ゼロ点自己学習を操作する必要があります。

1. 左右方向にステアリングホイールをゆっくり回し切った状態で 2~5 秒間保持した後、ステアリングホイールを離します。
2. 車両の電源ポジションを「OFF」にして 10 秒以上待ちます。
3. 再度走行可能表示灯を「OK」にします。このとき、ESC 故障警告灯が消灯すれば自己学習プロセスは完了です。

 お願い

- ・ステアリングシステムは、ステアリング操作に必要な力を軽減するためにモーターを採用しています。ステアリングホイールを回すとき、モーターの作動音(「ぶんぶん」のような音)が聞こえることがありますが故障ではありません。

 低電圧給電システム故障警告灯

- ・充放電以外のときに警告灯が点灯している場合は、DC モジュールまたは低電圧給電システムに不具合があることを表します。
- ・充電時に点灯する場合は、充電システムが故障していることを表します。

 警告

- ・運転中にこの警告灯が点灯した場合、エアコン、ファン、マルチメディアなどを止めて安全な場所に停車し、ただちに BYD 正規ディーラーま

 警告

たは BYD 指定サービス工場に救援を依頼してください。

**パワートレイン故障警告灯**

- ・パワートレインが故障した場合に点灯します。

 注意

- ・下記のいずれかが発生した場合は、車両を運転しないでください。ただちに安全な場所に停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- ・走行可能表示灯が「OK」のときに点灯し続けます。
- ・運転中に警告灯が点灯する。

**パワーバッテリー過熱警告灯**

- ・警告灯が点灯している場合は、パワーバッテリーの温度が高すぎることを表します。停車して、温度を下げてください。

 警告

- ・パワーバッテリー過熱警告灯が点滅しているときは、ただちに安全な場所に停車し、車両から離れてください。

 注意

- ・下記の条件で走行した場合、パワーバッテリーが過熱することがあります：
- ・炎天下や長時間・長距離で上り坂を走行したとき。
- ・長時間にわたり頻繁に発進・停止、急加速・急ブレーキ繰り返す交通

注意

状況、または長時間連続で走行したとき。



パワーバッテリー故障警告灯

- 車両の走行可能表示灯を「OK」にすると、この警告灯は点灯します。パワーバッテリーシステムが正常に作動している場合は、数秒後に消灯します。システムに故障が発生したときは、警告灯が再度点灯します。

注意

- 下記のいずれかが発生した場合は、パワーバッテリーシステムが故障していることを表します。ただちに

注意

BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、点検を依頼してください。

- 走行可能表示灯が「OK」のときに警告灯が点灯し続ける。
- 運転中に警告灯が点灯し続けるまたは時々点灯する。

メーターのその他の故障について

コンビネーションメーターには次のような故障メッセージが表示されることがあります。その都度、推奨される対応方法に従って操作してください。

アイコン表示	故障メッセージ	対応方法
	車載充電システムを確認してください	車載充電システムが故障しています。充電設備の接続異常がないか確認したうえで、充電設備に再接続してください。解消しない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	メモリーシステムを点検してください	メモリーシステムが故障しています。BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	車両ネットワークの故障です。安全に停車し、サービス店に連絡してください。	車両のデータネットワークが故障している可能性があります。ただちに停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	EV 機能が制限されています	EV 機能が制限されています。ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	自動緊急ブレーキ警告灯点灯	自動緊急ブレーキシステムが故障しています。すぐに停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

アイコン 表示	故障メッセージ	対応方法
	車線逸脱防止支援システムを確認してください	車線逸脱防止支援システムが故障しています。 速やかに停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

03

コントローラーの操作

ドアとキー.....	48
シート.....	66
ステアリングホイール.....	72
ワイパー.....	76
バックミラー.....	79
スイッチ.....	81

ドアとキー

キーについて

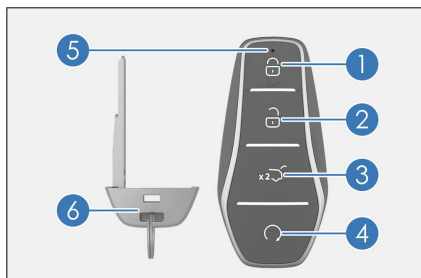
キーには、リモートキー、メカニカルキー（リモートキー内）、Bluetooth キー*および NFC デジタルキー*があります。

リモートキー

- ・リモートキーを携帯し、運転席側ドアハンドルのマイクロスイッチを押すと、すべてのドアの解錠/施錠ができます。リモートキーのボタン操作では、ドアの解錠/施錠、電動スライドドアの開閉*、リモートスタート*などができます。

仕様 1*

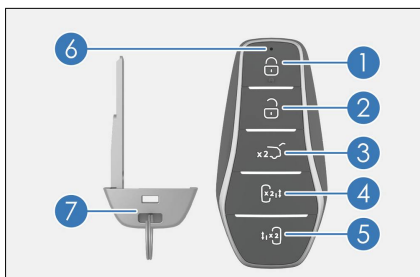
- ①「ロック」ボタン
- ②「アンロック」ボタン
- ③「テールゲートオープン」ボタン
- ④「スタート/ストップ」ボタン
- ⑤ 表示灯
- ⑥ メカニカルキー



仕様 2*

- ①「ロック」ボタン
- ②「アンロック」ボタン
- ③「テールゲートオープン」ボタン
- ④「左側電動スライドドア開閉」ボタン*

- ⑤「右側電動スライドドア開閉」ボタン*
- ⑥ 表示灯
- ⑦ メカニカルキー



警告

- ・リモートキーの中に入っているボタン電池は危険なため、電池の種類を問わずお子様の手の届かないところに置いてください。
- ・ボタン電池を誤って飲み込んだ、または体の一部に入ると、2 時間以内に生命にかかわる重大な傷害を引き起こすおそれがあります。
- ・ボタン電池を誤って飲み込んだ、または体の一部に入ったと疑われる場合は、ただちに医師の手当てを受けてください。

注意

- ・リモートキーは電子部品です。リモートキーの破損を防ぐため次の説明に従ってください。
- ・リモートキーを夏のインストールメントパネルなどの温度が高いところに置かないでください。
- ・リモートキーを車内の収納ボックスやカップホルダー*に入れないでください。
- ・リモートキーを勝手に分解または改造しないでください。

⚠ 注意

- ・リモートキーで他のものを強く叩いたり、リモートキーを落としたりしないでください。
- ・リモートキーを水に浸けたり、超音波洗浄機で洗浄しないでください。
- ・リモートキーを携帯電話などの電磁波が発生する装置と一緒に置かないでください。
- ・リモートキーに電磁波を遮断するものを付けしないでください（金属シールなど）。
- ・同一の車両にエマージェンシーキーを登録することができます。詳細については、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- ・リモートキーの作動範囲内でドア操作ができない、またはキーの表示灯が暗いか点灯しない場合：
- ・近くにリモートキーの動作を干渉するラジオ局や航空無線発信機がないかを確認してください。
- ・リモートキーの電池が切れている可能性があります。リモートキーの電池を点検してください。バッテリーの交換が必要な場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- ・リモートキーを紛失した場合は、車の盗難や予期せぬ事故を防ぐため、できるだけ早く BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡するようおすすめします。
- ・本車両のメカニカルキーにはリモートキーの番号が記載されており、新しいキーを作成する際に使用できますので、その番号を控えておいてください。

⚠ 注意

- ・本車両のリモートキーは日本国内でのみ使用できます。リモートキーの認証ラベルを故意に破損または改ざんしないでください。
- ・送信周波数の変更、送信出力の増加（送信周波数アンプの追加を含む）、アンテナの外付けや他の送信アンテナの流用をしないでください。
- ・使用時に、合法的な様々な無線通信業務に干渉がないようにしてください。干渉が見つかった場合は、ただちに使用を停止し、干渉の解消措置を取ってから使用してください。
- ・小電力無線機を使用するときは、さまざまな無線通信業務の干渉、または産業用、研究用および医療用設備の放射干渉を避けてください。
- ・飛行機や空港の近くで使わないでください。
- ・車両から離れる場合は、必ずリモートキーを携帯して施錠してください。また、絶対にお子様を1人で車内に残さないでください。
- ・リモートキーは長時間強い電磁波を受信すると、バッテリーが急速に消耗します。以下のような磁場を発生させる可能性のある電気機器の近くに置かず、少なくとも1m以上離してください。
- ・テレビ
- ・パソコン
- ・携帯電話の充電器
- ・照明器具
- ・蛍光灯

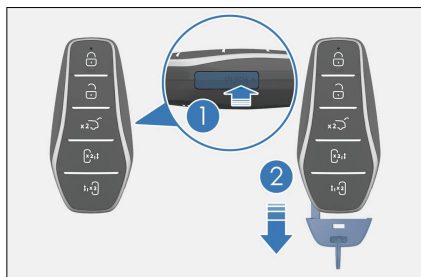
メカニカルキー

- ・メカニカルキーはリモートキー内に格納されており、運転席側ドアの施錠/解錠が

できます。リモートキーの電池残量が不足している場合や、車両のスマートエントリー機能が作動しない場合に使用します。使わないときは、メカニカルキーをリモートキーに確実に格納してください。

メカニカルキーの取り出し

- 図のようにリモートキー上の「PUSH」ボタン①を押し、矢印方向②にメカニカルキーを取り出します。



メカニカルキーの組み立て

- メカニカルキーを使用した後は、「PUSH」ボタンを押しながらメカニカルキーを押し込んでください。

Bluetooth キー*

スマートフォン Bluetooth 車両キーの紹介

- BYD のスマートフォン用 Bluetooth キーは、近距離 Bluetooth を通じて車両に接続し、ドアのロック・アンロックなどのコントロールを実現します。
- アプリストアで BYD APP の最新バージョンをダウンロードしてインストールしてください。このアプリには、スマートフォン用 Bluetooth キー機能を集約しています。
- スマートフォン用 Bluetooth キーが装備されている車両の場合、BYD APP で機能を有効にした後、スマートフォン用 Bluetooth キーを使用できます。
- スマートフォン用 Bluetooth キーを ON にして車両に近づきアプリを開くと、ア

プリがスマートフォン用 Bluetooth キーに自動で接続します。また、スマートフォン用 Bluetooth キーを手動で接続することもできます。Bluetooth 接続が成功すると、スマートフォン用 Bluetooth キーを使用できるようになります。

- スマートフォン用 Bluetooth キーで対応可能な機能は、車両の構成によって異なります。
- スマートフォン用 Bluetooth キーはネットワークに依存しません。スマートフォン用 Bluetooth キーを接続して、実行する操作項目をタッチすると、アプリが車両を制御するためのコマンドを送信します。
- 快適なご利用のため、車両始動時は運転席に近づいてスマートフォン用 Bluetooth キーをご使用ください。

⚠ 注意

- スマートフォン用 Bluetooth キーを有効にする前に、車両ネットワーク信号が良好であることを確認してください。有効にできなかった場合はネットワークが良好な場所に車両を移動し、アプリで Bluetooth キーを再度有効にしてください。
- スマートフォン用 Bluetooth キーでロックを解除した後すぐに車両の操作が行わない場合、ドアが自動的に施錠されます。
- スマートフォン用 Bluetooth キーが複数回接続に失敗する、または複数回操作に失敗した場合は、システムの Bluetooth を OFF にしてから再度 ON にするか、アプリを再起動してください。
- スマートフォン用 Bluetooth キーの使用可能な距離は、車両環境とスマートフォンの性能によって制限されます。車両が密集している場合、使用可能な距離は短くなることがあります。

注意

- ・ スマートフォン用 Bluetooth キーを使用するには、スマートフォンの Bluetooth を ON にしてください。使用中に問題が発生した場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にお問い合わせください。

NFC デジタルキー*

- ・ NFC デジタルキーは、BYD がユーザーに提供しているデジタルキー機能です。ドライバーは自分のスマートフォンやウェアラブルデバイスを車両のキーとして登録し、安全かつ便利に車両の施錠/解錠、および始動を行うことができます。
- ・ NFC デジタルキーを有効にする前に、次の条件が満たされていることを確認してください。
- ・ 車両が BYD クラウドサービスを有効にしている。
- ・ 車両に NFC デジタルキー機能が装備され、対応している。
- ・ スマートフォンまたはウェアラブルデバイスが、BYD NFC デジタルキー機能に対応している（対応しているデバイスモデルについては、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にお問い合わせください）。

スマートフォンの NFC デジタルキーの有効化

- ・ スマートフォンで NFC デジタルキーを有効にする場合は、リモートキー使用して車両に乗り込み、車両の走行可能表示灯を「OK」にして「P」レンジのままにしてください。
- ・ アプリストアから BYD APP をダウンロードし、登録してログインします。「デジタルキー」をタッチし、画面に従って有効にします。

ウェアラブルデバイスの NFC デジタルキーを有効にする

- ・ ウェアラブルデバイスは Apple Watch をサポートしています（その他のウェアラブルデバイスのサポートについては、BYD 正規ディーラーにお問い合わせください）。有効化するには、以下の 2 つの方法があります。
- ・ iPhone が正常に起動したら、Apple Watch と同期します。
- ・ ロックを解除した Apple Watch を装着し、iPhone デジタルキーを有効にします。起動した後、iPhone は同期されると近くにある Apple Watch にデジタルキーを追加する内容が表示されるので、画面に従って有効化します。
- ・ Watch App で有効化：
 - ・ この方法は、iPhone のデジタルキーは有効化されているが Apple Watch に同期されていない場合に適しています。iPhone の Watch App を開いて「ウォレット」を選択し、対応するキーを見つけて「追加」をタッチし、画面に従って有効化します。

NFC デジタルキーを使用する

- ・ NFC デジタルキーを使用する場合は、スマートフォンまたはウェアラブルデバイスの NFC 機能スイッチを ON にしてください。使い方：
- ・ NFC デジタルキーを有効化したスマートフォンまたはウェアラブルデバイスを携帯し、NFC アンテナエリアを運転席側のドアミラーの NFC マークに近づけると、車両を施錠/解錠し（NFC アンテナエリアの詳細については、デバイスのプロバイダーにお問い合わせください）、車両の始動の許可を取得できます。

注意

- NFC デジタルキーを使用して始動の許可を取得後、できるだけ早く車両を始動してください。車両が時間内に始動しない場合は、スマートフォンまたはウェアラブルデバイスを運転席側のドアミラーの NFC マークに再度近づけ、始動の許可を取得してください。

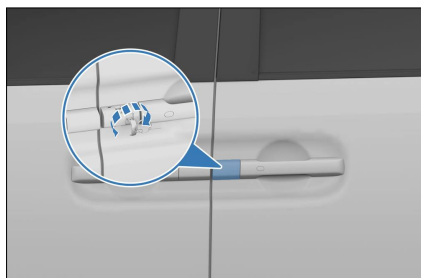
NFC デジタルキーを削除する

- NFC デジタルキーを削除するには 2 つの方法があります。
- BYD APP で削除: BYD APP を開き、デジタルキー管理画面に進みます。削除する必要があるデジタルキーをタッチし、操作パスワードを入力して削除します。
- ウォレットアプリで削除する: スマートフォンのウォレットアプリを開き、削除するデジタルキーを選択し、画面に従って削除します。

ドアの施錠/解錠

メカニカルキーでの施錠/解錠

- メカニカルキーを運転席側ドアハンドルの鍵穴に挿し込み、キーを抜いてからドアハンドルを引いてドアを開けてください。
- 運転席側ドアの解錠: 反時計回りにキーを回します。
- 運転席側ドアの施錠: 時計回りにキーを回します。

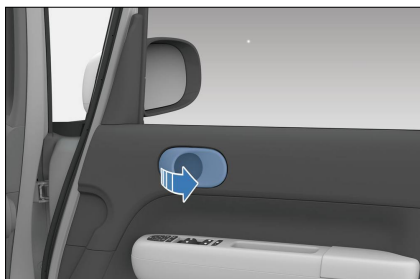


お願い

- メカニカルキーを抜き出した後、運転席側ドアハンドルを引いてドアを開けてください。

ノブ操作でドアを開ける

- 解錠している場合は、ノブを 1 回引き上げると車内からドアが開けられます。
- 施錠している状態でドアを開ける場合は、2 回連続でノブを引き上げます。



警告

- ドアを開ける前に、周囲の歩行者や車両を確認し、凹凸のある地面、壁、車両などの障害物に注意して、衝突を避けてください。
- ドアを開けるときは、強風でドアが勢いよく開けられる可能性があることに注意してください。

⚠ 警告

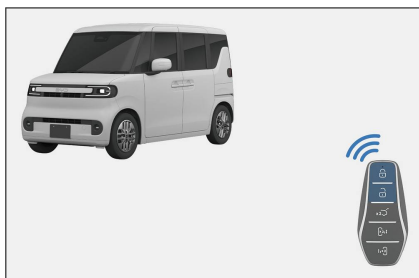
- ・車両を発進させる前に、ドアがしっかり閉まっていることを必ず確認し、走行中にドアが突然開くことがないようにしてください。走行中は、ドアハンドルを操作しないでください。
- ・お子様が誤ってドアを開けてしまうと、予期せぬ事故を起こすおそれがあるため、お子様にノブを触らせないでください。
- ・お子様を乗せている場合は、必ずチャイルドロック機能を ON にしてください。
- ・指を挟まれる危険があるため、子供にドアの開閉操作をさせないでください。

リモートキー操作での施錠/解錠

- ・作動範囲内であれば、リモートキーですべてのドアの施錠/解錠や付加機能が操作できます。
- ・有効なリモートキーを携帯し、作動範囲内でリモートキーのボタンをゆっくりと確実に押すと、ドアの施錠/解錠ができます。

施錠：🔒

- ・車両の電源ポジションが「OFF」で、すべてのドアおよびボンネットが閉まっているときに「ロック」ボタンを押すと、すべてのドアが同時に施錠されます。
- ・ドアが施錠されると、ドアミラーが格納され（ドアミラー格納機能が ON の場合）、ターンシグナルランプが 1 回点滅します。
- ・施錠後は、すべてのドアが確実に施錠されていることを確認してください。



- ・ドア、ボンネット、テールゲートが開いている場合、ターンシグナルランプは点滅せずにホーンが 1 回鳴ります。
- ・走行可能表示灯が「OK」の状態で施錠すると、ホーンが 1 回鳴ります。

解錠：🔓

- ・「アンロック」ボタンを押すと、ドアが解錠されて、ターンシグナルランプが 2 回点滅します。
- ・走行中に「ロック」または「アンロック」ボタンを操作しても、ドアの施錠/解錠はできません。
- ・リモートキーを操作してすべてのドアを解錠した場合、ドアが開いていなくてもルームランプが 15 秒間点灯してから消灯します（ルームランプ「DOOR」スイッチ ON の場合）。
- ・イモビライザーが作動している状態でリモートキーを使って解錠した場合は、30 秒以内にドアを開けてください。30 秒経過すると、すべてのドアが自動で再度施錠されます。

リモートキーによるドア解錠の設定

- ・マルチメディア ⚙️ → ロック → ロック → リモートロック解除で、リモートキーの「アンロック」ボタンを押したときに解錠するドアを設定できます。設定可能なオプションは以下の通りです。
- ・運転席側ドア：リモートキーの「アンロック」ボタンを押すと、運転席ドアのみが解錠されます。

- すべてのドア：リモートキーの「アンロック」ボタンを押すと、すべてのドアが解錠されます。

！ お願い

- 「ロック」または「アンロック」ボタンを長押しすると、リモートキーのウィンドウガラス開閉機能が作動します（54 ページ）を参照してください。
- ドアが閉まっていないときは、正常にドアを施錠することができません。
- 車両から離れる場合は、リモートキーを携帯してください。

リモートキー操作によるウィンドウガラスの開/閉

- 車両の電源ポジションを「OFF」にした場合：
 - リモートキーの「ロック」ボタンを長押しすると、すべてのウィンドウガラスが自動で閉まります。
 - リモートキーの「アンロック」ボタンを長押しすると、すべてのウィンドウガラスが自動で開きます。
- ドライバーはマルチメディア  → **ロック→窓(ウィンドウ)** から、リモートキーの長押し操作での施錠/解錠、ウィンドウガラスの開閉機能を設定できます。設定可能な機能は以下の通りです：
 - リモートキー長押しで窓を閉めロック
 - リモートキー長押しで窓を開けアンロック

！ 警告

- リモコン操作でウィンドウガラスを閉じる際は、ウィンドウガラスに乗員の身体が挟まれるおそれがないこ

！ 警告

とを確認してから操作してください。

マイクロスイッチ操作での施錠/解錠

施錠

- ドアを閉めて施錠していない状態でリモートキーを携帯し、運転席側ドアハンドルのマイクロスイッチを押します。すべてのドアが同時に施錠されてターンシグナルランプが1回点滅します。
- ドア、ボンネット、テールゲートのいずれかが開いている状態でも、マイクロスイッチ操作で閉まっているドアを施錠することができます。ただし、ターンシグナルランプは点滅せずにホーンが1回鳴ります。



解錠

- 施錠されている状態でリモートキーを携帯し、運転席側ドアハンドルのマイクロスイッチを押すと、すべてのドアが同時に解錠されてターンシグナルランプが2回点滅します。
- イモビライザーが作動している状態で解錠した場合は、30秒以内にドアを開けてください。30秒経過すると、すべてのドアが自動で再度施錠されます。
- 以下の場合、マイクロスイッチを押しても施錠/解錠はできません。
 - ドア開閉時に、マイクロスイッチを押したとき。

- ・リモートキーが車内に置いてあるとき。

! お願い

- ・リモートキーが車外のドアノブ、またはウィンドウに近すぎる場合は、この機能が有効にならず操作できないことがあります。

マイクロスイッチ操作によるウィンドウガラスの開/閉

- ・車両の電源ポジションが「OFF」で、リモートキーを携帯したまま運転席側ドアハンドルのマイクロスイッチを長押しすると、すべてのウィンドウガラスが自動開閉できます。
- ・マルチメディア  → ドア・窓とロック → パワーウィンドウ画面から、マイクロスイッチによるウィンドウの開閉機能を設定できます。設定可能な機能は以下の通りです。
 - ・マイクロスイッチを長押しして、ドアを施錠し、窓を閉める。
 - ・マイクロスイッチを長押しして、ドアを解錠し、窓を開ける。

NFC デジタルキーでの施錠/解錠*

ドアの施錠

- ・ドアを閉め、施錠していない状態で NFC デジタルキー*を運転席側ドアミラーの「NFC」マークにかざすと、すべてのドアが同時に施錠されます。車両の電源が OFF のときは、ターンシグナルランプが 1 回点滅します。



ドアの解錠

- ・ロック状態で、スマートフォンの NFC デジタルキーを携帯し、スマートフォンの背面の上部を運転席側ドアミラーの「NFC」マークに近づけると、すべてのドアのロックが同時に解除され、ターンシグナルランプが 2 回点滅します。
- ・以下の場合、NFC デジタルキーで施錠/解錠はできません。
 - ・ドアの開閉操作と同時に、NFC デジタルキーを運転席側ドアミラーの「NFC」マークにかざしたとき。
 - ・車速が 3km/h 以上またはギアが「P」ポジションにないとき。
 - ・スマートフォンの NFC 機能が有効になっていないとき。

! お願い

- ・NFC デジタルキーで解錠した場合のキーレススタートの有効時間は最大 4 分です。また、「OFF」の位置でキーを使用して施錠すると、権限を取り消すことができます。
- ・一部のスマートフォンモデルでは、電源が OFF の状態での使用には対応していません。
- ・スマートフォンを電源 OFF にした状態で長時間および高頻度の使用は避けてください。
- ・イモビライザーが作動している状態で、NFC デジタルキーを使って解錠

！ お願い

したときは、30 秒以内にドアを開けてください。そうしないと、すべてのドアが自動的に再度施錠されます。

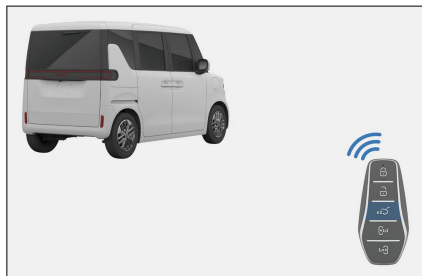
Bluetooth キーでの施錠/解錠*

- Bluetooth キーのロック/アンロックの具体的な方法は (50 ページ) を参照してください。

テールゲートの開/閉

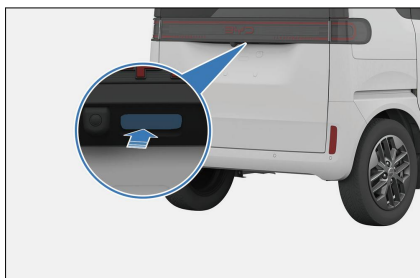
リモートキーでテールゲートを開ける

- 2 秒以内にリモートキーの「テールゲート解錠」ボタンを 2 回連続で押すと、ターンシグナルランプが 2 回点滅し、テールゲートが解錠されます。



手でテールゲートを開ける

- 施錠しているときは、有効なリモートキーを携帯した状態でテールゲートオープンスイッチを押すと、テールゲートが解錠されます。
- テールゲートが解錠している状態でテールゲートオープンスイッチを押しながら外側へ引くと、テールゲートを開けることができます。



手でテールゲートを閉める

- テールゲート下縁の取っ手を握って下方に引き、テールゲート外板を押すとテールゲート閉めることができます。

！ 警告

- テールゲート进行操作する場合は、下記の注意事項を守ってください。そうしないと、身体の一部が挟まれて生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- 周辺をきちんと確認し、安全を確保してください。近くに人がいるときは、安全を確認してからテールゲートを開閉してください。
- テールゲートを閉めるときは、指などを挟まないように注意してください。
- 発進するときは、テールゲートが確実に閉まっていることを確認してください。
- テールゲートを開ける前に、付着している雪や氷などを取り除いてください。そうしないと、開いているテールゲートが突然閉まるおそれがあります。
- 風が強いときに開閉すると、風にあおられて急に動くことがあるため特に注意してください。
- テールゲートが完全に開いていない場合、突然閉まるおそれがあります。坂道でテールゲートの開閉

⚠ 警告

操作をするときは、平地より力がかかるため、テールゲートの思わぬ開閉に注意してください。また、トランクを使用する前に、テールゲートが完全に開いて止まっていることを確認してください。

- ・緊急ブレーキや事故時に、お子様が生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあるため、トランクルームに人を乗せないでください。
- ・お子様をトランク内で遊ばせないでください。誤って車内に閉じ込められたり、テールゲートの操作中にけがをするおそれがあります。
- ・テールゲートのダンパースターの損傷や故障を防ぐため、ダンパースターに物を掛けたり取り付けたりしないでください。また、手でテールゲートのダンパースターを引っ張らないでください。

⚠ 注意

- ・テールゲートのスイッチを押しながらスマートキーでの施錠/解錠を行わないでください。
- ・テールゲートを閉める際、テールゲートのシール部に異物を挟まないでください。閉める際にシールを損傷するおそれがあります。
- ・テールゲートを開けた後、最高位置で自動的に維持することが困難な場合は、テールゲートダンパーが故障している可能性がありますので、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にご連絡ください。

集中ドアロックの施錠/解錠**集中ドアロックスイッチでの車両の施錠/解錠**

- ・本章の運転席側ドアスイッチユニットの (85 ページ) を参照してください。

ドアの自動施錠

- ・走行時オートロック機能が ON になっている場合、速度が約 8km/h を超えると、すべてのドアを自動で施錠します。
- ・走行時自動施錠機能はマルチメディアで設定できます。⚙️ → ロック → ドア、窓 (ウインドウ) → ロック → 走行中のドアオートロックで ON/OFF を切り替えます。

ドアの自動解錠

- ・「スタート/ストップ」ボタンを押して車両の走行可能表示灯が「OK」の状態から電源ポジションを「OFF」にすると、すべてのドアを自動で解錠します。

⚠ 注意

- ・本車両には、強い衝撃後の自動解錠機能を備えていますが、衝突の状況によっては、ドアが自動解錠されない場合があります。

❗ お願い

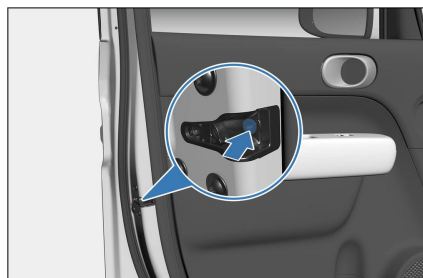
- ・イモビライザーが作動していない状態で施錠すると、集中ドアロックの施錠ボタンのバックライトが点灯します。車両を解錠すると、バックライトが消灯します。
- ・中央ドアロックボタンを押すと、すべてのドアが同時にロックされ、車外からドアを開けることができなくなります。車内からドアを開けるときは、まず車内のドアノブを 1 回引いてそのドアのロックを解錠し、もう一度車内のドアノブを引くと、ドアを開けることができます。

メカニカルキーでの全ドア緊急施錠

- ・集中ドアロックシステムやリモートキーが作動しない場合は、メカニカルキーで施錠/解錠ができます。

施錠

1. リモートキーからメカニカルキーを取り出します。(詳細は (49 ページ) を参照してください。)
2. 助手席のドアを開け、メカニカルキーをドアエッジの鍵穴に挿入します。図のように、キーを最大角度まで反時計回りに回転させ、その後キーを抜き、ドアを閉めるとロックされます。



3. スライドドアの内側ハンドルのノブを前方に回転させ、ハンドルと水平になる位置まで動かし、スライドドアを閉めるとロックされます(詳細は (59 ページ) を参照してください)。
4. メカニカルキーを運転席側のドアハンドルにある鍵穴に差し込み、時計回りに最大角度まで回します。キーを元の位置に戻して抜き、ドアを閉めるとロックできます((52 ページ)を参照してください)。

解錠

1. リモートキーからメカニカルキーを取り出します。
2. メカニカルキーを運転席側のドアハンドルにある鍵穴に差し込み、反時計回りに最大角度まで回します。その後、元の位置に戻してからメカニカルキーを抜き出します。
3. 車両に乗り込み、内側のドアノブを2回連続で引き、他の3つのドアを解錠します。

! お願い

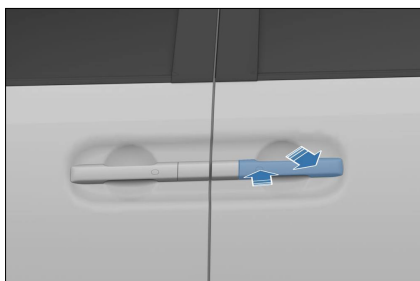
- ・ 緊急施錠/解錠時は、メカニカルキーが変形したり折れたりしないように力を控えてください。

スライドドア

車外からスライドドアを開閉する

ドア外側ハンドルでスライドドアを開閉する

- ・ イモビライザーが作動していない状態で解錠されている場合：
- ・ スライドドアのドアハンドルを外側に引き、車両後部または前部方向にスライドドアを動かして開閉します。
- ・ 電動スライドドア*を装備している場合は、ドアハンドルを引く、またはスライドドアハンドル上のマイクロスイッチを押すと、電動スライドドアが自動で開閉します。



リモートキーで電動スライドドアを開閉する*

- ・ 車両が解錠されている場合は、リモートキーの「電動スライドドア開閉」ボタン*を1回押すと、対応する電動スライドドアが開閉します。
- ・ 車両の電源ポジションが「OFF」で施錠されている場合は、リモートキーの「電動スライドドア開閉」ボタン*を2回押すと、対応する電動スライドドアが解錠されて開きます。

- ・車両の走行可能表示灯が「OK」で施錠されている場合は、車両を解錠してからリモートキーの「電動スライドドア開閉」ボタン*を1回押すと、対応する電動スライドドアが開きます。

電動スライドドアのワンタッチ開閉と施錠連動*

- ・車両が盗難防止モードで、車両全体が施錠されているとき、リモートキーを携帯してスライドドアハンドルのマイクロスイッチを押すと、車両全体が解錠され、スイッチを押した側の電動スライドドアが自動で開きます。
- ・車両が解錠され、スライドドアが開いている状態で、リモートキーの「ロック」ボタンを押す、またはリモートキーを携帯してフロントドアハンドルのマイクロスイッチを押すと、スライドドアが自動で閉まり、車両全体が施錠されます。

！ お願い

- ・スライドドアが停止しているとき、リモートキーのスライドドアボタンを2回押すと、スライドドアが前回とは逆方向に一度だけ動作します。動作中にリモートキーのボタンを1回押すと、スライドドアが停止します。
- ・スライドドアが解錠状態の場合、リモートキーを携帯していなくても、マイクロスイッチを押すと、電動スライドドアが自動で開きます。
- ・電動スライドドアの動作中にマイクロスイッチを押すと、動作が停止します。再度マイクロスイッチを押すか、ハンドルを引くと、電動スライドドアが逆方向に動作します。
- ・スライドドアが手動モードの場合は、手動でのみ開閉できます。詳細は(59ページ)を参照してください。

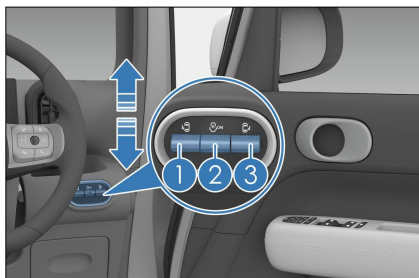
車内からスライドドアを開閉する

電動操作でスライドドアを開閉する*

- ・電動スライドドアの開閉レバー*は、ステアリングホイール右側のインストルメントパネルにあります。左側レバー①は左側スライドドア、右側レバー③は右側スライドドアの開閉を制御します。中央レバー②は電動スライドドア機能のON/OFFが切り替えできます。

イモビライザーが作動していない状態で解錠されている場合：

- ・レバー①または③を上下に操作すると、対応するスライドドアが自動で開閉します。スライドドアの開閉中は、「ピピピ」という間欠的なブザー音が鳴ります。
- ・スライドドアの動きを止めたい場合は、レバー①または③を上下に動かしてください。スライドドアの開閉を続けたい場合は、再度レバーを操作してください。



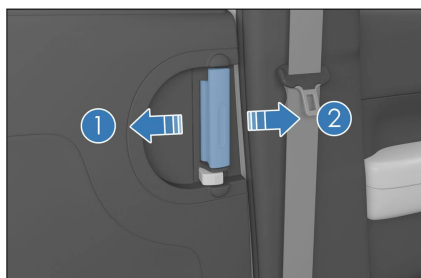
- ・レバー②を上下に動かすと、スライドドアが電動モードと手動モードで切り替えられます。
- ・スライドドアが電動モードの場合、レバー②の黄色の指示灯が点灯します。このとき、レバー①または③、リモートキーのボタン操作*、ハンズフリースライドドアオープナー*を使用してスライドドアを開閉できます。
- ・ドライバーはマルチメディア  → ロックドア→スライドドア電動モードで、スライドドア電動開閉機能の ON/OFF を設定できます。マルチメディアで切り替え

ると、レバー②の黄色インジケーターが同期して点灯/消灯します。

- ・ スライドドアが手動モードの場合は、指示灯が消灯して手動でのみスライドドアを開閉できます。

ドア内側ハンドルでスライドドアを開閉する

- ・ 開ける場合は、①方向にドアハンドルを動かして車両後方にドアハンドルを引いてください。また、閉める場合は、②方向にドアハンドルを動かして車両前方にドアハンドルを押してください。
- ・ 電動スライドドア*を装備している場合は、上記の方法でドアハンドルを動かすと、電動スライドドアが自動で開閉します。
- ・ 電動スライドドア作動中にドアハンドルを操作すると、停止します。

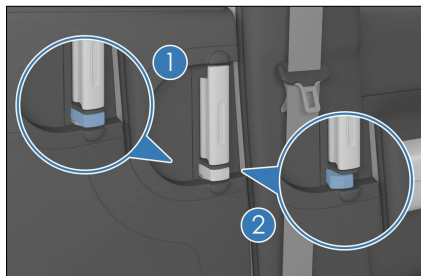


⚠ 注意

- ・ 電動モードでスライドドアを開閉する場合、強い信号妨害を受けるとモーターが停止するおそれがあります。信号妨害から離れた後、ドアハンドルを使用してスライドドアを閉じて、スライドドアの位置情報を自動認識すれば電動モードが復帰します。
- ・ 機械式チャイルドロックを施錠位置にすると、対応する側のスライドドアを車内から開けることができません。

スライドドアロックレバー

- ・ スライドドアのロックレバーはドアハンドルの下部にあります。
- ・ ①：ロックレバーを前方に回すと、レバーはドアハンドルと同じ位置になりロックされます。このとき、ドアハンドルではスライドドアを開けられません。
- ・ ②：ロックレバーを後方に回すと、赤いマークが表示されてアンロックされます。このとき、ドアハンドルでスライドドアを開けられます。



⚠ 警告

- ・ スライドドアを操作する前に、車両が確実に停止していることを確認してください。
- ・ 走行前に、全てのドアが閉まりロックされていることを確認してください。走行中は、スライドドアのハンドルやスイッチを操作しないでください。スライドドアが突然開き、人や荷物が車外に放り出されるおそれがあります。
- ・ スライドドアに寄りかかったり、スライドドアの動作範囲内に立ち入ったりしないでください。ドアの開閉により、ぶつかったり、転倒したり、挟まれたりするおそれがあります。
- ・ お子様にスライドドアを操作させないでください。誤操作により、怪我や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- ・ 後席にお子様が乗車する際は、スライドドアの電動モード*を解除し、機

⚠ 警告

械式チャイルドロックを施錠してください（詳細は（66 ページ）を参照）。

- ・ スライドドアを開閉する際は、スライドドア周辺の安全を確認し、周囲の人に注意を促してください。
- ・ 坂道ではスライドドアの開閉を避けてください。スライドドアの開閉速度が速くなりすぎて事故につながるおそれがあります。
- ・ 坂道やスライドドアの作動中は、スライドドアの電動/手動モード切り替えを避けてください。スライドドアのアシスト力が突然失われ、事故につながるおそれがあります。
- ・ 手動でスライドドアを開閉する際は、ドアハンドルをしっかりと握って操作してください。スライドドアの端をつかんで操作したりせず、手を挟まないよう注意してください。
- ・ スライドドアが完全に開いてから乗り降りしてください。完全に開いていないスライドドアは固定されており、突然動き出して怪我をするおそれがあります。
- ・ 手動でスライドドアを開ける際は、スライドドアが完全に開いて固定されていることを確認してください。手動でスライドドアを閉める際は、スライドドアをしっかりと閉めてください。
- ・ ドアハンドルを使用して電動スライドドア*を開閉する際は、ドアが動き始めたらドアハンドルから手を離し、怪我を防いでください。
- ・ 頭、手、その他の身体部位をスライドドアの窓から出さないでください。スライドドアが突然動いて重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告

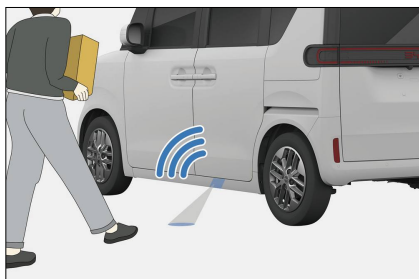
- ・ タイヤ修理、車両清掃、外装メンテナンス、または車両側面に物を置いたり拾ったりする場合は、誤ってスイッチに触れてスライドドアが作動するのを防ぐため、スライドドアの電動モード*を OFF にしてください。

⚠ 注意

- ・ スライドドアを使用する場合は、スライドドアのチェーンケーブルを踏んだり、蹴ったり、強く引っ張ったり押ししたりしないでください。
- ・ スライドドアの開閉中に逆方向の指示や挟み込み防止機能が作動すると、スライドドアは一時停止します。このとき、スライドドアを長時間停止した状態にしないでください。

ハンズフリースライドドアオープナーによるスライドドアの開閉*

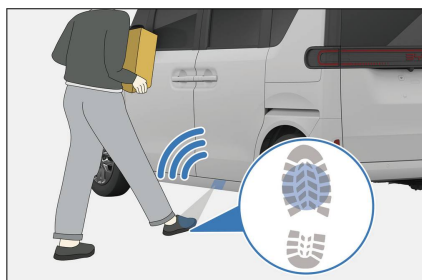
- ・ リモートキーによるハンズフリースライドドアオープナー感知マーク投影：スライドドアが閉じている状態で、有効なリモートキーを携帯して、スライドドアの感知エリア内に立つと、車両が自動的に感知し、地面にハンズフリースライドドアオープナー感知マーク*を投影します。



- ・ NFC デジタルキー解錠によるハンズフリースライドドアオープナー感知マーク投影：車両が施錠されている状態で、NFC

デジタルキーを使って解錠すると、車両は自動的に地面にハンズフリースライドドアオープナー感知マーク*を投影します。

- Bluetooth キー解錠によるハンズフリースライドドアオープナー感知マーク投影：車両が施錠されている状態で、Bluetooth キーを使って解錠すると、車両は自動的に地面にハンズフリースライドドアオープナー感知マーク*を投影します。
- 投影されたハンズフリースライドドアオープナー感知マーク全体を足で完全に覆うと、感知マークは約 1.5 秒後に消え、ターンシグナルランプが 2 回点滅し、その側のスライドドアが自動的に開きます。



- ドライバーはマルチメディア  → ロックードア→ハンズフリーオープナー(ハンズフリースライドドアオープナー)で、ハンズフリースライドドアオープナー機能の ON/OFF を設定できます。

警告

- 必ずセンサーの感知エリア内でのみ操作を行ってください。
- 操作を行う場合は、地面にしっかりと立って車両に十分なスペースがあることを確認してください。そうしないと、バランスを崩すおそれがあります(例:氷の上にいる場合など)。
- ハンズフリースライドドアオープナーによるスライドドアの開閉機能を

警告

使用の際、スライドドアが動作を開始したら、身体部位やその他の物品をドアから離し、スライドドアの開閉による怪我を防いでください。

- 車両を洗浄、清掃、研磨、またはメンテナンスする際は、ボタンまたはマルチメディア設定でハンズフリースライドドアオープナー機能を OFF にするか、洗車モード*を ON にして、スライドドアが誤って開くのを防いでください。
- ドアが誤って開くことを防ぐため、次のようなときはリモートキーを持ち歩かないでください。
 - 車両側面/底部にものを置いたり、ものを拾ったり、引きずったりする必要がある場合。
 - 車両側面のスライドドア、サイドスカートを拭く、磨く、清掃などのメンテナンス作業を行う場合。
 - 周辺に小動物やボールなどがスライドドアのサイドスカート下方を通過する場合。

お願い

- スライドドア電動モードが OFF の場合(**59 ページ**)を参照してください)は、ハンズフリースライドドアオープナーによるスライドドアの開閉機能は作動しません。
- ハンズフリースライドドアオープナー感知マークを踏む場合は、マークの中央を踏み、95%以上の面積を覆ってください。感知マークを踏んでも認識しない場合は、感知マークから足を離し、しばらく経ってから再度足で踏んでください。
- 感知エリアの外から横方向にハンズフリースライドドアオープナー感知

！ お願い

- マークへ足を移動させた場合は作動しません。
- ハンズフリースライドドアオープナー機能を使用する場合は、リモートキーがライドドアから1m以内にであることを確認してください。
- 以下の理由により、ハンズフリースライドドアオープナー感知マークが表示されない、または消えることがあります。
 - 車両が長時間（48時間以上）放置されている。
 - リモートキーが車内に残っている。
 - リモートキーの信号が電磁干渉を受けている（スマートフォンなどの電子機器と密着しているなど）。
 - キーを携帯して車両付近に約1分間留まっていると。
 - 車内の運転席以外の座席に人が座っているため、リモートキーのアクティブサーチ機能がOFFになっている。
- ハンズフリースライドドアオープナー感知マークが表示されない場合は、手動でライドドアを一度開閉し、リモートキーを携帯して車両から離れた後、再度車両に近づいて機能を有効にしてください。
- 以下のような場合は、センサーの認識精度が影響を受けることがあります。
 - 雨や雪などの悪天候や車両の水没、ボディー底部に多量の泥、雪、氷などが付着しているとき。
 - センサーが何かに覆われているとき。
 - 車両が明らかに傾いたり、最大積載量を超えているとき。

！ お願い

- 非純正のサスペンションを取り付け、車高が著しく変化している。
- 大規模な変電所内などの強い電磁干渉がある場所。

電動ライドドアの動的保護*

ライドドアの挟み込み防止機能*

- 電動モードで閉じている途中に、ライドドアが障害物を検知して作動が妨げられると、挟み込み防止機能が作動してスピーカーから警告音が鳴り、ライドドアが停止して10cm後方に移動します。
- 電動モードで開いている途中に、ライドドアが障害物を検知して作動が妨げられると、挟み込み防止機能が作動してスピーカーから警告音が鳴り、ライドドアの作動が停止してわずかに閉じた後、停止します。

ライドドアの動的保護*

- 車速が3km/hを超えると、ライドドアは開かずに閉じる作動のみ可能になります。このとき、スピーカーから短い警告音が鳴ります。
- 車速が3km/hを超えてもライドドアが完全に閉まっていない場合は、スピーカーから継続的に警告音を鳴らしてライドドアを閉めるよう注意を促します。

走行中のライドドア自動閉鎖機能*

- 走行中のライドドア自動閉鎖機能がONのとき、速度が約8km/hを超えると、すべてのライドドアが自動で閉まります*。
- 走行中のライドドア自動閉鎖機能は、マルチメディア  → ロック → ドア → 走行中に自動でドアが閉まります で、ON/OFFを設定できます。

⚠ 警告

- ・スライドドアの挟み込み防止機能を故意に作動させないでください。人身傷害につながるおそれがあります。
- ・特定の物体（指やロープなど）が挟まれた場合や、特定の角度で挟まれた場合、スライドドアの挟み込み防止機能が作動しないことがあります。スライドドアが閉まり切る直前に挟まれるものによっては、挟み込み防止機能が作動しない場合があります。
- ・坂道やスライドドアの動作中に、スライドドアの電動/手動モード切り替えを行わないでください。スライドドアが突然アシスト力を失い、事故が発生するおそれがあります。このような場合、スライドドアの急な動作による危険を避けるため、スライドドアが完全に開くか閉じるまで速度保護モードに入ります。
- ・スライドドア電動モードが OFF になっている場合でも、対応する電動クローザー機能は保持されます。スライドドアが半開きの状態では電動クローザー機能が作動し、スライドドアが確実に閉まるようにします。突然動くスライドドアに手を挟まれないようにご注意ください。

❗ お願い

- ・リアドアのウィンドウガラスが開いている場合は、乗員が頭部や他の部位を窓から出して挟まれるのを防ぐため、電動スライドドアは完全に開きません。リアドアのウィンドウガラスを閉めると、スライドドアを完全に開けることができます。
- ・スライドドアがロック状態の場合は、スライドドアの電動開閉機能は無効になります。

❗ お願い

- ・スライドドアが開いている状態で車両が施錠されている場合は、電動閉鎖および電動クローザー機能のみ作動可能です。
- ・スライドドアの開閉時と挟み込み防止機能の作動時は、スピーカーから警告音が鳴ります。

スマートエントリー&スタートシステム

リモートキーを使用して、ドアの施錠/解錠および車両の始動ができます。

機能を ON にする場合

リモートキーの「ロック/アンロック」ボタンを押すと、ドアの施錠/解錠ができます（**53 ページ**）を参照してください。

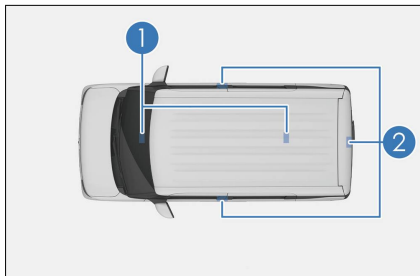
車両を始動する

有効なリモートキーを携帯した状態でブレーキペダルを踏みながら「スタート/ストップ」ボタンを押すと、車両を始動できます（詳細は **118 ページ**）を参照してください。

アンテナの搭載位置

①室内用アンテナ

②室外用アンテナ



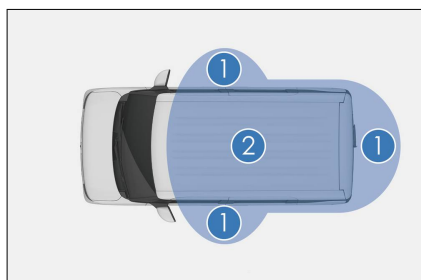
作動範囲

登録済みのリモートキーが作動範囲内にある場合のみ、スマートエントリー&スタートシステム機能が作動します。

①機能が ON になる作動範囲——フロントドアハンドルおよびテールゲートオープンスイッチから約 1m の範囲内。

②機能が ON になる作動範囲——室内。

他車両のリモートキーが本車両のリモートキーの近くにある場合は、ドアを解錠するまでに通常より時間がかかりますが異常ではありません。



⚠ 警告

- 電磁波による電子機器への影響があるため、植え込み型心臓ペースメーカーまたは植え込み型除細動器を使用されている方は、スマートエントリー&スタートシステムのアンテナから遠く離れてください。それ以外の医療電子機器を使用されている方は、電磁波が機器に与える影響を製造メーカーに確認してください。電磁波は、そのような医療機器の使用に予測できない悪影響を及ぼす可能性があります。

❗ お願い

次の場合は、スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しない場合があります。

❗ お願い

- 近くにテレビ塔、発電所、ラジオ放送局などの強い電磁波を発生する施設があるとき。
- リモートキーを、双方向無線電話や携帯電話などの通信装置と一緒に携帯しているとき。
- リモートキーが金属に接触している、または覆われているとき。
- ドアハンドルを素早く操作したとき。
- リモートキーがドアハンドルに近づいたとき。
- 近くにある別の車両の中で、ワイヤレスリモートコントロール機能を操作しているとき。
- リモートキーのバッテリーが切れているとき。
- リモートキーが、高電圧設備またはノイズを発生する設備の近くにあるとき。
- リモートキーを、他車のスマートエントリー&スタートシステムのキーや、無線電波を発する他の装置と一緒に携帯しているとき。
- 作動範囲内であっても、一部の場所（センターコンソールの上、グローブボックスの中、フロア）では、リモートキーが正常に作動しないことがあります。
- スマートエントリーシステムが正常に作動せず車両に乗り込めない場合は、リモートキーに内蔵されているメカニカルキーで運転席側ドアを施錠/解錠する、またはワイヤレスリモートコントロール機能ですべてのドアを施錠/解錠してください。
- 「スタート/ストップ」ボタンを押してもスタート機能が正常に作動しない場合は、下記の要因が考えられます。

- ・リモートキーが作動せずにコンビネーションメーターのリモートキーシステム警告灯が点灯し、コンビネーションメーターに「キーのバッテリー残量が少なくなっています。できるだけ早くバッテリーを交換してください」のメッセージが表示されているときは、リモートキーのバッテリーが切れていることが考えられます。

- ・スマートエントリー&スタートシステムが故障で正常に作動しない場合は、すべてのリモートキーをお持ちいただき、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場 で修理をしてください。

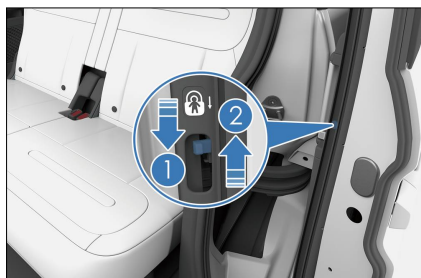
節電

- ・運転していない場合でも、リモートキーと車両は常に通信を行っています。そのため、リモートキーを車内または車両から 2m 以内に置かないでください。
- ・リモートキーは長時間強い電磁波を受信すると、バッテリーを急速に消耗するため、以下のような磁場を発生させる可能性のある電気機器の近くに置かず、少なくとも 1m 以上離してください。
 - ・テレビ
 - ・パソコン
 - ・携帯電話の充電器
 - ・照明器具
 - ・蛍光灯

チャイルドロック

チャイルドロックは、リアシートに座っている子供が不注意でリアドアを開けるのを防ぐための機能です。チャイルドロックスイッチは、左リアドアおよび右リアドアの側面にあります。

- ①施錠
- ②解錠



チャイルドロックスイッチを施錠の位置にすると、車内からリアドアを開けることができません。ドアを開けるときは車外のドアハンドルを使用してください。

⚠ 警告

- ・特にお子様を乗せている場合は、ドアが閉まりかつチャイルドロックが作動していることを運転前に確認してください。
- ・シートベルトを正しく着用しチャイルドロックを作動させることで、交通事故によるドライバーや乗客の車外放出を防止すると同時に、ドアが不意に開くことも防止します。
- ・子供を車内に一人で放置しないでください。

シート

シートについて

- ・ペダル、ステアリングホイールおよびインストルメントパネル上のコントローラなどが、ドライバーの操作しやすい範囲にあるように運転席のシートを調節してください。
- ・走行中、シートバックを垂直に立てることが、最も有効な保護対策です。身体をシートバックにもたれるように座り、シートベルトを適切な位置に調節してください。

- ・ 頭部を保護するために、ヘッドレストを適切な位置に調節してください。何らかの理由でヘッドレストが動いた場合は、こまめに調節して速やかに適切な位置に戻してください。

⚠ 警告

- ・ 乗員が正しく着座してシートベルトを着用するまで、車両を発進させないでください。
- ・ 運転中または走行中はシートバックを倒さないでください。シートベルトの肩ベルト部分が正しくフィットしなくなり、事故発生時にドライバーや乗員が肩ベルト部分にぶつかり、頸部などに重大な傷害を受けるおそれがあります。また、腰ベルトから滑り出して重大な傷害を受ける可能性があります。
- ・ シート上にシートバックを置かないでください。事故発生時にドライバーや乗員の身体が滑り、シートベルトが十分な保護効果を発揮できないおそれがあります。
- ・ 倒したシートバックの上、トランクルームの中、荷物の上に座らないでください。緊急ブレーキ時や衝突発生時にシートに正しく着座していない、またはシートベルトを正しく着用していないことにより、ドライバーや乗員が重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ・ 荷物は適切に固定し、走行中に移動しないようにしてください。荷物の積み込み高さはシートバックを超えないようにしてください。
- ・ 走行中はシートの調節を行わないでください。シートの思わぬ移動によって車両が制御不能になり、車内の乗員の生命に危険が及ぶおそれがあります。
- ・ シートを調節する際は、シート周辺や後部座席の子ども/乗員/ペットなどとの間に、十分な安全スペースを

⚠ 警告

確保してください。後部座席の子供/乗員/ペットを挟んだり、ぶついたりしないように注意してください。

- ・ シート調節時は、自身と周囲の乗員の足元に十分な安全スペースを確保し、挟み込みによる怪我を防いでください。
- ・ 手や指が挟まれるおそれがあるため、シートを調節するときは、手をシートの下に入れたり可動部品に近づけたりしないでください。
- ・ シートバックの角度を調節した後、身体を後ろに寄せてシートバックがロックされていることを確認してください。確実にロックされていないと、事故や緊急ブレーキ時に傷害を受けるおそれがあります。
- ・ 保護者不在時に子供が単独でシート調節を行わないようにし、挟み込みによる怪我を防止してください。

⚠ 注意

- ・ シートを適切な位置や角度に調節してから、シートベルトを着用してください。

フロントシートの調節

フロントパワーシートの調節*

- ・ フロントパワーシートの位置調節*は、シートバック角度、シートの前後位置、シートクッションの高さの調節を含みます。



①シートバック角度調節スイッチ

- ・ 前後方向にシートバック角度調節スイッチを操作すると、シートバックの角度を調節することができます。

②シートポジション調節スイッチ

- ・ 前後方向にシートポジション調節スイッチを操作すると、シートポジションを前後方向に調節することができます。
- ・ スイッチを上下方向に操作すると、シートの高さを調節することができます。

❗️ お願い

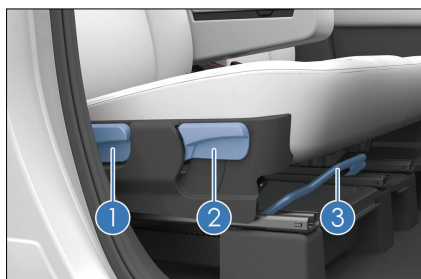
- ・ スイッチを離すと、シートは設定された位置で停止します。
- ・ ヘッドライニングまたはサンバイザーに当たるのを避けるために、フロントシートの位置を調整するときは前へ過剰にスライドさせないでください。

フロントシートの手動調節*

フロントシートの手動位置調節は、シートバック角度、シートの前後位置、シートクッションの高さ*の調節を含みます。

①シートバック調整ハンドル

- ・ リクライニングレバーを引き上げ、背中でシートバックを支えながら前後に傾け、シートバックを必要な位置に調整し、レバーを離します。



②シート高さ調整ハンドル

- ・ リクライニングレバーを引き上げるとシートを上げることができ、リクライニングレバーを下に押すとシートを下げるすることができます。数回操作を繰り返して必要な高さに調整します。
- ・ リクライニングレバーの抵抗が大きくなった場合は、シートが最高または最低位置に調整されたことを示しています。

③シートの前後位置調節

- ・ リクライニングレバーの中央を握って上に引き、軽く身体を押し付けてシートを前後にスライドさせ、必要な位置に調節したらレバーを離します。
- ・ 前後位置調節が完了したら、シートを前後にスライドさせて、スライドレールのロック音がしてシートが正しい位置で固定されていることを確認してください。

シートヒーターシステム*

- ・ シートヒーターシステム*は、センターコンソールのエアコンパネルにあるシートヒーターボタンで ON/OFF できます。左側のボタン①は助手席シートヒーターを制御し、右側のボタン②は運転席シートヒーターを制御します。



- ・シートヒーターシステム*は、マルチメディア  シートからも調整できます。
- ・ヒーター機能は1段階、2段階、3段階、OFFの4段階から設定できます。
 - ・シートヒーターのボタンを1回押すと、3つの指示灯が点灯して3段階のヒーターが作動します。
 - ・シートヒーターのボタンを2回押すと、2つの指示灯が点灯して2段階のヒーターが作動します。
 - ・シートヒーターのボタンを3回押すと、1つの指示灯が点灯して1段階のヒーターが作動します。
 - ・シートヒーターのボタンを4回押すと、指示灯が消灯してヒーター機能がOFFになります。

警告

- ・やけどを避けるため、お子様、高齢者、皮膚が敏感な方、病気の方、過度に疲労している方はシートヒーターを使用したり、シートヒーターに触れたりしないでください。
- ・シートヒーターを使用する際は、毛布などで包まないでください。やけどの原因となります。
- ・フロントシートに水をこぼしたり、鋭利なものでシート表皮を突き刺したりしないでください。シートヒーターを損傷するおそれがあります。

お願い

- ・車両の電源ポジションを「ON」にすると、運転席および助手席側シートヒーターは初期設定の「OFF」になります。

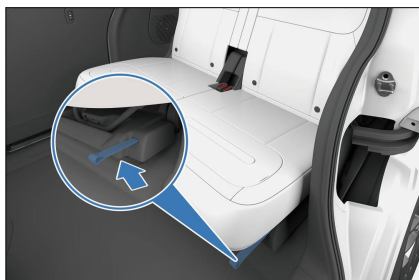
リアシートの調節

リアシートの手動調節

- ・リアシートは、シートの前後位置とシートバック角度の調節ができます。リアシートのクッションも折り上げ可能で、後部収納スペースを拡大できます。

シートの前後位置調節

- ・シートクッション下部およびシート後方のストラップを引くと、リアシートのロックが解除されて前後位置の調節ができます。
- ・シートクッション下部のサポート外側のストラップを車両前方方向に引くと、ロックが解除されて前後位置の調節ができます。



- ・シート後方のフロアにあるストラップを車両後方方向に引くと、ロックが解除されて前後位置の調節ができます。



⚠ 注意

- ・リアシートはトランクフロアのスライドプレートと連動しています。リアシートの前後位置を調整する場合は、下記事項を遵守してください。
- ・可動式のスライドプレートに手を挟まれないように注意してください。
- ・リアシートを調節する前に、トランク内に荷物を置かないでください。そうしないと、荷物が転倒したり破損したりするおそれがあります。

シートバックの調節

- ・シートバックの両側上部にあるリクライニング角度調整レバーを引くと、シートバックのロックが解除されてリクライニング角度の調節ができます。



シートクッションの跳ね上げ

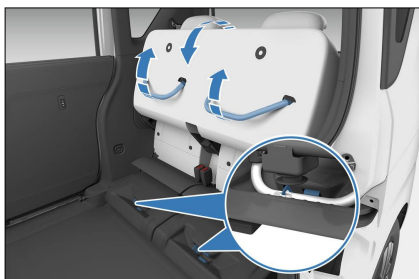
- ・リアシートのシートクッションを跳ね上げて固定することができます。

1. ヘッドレストを下げ、シートアームレスト*を上げます。
2. シートクッションの前端を持ち上げます。
3. シートクッション下部のU字パイプを下に引き、シートクッションに密着させます。
4. シートクッションをシートバックに押し付けて固定します。



シートクッションを下ろす

- ・シートクッションを跳ね上げた後、下記の手順で元の位置に戻すことができます。
1. シートクッションをしっかりと支え、シートクッション下部のU字パイプを上を持ち上げてシートクッションのロックを解除します。
 2. ゆっくりとシートクッションを下ろし、U字パイプをシートサポートのクリップにしっかりとめ込み、シートクッションが固定されていることを確認します。
 3. ヘッドレストとシートアームレスト*を元の位置に戻します。



⚠ 警告

- ・車両走行中にリアシートバックを倒したり、クッションを跳ね上げたりしないでください。事故を引き起こす可能性があります。

⚠ 注意

- ・リアシートを調節したり、リアシートクッションを跳ね上げたり倒したりする前に、シートベルトや荷物など、挟まれたりシートの動きを妨げる可能性のある物がシート周辺にないことを必ず確認してください。これらの物が挟まれると、シートクッションやシートバックが適切に固定できない場合があります。
- ・リアシートのクッションを跳ね上げた後は、クッションを揺らして確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと、走行中に外れて車内装備や物品の損傷を引き起こすおそれがあります。
- ・リアシートのクッションを下ろした後は、クッションが平らになっていることを確認してください。

ヘッドレストの調節

ヘッドレストの調節

- ・ヘッドレストを高くする

- ・ヘッドレストを適切な位置まで引き上げ、ロック音が聞こえたら手を離します。

- ・ヘッドレストを低くする

- ・ヘッドレスト高さ調節ノブを押したまま、ヘッドレストを適切な位置まで下げてから手を離します。その後、ヘッドレストの高さを少し調整してロック音が聞こえたら手を離します。



ヘッドレストの取り外しおよび取り付け

- ・ヘッドレストの取り外し
 - ・ヘッドレストの高さ調節ノブを押したままヘッドレストを抜き出してからノブを離します。
- ・ヘッドレストの取り付け
 - ・ヘッドレストの足を元の位置に差し込み、切り欠きが前を向くようにします。ヘッドレストの高さ調節ノブを押したままヘッドレストを適切な位置まで下げ、ロック音が聞こえたら手を離します。

⚠ 警告

- ・ヘッドレストによって、首や頭部の傷害を防ぐことができます。後頭部がヘッドレストの中心となるように調節すると、ヘッドレストの効果を最大限に発揮できるため、乗員の実際の身長に合わせてヘッドレストを適切な位置に調節してください。
- ・ヘッドレストの中心が耳の上部になるように位置を調節します。

⚠ 警告

- ヘッドレストを調整した後、ヘッドレストを下方へ押して固定し、確実にロックされていることを確認してください。
- ヘッドレストを取り付ける際は、ヘッドレストの前後方向に注意してください。正しく取り付けないと、ヘッドレストブッシュが損傷したり、事故時に十分な保護効果を発揮できない可能性があります。
- ヘッドレストが装着されていない状態で運転しないでください。

⚠ 警告

- ヘッドレストのステーにものを掛けないでください。

ステアリングホイール

ステアリングホイールコンビネーションスイッチ



1 BYD アラウンドビューシステムボタン*

2 リセット/+または設定/- レバー

7 ステアリングホイールヒーターボタン*

8 音声ボタン

9 右矢印ボタン

- 3 アダプティブクルーズコントロール
ボタン
- 4 車間距離 + ボタン
- 5 車間距離 - ボタン
- 6 インテリジェントクルーズコントロール
ボタン

- 10 ホイールボタン
- 11 電話ボタン
- 12 メーター/リターンボタン
- 13 左矢印ボタン

左側ボタン

BYD アラウンドビューシステムボタン*

- このボタンを押すと、BYD アラウンドビューシステム*の ON/OFF を設定できます。

アダプティブクルーズコントロールボタン

- このボタンを押すと、アダプティブクルーズコントロール (ACC) システムの ON/OFF を設定できます。

インテリジェントクルーズコントロールボタン

- このアイコンをタッチすると、インテリジェントクルーズコントロール (ICC) システムの ON/OFF を設定できます。

レバー

- ACC 機能が ON の時：目標クルーズ速度を調整または設定します。
- ACC、ICC 機能が OFF の時：今回の電源 ON サイクル内で ACC または ICC 機能を使用したことがある場合、レバーを上にも動かすと前回設定した ACC または ICC 機能が復帰します。

車間距離 + ボタン

- ACC 追従走行機能作動中に、前の車両との車間距離を 4 段切替で調整できます。1 回押すと 1 段上がります。

車間距離 - ボタン

- ACC 追従走行機能作動中に、前の車両との車間距離を 4 段切替で調整できます。1 回押すと 1 段下がります。

! お願い

- アダプティブクルーズコントロール機能の使い方については、(137 ページ)を参照してください。

右側ボタン

ステアリングホイールヒーターボタン*

- このボタンを押すと、ステアリングホイールヒーターの ON/OFF を設定できます。

音声ボタン

- 車両とスマートフォンの Bluetooth がペアリングされていない場合：このボタンを長押しすると、マルチメディアディスプレイに Bluetooth ペアリング画面が表示されます。
- 車両とスマートフォンの Bluetooth がペアリングされている場合：
 - このボタンを長押しすると、スマートフォンの音声アシスタント*が起動します。
 - このボタンを短く押すと、音声アシスタント機能が終了します。

ホイールボタン

- メーターメニューモード以外でのマルチメディア音量調節：
 - 上方向にホイールを回す場合：最大音量になるまで音量を 1 段ずつ上げます。

- 下方向にホイールを回す場合：最小音量になるまで音量を1段ずつ下げます。
- ホイールを押す場合：ミュートモードになります。
- メーターメニューモードでの調節：
 - 上方向にホイールを回す場合：スクロールアップで第2階層メニューを選びます。
 - 下方向にホイールを回す場合：スクロールダウンで第2階層メニューを選びます。
 - ホイールを押す場合：現在のオプションの詳細メニューに入るか、現在の設定を確定します。

注意

- メーターメニューモードを ON にすると、マルチメディアシステムはミュートモードになります。マルチメディアの音量を調節するときは、メーターメニューモードを OFF にしてください。

左矢印/右矢印ボタン

- ラジオモードの場合：
 - ◀ ボタンを押すと、前の放送局を選局します。
 - ▶ ボタンを押すと、次の放送局を選局します。
- Bluetooth 通話記録、電話帳画面：
 - ◀ ボタンを短く押すと、上方向を選択します。
 - ▶ ボタンを短く押すと、下方向を選択します。
- メーターメニューモードの場合：

- ◀ ボタンを押すと、メインメニューおよびそのサブメニューを左に切り替えます。
- ▶ ボタンを押すと、メインメニューおよびそのサブメニューを右に切り替えます。

メーター/リターンボタン

- コンビネーションメーターがメニューモード以外のときにボタンを押すと、メーターメニューが表示されます。
- コンビネーションメーターがメニューモードのときにボタンを押すと、前の画面に戻ります。前の画面がないときは、メニュー画面が閉じます。
- Bluetooth 通話画面の場合は、短く押すと通話を終了します。

電話ボタン

- このボタンを押すと、電話をかけるまたは受けることができます（オーディオシステムはミュートになります）。
- システムが Bluetooth と関係のない画面を表示しており、Bluetooth 接続していない場合、ボタンを短く押すと電話機選択メイン画面に切り替わります。Bluetooth 接続されている場合は、ダイヤル画面に切り替わります。
- ダイヤル画面に電話番号を入力するか、通話記録、電話帳画面で電話番号を選んでボタンを短く押すと、その番号に発信します。
- Bluetooth 接続した状態で、ダイヤル画面に番号が入力されていない場合、ボタンを短く押すと通話記録画面の発信履歴画面に直接切り替わります。再度押すと、発信履歴画面の一番上の電話番号を自動的に発信します。

ホーンボタン

- ホーンのパッド面を押すと、ホーンが鳴ります。手を離すと、ホーンが止まります。

⚠ 注意

- ・ ホーンのパッド面を長時間押さないでください。ホーンの破損につながるおそれがあります。

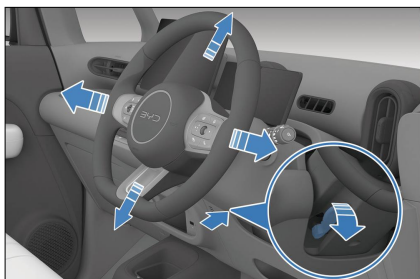
❗ お願い

- ・ 交通ルールを守り、ホーンを適切に使ってください。

ステアリングホイールの調節

ステアリングホイールの手動調節

- ・ ステアリングホイールの角度を調節するときは、ステアリングホイールを握りながら次の操作を行います。
- ・ ステアリングホイールの調節レバーを下に押し、ステアリングホイールを任意の角度と軸方向の位置に調節した後、レバーを元の位置に戻します。



⚠ 警告

- ・ 走行中にステアリングホイールの調節をしないでください。操縦を誤り、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
- ・ ステアリングホイールを調節した後、上下方向に動かして確実に固定

⚠ 警告

されていることを確認してください。

パワーステアリングモード

- ・ パワーステアリングの操作感是人によって異なり、ドライバーごとに評価やニーズも異なります。
- ・ ドライバーはマルチメディア → **ドライブ** → **運転管理** → **駐車とブレーキ** からステアリングアシストモードを選択し、コンフォートまたはスポーツを設定することができます。

❗ お願い

- ・ 高速走行時にステアリングの操作感が軽く感じる場合は、ステアリングアシストの設定をスポーツモードにすることをおすすめします。パワーステアリングモードの設定は、車両が直進状態で、車速が 80km/h 未満の場合にのみ可能です。

ステアリングホイールヒーター機能*

ステアリングホイールのヒーター機能は、次の方法で ON にします。

1. マルチメディア → **シート** の設定画面から、ステアリングホイールヒーターの ON/OFF を設定できます。
2. ステアリングホイールのステアリングヒータースイッチを押すと、ステアリングヒーター機能の ON/OFF をします。

ワイパー

ワイパースイッチ

フロントワイパーおよびウォッシャー

- ・レバーを動かしてワイパーとウォッシャーを操作します。レバーは5段切り替えとなっています。
- ・  : 高速モード
- ・  : 低速モード
- ・  : 速度連動モード/間欠モード
- ・  : ワイパー停止
- ・  : ミストモード



- ・モードを切り替える場合は、上または下にレバーを操作します。
- ・低速および高速モードの場合、ワイパーは連続的に作動します。
- ・ミストモード  でワイパーを作動させるには、 位置からレバーを下方向に下げます。ワイパーは、レバーを離すまで低速で作動します。

速度連動モード

- ・速度連動モードでは、車両の走行速度が速いほど、ワイパーの作動頻度が高くなります。

- ・速度連動モードを使用するには、マルチメディア  →ドライブ→車内環境→ワイパーで速度感応ワイパーをONにし、ワイパースイッチを  に切り替えます。

間欠モード

- ・間欠モードでは、ワイパーは一定時間ごとに作動します。
- ・間欠モードを使用するには、マルチメディア  →ドライブ→車内環境→ワイパーで速度感応ワイパーをOFFにし、ワイパースイッチを  に切り替えます。
- ・間欠モードでは、ワイパースイッチのつまみを回すことで、ワイパーの間欠時間を調整できます。



フロントワイパーおよびウォッシャー

- ・フロントガラスを洗浄する場合は、レバーを手前（ステアリングホイールに近づく方向）に引きます。ウォッシャー液が噴射すると同時にワイパーが作動します。
- ・レバーを離すとウォッシャー液の噴射が止まり、ワイパーが2回作動してから止まります。

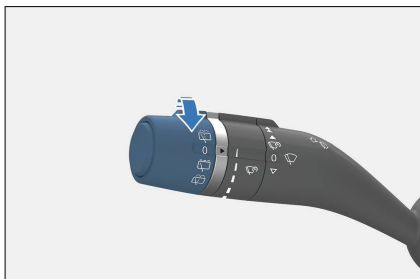


リアワイパーおよびウォッシャー

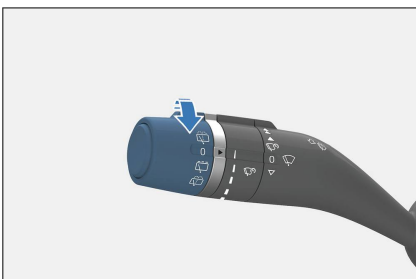
- ・ワイパースイッチのつまみを の位置に回すと、リアワイパーが作動します。つまみを「0」の位置に回すと、ワイパーが止まります。



- ・スイッチをリアワイパー の位置に回して保持すると、リアワイパーとウォッシャーが同時に作動します。



- ・ワイパースイッチのつまみを の位置に回して手を離すと、ウォッシャー液が噴射された後にワイパーが2回作動します。



⚠ 注意

- ・定期的にワイパーブレードを点検し、汚れを除去してください。
- ・雨が降り出した直後にワイパーを作動させると、雨水に土砂やほこりが混じるため、フロントガラスをきれいに拭き取れないことがあります。また、視界も一瞬でぼやけてしまうため、運転に影響を与えるおそれがあります。
- ・ガラス洗浄液を使ってください。水や他の洗浄液を使うと、ワイパーモーターの破損につながるおそれがあります。
- ・寒い天候の場合は、フロントガラスが温まるのを待ってから洗浄液を噴射してください。ウォッシャー液が凍結すると視界に影響します。
- ・ワイパーを乾いた状態で拭かないでください。ガラスに傷がついたり、ワイパーブレードが損傷したりする可能性があります。
- ・ウォッシャー液がない場合や、雨/雪が降っていないときは、ワイパーを作動させないでください。ワイパーの故障の原因になります。

ワイパーの交換

6ヶ月毎にワイパーブレードのゴム部に割れや部分的な硬化がないかを点検します。割れや硬化があるときはブレードを交換し

てください。そのまま使用すると、拭き残しや拭き跡が残る原因となります。

⚠ 注意

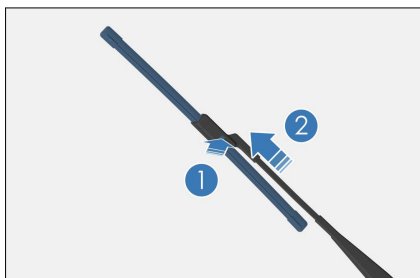
- ワイパーアームを立てているときは、ボンネットを開けないでください。ボンネットおよびワイパーアームを破損させるおそれがあります。
- 車両を屋外に駐車する際、降雪の可能性がある場合は、ワイパーに雪が積もってワイパーが破損するのを防ぐため、ワイパーアームを立てておいてください。

ワイパーブレードの交換

- 車両の走行可能表示灯を「OK」にした状態で、マルチメディア  → **サービス** → **メンテナンス** の画面からフロントワイパーの点検・リアワイパーの点検機能を ON にすると、点検やワイパー交換作業をしやすくするため、ワイパーが一番高い位置まで動いて停止します。点検完了後にワイパー点検機能を OFF にすると、ワイパーは自動で初期位置に戻ります。

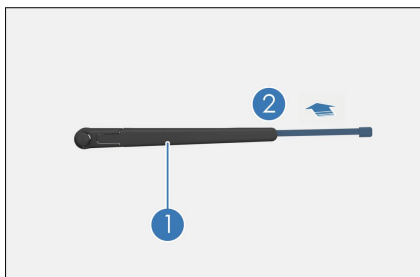
フロントワイパーの交換

1. 始めに運転席側のワイパーアームを立て、次に助手席側のワイパーアームを立てます。
2. ブレードロックボタン①を押します。
3. ブレード留め具を持ち、方向②にブレードを取り出します。
4. 新しいブレードを取り付けるときは、ブレードの外し方と逆の手順で作業します。



リアワイパーの交換

1. リアワイパーのワイパーアームを立てます。
2. ワイパーアーム位置①を持ち、図に示す方向②にブレードを真っすぐに抜き出します。
3. 新しいブレードを取り付けるときは、ブレードの外し方と逆の手順で作業します。



⚠ 注意

- ボンネットおよびワイパーアームが破損するおそれがあるため、ワイパーアームを立てている状態でボンネットを開けないでください。
- 洗車後にワイパーブレードを戻す場合は、ワイパーアームを押してブレードをフロントガラスに直撃させないでください。
- ワイパー作動時、ワイパーブレードを折り曲げたり手などでワイパーブレードの動きを阻止しないでください。

⚠ 注意

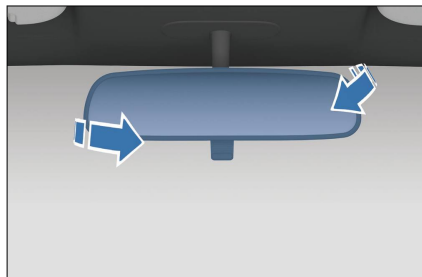
- ワイパーブレードを交換する場合は、ワイパーアームを立てた後に手でしっかり支え、ブレード交換後はゆっくりと倒してください。ブレードを取り付けていない状態で誤ってワイパーアームがガラスに当たると、ガラスを破損させるおそれがあります。
- ワイパーのメンテナンスについては (221 ページ) を参照してください。

バックミラー

ルームミラー

ルームミラーの手動調節

上下左右にルームミラーを回して、ルームミラーを適切な位置に調節します。

**⚠ 警告**

- 発進前にルームミラーを調節してください。運転に集中できず、死傷につながる思わぬ事故を引き起こすおそれがあるため、走行中にルームミラーを調節しないでください。
- ルームミラーに重量物を掛けたり、強く揺らしたり引っ張らないでください。

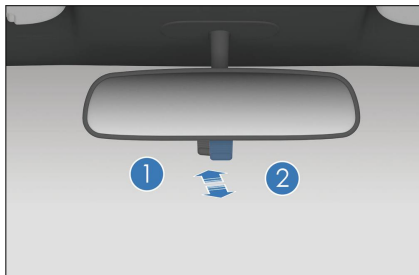
⚠ 警告

- ルームミラーを手動で調節する場合に引っ掛けがあるときは、無理に調節しないでください。ルームミラーが脱落するおそれがあります。

手動防眩ルームミラー

手動防眩ルームミラーにはノーマルモードと防眩モードの2つの動作モードがあります。

- ノーマルモード——レバーを位置①まで前方に押すと、ルームミラーの映りが鮮明になります。
- 防眩モード——レバーを位置②まで後ろに倒すと、夜間の後続車のヘッドランプのまぶしさを軽減することができます。

**ⓘ お願い**

- 防眩モードで、後続車のヘッドランプのまぶしさが軽減されますが、後方視界の明瞭度が落ちることがあります。

ドアミラー

ドアミラー調整スイッチを操作して、ドアミラーから車両の両側が見えるよう適切な角度に調整してください。

- セレクトスイッチ：調節するドアミラーを選択します。

・  : 左側ドアミラーボタン

・  : 右側ドアミラーボタン

- ・ ドアミラー方向調整ボタン  : 調節するドアミラーを選択した後、このボタンを押すと、そのドアミラーのミラーを適切な位置に調整できます。



可倒式ドアミラー

- ・ 格納スイッチ  : このボタンを押すと、左右のドアミラーが同時に格納されます。再度このボタンを押すと、ドアミラーが展開します。
- ・ イモビライザーが作動するとドアミラーが自動で格納し、イモビライザーを解除すると自動で展開します。
- ・ ドライバーはマルチメディア  **ドライブレ→車内環境→ドアミラー**の設定画面で、ドアミラー自動格納機能の ON/OFF を設定できます。

警告

- ・ ドアミラーは発進前に調節してください。走行中にドアミラーを調節しないでください。ドライバーが運転に集中できず、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- ・ ドアミラーを調節または格納する前に、ドアミラーに触れないでください。挟まれてけがをしたり、ドアミラーを破損したりするおそれがあります。

警告

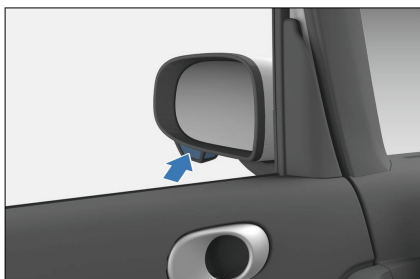
- ・ 手でドアミラーを操作しないでください。ドアミラーが正しい位置に固定されず、ドライバーの視界確認に支障をきたすおそれがあります。
- ・ 走行時または後退時は、必ず目視およびミラーで車両周辺の状況を確認し、ドアミラーを格納したまま走行しないでください。
- ・ ミラーの視野範囲には限界があるため、直接目視により周囲の環境が安全であることを確認してください。

お願い

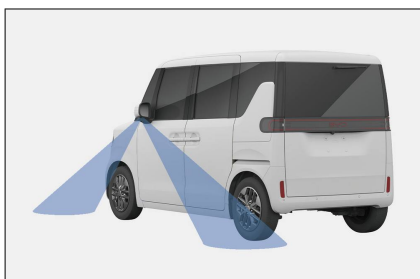
- ・ ドアミラーの鏡面が結霜している場合は、ドアミラーデフロスター機能を使用して鏡面をクリアにすることができます。詳細は **(186 ページ)** を参照してください。
- ・ ドアミラーが凍っている場合は、解氷スプレーでドアミラー表面の氷を落としてください。このとき、スイッチ操作やドアミラー表面をこする行為はしないでください。
- ・ ドアミラーをこまめに清掃し、視界がクリアな状態を保ってください。水で湿らせた清潔な柔らかい布で、ミラー表面の水滴や汚れを優しく拭き取ってください。

ブラインドスポット補助ミラー*

- ・ ブラインドスポット補助ミラー*は、助手席側ドアミラーの下部に取り付けられています。出発前に、ブラインドスポット補助ミラーで車両の左側後方および左側前方の状況を確認できます。



- ドライバーの身長やシートの角度により、ブラインドスポット補助ミラーで確認できる範囲が異なります。



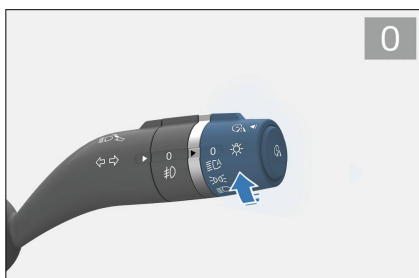
⚠ 注意

- ブラインドスポット補助ミラーは助手席側ドアミラーに固定されているため、調整できません。
- ブラインドスポット補助ミラーのミラー部分が汚れている場合は、中性洗剤や柔らかい布などで拭き取ってください。視界に影響する可能性があります。
- ブラインドスポット補助ミラーを使用する際は、ルームミラー、ドアミラー、および直接目視を併用して車両周辺の状況を確認してください。

スイッチ

ライトスイッチ

- ライトスイッチを 0 に回すと、デイタイムランニングライト以外のすべての車外照明が消灯します。
- デイライト機能が ON の場合、この設定でデイライトが点灯します。デイライト機能が OFF の場合、この設定でデイライトが消灯します。
- デイライト機能は、マルチメディア  → ライト→ヘッドライトから設定できます。



オートライト

- ライトスイッチを「」に回すと、車両が照度センサーで周囲の明るさを検知し、自動的にポジションランプやロービームの ON/OFF を制御します。

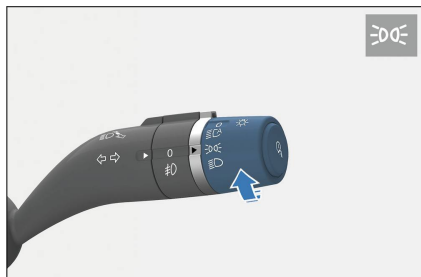


！ お願

- ・ 照度センサーは、インストルメントパネルの上端部にあります。センサーを遮ったり、液体がかかったりするのを避けてください。

ポジションランプ

- ・ ライトスイッチを「」に回すと、ポジションランプが点灯します。



ロービーム

- ・ ライトスイッチを「」に回すと、ロービームが点灯します。



フロントフォグランプ

- ・ ライトスイッチを「」に回し、フォグランプスイッチを「」に回すと、フロントフォグランプが点灯します。



ハイビーム

- ・ ライトスイッチを「」に回し、ライトスイッチのレバーを前方に押すと、ハイビームが点灯します。レバーを手前に引くと、ハイビームが消灯します。



- ・ レバーを手前に引いて保持すると、ハイビームが点灯します。手を離すと、レバーは自動的に戻り、ハイビームが消灯します。

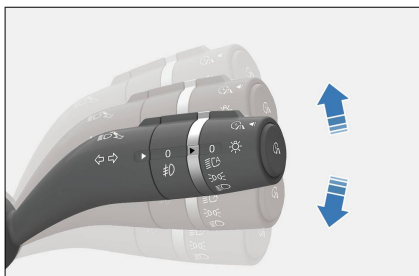


ターンシグナルランプ

- ・ コンビネーションスイッチのレバーを上方向に上げると、左ターンシグナルラン

ブとコンビネーションメーターの方向指示表示灯が同時に点滅します。

- コンビネーションスイッチのレバーを下方向に下げると、右ターニングシグナルランプとコンビネーションメーターの方向指示表示灯が同時に点滅します。



⚠ 注意

- ターニングシグナルランプをつけた後に手を放しても、ターニングシグナルランプは点滅し続けます。曲がり切ると、自動的に消灯します。ドライバーの運転習慣により、極端なケースでは、ハンドルを1回転させないとリセットしない場合があります。

オート OFF 機能

- オート OFF 機能の作動条件：ライトスイッチを「」、または「」に回し、電源を「ON」から「OFF」に切り替えると作動します。
- オート OFF 機能が ON の状態で運転席側ドアが閉まっていると、オート OFF 機能により点灯中のヘッドライト、ポジションランプ、フロントフォグランプ、ハイビームが 10 秒後に消灯します。
- オート OFF 機能が ON の状態で運転席側ドアが開いていると、オート OFF 機能により点灯中のヘッドライト、ポジションランプ、フロントフォグランプ、ハイビームが 5 分後に消灯します。

- 自動で消灯した後にライトスイッチのポジションを切り替えた場合、切り替えたポジションに応じてライトが点灯します。このとき、オート OFF 機能の作動条件が揃うと、再度オート OFF 機能が作動します。

- オート OFF 機能の解除：車両の電源を入れると、オート OFF 機能は終了し、ライトスイッチを通常通り操作できます。

- オート OFF 機能によりライトが消灯し、イモビライザー作動後に再度イモビライザーを OFF にした場合、消灯したライトが自動的に再度点灯します。運転席側ドアを開けていない場合、オート OFF 機能によりライトが 10 秒後に再度消灯します。ドアを開けると、オート OFF 機能によりライトが 5 分後に消灯します。

ヘッドライト残照機能

- 降車後のヘッドライト点灯機能：

- ライトスイッチを「」、「」ま

たは「」に切り替え、ドライバーが電源ポジションを「OFF」にした後、4つのドアを施錠して車両から離れると、対応するランプが 10 秒（または設定時間）点灯し、照明を提供します。

- ドライバーはマルチメディア  → **ライト** → **カーテシ設定**（**カーテシライト設定**）画面で、降車後のヘッドライト点灯時間を設定できます。点灯時間の初期値は 10 秒です。



ヘッドライトの高さ調節

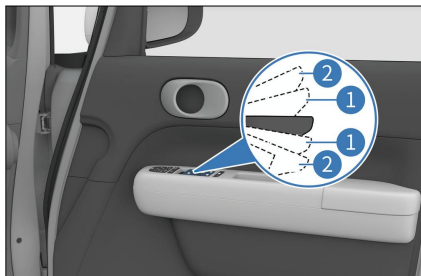
- ロービームが点灯しているときは、マルチメディア  → ライト → ヘッドライト → ヘッドライト高さで、ヘッドライトの照射角度を調節します。
- 車両により積載状況が異なる場合があるため、実際の状況に応じて調整してください。



運転席側ドアスイッチユニット

パワーウィンドウスイッチ

- 車両の走行可能表示灯を「OK」にすると、ドアにあるコントロールスイッチでウィンドウガラスの開閉を制御できます。
- ウィンドウガラスを下げる——パワーウィンドウスイッチを押します。
- ウィンドウガラスを上げる——パワーウィンドウスイッチを引っ上げます。



手動開閉

- パワーウィンドウスイッチをポジション①の位置で押し続けるとウィンドウガラスが下がり続け、手を離すと止まります。パワーウィンドウスイッチをポジション①の位置で引っ上げ続けるとウィンドウガラスが上がり続け、手を離すと止まります。

自動開閉

- パワーウィンドウスイッチをポジション②まで押してから手を離すと、ウィンドウガラスが自動で下がります。パワーウィンドウスイッチをポジション②まで引っ上げてから手を離すと、ウィンドウガラスが自動で上がります。ガラスが上がるまたは下がる途中でパワーウィンドウスイッチを任意の方向に操作すると、ウィンドウガラスの動作がキャンセルされます。

挟み込み防止機能

- ウィンドウガラス上昇中に人やものが挟まれると、ウィンドウガラスの上昇が止まり、自動的に下がります。

ウィンドウガラスの自動上昇機能または挟み込み防止機能が故障している場合

- ウィンドウガラスの自動上昇機能または挟み込み防止機能が作動しないときは、次の方法で復帰させることができます。
- ガラスを全閉にしてから約2秒間パワーウィンドウスイッチを引っ上げ続け、ウィンドウガラスを全閉してから約2秒間パワーウィンドウスイッチを押し続けると、自動上昇機能および挟み込み防止機能が自動的に復帰します。

遅延機能

- 電源ポジション「OFF」後にフロントドアを開けていない場合、10分間はウィンドウガラスの開閉操作ができます。フロントドアを開けると4つのドアのウィンドウガラス開閉操作ができなくなります。

⚠ 警告

- 身体の一部で、挟み込み防止機能を故意に作動させないでください。
- 次の場合は、パワーウィンドウ挟み込み防止機能が作動しない場合があります。
 - ウィンドウガラスが閉まり切る直前に挟まれたとき。
 - 指や紐などの物体が挟まれたとき。
 - ウィンドウスイッチを引き上げ続けたとき。
- 生命にかかわる重大な傷害を防止するために、ウィンドウガラスを閉じる場合は下記の注意事項を守ってください。
 - ウィンドウガラスを操作するときは、ドライバーや乗員の身体が挟まれないようにきちんと確認してから操作してください。
 - 絶対に、お子様にパワーウィンドウを操作させないでください。

⚠ 注意

- パワーウィンドウの故障を避けるため、ウィンドウガラスが完全に開いている/閉じている状態や、ウィンドウガラスが凍結している状態では、長時間または頻繁にウィンドウスイッチを操作しないでください。
- ウィンドウガラス自動上昇機能または挟み込み防止機能が作動しない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に点検を依頼してください。

集中ドアロックスイッチ

運転席側のドアには電動ドアロックを搭載しています。2つのボタンですべてのドアの施錠や解錠ができます。

① 施錠

「集中ドアロック施錠」ボタン①を押すと、すべてのドアが同時に施錠され、施錠を示す赤い表示灯が点灯します。

② 解錠

「集中ドアロック解錠」ボタン②を押すと、すべてのドアが同時に解錠され、施錠を示す赤い表示灯が消灯します。



ウィンドウロックボタン

ウィンドウロックボタンは、リアシート乗員のウィンドウガラス開閉操作をコントロールできます。

- ウィンドウロックボタンを押すと、表示ランプが点灯します。このとき、運転席のパワーウィンドウスイッチでは、すべてのウィンドウガラスの開閉ができます。助手席のスイッチでは助手席のウィンドウガラスの開閉ができますが、リアドアのウィンドウスイッチは操作できません。
- 再度ウィンドウロックボタンを押すと、表示灯が消灯し、それぞれのウィンドウガラス開閉を操作できます。



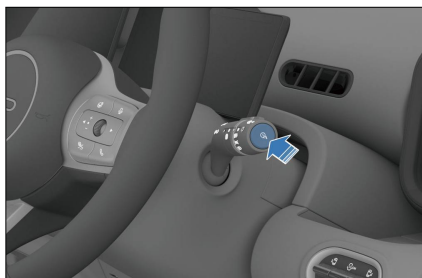
助手席側パワーウィンドウスイッチ

- ・車両の走行可能表示灯が「OK」または電源ポジションが「OFF」(電源ポジションOFF後の遅延機能作動中)の状態では助手席側ウィンドウスイッチを操作すると、助手席側のウィンドウガラスを上昇または下降することができます。



走行距離切替スイッチ

- ・「走行距離切替」スイッチを押すと、「ODO」——「TRIP A」——「TRIP B」——「ODO」の切り替えができます。同時に、コンビネーションメーターには切替状態が表示されます。
- ・「TRIP A」、「TRIP B」を長押しすると、走行距離がリセットできます。



モードスイッチユニット

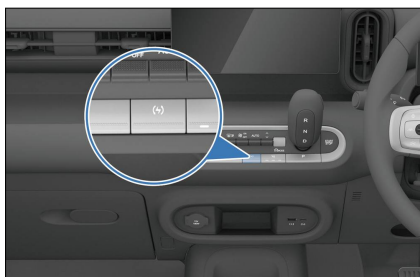
運転モードの調整

- ・本車両の運転モードには、ノーマル(NORMAL)、エコ(ECO)、スポーツ(SPORT)およびスノー(SNOW)があり、ドライバーは必要に応じて異なる運転モードを選択することができます。
- ・運転モード調整ホイールを回すと、コンビネーションメーターに選択画面が表示され、各種運転モードに変更できます。



回生ブレーキモード

- ・ボタンを押すと、回生ブレーキの効きが強くなります。
- ・再度ボタンを押すと、回生ブレーキがスタンダードになります。



スノーモード

- ・表面が固いものや滑りやすいもの(草、雪、氷や砂利など)で覆われている路面で使用します。
- ・スノーモードは、滑りやすい道路でのトラクション、乗り心地、ハンドリング特性を最適化しますが、スノーモードでも、滑りやすい道路を走行するときはアクセルペダルをゆっくり踏んで速度を抑えてください。

⚠ 注意

- ESC を有効にすると、車両の出力トルクを制限することがあります。また、積雪によってスタックしたときは、一時的に ESC を OFF にすることで、スタックから脱出できることがあります。車両がスタックから脱出した後は、再度 ESC を ON にしてください (174 ページ) を参照してください。

ハザードランプスイッチ

- △ スイッチを押すと、すべてのターンシグナルランプが点滅すると共に、メーターの方向指示表示灯が点滅します。
- 再度 △ スイッチを押すと、ターンシグナルランプと表示灯の点滅が止まります。



ルームランプスイッチ

「DOOR」ポジションスイッチ

- フロントのルーフスイッチユニットには、「DOOR」ポジションのスイッチが装備されています。
- 「DOOR」ポジションのスイッチを ON にすると、フロントルームランプはドア連動モードになり、ドアを開けたときに自動で点灯します。

- 「DOOR」ポジションスイッチを OFF にすると、ドアの開閉に関わらず、フロントルームランプは自動的に点灯しません。



フロントルームランプスイッチ

- フロントルーフスイッチユニットには左/右フロントルームランプが設置されています。
- ドアが閉まっているときに、左/右フロントルームランプを押すと、左/右フロントルームランプが点灯します。左/右フロントルームランプを再度押すと、左/右フロントルームランプが消灯します。



- 「DOOR」ポジションスイッチが ON でドアが開いている場合：
- 車両の電源ポジションが「OFF」以外の場合、フロントルームランプは点灯し続けます。
- 車両の電源ポジションが「OFF」の場合、フロントルームランプは一定時間点灯した後に消灯し、その間に他の操作があるとタイマーはリセットされます。

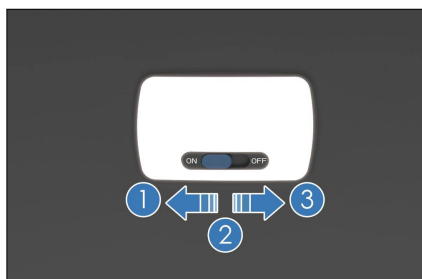
リアルームランプスイッチ

- ・リアルーフにはリアルームランプが設置されており、リアルームランプスイッチには3つのポジションがあります。

①ON

②ドア連動

③OFF



- ・スイッチを①の位置に動かすと、リアルームランプが点灯します。スイッチを②の位置に動かすと、リアルームランプはドアを開けた時のみ点灯します。
- ・スイッチを③の位置に動かすと、ドアが開いているかどうかに関わらず、リアルームランプは点灯しません。

自動緊急通報システム E-Call

- ・E-Call とは、緊急通報システム (Emergency Call) のことです。フロントルーフの SOS ボタンを 2~10 秒間押し続けると、E-Call が作動します。
- ・SOS ボタンを 10~20 秒間長押ししても、E-Call は作動しません。
- ・誤って SOS ボタンを押してしまった場合は、5 秒以内に再度 SOS ボタンを押すとキャンセルすることができます。



- ・E-Call が作動すると自動的に緊急通報を行い、関連の車両・事故情報を緊急通報受付センターに発信します。
- ・エアバッグが展開した場合、E-Call は自動的に作動します。

⚠ 警告

- ・E-Call が使用する電波は、心臓ペースメーカーなどの医療機器の正常な動作に影響を及ぼす可能性がありますので、医療機器メーカーにご相談ください。

⚠ 注意

- ・SOS ボタンを 20 秒以上押し続けると、SOS ボタンがショートした (ボタンが引っかかった状態) と判断されるため、手動操作しても E-Call は作動しません。
- ・E-Call を発信すると、手動操作でキャンセルすることができなくなります。緊急通報受付センターが通話を切断する、または 10 回以上連続で発信しても繋がらない場合、システムは 60 分間コールバック待ち状態に入ります。

作動状態	LED 表示灯	ブザー
車両の電源が入っていない、 または E-Call に重大な故障が ある	消灯	/
車両起動時のセルフテスト中	速く点滅-2 Hz	/
車両の電源ポジションが 「ON」で、E-Call のセルフテス トで異常がない	セルフテストで異常が検出さ れず、常時点灯	/
E-Call 発信中	点滅-1 Hz	ブザーが 1 回鳴る
E-Call 音声通話接続中	点滅-1 Hz	ブザーが 1 回鳴る
E-Call 音声通話終了	常時点灯	音声通話が切れ、ブザーが 2 回鳴る
コールバック中 (デフォルト で 60 分間)	常時点灯	/

04

使用および運転

充電/放電について.....	92
バッテリー.....	108
ご利用要領.....	112
発進と運転.....	118
運転支援機能.....	131

充電/放電について

充電について

充電に関する警告

- ・ 充電設備は高電圧が掛かっているため、お子様だけで充電をしたり充電設備に触れたりしないでください。また、充電中はお子様を充電設備に近づけないでください。
- ・ 充電が医療電子機器や植え込み型電子機器に与える影響については、電子機器メーカーへ確認してから充電作業を行ってください。
- ・ 安全な場所で充電してください（液体、火気、熱源などがある環境を避けるなど）。雨の日に充電するときは、水が掛からないように充電装置を保護してください。
- ・ 充電前の設備点検および操作
 - ・ 給電設備、充電コネクタ、充電ポート、車載充電ケーブルなどに、ケーブルの摩耗やポートの錆び、ケースの割れまたはポート内の異物付着などの異常がないことを確認してください。
 - ・ プラグやソケット、充電コネクタ、充電ポートの金属端子が錆びや腐食で破損している、または緩みがある場合は、充電しないでください。
 - ・ プラグやソケット、充電コネクタ、充電ポートが汚れたり濡れたりしている場合は、乾いた清潔な布で拭いてください。
- ・ 規格に適合する充電設備で充電してください。
 - ・ 故障や火災を防ぐため、充電設備および関連ポートの改造や取り外し、修理はしないでください。
 - ・ 安全基準を満たさない、または潜在的危険性がある充電設備で充電しないでください。また、充電中はお子様やベ

ットを充電設備に近づけないでください。

- ・ 感電による傷害につながるおそれがあるため、濡れた手で操作しないでください。
- ・ 充電中に車両や充電設備に異常を見つけた場合は、ただちに充電を停止して BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- ・ 車両の破損を防ぐため、充電時は下記の内容に注意してください。
 - ・ 車両側の充電ポートを破損するおそれがあるため、充電コネクタを揺らさないでください。
 - ・ 雷雨時はバッテリーを充電しないでください。落雷による車両の破損につながるおそれがあります。
- ・ 充電中は、整備のためにボンネットを開けないでください。
- ・ 感電による傷害につながるおそれがあるため、濡れた手や水の中などに入った状態で充電設備を切り離さないでください。
- ・ 発進する前に、充電設備が充電ポートから切り離されていることを確認してください。

充電上のご注意

- ・ パワーバッテリー残量（SOC）が低下すると、コンビネーションメーターのパワーバッテリー残量表示灯が赤く点灯し、パワーバッテリー残量が低下していることを知らせます。残量が低下すると、パワーバッテリーの寿命や走行性能に影響を与えるおそれがあるため、早めに充電してください。
- ・ 家庭用 AC 普通充電とは、AC 充電装置を使用して充電することです。ハイパワー充電による回路焼損や自動保護トリップが発生し、他の機器利用に影響を与えることを防ぐため、現地規格に適合する専用交流回路と電源コンセントを使用してください。

- ・ 充電機器の破損を防ぐために：
 - ・ 充電機器に衝撃を与えないでください。落下や外部からの衝撃などによる機械的破損がないように注意してください。
 - ・ 充電機器をヒーターや他の熱源の近くに置かないでください。

充電前の注意事項

- ・ 充電前に車両の電源ポジションを「OFF」にしてください。
- ・ 充電前に充電コネクタを挿し込む：
 - ・ 充電前に、充電コネクタと充電ポートに異物が付着していないこと、充電コネクタ端子の絶縁キャップに緩みや変形がないことを確認します。
 - ・ 充電コネクタを持ち、充電ポートに合わせてから押し込み、充電ポートに確実に取り付けます。
- ・ 外気温度が低い場合は、暖房のある室内で充電することをおすすめします。充電ポートフラップが天候などにより凍結した場合は無理に開けないでください。
- ・ 充電時は換気の良い場所に車両を止め、車両から降りることをおすすめします。充電中は車両カバーで車両を覆わないでください。
- ・ バッテリー温度が低すぎる、または高すぎる場合、バッテリーの充電性能に影響を与えるおそれがあります。
 - ・ 低温充電時、加熱によるエネルギー消費が増加します。温度コントロールシステムによりバッテリー低温時の充電能力を改善できますが、充電スタンドの出力に制限があるため充電時間や加熱時間が延び、加熱による電力消費が増えますが、異常ではありません。
 - ・ 直流充電時、車両が低温かつバッテリー残量が多い状態の場合、バッテリーの低温特性により充電電流が小さくなります。充電速度を向上させるため、バッテリー残量が少ない状態で車両を充電することをおすすめします。

- ・ お客様の利便性を向上させるため、低温環境下では、車両使用後すぐに充電することをお勧めします。これは、バッテリー温度が比較的高く、充電性能がより優れているためです。

充電時のご注意

- ・ 充電中にエアコンを使用できます。充電電力を確保するためにエアコンは使用しないことをおすすめします。
- ・ 低温環境で充電中にエアコンを使用する場合、バッテリー温度コントロールシステムの性能および充電性能に影響を与えるおそれがあります。
- ・ 高温の環境で、DC による高出力充電を行う場合は、バッテリー温度コントロールシステムの充電性能がエアコンの使用により低下し、充電時間が長くなる場合があります。充電効率を確保するため、充電中はエアコンを使用しないことをおすすめします。
- ・ 充電中にバッテリー温度コントロールシステムが作動した場合、コンビネーションメーターやマルチメディアタッチスクリーンの充電電力が、一時的に変動して表示されることがありますが異常ではありません。
- ・ 充電中に暖房や冷房を使用すると、充電時間が長くなり充電中の消費電力も増えますが異常ではありません。
- ・ 直流充電時、充電スタンドの最大出力を発揮し、快適に充電できるようにするために、車両は充電開始時に充電スタンドの実際の能力を認識する必要があります。この認識期間中は、直流充電電力は小さくなります。
- ・ バッテリーを長持ちさせるため、充電完了前にバッテリー補正機能が作動することがあります。バッテリー補正機能が作動すると、充電時間が長くなる場合があります。
- ・ 充電中および充電終了後のしばらくの間、バッテリー冷却システムが作動してコンプレッサーやファンなどの作動音が

モータールームから聞こえますが異常ではありません。

- 充電時、コンビネーションメーターやマルチメディアタッチスクリーンにフル充電までの所要時間が表示されます。気温やバッテリー残量、充電設備などにより所要時間は多少増減しますが、異常ではありません。充電が完了する前に、コンビネーションメーターに「計算中...」と表示されますが異常ではありません。

充電終了時のご注意

- 充電完了後に充電コネクタを抜き出す：
 - 充電を停止し、充電ポートのロックが解錠されていることを確認します。
 - 充電コネクタを持って抜き出します。
 - 充電コネクタがロックされたまま充電コネクタを抜き出さないでください。充電ポートを破損させるおそれがあります。
- パワーバッテリーがフル充電になると、システムが自動的に充電を停止します。
- 充電を途中で終了させる場合は、AC または DC 充電スタンドを OFF にしてから充電装置を切り離してください。家庭用 AC 普通充電の利用完了後、車両側の充電コネクタを切り離してから電源側のプラグを抜き出してください。
- 充電が完了して充電コネクタを抜き出したら、充電ポートキャップおよび充電ポートフラップを確実に閉じてください。そうしないと、水や異物が充電ポートに入り正常に使用できなくなるおそれがあります。
- 車両を始動させる前に、充電装置が切り離されていることを確認してください。充電装置のロック機構がきちんとロックされていない状態でも走行できてしまうため、充電装置および車両の破損につながるおそれがあります。

注意

- 充電ポートフラップが解錠されるまでは、充電ポートフラップを無理やり開けないでください。
- 充電ポート盗難防止ロックを解錠せずに充電コネクタを強制的に挿し込む、または抜き出さないでください。
- 充電ポートキャップを外した時は、充電ポートフラップを閉じないでください。

利便性向上のために、以下のことをおすすめします。

- 車両を長期間使用しない場合は、フル充電してから利用することをおすすめします。パワーバッテリーを長持ちさせるため、放置期間中は、少なくとも3ヶ月毎に充電することをおすすめします。
- パワーバッテリーシステムが長期間フル充電されていない場合、インストールメントクラスターに「パワーバッテリーの自動バランス調整のため、車両をフル充電してください」というメッセージが表示される場合があります。バッテリーの寿命を延ばすために、できるだけ速やかに車両をフル充電してください。

充電方法

電気自動車はパワーバッテリーからの電気エネルギーで走行します。パワーバッテリーの電圧不足の影響を防ぐため、早めに充電し、運転前に使用する電力量を見込んでおいてください。

次の充電方法があります。

- 家庭用 AC 普通充電*
- 充電スタンドでの AC 充電
- 充電スタンドでの DC 急速充電*



注意

- ・パワーバッテリーの充電が完了するまでに必要な時間は、充電方法、バッテリー残量、現在の温度、使用時間、周囲温度などにより異なります。
- ・規格に適合する充電設備を選定してください。

- ・即時充電：充電コネクタを接続したらすぐに充電を始めます。



お願い

- ・予約充電で充電を待つ間は、車両の電力消費が増えます。充電待機時間が長くなると、車両のバッテリー残量が低下し、航続可能距離が短くなりますが、異常ではありません。

充電モード

次の充電モードがあります

- ・予約充電 (AC 充電のみ) : ドライバーが設定している充電時間でバッテリーを充電します。

一般的な充電故障の診断

症状	考えられる原因	対処方法
充電できない。充電装置に接続しているが、充電が開始されない	パワーバッテリーがフル充電になっている	パワーバッテリーがフル充電になっている場合、自動的に充電を停止します。
	パワーバッテリーの温度が高すぎる/低すぎる	適切な温度環境の場所に停車し、パワーバッテリーの温度が正常になるのを待ってから充電してください。
	起動バッテリーが過放電になっている	起動バッテリーを交換してください。
	充電機器が故障している	充電機器の電源表示灯が正常に点灯していない、またはその他の異常表示がないかを確認し、別の充電機器で充電を行うか、充電機器の供給元に連絡してください。
	車両の故障表示	コンビネーションメーターに充電システムの故障メッセージが表示されている場合は、充電を停止して BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
充電が途中で止まった	電力供給が停止している	AC 充電中に外部送電網がしばらく停電し、その後電力供給が再開された場合、BYD 充電機器は再接続することなく自動的に充電を再開します。
	充電コネクタがきちんと接続されていない	充電コネクタが確実に接続されていることを確認してください。
	充電コネクタスイッチが押し込まれている	充電コネクタスイッチが押し込まれると充電が停止するため、充電コネクタを新たに接続して充電をスタートする必要があります。

症状	考えられる原因	対処方法
パワーバッテリーの温度が高すぎる/低すぎる	温度が高すぎる場合、コンビネーションメーターにパワートレインシステムの故障が表示されます。 温度が低すぎる場合、コンビネーションメーターにパワーバッテリーの温度低下が表示されます。このとき、充電が自動的に止まります。バッテリー温度が正常に戻ってから充電を再開してください。	
車両や充電スタンドが故障している	充電スタンドや車両に不具合がある場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。	

充電方法

- 充電前の点検：
 - 充電装置のキャビネットの割れ、ケーブルの摩耗、プラグの錆、または異物の付着などの異常がないことを確認します。
 - 充電装置の接続に緩みがある場合は、充電しないでください。
 - 充電ポートに水または異物がない、金属端子に錆や腐食がないことを確認します。
- 上記のような状況があるときは充電しないでください。ショートや感電などにより、身体に危害を与えるおそれがあります。
- 雨の中で充電するときは、水が掛からないように充電装置を保護してください。

家庭用 AC 普通充電*

1. 充電器について

- 車両と規格に適合するコンセントを接続し、バッテリーを充電します。仕様は、AC200V です。
- 高出力充電による回路焼損や、自動保護ブレーカーが誤作動して他の設備へ影響を与えることを避けるため、ソケットは規格に適合する家庭用コンセントを選択してください。

- この設備は、現地の規格に適合する給電プラグ、充電コネクタ、コントロールボックス、充電ケーブルで構成された、EV Mode 2 充電ケーブルと略称します。給電プラグを家庭用コンセントに挿し込み、充電コネクタを車両の充電ポートに挿し込みます。
- 充電時間：コンビネーションメーターに表示される充電時間についてのご注意を参照してください。

警告

- 充電に関する警告の詳細は、充電機器の説明書に記載の充電に関する警告を参照してください。
- 周囲温度：最大 50°C までとし、使わないときは、本製品を涼しく乾燥した場所に保管してください。
- 充電中、本装置をトランクルームや車両前部の下、タイヤの近くに置かないでください。
- 使用中は、車両にひかれたり地面に落ちたり、人に踏まれることがないようにしてください。
- 充電装置を落としたり、直接ケーブルを引っ張って移動したりしないでください。設備の移動の際は取り扱いに注意してください。
- 充電設備や関係ポートの改造や取り外し、修理は禁止されています。

⚠ 警告

- ・ 後付けの電線やアダプター/コンバーターを使用しないでください。
- ・ 家庭用給電コンセントのコードが柔らかくなった場合や、充電コネクタケーブルの摩耗、絶縁層の破裂やその他の破損がある場合は、充電設備を使用しないでください。
- ・ 充電コネクタ、給電プラグ、家庭用コンセントの断線や破裂、または表面に破損がある場合は、充電設備を使用しないでください。
- ・ 充電ポートフラップの故障を防ぐため、必要以上に充電ポートフラップを開閉しないでください。充電ポートフラップを開閉する間隔は 1 秒以上にすることをおすすめします。

⚠ 注意

- ・ 充電中の放熱性が悪くなるため、充電ケーブルを巻いたまま使用しないでください。
- ・ 充電に関する注意事項の詳細は、「充電/放電について」を参照してください。

❗ お願い

- ・ BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場や認定技術者に問い合わせて、充電設備の要求事項に応じた適切な電源を選択してください。
- ・ 充電設備のアースについて：設備のアース工事を確実にしてください。充電設備に故障や破損が起きた場合、アース線は最小抵抗の回路を介して電流を逃し、感電の危険性を低減します。
- ・ 給電プラグは、安全基準に適合し、正しく設置されており、アースを確

❗ お願い

実に取りっている家庭用コンセントと組み合わせて使用してください。

2. 充電する

- ・ 車両のドアを解錠した状態で電源ポジションを「OFF」にし、充電ポートフラップを押し込むと充電ポートフラップが自動で開きます。



- ・ 充電ポートキャップと充電コネクタのカバーを開け、充電コネクタのプラグと車両側コンセントの部分に、障害物がないかを確認します。



❗ お願い

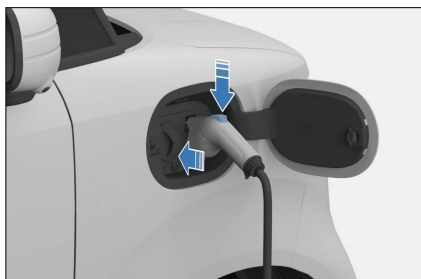
- ・ 充電ポートフラップが解錠されるまでは、充電ポートフラップを無理やり開けないでください。
- ・ 天候などにより充電ポートフラップが凍っている場合は、無理に開けようとせず温水で溶かしてから開けてください。

・ 給電ポート側の接続：

- ・ EV Mode 2 充電ケーブルの給電プラグを家庭用コンセントに挿し込みます。

・ 車両側の接続：

- ・ 充電コネクタを車両側充電ポートに挿し込みます。



- ・ 充電コネクタを適切に挿し込むと、コンビネーションメーターの充電接続表示灯  が点灯します。

 お願い

- ・ 充電ポート盗難防止ロックを解錠せずに、充電コネクタを挿し込まないでください。
- ・ 充電中は、コンビネーションメーターに関連する充電パラメーターと充電画面が表示されます。
- ・ このとき、マルチメディアの設定から充電を予約することができます。設定手順の詳細は (102 ページ) を参照してください。

 お願い

- ・ 充電中は、コンビネーションメーターにフル充電までの目安時間が表示されます。気温やバッテリー残量、充電設備などにより所要時間は多少増減しますが、異常ではありません。
- ・ バッテリー残量が少ない場合、予約充電は使用できません。

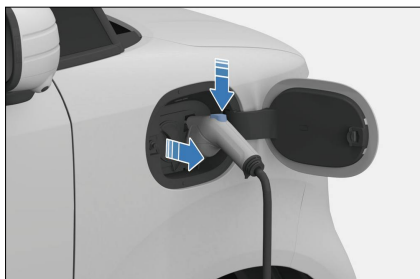
3. 充電を停止する

・ 充電完了：

- ・ フル充電になると、自動的に充電が完了します。
- ・ リモートキーの「アンロック」ボタンまたはドアハンドルのマイクロスイッチを押すと (リモートキーが近くにある場合)、充電が停止します。充電が停止した後、充電器または車両表示で充電停止を確認してから充電コネクタを抜き出してください。

・ 充電ポートの接続を切る：

- ・ 盗難防止機能が OFF の場合は、実際の状況に応じて充電コネクタ上のボタンを押してから充電コネクタを抜き出す、またはそのまま充電コネクタを抜き出してください。
- ・ 盗難防止機能が ON の場合は、リモートキーの「アンロック」ボタンまたはドアハンドルのマイクロスイッチを押してから (リモートキーが近くにある場合)、充電コネクタを抜き出してください。



 お願い

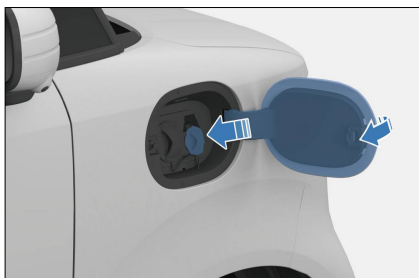
- ・ 車両を解錠した状態でリモートキーの「アンロック」ボタンを押す、または運転席側ドアハンドルのマイクロスイッチを押します (リモートキーが近くにあるとき)。
- ・ 充電ポート盗難防止ロック機能が ON の場合は、充電コネクタを抜き

！ お願い

出す前に車両を解錠し、充電ポート盗難防止ロック機能を解錠後、30 秒以内に充電コネクタを抜き出してください。抜き出さないと、充電ポート盗難防止ロック機能が作動して再度ロックします。

- 充電ポート盗難防止ロック機能の作動モードは、マルチメディアで設定できます。設定手順の詳細は、(105 ページ) を参照してください。
- ロック解錠操作をしても充電コネクタが抜き出せない場合は、数回ほど解錠操作を繰り返してください。それでも抜き出せないときは、緊急時解錠を試みてください。操作手順は (106 ページ) を参照してください。
- 充電ポート盗難防止ロック機能を OFF にしても充電コネクタを抜き出せない場合は、車両を解錠してから再度操作してください。

- 給電プラグを外します。
- 車両の充電ポートキャップと充電ポートフラップを閉めます。
- 使用した充電設備を元に戻します。



！ 注意

- 充電ポートキャップを全開にしている状態で、充電ポートフラップを閉じないでください。

！ 警告

- EV Mode 2 充電ケーブルを直接引っ張って移動させたり、落下させたりしないでください。設備を移動させるときは取り扱いに注意し、使用後は充電装置を冷暗所に保管してください。

充電スタンドでの AC 充電

1. 充電器について

• AC 充電ボックス

- 基準に適合する家庭用充電ボックスで車両のバッテリーを充電します。充電設備の使い方は、使用する充電設備のマニュアルを参照する、または本マニュアルに従って操作してください。
- AC 充電ボックス：この装置は、充電ボックス、充電コネクタ、およびケーブルで構成されています。ブレーカー、非常停止スイッチなどについては、充電ボックスの取扱説明書を参照してください。

• AC 充電スタンド

- 公共の場に設置される AC 充電スタンドで車両のバッテリーを充電します。
- 充電時間：コンビネーションメーターまたはマルチメディアに表示される充電時間についてのご注意を参照してください。

2. 充電する

- 車両を解錠して充電ポートフラップと充電ポートキャップを開けます。
- 「家庭用 AC 普通充電」の充電ポートフラップの解錠を参照しながら、充電ポートフラップおよび充電ポートキャップを開けます。
- 車両側の接続：
 - 充電装置の充電コネクタを車両の充電ポートに確実に挿し込みします。

・ 充電の設定：

- ・ 認証を必要とする AC 充電スタンド/ボックスについては、カードをかざす、または QR コードをスキャンしてください。取り扱い方法の詳細は、充電スタンド/ボックスの取扱説明書を参照してください。
- ・ コンビネーションメーターの充電接続表示灯  が点灯します。
- ・ 充電中、コンビネーションメーターまたはマルチメディアには関連する充電パラメーターが表示されます。また、充電画面も同時に表示されます。
- ・ このとき、マルチメディアの設定から充電を予約することができます。設定手順の詳細は **(102 ページ)** を参照してください。

3. 充電を停止する

- ・ 充電完了：
 - ・ 任意で充電を終了させる、またはフル充電になると、自動的に充電が終了します。
 - ・ リモートキーの「アンロック」ボタンまたはドアハンドルのマイクロスイッチを押すと（リモートキーが近くにある場合）、充電が停止します。
- ・ 充電ポートの接続を切る：
 - ・ **(96 ページ)** を参照し、充電ポートの接続を切り離します。
- ・ AC 充電ポートキャップおよび充電ポートフラップを閉めます **(96 ページ)** を参照してください。
- ・ 充電機器を整理し、適切に保管してください。
- ・ AC 充電スタンド/ボックスの場合は、充電コネクタを充電スタンド/ボックスの指定位置に戻します。

充電スタンドでの DC 急速充電*

充電器について

- ・ 公共の DC 急速充電器で車両のバッテリーを充電します。DC 急速充電器は、特定の充電スポットに設置されています。
- ・ 設備規格：充電器関連の説明をお読みください。
- ・ 充電時間：コンビネーションメーターまたはマルチメディアに表示される充電時間についてのご注意を参照してください。

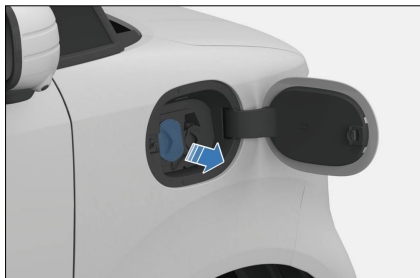
充電する

1. 充電ポートフラップを開けます：

- ・ 車両を解錠している状態で電源ポジションを「OFF」にし、充電ポートフラップを押し込むと充電ポートフラップが自動で開きます。

2. DC 充電ポートキャップを開けます：

- ・ 充電コネクタと車両側コンセントのカバーを開け、充電コネクタのプラグと車両側コンセントの部分に、障害物がないかを確認します。



3. 車両側の接続：

- ・ 充電器の充電コネクタを車両の DC 充電ポートに押し込み、確実に施錠します。

4. 充電開始：

- ・ 充電設備の操作手順に従って操作し、充電を開始します。

5. コンビネーションメーターの充電接続表示灯 が点灯します。

- ・充電中、コンビネーションメーターまたはマルチメディアには関連する充電パラメーターと充電画面が表示されます。

充電を停止する

1. 充電完了

- ・予定の時間になる、または充電が完了すると、充電スタンドは自動的に充電を終了します。

2. 充電ポートの接続を切る：

- ・リモートキーの「アンロック」ボタン、またはドアハンドルのマイクロスイッチを押して（リモートキーが近くにある場合）から、充電コネクタを外します。

3. DC 充電ポートキャップと充電ポートフラップを閉めます。

4. 充電設備の片付け：

- ・充電器で急速充電が完了したら、充電設備を整理して充電コネクタを充電器の指定の位置に戻します。

注意

- ・充電ポートキャップを外した状態で、充電ポートフラップを閉じないでください。
- ・充電完了後、ロック解錠操作をしても充電コネクタが抜き出せない場合は、解錠操作を数回繰り返してください。それでも抜き出せないときは、非常解錠を操作してください。操作手順は（106 ページ）を参照してください。

充電前予熱機能*

- ・低温時の DC 充電時間を短縮するため、本車両には充電予熱機能が搭載されて

おり、充電前にパワーバッテリーを加熱することができます。

- ・マルチメディア  → エネルギー → 充電と放電 → 充電前予熱 をタッチして、この機能を ON にすることができます。

お願い

- ・工場出荷時は「OFF」に設定されています。
- ・低温環境下では、DC 充電前にこの機能を ON にすることで、充電時間を短縮できます。
- ・バッテリー温度が適温範囲に達すると、機能は自動的に OFF になります。次回使用時には再度 ON にする必要があります。
- ・充電中は本機能を使用できません。
- ・本機能を ON にすると、一定の作動音が発生します。

AC 充電電流制限機能*

- ・AC 充電を行う前に、必要に応じて充電電流を制限することができます*。
- ・マルチメディア  → エネルギー → 充電と放電 → 普通充電 電流制限 から設定できます。
- ・設定可能な充電電流制限値：
6A/8A/10A/16A/MAX。工場出荷時は「MAX」に設定されています。

お願い

- ・充電電流制限値を設定すると、充電時間が長くなる場合がありますが、これは正常な現象です。
- ・車両の実際の充電電流は、給電設備の能力や電力網の能力などにも左右されます。

スマート充電

スマート充電モードは、予約充電と出発予定*機能を含みます。

- マルチメディア  → エネルギー → 充電と放電 → スマート充電から設定します。
- リターンボタン  または /home  をタッチすると、スマート充電画面を閉じることができます。

！ お願い

- スマート充電のサブ機能は1つだけ有効にでき、出発予定画面では予約充電機能が OFF になり、その逆も同様です。

予約充電設定画面

- ① 出発予定に切り替え
- ② 充電開始/終了時間
- ③ 繰り返しサイクル
- ④ 設定
- ⑤ 予約充電スイッチ



- 初期設定では車両は即時充電に設定されており、予約充電は OFF になっています。
- 予約充電を行う場合は、予約充電スイッチ⑤を ON にして充電開始/終了時間②、繰り返しサイクル③を設定します。設定後、確定をタッチすると設定を保存します。
- 予約充電の予約完了後、充電待ち時間内に充電コネクタを接続する、または車両

の電源ポジションを「OFF」にすると、マルチメディアが充電の開始時間を知らせます。必要に応じて予約を変更し、すぐに充電することができます。

- ドライバーは、予約充電設定④から電源 OFF 時予約リマインダーや充電器接続予約リマインダーおよびパワー OFF 通知機能を ON/OFF することができます。

！ 注意

- 予約充電は、BYD の AC 普通充電設備を対象に開発したものです。BYD 純正部品以外の AC 普通充電設備を利用する場合は、予約充電を OFF にしてください。充電設備が非対応のため予約や即時充電ができず、車両のバッテリー残量不足や電圧不足につながるおそれがあります。

！ お願い

- 通知画面の「即時充電に変更」は、今回の予約に限るものです。すべての予約をキャンセルする場合は、設定画面で予約充電スイッチを OFF にしてください。
- 予約充電は、BYD の AC 普通充電設備のみに対応しています。公共充電施設に使う場合は、施設が予約充電に対応しているかを確認してください。
- バッテリー残量が低下している場合は、予約充電前に最小限のバッテリー残量を確保するための充電を行います。最小限のバッテリー残量を確保するための充電を行うときは、マルチメディアにパワー OFF 通知および充電コネクタ接続通知を発信し、コンビネーションメーターの下側にメッセージを表示します。
- 予約充電の待機時間が長すぎると、この機能は電力を消費しますが、異常ではありません。

！ お願い

- この機能は AC 充電のみに適用します。DC 充電コネクタに接続すると、予約充電の設定が無効になりますぐに充電を開始します。

車の予約設定画面

- ① 予約充電に切り替え
- ② 出発時間と繰り返しサイクル
- ③ 電気料金優遇時間
- ④ 設定
- ⑤ 出発予定スイッチ



- 出発予定機能を使う場合は、出発予定スイッチ⑤をタッチして予約時間と繰り返しサイクル②、電気料金優遇時間③を設定します。設定後、確定をタッチすると設定を保存します。
- 出発予定を ON に設定すると、車両は充電を開始する時間を自動的に計算します。
- 電気料金優遇時間は、電気料金優遇時間中に充電が開始されるよう自動的に充電時間を遅らせ、予定の出発時間までに充電を終了させると同時に、バッテリー充電時間帯が電気料金優遇時間中であることを確保し、電気代を節約できます。電気料金優遇時間③をクリックして変更すると、電気料金優遇時間の開始または終了時間をカスタマイズできます。
- 割引料金時間帯内の残り充電時間が充電完了に不十分な場合、充電コネクタを挿入して AC 充電を開始すると、充電制限

値に達するまで直ちに充電が開始されません。充電前の車両の残量によっては、割引料金時間帯の前に充電を一時停止する場合があります。

！ お願い

- 出発予定機能は、バッテリー残量が40%を超えている場合にのみ有効になります。この機能を ON にする場合は、ボンネットを閉じた状態に保ってください。
- 車両が寒い環境にある場合、出発予定機能は自動的にバッテリー予熱機能を ON にします。充電コネクタを接続しなくてもバッテリー予熱機能が利用可能で、これにより電力が消費されます。
- 車両の走行可能表示灯が「OK」の場合、バッテリー予熱および車内自動温度制御は作動しませんが、電気料金優遇時間中の充電は引き続き使用できます。

外部給電*

- 本車両は外部給電機能を備えています：AC V2L と DC V2H。車両の出力電圧範囲は、基準に定められる電圧範囲 (DC150V ~ 450V) を満たしており、最大給電電力は 10kW です。

！ 警告

- 外部給電中に、外部給電用ソケットや車両側ポートの金属端子を触らないでください。
- 外部給電中に異臭や煙が出るなどの異常がある場合は、ただちに外部給電を停止してください。
- 外部給電についての警告は、充電に関する警告と同じです (「充電/放電について」を参照してください)。

警告

- 使わないときは、機器を涼しく乾燥した場所に保管してください。
- 外部給電しているときは、機器をトランクルームや車両前部の下、タイヤの近くに置かないでください。
- 使用中は、車両にひかれたり地面に落したり、人に踏まれることがないようにしてください。
- 本機器を落したり、直接ケーブルを引っ張って移動したりしないでください。機器の移動の際は取り扱いに注意してください。
- コンセントのコードが柔らかくなった場合や、給電コネクタケーブルの摩耗、絶縁層の破裂やその他の破損がある場合は、外部給電機器を使用しないでください。
- 給電コネクタ、給電コンセントの断線や破裂、または表面に破損がある場合は、外部給電機器を使用しないでください。

注意

- 外部給電機器の使用上の注意事項については、外部給電機器の取扱説明書を参照してください。
- 外部給電前にパワーバッテリーの残量を確認し、外部給電後の航続可能距離を予測してください。
- 外部給電前に、負荷が OFF になっていることを確認してください。
- V2L 外部給電装置は、EVPS-004:2014 規格に適合する必要があります。V2H 外部給電装置は、EVPS-002:2014 または EVPS-002:2018 規格に適合する必要があります。
- 外部給電中に給電コネクタを抜き出さないでください。外部給電完了後

注意

は、外部給電装置の作動が止まっていることを確認してから、給電コネクタを外してください。

お願い

- 外部給電は、可能な限りパワーバッテリー残量が多い状態で使用してください。
- パワーバッテリー残量が少ないときは、外部給電の使用が制限されます。
- V2L または V2H による給電を行う際、電気機器が起動していなくても、車両の冷却システムが作動して、パワーバッテリー残量が低下することがあります。
- 車両が電源ポジション「OFF」で、長時間外部給電機器に接続した状態で電気エネルギーを出力しない場合、車両の待機時消費電力が増加するため、機器を使用しないときは給電コネクタを外すことをおすすめします。

外部給電方法*

外部給電の開始について

- 給電前に、イモビライザーが OFF になっているか確認します。
- 外部給電前の点検：
 1. 車両のパワーバッテリー残量が 15% 以上であることを確認します。
 2. 外部給電装置の筐体の割れ、ケーブルの摩耗、プラグの錆、および異物の付着などの異常がないかを確認します。
 3. 充電ポートに水分または異物がない、金属端子に錆びや腐食による破損などの異常がないことを確認します。
- 上記 2 つ目、3 つ目の異常がある場合は、ショートや感電などにより身体に危害を

与えるおそれがあるため、外部給電を中止してください。

- 外部給電装置の接続：
 - 充電ポートフラップのロックを解錠し、車両の充電ポートフラップと充電ポートキャップを開けます。(96ページ)を参照してください)
 - 外部給電装置の給電コネクタを充電ポートに押し込み、確実に施錠します。
 - V2L 外部給電を使用する場合は、外部給電装置の給電コネクタを AC 充電ポートに接続してください。V2H 外部給電を使用する場合は、外部給電装置の給電コネクタを DC 充電ポートに接続してください。
- 外部給電を開始する：
 - 外部給電器をしっかりと接続し、3 秒以内に給電コネクタのボタンを 2 回連続で押して外部給電器のスイッチをオンにすると、車両の外部給電が開始されます。コンビネーションメーターには外部給電に関する情報が表示されます。

外部給電を停止する

- 外部給電を終了する：
 - 負荷を切り離します。
- 外部給電装置を切り離す：
 - 車両を解錠した状態で、給電コネクタのアンロックボタンを押し、給電コネクタを充電ポートから抜き出します。
 - 充電ポートキャップと充電ポートフラップを閉めます。
- 給電装置を片づける：
 - 外部給電完了後、外部給電器を収納します。

V2H 装置での充放電について

- V2H 装置で充電する場合、パワーバッテリーが 100%まで充電されると、自動的

に充電を停止します。このとき、V2H 装置で外部給電ができます。

- V2H 装置で放電する場合は、車両の SOC が 15%になるまで放電すると、放電が自動的に止まります。このとき、V2H 装置で車両を充電することができます。
- V2H 装置で外部給電から充電への切り替え、または充電から外部給電への切り替えを自由に操作できます。
- V2H 装置で充電する場合、操作方法は DC 急速充電で充電する方法と同じです。

充電ポート盗難防止ロック機能

- 充電コネクタの盗難を防ぐため、充電ポートには車両に対する充電・給電中の盗難防止機能が備わっています。初期設定は OFF のため、マルチメディア  → エネルギー → 充電と放電の設定画面に入り、「充電ポートイモビライザー」を ON にし、機能を有効にしてください。
- ON の状態でドライバーが充電コネクタを押し込み、すべてのドア、ボンネットおよびテールゲートを施錠すると、充電コネクタがロックされます。充電コネクタを外す場合は、車両を解錠してください。

解錠

- ON の状態で充電する場合は、次の方法で盗難防止ロック機能を解錠し、充電コネクタを抜き出してください。
- OFF の状態でリモートキーの「アンロック」ボタンを押して解錠する。
- 運転席側ドアハンドルにあるマイクロスイッチを押して解錠する。
- 運転席内側の下にある集中ドアロックを押して解錠する。

番号	「充電ポート盗難防止 ロック作動モード」設 定状態	車両盗難防止ロック 状態	充電コネクタ抜き出 しの可否
1	ON	施錠	不可
2	ON	ON	可能
3	OFF	施錠	可能
4	OFF	ON	可能

- 上記の表の通り、車両が 2、3、4 の状態にある場合は、上記の解錠操作以外に充電コネクタボタンを操作して解錠することで、充電コネクタを抜き出すことができます。ただし、この操作は充電ポートや充電コネクタの使用寿命を縮めるおそれがあるため、緊急時以外では操作しないでください。

⚠ 注意

- 充電ポート盗難防止ロック機能を解錠後、速やかに充電コネクタを抜き出してください。時間が経過すると、充電ポート盗難防止ロック機能が再度作動して施錠するため、再び解錠する必要があります。
- 充電完了後に正常に走行できるよう、プラグを外した後は充電ポートフラップを閉じてください。



❗ お問い合わせ

- 上記機能に異常または故障がある場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

充電ポート盗難防止ロックの緊急解錠

- 充電ポート盗難防止ロックが故障して充電コネクタを抜き出せない場合は、手で非常解錠操作を行い、充電コネクタを抜き出します。
- ボンネットを開けると、充電ポート側のフロントホイールガードに充電コネクタの緊急ケーブルが設置されています。
 - 緊急ワイヤークリップを外して緊急ワイヤーを引っ張り、充電コネクタを解錠します。
 - 解錠後、緊急ワイヤークリップを戻します。

お客様に快適な運転体験お届けするために、本車両には「航続距離表示モード設定」の選択機能が搭載されています。初期設定は「Standard」です。マルチメディア  → **音 & 画面** → **コンピネーションメータ** の設定画面から、関連設定を行うことができます。

- Standard モード走行距離: 総合モードのテスト結果から走行距離を表示します。
- ダイナミックモード走行距離: 利用可能なパワーバッテリー残量と現在のエネルギー消費平均値に基づいて、予測走行距離を表示します。
- 航続距離表示モードは、設定されたモードを記憶します。車両の電源ポジション

を「OFF」にして再度「ON」にした場合、前回の設定モードを維持して表示します。

! お願い

- ・航続距離表示モードをダイナミックに設定した場合：
 - ・フル充電毎に表示される航続距離は、前回の走行で消費したエネルギーに基づいて計算されるため、前回と異なる場合があります。
 - ・表示される航続距離は、エアコンの使用状態、選択された運転モード（ECO、NORMAL、SPORT など）、およびドライバーの運転習慣により調整されるため、現在の使用状況に近い推定航続距離となります。

回生ブレーキの設定

回生ブレーキとは、ブレーキ中のモーターの逆トルクを利用して生成するエネルギーを回収・再利用することで、エネルギー効率を高める仕組みです。

- ・回生ブレーキ：
 - ・「D」レンジで走行中、アクセルペダルから足を離してブレーキペダルを踏み、車両が安定している場合、減速プロセスでは優先的にモーター回生による減速が行われます。モーター出力が不足したときは油圧ブレーキが能動的に介入し、十分な制動力を与えると同時に生成したエネルギーを回収し、省エネ効果を上げます。
- ・回生惰行：
 - ・「D」レンジで走行中、アクセルペダルを一定量戻すと、モーターの逆トルクにより減速すると同時に生成したエネルギーを回収することで、省エネ効果を上げます。

- ・車両が減速する際、エネルギーは回生ブレーキシステムによって回収されます。ただし、正常な使用に影響を与えないよう、不必要な加速や減速操作は行わないでください。
- ・回生ブレーキモードスイッチ（**86ページ**）を参照してください）またはマルチメディアシステムから、回生ブレーキの強さを設定することができます。
- ・スタンダード：アクセルペダルを離すと、通常の回生エネルギー量を回収します。このとき、車両の減速度は普通です。
- ・大：アクセルペダルを離したとき、スタンダードに比べてより多くの回生エネルギー量を回収します。このとき、車両の減速度はスタンダードより大きくなります。
- ・マルチメディア  → エネルギー → エネルギー管理の設定画面から、回生ブレーキの強さを設定できます。



- ・アクセルペダルから足を離したときの回生ブレーキの強さを、ニーズに合わせて自由に選択できます。
- ・回生ブレーキの強さは、設定されたモードを記憶します。車両の電源ポジションを「OFF」にして再度「ON」にした場合、前回の設定モードを維持します。

! お願い

- ・高速走行中は、回生ブレーキ強度の設定を変更しないでください。注意が散漫になり、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

バッテリー

パワーバッテリー

- ・パワーバッテリーは車両の動力源で、繰り返し充放電が可能です。
- ・パワーバッテリーの電力供給源は主に2つあります。1つ目は外部電源によるパワーバッテリーの充電、2つ目は制動時や慣性走行時に回生ブレーキによりパワーバッテリーを充電する方式です。
- ・パワーバッテリーはボディーの底部にあるため、凹凸のある路面や悪路を走行する場合は、バッテリーが破損しないよう速度を落として慎重に運転してください。何かにぶつかった場合は、ただちにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場で点検してください。

バッテリー特性

- ・バッテリー本体の電気化学特性の影響およびパワーバッテリーを保護する目的から、以下の条件では性能に一定のばらつきがありますが、異常ではありません。
- ・パワーバッテリーの残量が多い場合は、回生ブレーキ性能が低下することがあります。
- ・フル充電に近づくまでパワーバッテリーを充電すると、トリクル充電モードに切り替わるため、コンビネーションメーターに表示されるフル充電までの予測時間が増えます。
- ・パワーバッテリーの残量が少ない場合は、加速性能が低下します。
- ・パワーバッテリーの残量が少ない場合は、V2L/V2Hが正常に使えないため、早めに充電してください。
- ・高温や低温の環境では、パワーバッテリーの充放電能力が弱くなるため、充電時間が延びますが異常ではありません。このような場合は、高出力充電設備での充電をおすすめします。気温が

極端に低い状態で走行する場合は、動力性能が低下することがあります。

- ・低温の環境でパワーバッテリーを充電する場合、温度制御機能により充電能力を大幅に改善しています。低温時の充電については、「充電上のご注意」を参照してください。
- ・バッテリー温度制御機能は、低温環境で車両を運転する際に適切なタイミングで自動的に加熱を開始し、低温走行時の動力性能や放電性能を確保することで走行性能を向上させます。走行距離が短い場合は、加熱が十分にできないため電力消費が増えてしまい、航続可能距離が短くなることがあります。
- ・低温環境では、バッテリーの残量が減少する可能性があります。また、残量は温度の低下に伴いさらに減少します。低温環境で、バッテリー残量が多い車両を充電すると、パワーバッテリー残量が急に100%になることがあります。
- ・パワーバッテリーが通常使用されている場合、車両の航続可能距離は以下の要因の影響を受けます。
 - ・運転習慣：一定速度で走行する場合に比べ、加速や減速を頻繁に行う方が航続可能距離は短くなります。また低速走行よりも高速走行の方が航続可能距離が短くなります。
 - ・道路状況：悪路が続く道路や長い上り坂を走行する場合の航続可能距離は、平坦で乾燥している路面を走行する場合より短くなります。
 - ・気温：低温の環境で走行する場合の航続可能距離は、通常の環境で走行する場合より短くなります。
 - ・電気機器の使用状況：運転中にエアコンを付けた場合、エアコンを使わない場合に比べて航続可能距離は短くなります。
- ・利用可能なバッテリー残量は、使用時間の増加により低下します。

バッテリーの使い方について

- 周囲温度が-10～40℃の範囲で車両を利用することをお勧めします。バッテリー残量が少ない場合は、十分な航続可能距離や良好な加速性能を確保するため、早めに充電してください。
- 低温の場所に駐車後はバッテリー温度が低いため、しばらく走行してバッテリー温度が上昇してから充電してください。また、長時間の高速走行後はバッテリーの最高温度が高くなる可能性があり、これも充電電力が制限される要因となります。
- 長期間性能を維持するためには、高温や極端な低温環境に24時間以上駐車しないでください。
- 周辺温度が低い環境で長時間駐車する場合は、バッテリーの熱放散を低減させて使用性能を確保するため、地下駐車場や暖房付き駐車場などの温度が高い場所に駐車してください。
- 頻繁な急加速や急減速を避けて平坦な乾燥している道路を走行し、必要に応じてエアコンなどの消費電力の大きい電装部品を切る、またはエアコンの温度を調整して、航続可能距離を伸ばすことをおすすめします。
- 車両を初めて使用する、または長時間放置した後を使用する場合は、コンビネーションメーターに表示されるバッテリー残量がばらつくことがあります。そのため、運転前にパワーバッテリーをフル充電することをおすすめします。
- 日常的に使用する場合は、定期的に車両のパワーバッテリーをフル充電してください（推奨：充電は週に1回以上）。また、3ヶ月～半年毎に、バッテリー残量が少ない状態（SOCが10%未満）からフル充電することをおすすめします。
- 極端な走行（急加速や急減速の繰り返しなど）によりパワーバッテリーの温度が高くなった場合は、パワーバッテリーの放電能力が少しずつ低下しますが異常ではありません。また、パワーバッテリー

の温度が高くなりすぎるとコンビネーションメーターに警告灯が点灯します。このようなときは、BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡してください。

- パワーバッテリーの残量が異常に上がる、または下がる場合は、BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に点検してください。

警告

非常時や事故発生時は、次の警告に注意してください。

- 怪我等を防ぐため、パワーバッテリーを直接触らないでください。
- 早急にBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡してください。
- パワーバッテリーが破損し液体が漏れ出した場合は、漏れ出した液体を絶対に触らないでください。不注意で皮膚や目に付着したときは、すぐに多量の水で洗い流し、ただちに医師の手当てを受けてください。
- 車両火災が起きたときは専用消火器で消火し、水系の消火器は使わないでください。

注意

- パワーバッテリーの安全を確保するため、引火性や爆発性があるもの、火元および各種の危険化学品から遠く離れた場所に駐車してください。
- 利用可能なバッテリー残量は、使用時間の増加により低下します。
- パワーバッテリーの寿命を縮めるおそれがあるため、駐車時は熱源から遠く離れ、日光が長時間当たる場所を避けてください。
- 車を長期間（7日以上）使用しない場合、パワーバッテリーを長持ちさ

注意

せるためにパワーバッテリーの充電を40%~60%に保つことをおすすめします。車を3ヶ月以上使用しない場合は、パワーバッテリーを3ヶ月毎にフル充電し、その後40%~60%まで放電してください。そうしないと、パワーバッテリーの過放電によるバッテリー性能の低下、または破損を引き起こすおそれがあります。このような車両の故障は、品質保証の対象外となります。

- パワーバッテリーはボディーの底部にあるため、悪路を走る場合は慎重に運転してください。
- パワーバッテリーが何かにぶつかった場合は、ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場 で点検してください。

パワーバッテリーの回収

電気自動車を廃車にする場合は、下記のプロセスに従って処理してください。

1. 車両を BYD の回収サービスセンターにお持ちください。パワーバッテリーの残価を評価します。
2. 評価済みの車両を回収・解体業者にお持ちいただくと、パワーバッテリーを取り外します。
3. 回収・解体業者が取り外した古いパワーバッテリーを回収サービスセンターに引き渡し、回収サービスセンターはパワーバッテリーを買い戻します。

警告

- 電気自動車の所有者は、不用になったパワーバッテリーを回収サービスセンターに引き渡す責任と義務があります。不要になったパワーバッテリーを他の業者や個人に勝手に引き渡したり、取り外しや分解を勝手に行うことで発生した環境汚染や事故

警告

については、相応の責任を負う必要があります。

起動バッテリー

- 作動モードは、「正常」、「スリープ」、「省エネ」、「低電圧保護」などがあり、目的はバッテリーのセルを守ることです。車両システムに不具合がないときは、モードの切り替えを自動で行うため普段の利用に影響はありません。
- 起動バッテリーの電圧不足を避けるため、条件を満たしている（車両の電源ポジション「OFF」、パワーバッテリーから給電可能、起動バッテリーの電圧が設計値以下）場合は、自動で「インテリジェント充電機能」が作動します。
- インテリジェント充電機能が作動すると、パワーバッテリーを使用して起動バッテリーを充電します。そのため、車両をしばらく放置してから再度始動すると、コンビネーションメーターに表示される SOC または航続距離が減少していますが異常ではありません。
- 「インテリジェント充電機能」が機能しない場合は、起動バッテリーからの電源供給を止めることがあります。使用前に起動バッテリーの充電がないときは、運転席側ドアハンドルのマイクロスイッチを押し続けて起動バッテリーを有効にした後、ただちに車両の走行可能表示灯を「OK」にして起動バッテリーを充電してください。このとき、充電は1時間以上行ってください。

お願い

- 起動バッテリーにはリレーが内蔵されており、作動中に「ダダ」と音が聞こえますが異常ではありません。

！ お願い

- ・ 起動バッテリーの充電には専用工具が必要なため、無断でバッテリーを外して充電しないでください。
- ・ 起動バッテリーの破損につながるおそれがあるため、他車の燃料油車両とのジャンプスタートは行わないでください。
- ・ 起動バッテリーは低電圧プラットフォームタイプを採用しており、通常の鉛バッテリーと異なる特性を持っています。詳細については、本オーナーズマニュアルの取扱説明書をお読みください。
- ・ 起動バッテリーにはインテリジェントコントロールモジュールが内蔵されています。起動バッテリーの破損または怪我を避けるため、無断で起動バッテリーの分解や修理をしないでください。
- ・ 車両と通信できないときは起動バッテリーを正常に使用できないため、必ずコネクタやワイヤーハーネスを正しく接続してください。

起動バッテリー電圧不足時のスリープ解除機能

運転席側ドアのマイクロスイッチ操作による起動

- ・ 車両を長期間保管すると、起動バッテリーがスリープ状態になり、リモートキーの「アンロック」ボタンで車両を解錠できない場合があります。
- ・ このとき、リモートキーを携帯した状態で運転席ドアハンドルのマイクロスイッチを3秒以上押し続けると（「54 ページ」を参照）、起動バッテリーのスリープ解除機能が作動して車両が解錠されます。

！ お願い

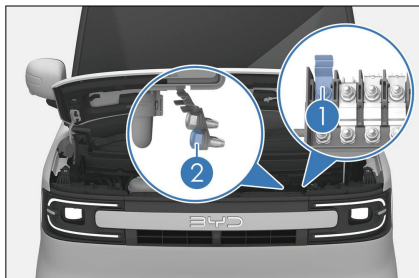
- ・ 起動バッテリーの残量が少ない場合は、コンビネーションメーターに「バッテリーの残量が不足、車両の電源がもうすぐ切れます」と表示され、車両が再びスリープ状態になります。ただちに車両の走行可能表示灯を「OK」にし、1時間以上車両を起動したままにしてください。

モータールームからのジャンプスタートによる起動

- ・ 運転席側ドアハンドルのマイクロスイッチでスリープ解除および解錠ができない場合は、起動バッテリーの残量が少ない可能性があるため、メカニカルキーを使用してドアを開けてください。このとき、2本の特別なジャンプスタート専用ケーブルと12V電源を介して車両を始動できます。
- ・ モータールームの配電ボックスの専用インターフェースを介してのみ実行できます。モータールーム内の配電ボックスの起動ポイントを図に示します。

① ブースターケーブルの正極

② ブースターケーブルの負極



- ・ 上記のいずれの操作を行っても車両を始動できない場合は、速やかにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場にご連絡ください。

警告

- ・ 起動バッテリーの破損につながるおそれがあるため、他車に対するジャンプスタートには使用しないでください。
- ・ ジャンプスタートの前にバッテリーの状態を確認してください。バッテリー液が凍結している場合は、ジャンプスタートを行わないでください。
- ・ ジャンプスタートを行う際は、周囲の換気を良くしタバコの火や火花などの火気から遠ざけてください。
- ・ ブースターケーブルの端子を互いに接触させないでください。火災の危険があります。
- ・ 起動バッテリー内部には、インテリジェントコントロールモジュールが内蔵されています。起動バッテリーの破損を防ぐため、緊急時を除き無断で分解や破壊をしないでください。
- ・ 部品交換やメンテナンスの前には、起動バッテリーの負極 (-) 端子を外してください。

注意

- ・ モータールームのフューズボックスでは、ジャンプスタートのためのスペースが狭く感電などの危険があるため、整備士がジャンプスタートを行うことをおすすめします。
- ・ ジャンプスタート機器の電圧範囲は12V以上14.2V未満とし、1回のジャンプスタート時間は1分以内にしてください。これを超えると、起動バッテリーが損傷する可能性があります。
- ・ 液体で起動バッテリーを洗浄しないでください。また、液体が起動バッ

注意

テリーの中に入らないように注意してください。

ご利用要領

安全運転上のご注意

飲酒運転厳禁

- ・ 少量の飲酒でも、交通条件の変化に対する反応が遅くなります。飲酒量が多いほど反応が鈍くなるため、飲酒運転は絶対にしないでください。

速度の抑制

- ・ スピードの出し過ぎは、衝突事故や死傷事故を引き起こす主な原因です。通常は速度が速いほど危険性が高まります。道路状況に応じて安全な速度で走行してください。

注意

- ・ 運転免許がない人は運転しないでください。
- ・ 疲れているときは運転しないでください。
- ・ 運転時は、必ず交通ルールを守ってください。
- ・ 運転中は必ず運転に集中し、運転とは無関係な操作（携帯電話の使用やボタンの調整など）をしないでください。

車両を安全運転可能な状態に保つ

- ・ タイヤのバーストや機械の故障は非常に危険です。故障の確率を下げるため、常に車両の状況を点検し、定められた点検を実施してください。

車両の改造について

- BYD 純正部品以外の部品を使用して交換や改造を行うと、車両全体の性能に影響を及ぼし、電気系統の故障や火災を引き起こす可能性があります。これにより生じた車両の損傷や性能の問題は、保証の対象外となります。
- ステアリングホイール、インストールメントパネル、シート、B ピラーや C ピラーのトリムなどを改造または取り外すと、エアバッグの作動不良や誤作動を引き起こし、重大な事故や傷害につながる可能性があります。
- 車両の改造は、現地の法律や条例に違反する可能性があります。
- 車両に無線送信装置を取り付けしないでください。そうしないと、車両の電気設備に影響を与える可能性があり、また現地の無線管理規定に違反する可能性があります。
- 車窓ガラスにフィルムやコーティングを貼ると、運転視界に影響を及ぼす可能性があり、また違法改造に該当する可能性があります。

利用時のアドバイス

パワーバッテリーを長持ちさせるために、以下のことをおすすめします。

- 車両を長期間（7 日以上）使用しない場合は、パワーバッテリーの充電を 40%～60% に維持します。そうしないと、パワーバッテリーの寿命が短くなります。
- 車両を長期間（3 ヶ月以上）使用しない場合は、3 ヶ月ごとにパワーバッテリーをフル充電してから、充電率が 40%～60% になるまで放電してください。これにより、パワーバッテリーの過放電により発生するパワーバッテリー性能の低下や、破損による車両故障および破損を防ぎます。パワーバッテリーの過放電による故障および破損は、品質保証の対象外となります。

- コンビネーションメーターに表示される航続可能距離が「---」の場合は、パワーバッテリー残量が不足しています。早めに充電し、長時間パワーバッテリー残量が少ない状態で使用することは避けてください。
- 長期間にわたり性能を維持するため、温度が 60°C より高い、または -30°C より低い環境で 24 時間以上駐車しないでください。
- トレイがへこんでいる、またはパワーバッテリーパック底部のトレイ表面に傷がある場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。
- 運転中、急加速や急減速を繰り返すことは避けてください。
- パワーバッテリー温度が上がると車両性能に影響を与えるおそれがあるため、長時間の車両の使用は可能な限り避けてください。
- コンビネーションメーターに故障メッセージが表示された場合は、早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。
- パワーバッテリーの温度が高いと車両の性能が制限されます。車両を安全な場所に駐車し、パワーバッテリーの温度が下がってから使用してください。

！ お願ひ

- コンビネーションメーターに表示されているパワーバッテリー残量が 0 の場合、必ず充電してください。7 日以内に充電しないと復旧不可能なパワーバッテリーの破損が生じます。これによるパワーバッテリーパックの破損については、BYD は品質保証条項に定められる保証責任を負いません。
- 航続可能距離は、利用可能なパワーバッテリー残量、車齢（現在のパワ

！ お願い

ーバッテリー寿命)、天気、気温、道路状況、運転習慣などで決まります。高温や低温の環境で走行する場合の航続可能距離は、常温の場合より多少短くなり動力性能も影響を受けます。

節電で車両を長持ちさせる方法について

- ・ 節電はシンプルであり、車両の寿命を延ばすことにもつながります。
- ・ 電気エネルギーや修理代を節約する要領を次に示します。

1. 回生ブレーキ設定：

- ・ 本車両は、回生ブレーキ機能および回生ブレーキ強度設定機能を搭載しています。回生ブレーキ強度が強い場合は、制動または惰行中に回収するエネルギーを増やすことができるため、運転習慣に合わせて設定してください。回生モードの設定方法については **(107 ページ)** をご参照ください。

2. 速度維持：

- ・ 一定速度での運転は、節電に役立ちます。急アクセル、急ハンドル、急ブレーキは、より多くの電気エネルギーを消費します。
- ・ 交通状況に応じて一定速度で走行してください。アクセルペダルを踏むたびに余分な電気エネルギーを消費します。
- ・ アクセルペダルはゆっくり踏み、急発進、急アクセル、急ブレーキを避けてください。
- ・ 一定の速度を維持し、信号に従って走行するか、信号のない大通りを利用してください。先行車との車間距離を適切に保ち、急ブレーキを避けて走行すると、ブレーキの摩耗軽減につながります。

- ・ 渋滞している道路はなるべく避けてください。
- ・ 高速道路走行時は適切な速度を維持してください。速度が速いほど電気エネルギーの消費が多くなります。エコ走行になる範囲内に速度を保つことで省エネにつながります。

3. 負荷の軽減：

- ・ エアコンを作動するとモーターに余分な負荷が掛かるため、より多くの電気エネルギーが消費されます。また、外気温度が快適なときは、電気エネルギーの消費を減らすために、エアコンを OFF にし、外気導入モードで外気を取り入れることをおすすめします。冬季には、ステアリングヒーター*とシートヒーター*をエアコンの代わりに使用することができます。
- ・ 不要な荷物を車両に積まないようにしてください。車両に積む荷物が多すぎると、車両の負荷が増えてより多くのエネルギーが消費されます。

4. その他：

- ・ ECO モードで運転すると、駆動モーターの消費電力を抑えることができます。
- ・ 悪路走行時は低速で運転し、路肩の縁石にぶつからないようにしてください。
- ・ タイヤの空気圧は適切に保ってください。タイヤの空気圧不足は、タイヤの摩耗や電気エネルギーの消費につながります。
- ・ フロントタイヤのアライメントを適切に調整してください。フロントタイヤのアライメントが不適切だと、タイヤの早期摩耗につながったり、パワートレインへの負荷も大きくなるため、電気エネルギーをより多く消費します。
- ・ シャーシは清潔な状態に保ち、泥などの付着がないようにしてください。これにより、ボディ重量を軽減するだけではなく、腐食を防ぐこともできます。

！ お願い

- ・ 走行中は、ニュートラルギアでの惰性走行は厳禁です。

荷物の積み込み

- ・ 本車両には、複数の便利な格納スペースを用意しています。
- ・ グローブボックスや収納ボックス、シートバックポケットなどは、小物や軽量物を格納するために設計されています。トランクルームは、比較的大きくて重いものを収納するための空間です。
- ・ シートを倒すことで長い荷物を積むことができます。ただし、積み込む荷物が多し、または積み込み方が不安定な場合、車両の操縦性や安定性が悪くなり、安全性が低下することがあります。
- ・ 荷物を積み込む場合は、車両本体、乗員全員、荷物の合計重量が車両総重量を超えないようにしてください。

！ 警告

- ・ 積載オーバー、不適切な荷物の積み込み方、不均一な積載は、車両の操縦性や安定性に影響を与えるため、衝突事故を招くおそれがあります。
- ・ 本オーナーズマニュアルに記載される車両総重量や、他の積載ルールを守ってください。
- ・ 正常な運転への干渉を避けるため、強い磁気を持つものを車両に搭載しないでください。

乗員スペースに荷物を積み込む場合

- ・ 衝突時に車内へ投げ出されて乗員に怪我を負わせるおそれがあるものは、確実に収納または固定してください。
- ・ 車両後方の安全確認を妨げたり、衝突時に車内へ投げ出されるおそれがあるた

め、リアシェルフにものを置かないでください。

- ・ ドライバーのペダル操作やシートの正常な調節に影響を与える可能性があるため、後部座席フロアの荷物は、フロントシートの背もたれの高さ以上に積み上げないでください。また、それらの荷物がシートの下で転がらないようにしてください。
- ・ 運転時はグローブボックスをきちんと閉めてください。そうしないと、衝突時や急ブレーキ時に乗員の膝などに怪我を負わせるおそれがあります。

！ お願い

- ・ 車内に子供のおもちゃなどを詰め込まないでください。緊急ブレーキや衝突などの際に、走行や乗員の安全に影響を与える可能性があります。

トランクルームに荷物を積み込む場合

- ・ トランクルームに荷物を均一に入れ、最も重い荷物は一番下、かつ前側の方に置きます。
- ・ 走行中に移動しないように紐やチェーンで荷物をきちんと固定します。荷物は、フロントシートバックの高さ以上に積み込まないでください。
- ・ トランクの両側にロープフックが設置されています。ロープフックを引き起こすと、荷物の結束や荷物固定装置の取り付けができます。
- ・ ロープフックを使用する前に、必ずリアシートバックを倒してください。詳細は(69ページ)を参照してください。



! お願い

- ・ トランクルーム内の荷物固定用具や固定装置などについては、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にお問い合わせください。
- ・ 車両後方のスペースが不足している場合、バックドアが開けられないことがあります。この場合は、サイドスライドドアを開けてリアシートを倒し、荷物を積み込むスペースを作ります。

冠水路の走行

- ・ 冠水路に進入する前に、必ず水深を確認してください。水深は、ボディー下部の縁部を超えてはいけません。
- ・ 冠水路を通り抜ける場合は、発進前にエアコンを消して低速で走行し、アクセルペダルを軽く踏み続けながら、安定した低速で走り抜けてください。



- ・ 絶対に水の中で停車しないでください。また、水の中でバックしたり、モーターを OFF にしないでください。
- ・ また、深い冠水路を通り抜けるとブレーキが濡れることがあるため、慎重に運転してください。無事に冠水路を走り抜けたら、ブレーキペダルを数回軽く踏んでブレーキローターに付着した水を落とし、できるだけ早く通常の制動性能に戻してください。
- ・ 必要な場合を除き、浸水した道路での走行は避けてください。

! 警告

- ・ ブレーキシステムに水や泥などが浸入すると、ブレーキの利きが悪くなるため、制動距離が長くなり、事故につながるおそれがあります。
- ・ ブレーキが濡れているときは慎重に操作し、ブレーキを掛ける前にブレーキに付いている水や水を落としてください。
- ・ また、冠水路を走り抜けた後は、可能な限り急ブレーキを避けてください。
- ・ 車両がくぼんでいる冠水路を走る場合は、モーターに水が浸入しないように注意してください。水が入ると、モーターの重大な破損につながるおそれがあります。これにより発生した車両故障および破損は、品質保証の対象外となります。
- ・ 冠水路を走り抜けた後は、ドライブトレインシステム、走行システム、電気システムなどの部品も大きな被害を受けているおそれがあります。これにより発生した車両故障および破損は、品質保証の対象外となります。
- ・ 台風などの荒れた天候で充電する場合、可能な限り雨が当たらないように注意してください。

警告

- ・車両が水没したり、サイドシルの高さ以上の冠水路を走行すると、高電圧部品の内部に水が浸入するおそれがあります。その場合は、速やかにBYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場 で点検や処置を依頼してください。
- ・タイヤの半分以上が水に浸かる冠水路は走行しないでください。

高電圧部品は電子部品であり、内部に水が浸入した場合：

- ・車両が浸水した場合、乾かしても水分を完全に蒸発させることができる保証はありません。
- ・高電圧部品の内部に水が浸入すると、部品自体の絶縁性に大きな影響を与えます。水分に多く含まれる導電性物質により、高電圧部品の内部ショートや高電圧システムのショートを引き起こすおそれがあるため、車両の安全性能や使用性能に重大な影響を与えます。
- ・高電圧部品の内部に水が浸入すると、車両各部品の IP 保護等級、耐電圧などの性能が大きな影響を受けるため、危険性が大きくなります。

火災予防

車両火災を効果的に防止するため、車両を使用する場合は下記の内容に注意してください。

- ・車内に引火性・爆発性のあるものを格納しないでください。
- ・炎天下、日が当たるところに駐車する場合は、車内の温度が 60～70℃以上に達することがあります。車内にライター、洗剤、香水などの引火性・爆発性のあるものを置くと、火災や爆発が発生するおそれがあります。

- ・喫煙後、吸い殻の火が完全に消えていることを確認してください。
- ・喫煙は身体の健康を害するだけでなく、火が完全に消えていない吸い殻は火災を引き起こすおそれがあります。
- ・BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場 で定期点検を依頼してください。
- ・コネクタとワイヤーハーネスとの接続、絶縁および固定位置などに異常がないかを確認するために、車両全体の配線の定期点検を行ってください。不具合が見つかったときは早めに処置してください。
- ・車両の配線の改造、電気部品の後付けを禁止します。
- ・電装品（ハイパワーオーディオ、照明器具など）の後付けは、回路に過大な負荷がかかり、ワイヤーハーネスの発熱による火災の原因になります。
- ・電装品の定格から外れたフューズや金属ワイヤーをフューズの代わりに使用することは絶対にしないでください。
- ・適切な駐車場所を選びます。
- ・停車時、日にさらされる場所は可能な限り避けてください。
- ・車両を保管する場合は、車両の下に乾燥した藁や枯れた小枝、葉、麦わらなどの可燃物がないかをよく確認してください。火災を防ぐために、可燃物がある場合は早めに清掃してください。
- ・走行中は枯れた小枝や葉、麦わら、雑草などの可燃物が堆積している道路を可能な限り避けてください。走る必要があるときは、走り抜けた後に車両を止めて車両の下部に可燃物がないかを確認してください。
- ・車両の修理やメンテナンスを行う場合は、起動バッテリーのマイナス端子を外します。
- ・車載用の消火器を車両に搭載することをおすすめします。

- ・車両の安全を確保するため、車内に消火器を装備して定期的に点検や交換を行ってください。また、消火器の使い方を熟知し、非常時は迅速に対応できるようにしてください。

- ・車両火災が起きた場合は、迅速、冷静に効果的な方法で対処し、被害を最小限にしてください。

- ・火災が発生する前には通常、ボディからの異音や異臭など、前兆が伴います。異常を発見した場合は、速やかに停車し、できるだけ風が当たらない場所に駐車した上で、迅速に車載消火器を取り出して初期消火を行います。

- ・すぐに 119 番に通報すると同時に、該当の保険会社にも通報して現場対応を要請します。

- ・火元を特定してください。大量の空気が流入し、火の勢いが増して燃え広がる可能性があるため、モータールームから煙が出ている場合、すぐにモータールームを開けないでください。モーター内の燃焼物は限られているため、ボンネットを閉じたままにしておくと、火の燃え広がる速度を抑え、その後の消火活動を容易にすることができま。車載消火器（通行車両に助けを求め、複数の消火器を求めても良い）を使用し、ボンネットの隙間から火元に向けて噴射して消火します。外部から炎がぼぼ見えなくなってから、ボンネットを開けてさらに消火活動を続けてください。

- ・消防隊が消火した後は、出動証明書を請求して火災原因についての報告書の発行を依頼します。

- ・事故発生後、速やかに保険会社に対応などを依頼します。

！ お願い

- ・車両事故による損害に備えるために、車両保険（車両自然発火損害保

！ お願い

険、車両盗難保険など）に加入することをおすすめします。

発進と運転

車両の始動

車内からの車両の始動

通常の始動方法

- ・リモートキーを携帯し、ブレーキペダル①を踏みながら「スタート/ストップ」ボタン②を押すと、コンビネーションメーターの「OK」表示灯が点灯して発進できる状態になります。
- ・シフトレバーを「D」または「R」レンジに切り替えると、電動パーキングブレーキが自動で解除され、電動パーキングブレーキシステムのモーターから解除音が聞こえた後、車両が発進できる状態になります。



始動できない場合

- ・次の場合は始動できません。

- ・「スタート/ストップ」ボタンを押したときに、リモートキーシステム警告灯が点灯してスピーカーから警告音が鳴り、コンビネーションメーターに「キー検出不可」と表示された場合は、リモートキーが車内にない、または干渉

によりキーが検知できないことを表します。

- ・リモートキーは、特定の場所（インストールメントパネル、グローブボックスの内側、フロア、カップホルダー、トランクなど）では正常に機能せず、車両を始動できない場合があります。
- ・「スタート/ストップ」ボタンを押したとき、スタート機能が正常に作動しない場合は、下記に示す要因が考えられます。
- ・リモートキーが作動せずコンビネーションメーターのリモートキーシステム警告灯が点滅すると同時に、「キーのバッテリー残量が少なくなっています」とメッセージが表示されたときは、リモートキーのバッテリーが切れている可能性があります。**(228 ページ)**を参照し、早めにリモートキーのバッテリーを交換してください。
- ・使用環境によってはスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないことがあります。詳細は、**(64 ページ)**を参照してください。

注意

- ・車両が始動しない、ドライバーが車両に入ってから2分経過しても車両を始動できない場合は、リモートキーを移動させてから再度試してみてください。

緊急時の始動方法

- ・パーキングブレーキを確実に掛けます。
- ・必要のないランプやアクセサリをOFFにします。
- ・シフトレバーを「P」レンジにします。
- ・車両の電源ポジションを「OFF」にします。
- ・リモートキーを車内に置きます。
- ・「スタート/ストップ」ボタンを15秒以上長押しすると、始動します。

注意

- ・毎回の起動は20秒を超えないでください。配線システムが過熱する可能性があります。

車両停止方法

1. ブレーキペダルを踏み込んで車両を完全に停止させ、「P」ボタンを押してパーキングレンジに切り替え、電子パーキングブレーキが作動していることを確認します。
2. ブレーキペダル①を踏みながら、「スタート/ストップ」ボタン②を押して、電源を「OFF」に切り替え、ブレーキペダルをゆっくりと離します。

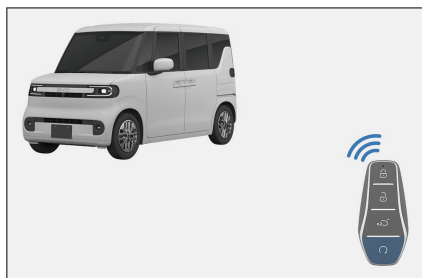
リモートスタート機能

始動前

1. 車両の電源ポジションを「OFF」にします。
2. シフトポジションが「P」レンジになっている。
3. 速度を5km/h以下にします。

リモートキーの「リモートスタート機能」

1. リモートキーの「スタート/ストップ」ボタンを2秒間長押しすると、車を始動させることができます。始動後、ターンシグナルランプが3回点滅します。
2. リモートスタート後、10分以内に有効な操作を行わないと、電源ポジションが「OFF」になりターンシグナルランプが2回点滅します。



3. リモートスタート後、リモートキーの「スタート/ストップ」ボタンを2秒間長押しすると、電源ポジションが「OFF」になりターニングランプが2回点滅します。

インテリジェントパワー ON/OFF*

スマート起動・停止*機能の有効化

- マルチメディア → ドライブ → 車内環境 → 車両の電源の画面から、自動電源 ON 機能と自動電源 OFF 機能*を ON に設定します。工場出荷時は OFF に設定されています。

インテリジェントパワー ON 機能 - ドアオープンで電源 ON

- 本車両のリモコンキー/マイクロスイッチ/スマートフォン NFC*/Bluetooth*/BYD App でロック解除します。
- 初めて運転席ドアを開けた後、車両の電源が入り、メーターとコントロールパネルが点灯します。
- ブレーキペダルを踏み、コンビネーションメーターの「OK」表示灯が点灯すると、走行可能な状態になります。

インテリジェントパワー ON 機能 - ブレーキペダルを踏んで電源 ON

- 車両が電源 OFF 状態で「OK」表示灯が点灯していない時にブレーキペダルを踏

み、コンビネーションメーターの「OK」表示灯が点灯すると、走行可能な状態になります。

インテリジェントパワー OFF 機能

- 車両が停車して電源 OFF していない状態で、車外から車両のリモートキー/マイクロスイッチ/スマートフォン NFC*で施錠操作を行うと、車両は自動的に電源 OFF になります。

! お願

- 本車両のキーで解錠し、運転席側ドアを最初に開けた場合のみ電源ポジションが「ON」になります。その後は運転席側ドアを開けても電源ポジションは「ON」になりません。
- ロック解除後に、運転席側ドアを開けずに他のドアを開けて乗車し、車両の電源を「ON」にした後「OFF」にすると、その後は運転席側ドアを開けても電源ポジションは「ON」になりません。
- インテリジェントパワー ON 機能が OFF の場合、ブレーキペダルを踏みスタート/ストップボタンを押してパワー ON にします。
- ボンネットが開いている場合は、インテリジェントパワー ON 機能が作動しません。
- 誤作動によるパワー OFF を防止するため、Bluetooth および BYD App による施錠操作時には施錠機能のみ作動され、パワー OFF 機能は実行されません。
- 運転席ドアを開けて電源ポジションを「ON」にした場合は、スタート/ストップボタンを押すことなく、車外からの当該車両のスマートキー/マイクロスイッチ/スマートフォン NFC*による施錠操作を受信すると、



お願い

車両は自動で電源が OFF になります。

- ・ 車内にキーがある場合、インテリジェントパワー OFF 機能は作動しません。

車両の運転

運転前の点検

車両外部

- ・ タイヤ：タイヤの空気圧、タイヤトレッドに割れ、破損、異物の噛み込みがないか、タイヤに異常、過度な摩耗がないかを点検します。
- ・ ホイールナット：ナットの緩みや外れがないかを点検します。
- ・ 液漏れ：車を止めてからしばらく待ち、車の下に冷却水やその他の液体が漏れていないかを点検します（エアコンの作動により発生する水は異常ではありません）。
- ・ 照明：ヘッドライト、ポジションランプ、ターンシグナルランプおよびその他のライトの作動に異常がないことを点検します。ヘッドライトの明るさを点検します。

車両内部

- ・ シートベルト：バックルがしっかりロックできることを点検します。シートベルトに摩耗や擦り傷がないことを点検します。
- ・ コンビネーションメーター：特にメンテナンス表示灯、メーター照明とデフロスターの作動に異常がないことを点検します。
- ・ ブレーキペダル：ブレーキペダルの操作に必要なスペースが十分であることを点検します。

- ・ 起動バッテリーとケーブル：端子の腐食や緩みがないか、起動バッテリーのケースに割れ目がないかを点検します。

モータールーム内部

- ・ バックアップ用フューズ：フューズボックスには、各種フューズが備え付けられていること、各フューズの定格電流が記載されていることを点検してください。
- ・ 冷却水の量：冷却水の量が正しい範囲であることを点検します。

始動後の点検

- ・ コンビネーションメーター：メンテナンス表示灯およびスピードメーターが正常に動作していることを点検します。
- ・ ブレーキ：安全な場所で車両を直進走行し、ステアリングホイールをしっかりと握った状態でブレーキをかけたとき、車両が偏りなく真っすぐ走ることを点検します。
- ・ その他の異常な現象：緩んだ部分や漏れ、異音がないことを点検します。

運転前の準備

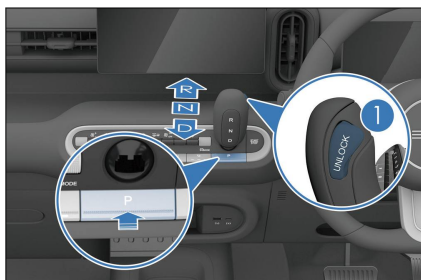
- ・ 車両に乗り込む前に、車両周辺の状況を確認し、ボンネットが閉まっていることを確認してください。
- ・ シートポジション、シートバック角度、シートクッションおよびヘッドレストの高さ、ステアリングホイールの角度と高さを調節します。乗員のシートが正しい位置に調節されていることを確認します。
- ・ ルームミラーとドアミラーを調節します。
- ・ チャイルドシートを正しく取り付け、正しく使用してください。
- ・ すべてのドアを閉めます。
- ・ 乗員はシートベルトを確実に着用してください。

⚠ 警告

- ・車両の一部の電子機器（スマートキー、E-Call、充電/放電機器、スマートエントリー&スタートシステムアンテナなどを含むがこれらに限定されない）は電波を使用しているため、心臓ペースメーカー、植込み型除細動器などの医療機器に影響を与え、医療機器使用者の生命の安全を脅かすおそれがあります。必ず医療機器の製造元に相談して、無線電波が医療機器に悪影響を及ぼさないか確認してください。

シフト機構

- ・図のように、シフトレバーはセンターコンソールのスイッチユニットに位置し、レバー上にシフト表示があります。
- ・車両始動後、ブレーキペダルを踏み込み、ロック解除ボタン①を押しながらレバーを上下に操作するとシフトチェンジが可能です。



- ・パーキング（「P」レンジ）
 - ・ブレーキペダルを踏み込んで車両を完全に停止させた後、「P」を押してパーキングレンジに切り替えます。
- ・ドライブ（「D」レンジ）
 - ・車両が「P」レンジにある場合、ブレーキペダルを踏み、ロック解除ボタンを押しながらレバーを1段階または2段

階下に動かすと、「D」レンジに切り替えられます。

- ・リバース（「R」レンジ）
 - ・車両が「P」レンジにある場合、ブレーキペダルを踏み、ロック解除ボタンを押しながらレバーを2段階上に動かすと、「R」レンジに切り替えられます。
- ・ニュートラル（「N」レンジ）
 - ・車両が「P」レンジにある場合、ブレーキペダルを踏み、ロック解除ボタンを押しながらレバーを1段上に動かし、短時間保持すると「N」レンジに切り替えられます。
 - ・車両が「D」レンジにある場合、車速が10km/h以下の状態でレバーを1段上に動かし、短時間保持すると「N」レンジに切り替えられます。
 - ・車両が「R」レンジにある場合、車速が10km/h以下の状態でレバーを1段下に動かし、短時間保持すると「N」レンジに切り替えられます。

⚠ 警告

- ・ギアボックスの損傷や走行の安全性に影響を及ぼす可能性があるため、車両を「N」レンジで下り坂を走行させることは禁止されています。
- ・事故を防ぐために、シフトポジションを切り替えるときは、絶対にアクセルペダルを踏まないでください。アクセルペダルを踏んでいる場合、「D」レンジや「R」レンジに切り替えることはできません。
- ・事故を防ぐため、走行中はシフトレバーを「R」または「P」レンジにすることは絶対にやめてください。
- ・シフトレバーに物を掛けないでください。車両の損傷や誤操作を引き起こし、事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- ・ギアチェンジの後は、必ずメーターでギア位置を確認してください。メーター表示が切り替えたギアと一致しない場合は、再度ギアを切り替えてください。
- ・バック時は車両周囲の状況に注意し、事故を防いでください。
- ・停車時は「P」レンジに入れたことを確認してから車両を離れてください。

💡 お願い

- ・レバーを動かした後に手を離すと、レバーは自動的にセンターポジションに戻ります。
- ・現在の走行速度でギアチェンジが許可されていない場合、またはブレーキペダルを踏まずにレバーを動かした場合、メーターに対応する情報が表示され、ギアは変更されません。
- ・メーターの「OK」表示灯が点灯している時のみ、「D」レンジまたは「R」レンジに切り替えることができます。

電動パーキングブレーキ (EPB)

駐車時や車両から離れるときは、必ず電動パーキングブレーキ (EPB) を作動させてください。

手動で EPB を掛ける

- ・車両が停止していて、「P」以外のレンジの場合、「ショートカット」画面の、**カスタマイズ→電動パーキングブレーキ**から電動パーキングブレーキスイッチを ON にすることができ、EPB は適切なブレーキを掛けます。コンビネーションメータ

一の表示灯 (Ⓢ) が点滅してから点灯状態になり、EPB が ON になったことを示します。また「電動パーキングブレーキが作動しました」というメッセージが表示されます。

⚠ 注意

- ・ (Ⓢ) 表示灯が点滅している場合は、EPB 作動中を表します。坂道では自然発車を防ぐため、電動パーキングブレーキ表示灯 (Ⓢ) が点灯してからブレーキペダルを離してください。

自動で EPB を掛ける

- ・自動で EPB を掛ける機能は、車両の自主安全性を上げるためのものであるため、機能を過信したり、頻繁に使用しないでください。安全を確保するために、車両から降りるときは、必ずシフトレバーを「P」レンジにし、EPB が掛かっていることを確認してください。

電源 OFF 時に自動的に EPB を掛ける

- ・車両の走行可能表示灯が「OK」の状態から電源ポジションを「OFF」にすると EPB が自動で作動し、コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯 (Ⓢ) が点灯します。

「P」レンジ時に自動的に EPB を掛ける

- ・ブレーキペダルを踏み込んで車両を止めてから「P」レンジに入れると、EPB が自動的に掛かります。コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯 (Ⓢ) が点滅から点灯状態になり、「電動パーキングブレーキ ON」の文字が表示されたらブレーキペダルを離します。
- ・ブレーキペダルを踏んで車両が停車しており、シフトポジションが「D」または「R」レンジのときに運転席側ドアを開けると、シフトポジションが「P」に切り替わり、EPB が自動的に掛かります。コン

コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯 (Ⓢ) が点滅から点灯状態になり、「電動パーキングブレーキ ON」の文字が表示されたらブレーキペダルを離します。

警告

- ドアを開けて「P」レンジに入れただけで EPB が作動すると過信しないでください。EPB が作動しない、または EPB の制動力が不足して車両が後退するなどの危険が生じる可能性があります。安全を確保するため、必ず車両を「P」レンジに入れ、EPB を作動させてから降車してください。
- 坂道で停止している場合は、ブレーキペダルを早めに離さないでください。少し離しただけでも車両が自然に動くおそれがあります。

注意

- 短時間に頻繁にシフトポジションを切り替えたり、EPB を頻繁に作動および解除したりしないでください。モーターが過熱し、機能が損なわれるおそれがあります。
- 電源 OFF 後の自動起動機能は、車両自体の安全性を向上させるために設計されています。過剰な依存や頻繁な使用は、起動バッテリーの消耗や EPB の制動力が不足して車両が自然に動き出すおそれがあります。安全を確保するため、車両から降りるときはシフトポジションが「P」レンジにあり、EPB が掛かっていることを必ず確認してください。

発車時に自動的に EPB を解除する

シフトリリース

- 「P」レンジで車両を始動し、ブレーキペダルを踏み続けながら「P」または「N」

レンジから、「D」あるいは「R」レンジに切り替えると、EPB が自動で解除されてコンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯が消灯し「EPB が解除されました」と表示されます。

注意

- 正しいシフトチェンジをしてください。シフトチェンジ中は最後までブレーキペダルを踏み続け、コンビネーションメーターに目的のレンジが表示されてから、ブレーキペダルを離してください。
- 車両の走行可能表示灯を「OK」にしてからの数秒間は、EPB システムが電源投入時のセルフテストをしている状態のため、すべての機能にตอบสนองしません。

アクセルペダルを踏んで解除する

- 車両を始動し、シフトポジションが「D」または「R」レンジのときに、マルチメディア設定画面の「電動パーキングブレーキ (EPB)」で EPB を ON にした後、アクセルペダルを一定の深さまでゆっくり踏み込むと、EPB は自動で解除され、電動パーキングブレーキ表示灯 (Ⓢ) が消灯し「EPB が解除されました」と表示されます。

フットブレーキが利かない場合の緊急ブレーキ機能

- 走行中にブレーキが利きにくい、または利かない場合は、「P」ボタンを 2 秒以上押し続けると、緊急ブレーキを作動させることができます。

注意

- EPB によるブレーキの利用は、可能な限り避けてください。緊急ブレーキ機能の使用は、フットブレーキが利かない、または利きづらいなどの緊急時に限られます。

⚠ 注意

- EPB は、路面の摩擦力の物理的限界を超えることはできないため、カーブや危険な道路、渋滞、悪天候などの走行時に緊急ブレーキ機能を作動させると、スリップや横滑り、またはコースアウトを引き起こすおそれがあるため、事故を起こさないように注意してください。

⚠ 注意

- 正常に走行している場合は、走行中の安全を確保するために「P」ボタンによる緊急ブレーキを避けてください。インテリジェントパワーブレーキシステムの故障やフットブレーキが利きにくいなどの緊急時は、車両に対する制御を常に維持しながら正常運転状態で緊急ブレーキ機能を利用するようにしてください。

EPB を解除できない場合

- EPB が解除できない場合は、マルチメディア  → **ドライブ** → **運転管理** → **EPB トレーラーモード (電動パーキングブレーキトレーラーモード)** から EPB トレーラーモードを ON にしてください。
- EPB が解除できた場合は、早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場まで連絡し、点検してください。
- それでも解除できない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

電動パーキングブレーキトレーラーモード

電動パーキングブレーキ (EPB) トレーラーモードは、車両の電源ポジションを「OFF」にした後も電動パーキングシステムを解除状態に維持することができます。車両の電源ポジションを「OFF」にしてけん引する場合や、故障が発生した場合にこのモードを

ON にして EPB を解除できます。それでも解除できないときは、ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

- ドライバーはマルチメディア  → **ドライブ** → **運転管理** → **EPB トレーラーモード (電動パーキングブレーキトレーラーモード)** から EPB トレーラーモードを ON にしてください。
- EPB トレーラーモードの開始条件 (同時に満たすこと):
 - シフトポジションが「P」レンジになっている。
 - ブレーキペダルを踏んでいる。
 - 車両が充電コネクタに接続されておらず、充電されていない。

⚠ 注意

- EPB トレーラーモードの開始条件が満たされていない場合は、マルチメディア画面に対応するメッセージが表示されます。
- EPB トレーラーモードになると、EPB トレーラーモードを終了しない限り、マルチメディアディスプレイは常時 EPB トレーラーモード画面になります。
- 坂道で EPB トレーラーモードにする必要がある場合は、坂道による自然発車を避けるため、運転中はブレーキペダルを放さないでください。
- EPB トレーラーモードの終了条件 (いずれか 1 つを満たす):
 - マルチメディアから、EPB トレーラーモードを OFF にします。
 - 「P」ボタンを押す。
 - 車両に充電コネクタを接続して充電をする。

EPB システム表示灯

- ・ EPB 作動状態で車両の電源ポジションを「ON」にすると、コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯 (P) が常時点灯します。
- ・ EPB 作動状態で車両の電源ポジションを「OFF」にすると、コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯 (P) が点灯状態から数秒後に消灯します。
- ・ 車両の電源ポジションを「ON」にすると EPB がセルフテストを行い、コンビネーションメーターのパーキングシステム故障警告灯 (E) が点灯してから数秒後に消灯します。消灯しない場合は、EPB またはブレーキシステムに不具合があるおそれがあります。ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

EPB 作動音

- ・ EPB が掛かるまたは解除されると、EPB モーターの作動音が聞こえます。
- ・ 緊急ブレーキ機能を有効にしてから、焦げた臭いがある、または異常な音がある場合は、ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

警告

- ・ 車両が坂道で下ることを防ぐため、車両から離れるときは、シフトレバーを「P」レンジに入れ、EPB が掛かっていることを確認してください。
- ・ 重大な事故の発生を避けるため、走行中は EPB スイッチを操作しないでください。
- ・ EPB の制動力不足時の自然発車や、それによるシフト引っかかりなどの異常を防ぐため、EPB を掛けるまた

警告

は解除するときは、できるだけブレーキペダルを踏んでください。

オートビークルホールド (AVH)

- ・ オートビークルホールド (AVH) : 渋滞時の追従走行、信号待ちなど、走行中に長時間停車する必要がある場合、オートビークルホールド機能を使用できます。

オートビークルホールド (AVH) 待機状態

- ・ 車両の走行可能表示灯が「OK」の時にオートビークルホールドスイッチを押してシステムを ON にすると、コンビネーションメーターのオートビークルホールドスタンバイ表示灯 (A) が点灯します。
- ・ 再度オートビークルホールドスイッチを押すと、機能が OFF になります。



オートビークルホールド (AVH) 機能の有効化

- ・ メーター内のオートビークルホールド (AVH) スタンバイ表示灯 (A) が常時点灯している状態で、車両が完全に停止するまでブレーキペダルを踏み込む (速度がゼロになる) と、オートビークルホールド (AVH) 機能が有効になります。このとき、車両は自動駐車状態となり、オートビークルホールド (AVH) 表示灯 (A) が点灯します。

⚠ 注意

- ・オートビークルホールド (AVH) の作動に必要な条件 (同時に満たす必要があります) :
 - ・ドライバーがシートベルトをきちんと締め、かつドアが閉まっていること。
 - ・インテリジェントパワーステアリングシステムおよび電動パーキングブレーキ (EPB) システムに故障がないこと。
- ・アクセルペダルを踏む、「P」レンジに切り替える、または EPB スイッチを引き上げたりすると、オートビークルホールド (AVH) が解除されて待機状態に戻ります。
- ・オートビークルホールド (AVH) 機能は、工場出荷時は OFF に設定されています。
- ・次に電源を ON にしたとき、前回の電源 OFF 時の ON/OFF 状態を維持します。

オートビークルホールド (AVH) 機能の作動

- ・オートビークルホールドが作動した場合、ブレーキランプとハイマウントストップランプが点灯し、コンビネーションメーターのオートビークルホールド表示灯 (A) が常時点灯します。このようなときは、オートビークルホールドが正常に作動しています。
- ・車両が 10 分以上停車していると、システムは自動的にオートビークルホールド (AVH) を解除して待機状態に入ります。コンビネーションメーターのオートビークルホールドスタンバイ表示灯 (A) が点灯し、自動的に「P」レンジへ切り替わります。
- ・オートビークルホールド (AVH) を有効にするには、シフトを「D」レンジに切り替えて車両が発進した後、完全に停

車する (速度がゼロになる) までブレーキペダルを踏み込んでください。

オートビークルホールド (AVH) 機能のキャンセル

- ・オートビークルホールド (AVH) 作動中に以下の操作を行うと、オートビークルホールド機能が無効になり、EPB が自動で作動します :
 - ・運転席のドアを開ける。
 - ・運転席のシートベルトを外す。
 - ・「D」レンジで停車中に、EPB を ON にする。
 - ・ブレーキペダルを離れたときにオートビークルホールド (AVH) スイッチを押して、オートビークルホールド (AVH) 機能を OFF にする。

⚠ 警告

- ・上記の操作を行った際 (運転席ドアを開ける場合を除く)、EPB の作動が完了すると (インジケータが点灯)、シフトポジションが自動で「P」レンジに切り替わります。ただし、EPB 作動中 (インジケータが点滅) にアクセルペダルを踏んだ場合は、シフトポジションは変わらず、自動で「P」レンジに切り替わりません。
- ・運転席ドアを開けると、EPB が作動すると同時に、シフトポジションが自動的に「P」レンジに切り替わります。

オートビークルホールド (AVH) 機能の抑制

- ・「R」レンジに切り替えて低速移動モードになると、オートビークルホールドが移動モードに入ります。「R」レンジで低速走行したり、「R」から「D」レンジに切り替えて低速走行したりすると、オートビークルホールドの作動が抑制されるため移動しやすくなります。

- 速度が 10km/h を超える、または AVH を解除してからもう一度 AVH を有効化すると、移動モードは自動的に終了します。

警告

- オートビークルホールド機能は、車両を長時間駐車するためのものではありません。車両を駐車する前、乗員の乗降前、荷物の積み降ろし前には、車両を「P」レンジに入れ、EPB を作動させてください。
- 急勾配や滑りやすい路面では、オートビークルホールドを作動させていても、ブレーキペダルを踏み続けてください。そうしないと、車両が滑り出して衝突し、人身傷害を引き起こす可能性があります。

注意

- 車両の輸送中（トレーラー、船舶、列車などを使用して輸送する場合）は、オートビークルホールド機能を使用しないでください。「P」レンジに入れ、EPB を ON にしてから電源を切り、車両をロックしてください。これにより、車両の揺れによる制動力の低下を防ぎ、車両の移動を防止します。

運転要領

- 敷石が設置されている道路を走行する場合は、ゆっくりと走行しながら適切な角度を保ってください。タイヤを大きく破損させるおそれがあるため、尖っているものや障害物の上を走らないでください。
- 悪路を走行する場合はスピードを落としてください。衝撃でホイールを大きく破損させるおそれがあります。
- 濡れた路面を走行するときは、深い水たまりを避けてください。

- 向かい風の中では、車両のコントロールができるようにゆっくり走行してください。
- 洗車後や深い水たまりを通り抜けてブレーキが濡れている場合は、慎重に運転しながらブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキを乾かしてください。
- 氷、雪、砂、石、濡れたタイル、エポキシ樹脂系塗装の床など、路面の摩擦係数が低い場所は、車両が滑り出す事故を防ぐため、坂道での駐車は極力避けてください。

警告

- お子様などの乗員の誤操作を防ぐため、ドライバーは車両の各機能の使い方を乗員に伝え、安全確保を心掛けてください。

お願い

- バッテリーは車両底部にあるため、ぶつけないように注意しながら運転してください。
- 運転前に、電動パーキングブレーキが完全に解除され、電動パーキングブレーキ表示灯が消灯していることを確認してください。
- 車両の走行可能表示灯が「OK」の場合は、車両から離れないでください。
- 走行中はブレーキペダルとアクセルペダルを長時間同時に踏み続けないでください。危険な過熱現象や摩擦、電気エネルギーの消費につながります。
- 車両から離れる場合は、リモートキーを携帯してください。
- 長い距離の下り坂を走行するときは、スピードを落としてください。また、頻繁にブレーキを掛けると、ディスクローターが高温になり正常に機能しないおそれがあります。

！ お願い

- ・ 滑りやすい路面で加速したりブレーキを掛けたりする場合は、車両がスリップや横滑りを引き起こすおそれがあるため、十分に注意してください。
- ・ 交通事故を防ぎ、生命に関わる危険を避けるため、走行中は窓から頭や手を出さないでください。特にお子様を乗せている場合は十分に注意してください。
- ・ モータールームに大量の水が浸入すると、パワートレインや電気部品の破損につながります。

冬期の運転について

- ・ 冷却水が凍結防止の保護機能を発揮していることを点検します。
- ・ 本車両に使われているオリジナルの冷却水の型番と同じものを使用します。冷却システムに冷却水を補充する場合は、周辺温度に応じて適切な冷却水の型番を選択してください。
- ・ 不適切な冷却水を使うと、冷却システムの破損につながります。
- ・ バッテリーやケーブルの状況を点検します。
- ・ 寒い時期は起動バッテリーの電圧が低下します。そのため、起動バッテリーに十分な電圧を持たせて始動できるようにしてください。
- ・ 氷雪によるドアロックの凍結を防いでください。
- ・ 凍結を防ぐために、ドアロックの鍵穴の中に除氷剤やグリセリンを吹き付けます。
- ・ 不凍液を含んだウォッシュ液を使います。
- ・ これらの製品は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場やすべて

の自動車部品販売店で販売されています。

- ・ 水と不凍液の混合比は、メーカーの指示に従ってください。

！ 注意

- ・ 塗装の損傷を防ぐため、専用のウォッシュ液を使ってください。
- ・ マッドガード下側に氷雪が付着するのを避けてください。
- ・ マッドガード下側に氷雪が付着すると、ハンドル操作が難しくなります。厳冬期の走行時はこまめに停車し、マッドガード下側に氷雪が付いていないかを点検してください。
- ・ 走行道路によっては、必要な非常用装備やアイテムを用意しておくことをおすすめします。
- ・ タイヤチェーン、ウィンドウ用ヘラ、砂 1 袋分、塩、誘導灯、小型シャベル、ジャンピングケーブルなどは、できるだけ車内に常備してください。

冬用タイヤ

- ・ 冬用タイヤは積雪路面でのグリップ力に優れています。特殊なゴムトレッド設計により、低温環境の影響を受けにくく、優れた制動性能を発揮することで運転の安全性を向上させます。

使い方

- ・ 氷雪路や気温が 7℃ 以下の場合は、冬用タイヤを使用することをおすすめします。気温が 7℃ 以上のときは、運転の安全性と性能を確保するために、夏用タイヤまたはオールシーズンタイヤに速やかに交換してください。
- ・ 冬用タイヤを使用する場合は、車両の工場出荷時の設計と同じ仕様、荷重指数、速度記号のタイヤを選択してください。

- ・冬用タイヤは十分な溝の深さが必要であり、溝の深さが 4mm 以上ないと、冬場の性能が制限されることがあります。
- ・冬用タイヤと夏用タイヤは、それぞれの季節に合わせて設計されているため、対応する季節に使用することをおすすめします。そうしないと、タイヤのグリップ力が悪くなったり、制動能力が低下したりするおそれがあります。
- ・冬用タイヤの最高速度は比較的低いため、最高速度を超えないでください。
- ・冬用タイヤを装着した後は、設計されたタイヤ空気圧に従ってタイヤ空気圧の点検を行ってください。

タイヤチェーン使用上のご注意

- ・タイヤチェーンは、緊急時対応またはチェーン規制が実施されている道路を通行するときに使用するものであり、主に冬季の降雨、降雪、凍結路面での走行ニーズを満たすためのものです。
- ・また、凍結路面や雪道でタイヤチェーンを装着して運転するときは、細心の注意を払って運転してください。
- ・タイヤチェーンを装着する場合は、交通量の少ない平坦な場所に車両を停車させ、ギアを「P」に入れ、電子パーキングブレーキが作動していることを確認してください。ハザードランプを点け、乗員と荷物を降ろし、車両後方に三角表示板*を設置してください。
- ・タイヤチェーンは、フロントタイヤに装着してください。本車両のタイヤサイズに適したタイヤチェーンを選択してください。タイヤとホイールハウス内の他の部品の間に十分なスペースを確保するため、タイヤチェーン本体の厚さまたは直径が 10mm を超えない細いタイプのタイヤチェーンを選択してください。
- ・部品組立図およびタイヤチェーンメーカーのその他の取扱説明書をよく読んでください。
- ・タイヤチェーンの購入やタイヤへの装着前に、お買い上げの BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に問い合わせてください。
- ・タイヤとタイヤチェーンの摩耗を軽減するため、タイヤチェーンを装着したまま積雪路や凍結路以外の道路を走行しないでください。

警告

- ・タイヤチェーン装着時の走行速度は、30km/h 以下、またはタイヤチェーンメーカーが推奨する制限速度のうち、いずれか低い方の速度を超えないようにしてください。
- ・突起物や穴、急カーブに注意しながら慎重に運転してください。乗り上げた場合、ジャンプするおそれがあります。
- ・制御不能による事故を避けるため、タイヤチェーン装着時は急ハンドルや急ブレーキを避け、ハンドルを切ったりカーブに入ったりする前にスピードを落としてください。
- ・タイヤチェーンは左右対称に装着し、積雪路を抜けたらすぐに取り外してください。
- ・タイヤチェーンから異音聞こえる場合はただちに停車し、タイヤチェーンとの干渉がないようにサスペンションやボディー、ブレーキチューブなどの部品を確認してください。
- ・タイヤの空気圧が不足している場合は、タイヤチェーンを装着しないでください。

注意

- ・不適切なタイヤチェーンの使用、または取り付け方法が不適切な場合、車両のタイヤ、ホイールカバー、ブレーキシステム、サスペンションお

注意

よびボディなどを破損させる可能性があります。

- ・タイヤチェーンを使う場合は、アルミホイール*を傷付けないように注意してください。
- ・チェーンを装着して走行する場合、ESC、TCSなどの運転安全支援システムが作動しないことがあります。

運転支援機能

運転支援システム概要

- ・運転支援システム(本文以降「システム」と略記)は、運転者の運転を補助するためにのみ設計されており、自動運転または無人運転システムではありません。
- ・システムは運転者の注意深い運転と正確な判断に代わることはできません。システムは一定程度の支援を提供できますが、運転中の交通状況、道路状況、視界、複雑な天候などの環境変化により発生する可能性のあるすべての状況に完全に対応することはできません。したがって、ドライバーは常に車両運転行為の完全な第一責任者であり、現地の法律に従って安全運転を行う全責任を負う必要があります。
- ・システム機能は、運転支援、安全補助の2つのカテゴリに分類されます。
 - ・運転支援：アダプティブクルーズコントロール (ACC)、インテリジェントクルーズコントロール (ICC) の2種類の運転支援機能を提供し、ドライバーの快適な運転をサポートします。
 - ・安全補助：前方、側方、後方の安全補助機能を提供し、ドライバーの安全運転をサポートします。

警告

- ・ドライバーは、システム機能を使用する前に、関連する規約および付属文書を注意深く読み、理解し、システムの使用に関する知識（運転支援システムの使用ガイド、運転支援システムの一般的な制限事項、各運転支援機能の具体的な意味、適用範囲と使用方法、注意事項などを含むがこれらに限定されない）を詳細に理解し、習得し、使用過程において関連する操作説明を厳格に遵守しなければなりません。そうしない場合、事故を引き起こし、さらには財産の損害、人身傷害または死亡を招く可能性があります。運転者が本マニュアル、関連する合意事項および付属文書を遵守しなかったことにより生じた財産の損害、人身傷害などについて、法令に別段の強制的な規定がある場合を除き、当社は責任を負いません。
- ・システムは、運転者の注意深い運転と正確な判断に代わるものではありません。システム機能を使用する際、ドライバーは現地の法律法規を遵守して車両を使用することを確認し、常にハンドルを握り、警戒を保ち、周囲のあらゆる危険な状況に注意を払い、必要に応じてタイムリーに手動介入または車両を制御し、安全運転を確保してください。さもなければ、事故を引き起こし、さらには財産の損壊、人身傷害を招く可能性があります。
- ・本マニュアルで使用される車両の操作および関連する表現は、ドライバーがシステムを使用する際の関連事項を簡潔な言葉で伝えることを目的としています。ただし、システム作動中においても、ドライバーは常に車両の唯一の運転主体であり、車両およびシステムの作動状況、車両外部環境および関連する対象物を継続的に監視し、必要な対応を行い、必要に応じて直ちに本マニュアルに規

警告

定された操作方法により手動で介入し、車両走行を制御して走行の安全を確保しなければなりません。さもないと、事故を引き起こし、さらには財産の損害、人身傷害を招くおそれがあります。

- ・ドライバーは現地の法律法規の要求に従い、運転支援システム機能を合法的に使用し、システムに機能、APP、ツールなどを追加して不適切または違法な行為を行ってはならず、また違法に個人情報および地理情報データを収集・使用してはなりません。当社は、ユーザーによるシステム機能の乱用、誤用、または無断改変によって生じた違法行為について一切の責任を負わず、システム機能を一時的に停止し、さらにはユーザーへのサービス提供を終了する権利を有します。また、ユーザーの違法行為に関連するデータを保存し、法的な手続きに基づいて要求する権限を有する機関に証拠として提供する権利を有します。

運転支援システムセンサー

本車両の運転支援システムは、ミリ波レーダー、カメラなど複数のセンサーを搭載しています。

センサーの清掃とメンテナンス

- ・ドライバーは、すべてのレーダーとカメラが清潔であり、フロントウィンドウが清潔で、霜や曇りがないことを確認する必要があります。レーダーまたはカメラの表面に汚れ、遮蔽物、または付着物がある場合、またはフロントガラスに汚れ、霜、または曇りがある場合、システムの機能または性能に影響を与える可能性があります。
- ・レーダーまたはカメラが遮られているか汚れている場合、メーターディスプレイまたはマルチメディアコントロールパネ

ルに対応するテキストメッセージが表示される場合があります。その際は、ドライバーが清掃やメンテナンスを行ってください。必要に応じて、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

レーダーまたはカメラの遮蔽または汚れの一般的な状況と対応する処理の推奨事項

- ・レーダーやカメラのレンズ表面に氷や霜が付着した場合：温水または不凍剤入りの洗浄液で洗浄して融解させた後、乾いた光学用クリーニングクロス、綿布、フランネル布で表面の水滴を拭き取り、レンズ表面に明らかな汚れが残らないようにしてください。
 - ・レーダーやカメラのレンズ表面にほこり、泥（泥水の跡を含む）、または鳥の糞などの汚れが付着している場合：流水または車窓専用洗浄剤で、汚れや付着物が柔らかくなるか剥がれ落ちるまで洗い流した後、乾いた光学用クリーニングクロス、綿布、またはフランネル布で表面の汚れを拭き取り、レンズ表面に明らかな汚れが残らないようにしてください。
 - ・レーダーやカメラのレンズ表面に水滴または自然結露が発生した場合：乾いた光学クリーニングクロス、綿布、フランネルで表面の結露を拭き取り、レンズ表面に明らかな水滴の跡が残らないようにしてください。
 - ・車両が片側高架橋、トンネル、砂漠、草原または雪地など光量が少ない、または視界が遮られやすい場所を走行している場合：できるだけ早く車両を現在の場所から離れるよう推奨します。遮蔽物がなくなると、このような遮蔽による故障は解消されるため、さらなる処理は不要です。
- ## 清掃とメンテナンスに関する注意事項
- ・ウィンドウに曇りが発生したり、曇りのリスクがある場合は、ウィンドウデフロスター機能をオンにして、ガラスの曇りまたは霜の発生を防止することをお勧めします。

- ・レーダーの汚れを清掃する際は、中性洗剤（例えば石鹸水）を使用することを推奨します。清掃完了後、まず清水でレーダー表面をすすぎ、次に清潔な糸くずの出ない布でレーダー表面を拭き取ってください。
- ・レーダーの外部に、フィルムの貼り付け、ワックスがけ、純正以外の塗料での再塗装、プロテクションフィルムの貼り付け、またはコーティングなどを行わないでください。これらの操作はレーダーの検知性能に影響を与えます。
- ・レーダーやカメラの洗浄にブラシを使用しないでください。砂石が混入したブラシによるレンズおよび筐体の磨耗を避けるためです。
- ・レンズの氷雪を除去する際に熱湯を使用しないでください。レンズの破損を避けるためです。
- ・レンズを強く拭かないでください。レンズの光学コーティングの損傷を避けるためです。
- ・レンズおよびハウジング表面の汚染物や氷雪を除去する際に、金属やその他の硬い物でこすり取らないでください。レンズ表面を損傷するおそれがあります。
- ・高圧洗浄機でボディを洗浄する場合は、可能な限りレーダーとカメラに直接噴射しないでください。
- ・ミリ波レーダーはフロントおよびリアバンパー内にそれぞれ取り付けられています。そのため、ミリ波レーダーの性能への影響を避けるために、バンパーを清潔に保ち、無断でバンパーへの塗装、エアロパーツの装着、金属または合金（メッキ加工を含む）装飾部品の取り付けなどを行わないでください。

センサーの制限

- ・レーダーとカメラには以下の制限があります（ただし、これらに限定されません）:

- ・レーダーとカメラは、周囲環境の検出において死角があります。
- ・レーダーとカメラは誤検知する可能性があります。例えば、物体の距離や速度を誤って認識したり、物体がないのに誤って検出したりすることがあります。
- ・レーダーとカメラは検出漏れする可能性があります。例えば、一部の車両、人、動物、またはその他の障害物を部分的にしか認識できなかったり、まったく認識できなかったりすることがあります。
- ・多くの要因がセンサーの性能に影響を与え、誤検出や検出漏れを引き起こす可能性があります。**(134 ページ)**をよくお読みください。

警告

- ・強アルカリ・強酸性、アンモニア含有洗浄剤、漂白剤、セメント除去剤、タール除去剤、接着剤除去剤、研磨剤、または塗装剥離剤などを使用して光学レンズおよび筐体を清掃することは固く禁じられています。
- ・レーダーまたはカメラの交換が必要な場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡して交換してください。BYD が認可していない部品を使用したり、BYD が認可していない改造を行ったりしないでください。
- ・フロントウィンドウやバンパーの交換が必要な場合は、レーダーやカメラを適切に処理できるよう、専門資格を持つアフターサービス業者に連絡してください。
- ・レーダー、カメラなどのセンサーが取り付けられている領域に損傷や衝突が発生し、センサーにずれや損傷が生じた場合、システムが使用できなくなる可能性があります。この場合は、BYD 正規ディーラーまたは



警告

BYD 指定サービス工場に連絡し、適切に点検・処置してください。

- 上記の操作に違反すると、運転者の車両操作に影響を及ぼし、事故を引き起こす可能性があり、さらには財産の損害、人身傷害または死亡につながるおそれがあります。

運転支援システムの一般的な制限事項

- 運転支援機能はマルチセンサーフュージョンアルゴリズムを使用しており、多くの要因が運転支援機能の性能に影響を与え、期待される機能を実現できない場合があります。一般的な制限要因には、システム自体の機器の問題（運転者の誤操作によるものを含む）、使用環境の影響（天候、道路環境など）、周囲の車両やその他の交通参加者の影響などが含まれますが、これらに限定されず、以下の要因を含みます：

システム自体の機器要因（人為的な使用原因を含む）

- ミリ波レーダー、カメラが校正されていない、損傷している、表面に異物（氷雪、水、霜、泥、ほこりなどの物体）が覆っている、またはフロントガラスに汚れ、曇り、水滴、装飾品、ワイパー傷、フィルム、コーティング、ひび割れなどがありカメラの視野に影響を与える。
- センサーやカメラが強い衝撃、レーザーなどの影響を受けた場合。
- 光を強く反射するものがあるとき（高速道路上の交通標識、金属製フェンス、路上の水たまりなど）。
- 次の場合は、必ず BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、システムの校正、点検を行ってください。これには次の場合が含まれますが、これらに限定されません。
 - フロントビューカメラとウィンドウガラスを外したとき。

- 車輪の振れにより、新たにホイールアラインメント調整を行ったとき。

- 車両の擦り傷や衝突などにより、車両センサーの異常または車両構造の異常が発生したとき。特にバンパー、フロントガラス、ドアミラー、カバー（フェンダー、テールゲートなど）、フレームなどが、車両の衝突またはその他の原因により変形または損傷し、センサーの取付位置が変化した場合。

- 牽引フックが取り付けられている場合、または積載物が車両の周囲から突出している場合。
- 車両後方に自主的に取り付けられた物体（自転車キャリアなど）が干渉または障害となる場合。
- 過度な塗装（塗装厚の変化）や粘着製品（テープ、ステッカー、プロテクションフィルムなど）を車両に塗布または貼付したことによる障害。
- 静電容量式センサー*を搭載した車両では、ハンドルカバーを装着しないでください。機能異常を引き起こす可能性があります。
- 次の場合は、システムが常に最適な性能を発揮することができないおそれがあります。これには次のものが含まれますが、これらに限定されません。
 - ブレーキパッドが過度に摩耗している場合や、ブレーキシステムに異常があるとき。
 - タイヤ空気圧の過不足、またはタイヤの過度な摩耗があるとき。
 - 規定に合わないタイヤを装着したとき。
 - タイヤチェーンを装着したとき。
 - 小型スペアタイヤ、または緊急用パンク修理キットを使ったとき。
 - 車両が過積載のとき。
 - 不均一な積載により車両が傾いている場合。

- ・車両のサスペンションシステムなどが改造されている場合。

使用環境の影響要因

- ・円形駐車場やトンネルなどの特別な道路を長時間走行した場合、レーダー検出特性の限界により一時的に機能しないことがあります。当該の特別な道路を離れると機能は回復します。
- ・カーブに進入またはカーブから抜け出したとき、先行車の選定が遅れたり干渉を受けることがあります。このような場合は、車両が期待通りに減速しない、または減速が遅れることがあります。
- ・曲がりくねった道などの急カーブや道路のカーブの曲率が大きすぎる場合、センサーが感知する前方の車両が数秒間認識されないことがあるため、車両が自動的に加速するおそれがあります。
- ・システムは、静止またはゆっくり移動している物体（車両や渋滞の後方、料金所、オートバイ、自転車や歩行者など）を正確に認識できずに衝突事故を引き起こすおそれがあるため、ドライバーは常に車両周辺の状況に気を付けてください。
- ・スノーモードなどの特別な運転モードでは、システム機能は作動できません。
- ・状況によっては、感知に影響が出たり遅れることがあります。対象物のレーダー反射断面積が小さすぎる（自転車、三輪車、馬車、歩行者、電動自転車またはオートバイなど）場合、システムが前方の対象物との距離を正確に検知できないおそれがあり、反応が遅れる、または反応できない可能性があります。
- ・雨、雪、PM2.5、濃霧など極端な気象のとき、凍結及び滑りやすいカーブ上。
- ・周囲環境の視界が悪い場合、例えば濃煙、跳ね上げられた水しぶき、砂埃、周囲車両の排出する排気ガスなど。
- ・車線が過度に摩耗または遮蔽、覆われ、消失している場合、新旧標示線が重なっている場合、道路工事により一時的に調整または急速に変化している場合。
- ・強い光（対向車のヘッドライトや直射日光など）、光量不足（夜明け、夕暮れ、夜間など）のとき。
- ・極端な明暗差がある場合、例えばトンネルの入口や出口。
- ・温度が極端に高い、または低いとき。
- ・定められたサイズに一致していない、または法律の寸法要求を満たしていない重量制限および幅員制限標識の場合は、誤って制限速度標識として認識されることがあります。
- ・標識が不明瞭で、歪み、傾き、反射、部分的な遮断などがある場合は、カメラの認識能力が低下したり認識できなくなります。
- ・道路状況が複雑な場合、例えば急勾配、急カーブ、連続カーブ、曲がりくねった小道、狭い道路、オフロード、凸凹道路、溝や陥没（消火栓など）のある道路、片側に下向きの段差や崖のある道路、隆起した路肩、超広車線、工事区域（例えばコーンが設置された区域）、または車両がランプウェイ、交差点、料金所などへ出入りする場合。
- ・路面状況が悪い場合、例えば路面が滑りやすいまたは軟弱な状態（路面の冠水、凍結、積雪、ぬかるみ、砂利道、砂土路など）、車線または道路標識が不鮮明、破損している場合など。
- ・付近に吊り下げ型障害物が存在する場合、例えば吊り下げられた大型車両、消火器ボックス、充電ボックス、宅配ボックス、車両の後方または前方に突出した牽引フック、吊り下げられた（傾斜または垂直な）水道管、消防扉の吊り下げ式ロック、消防設備の吊り下げスイッチノブの先端、開いた車のドア、半開きの巻き上げ式車両ドアなど。
- ・近くに低く小さい障害物が存在する場合、例えば低い石、低木、花壇、石垣、石獅子、低い塀、狭い塀、細い棒、針金、金網フェンス、シャッター、牽引棒、段ボール箱、開いた車止め、パーキングブロックまたはその他レーダー探知波を正常に反射できない物体がある場合。

- 近くに下り階段、突出した路肩、くぼみ、陥没した排水溝、またはその他の地面の凹凸がある。
- 近くに直角の柱、多角柱、壁の角、壁掛けまたは床置き消火栓ボックス、床置き充電ボックスなどの鋭利な障害物がある。
- 近くおよび駐車スペースの上方に高さの変化があり、換気ダクト、傾斜した天井などで車両上部を擦ったり衝突したりしやすい。
- 周辺に、スポンジや発泡体など特殊な表面や構造を持つ物体、あるいはガラス、路面の水たまり、反射性のある駐車スペースの塗装など、表面が反射する物体がある場合。

周囲の車両およびその他の交通参加者の影響要因

- 他のものに遮られている歩行者。
- 背景と見極めができない歩行者の輪郭。
- 近距離の二輪車、三輪車（自転車、オートバイなどを含むがこれらに限定されない）、その他近距離の手押し車、ベビーカー、ショッピングカート、小動物、および歩行者（特に子供）。
- 異形車両（例えば工事車両、大型トレーラー、道路メンテナンス車、車外に鉄筋やセメント管などを積載した車両、地上高が極端に高いまたは低い車両、超長尺の荷物を積載し車両後部からはみ出している車両など）、横転車両、寸法が著しく異常な車両など。
- 不規則な形状の非典型的な対象物が近くに存在する場合、例えば透明な椅子、テーブルや椅子、ウォーターバリア、三角コーン、その他システムが認識しにくい各種障害物など。
- 広範囲にわたって単一の背景色に非常に近い色の車両や人の群れなど。
- 交通状況が複雑な場合、例えば、突然現れて本車両に急速に接近してくる車両、歩行者、自転車、小動物またはその他の

障害物、または車両がランプウェイ、交差点、料金所などに出入りする場合。

- 前方に横向きまたは斜めに停車している車両。

警告

- 車両が接触またはこすり傷や衝突（軽微な衝突を含む）を起こした後は、センサーの位置がずれたり、破損したりする可能性があるため、運転支援機能を使用せず、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に点検・修理を依頼してください。
- 安全上の理由から、悪天候時または極端に照明条件が悪い状況下では、運転支援機能の使用をできるだけ控えてください。
- 安全上の理由から、緊急時に何も対処せず運転支援機能の作動を待つなど、運転支援機能を意図的にテストしないでください。
- 各サブ機能の取扱説明書をよく読んで、不適切な操作による機能の終了や危険な状況の発生を避けてください。例えば、自動緊急ブレーキ機能作動中にアクセルペダルを強く踏み込んだ場合、システムは加速要求を優先し、緊急ブレーキは作動しません。
- システムの制約により、運転支援システムは周囲環境を監視する際に不適切な警告または介入を行う可能性があります。運転支援システムは、ドライバーの操作を正しく理解できず誤警告を発する場合があるため、ドライバーは常に注意を怠らないようにしてください。
- システムの制限により、運転支援システムは現在、周囲環境の突発的な状況を正確に検知・対応することができません。ドライバーは常に注意を怠らず、必要に応じて速やかに介入または車両を制御し（例：減速、

警告

制動、操舵など、運転の安全を確保してください。上記の操作に違反すると、事故を引き起こし、死傷が出るおそれがあります。

アダプティブクルーズコントロール (ACC)

- ・アダプティブクルーズコントロール (ACC)は、従来のクルーズコントロールをベースに、フロントミリ波レーダーや前方カメラなどのセンサーで先行車と本車両の相対距離および相対速度を計測し、ドライバーが使用時に設定した車間距離と目標巡航速度に基づいて車両の走行速度を制御することで、ドライバーのアダプティブクルーズ走行を支援する機能です。
- ・前方に障害物がない場合、車両は設定された巡航速度を維持して走行します。前方に車両が検知された場合、ドライバーが設定した車間距離に応じて速度を調整し、前方車両に追従して走行します。

注意

- ・アダプティブクルーズコントロールはデフォルトで ON になっており、OFF にすることはできません。ステアリングのボタンでアダプティブクルーズコントロールを起動できます。詳細は「ACC 起動方法」を参照してください。
- ・アダプティブクルーズコントロールはあくまでドライバーのクルーズコントロールを支援するものであり、ドライバーは自らステアリングを操

注意

作し、車両の進行方向が正しいことを確認する必要があります。

作動状況の説明

- ・アダプティブクルーズコントロールが ON になっている場合：
 - ・アダプティブクルーズコントロールの作動条件を満たしている場合、ドライバーはステアリングのボタンで ACC 機能を起動できます。
 - ・アダプティブクルーズコントロールの作動条件を満たしていない場合、アダプティブクルーズコントロールを起動しようとすると、メーターパネルに機能使用不可のメッセージが表示されます。
- ・アダプティブクルーズコントロールが有効になっている場合：
 - ・車両は設定の巡航速度で定速走行、または先行車両との車間距離を自動的に調節して追従走行します。
 - ・ドライバーがアダプティブクルーズコントロールを有効にした状態でアクセルペダルを踏むと、一時的に車両の制御を停止し、アクセルペダルを離すまで、ドライバーの操作に応じて車両が速度を上げます。
- ・アダプティブクルーズコントロールが故障している場合：
 - ・この場合、アダプティブクルーズコントロールは使用できません。ドライバーがアダプティブクルーズコントロールを起動しようとすると、メーターパネルに機能使用不可のメッセージが表示されます。

機能状態	アイコン	意味
アダプティブクルーズコントロール ON		アダプティブクルーズコントロールは ON になっているが作動しておらず、かつ今回の電源投入サイクル内で一度も起動されていない場合。
アダプティブクルーズコントロール ON		アダプティブクルーズコントロールが ON になっているが作動しておらず、かつ今回の電源投入サイクル内で起動されたことがある場合（アイコン内には前回作動終了時に設定されていたクルーズ速度が表示される）。
アダプティブクルーズコントロール有効		アダプティブクルーズコントロールが既に作動している場合（アイコン内には現在設定されているクルーズ速度が表示される）。
アダプティブクルーズコントロール故障		アダプティブクルーズコントロールは現在故障状態で、機能が使用できません。

アダプティブクルーズコントロールの作動条件

- ・電動パーキングブレーキ（EPB）が解錠されている状態。
- ・シフトポジションは「D」レンジ状態。
- ・車両がバックしない状態。
- ・すべてのドア、ボンネット、テールゲートが閉まっている状態。
- ・ドライバーがシートベルトを着用している状態。
- ・ESC システムは作動している状態。
- ・速度が $\leq 130\text{km/h}$ のとき。
- ・停車時（車速 0km/h ）に、ブレーキペダルを踏むか、オートビークルホールド機能を ON にすると作動可能です。
- ・走行中（車速 0km/h 超過）で、ブレーキペダルを踏まない場合に作動可能です。

- ・コンビネーションメーターに車両ネットワーク通信故障のインフォメーションが表示されていない状態。
- ・自動緊急ブレーキ機能が ON になっていない状態。

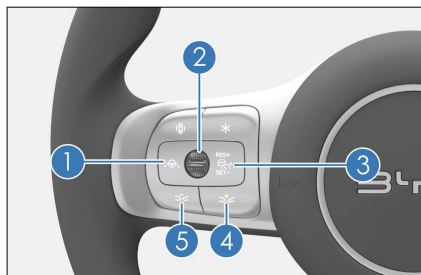
⚠ 注意

- ・アダプティブクルーズコントロールは、高速道路や状況が良好な公道で走行する場合に適しています。複雑な市街地や山道での走行には適していません。

アダプティブクルーズコントロール起動方法

- ・車両始動後、アダプティブクルーズコントロールが作動していない場合は、ボタン①またはボタン③でアダプティブクルーズコントロールが起動できます。

- ・車両始動後、アダプティブクルーズコントロールを一度でも作動した場合は、ボタン②を上にした状態でアダプティブクルーズコントロールが起動します。



- ・ボタン①またはボタン③でアダプティブクルーズコントロールを起動すると、システムは自動で現在の車速を目標巡航速度に設定します（現在の車速が 30km/h 未満の場合は、目標巡航速度は 30km/h に設定されます）。
- ・ボタン②を上にした状態でアダプティブクルーズコントロールを起動すると、目標巡航速度は前回終了時に設定されていた速度になります。

⚠ 警告

- ・アダプティブクルーズコントロールは道路状況や運転条件に基づいて走行速度を自動的に調整することはできません。ドライバーは現地の交通法令と実際の道路状況に基づいて目標速度を設定し、状況変化に応じて適時調整することで、常に安全運転を確保する必要があります。

目標巡航速度の設定

- ・アダプティブクルーズコントロールを ON にしてからボタン②を上か下へ操作すると、30～130km/h の範囲内で巡航速度を設定できます。
- ・ボタン②を短く上に動かすと、目標巡航速度が 1 回につき 5km/h 増加します。ボタン②を短く下に動かすと、目標巡航速度が 1 回につき 5km/h 減少します。

- ・ボタン②を上にした状態で続けると、目標巡航速度が連続的に 1km/h ずつ増加します。ボタン②を下にした状態で続けると、目標巡航速度が連続的に 1km/h ずつ減少します。

⚠ 警告

- ・ACC はすぐに希望の速度まで減速できない場合があります。車速を十分に低下させるために、クルーズコントロールに過度に依存しないでください。
- ・ドライバーは常に警戒心を持ち、周囲の潜在的な様々な危険な状況に細心の注意を払い、必要に応じて速やかに手動で介入または車両を制御し（適切な減速、ブレーキ、ステアリング操作など）、安全運転を確保する必要があります。上記の操作に違反すると、ドライバーの安全運転に影響を及ぼし、事故を引き起こしたり、物的損害、人身事故につながる可能性があります。

車間距離の設定

- ・ドライバーはボタン④とボタン⑤を使用して、本車両と追従対象との車間距離を変更できます。車速が速いほど、本車両と前方車両との距離が広くなります。
- ・アダプティブクルーズコントロールは 1～4 段階で車間距離の調節ができ、初期設定は 3 段階目です。

定速巡航

- ・前方に本車両の走行を妨げる車両を検知しない場合、アダプティブクルーズコントロールはドライバーを支援して設定された速度で車両を走行させるよう制御します。

追従走行

- ・前方に本車両の走行を妨げる車両を検知した場合、アダプティブクルーズコントロールはドライバーを支援して安全な車間距離を保つため、前方車両に追従するよう車両を制御し、前方車両の加減速、

停車、発進などに追従する操作を補助します。

- ・追従走行中、コンビネーションメーターでは追従している前方車両が青色でハイライト表示されます。車間距離は車速やシフトポジションで異なり、固定値ではありません。詳細は「車間距離の設定」を参照してください。
- ・追従走行中、アダプティブクルーズコントロールは追従対象が車線変更などでいなくなったり、他車が割り込んできたりした場合、ドライバーを支援して車速を調整して追従対象を更新します。新たな追従対象がないときは定速巡航に切り替わります。

先行車に追従しての停止/発進

- ・アダプティブクルーズコントロールは、通常の走行モードで先行車に追従して車両を停車および発進することができます。
- ・先行車に追従して車両を停車する時間が短い場合は、自動で先行車に追従して発進します。
- ・長時間の追従停車した場合は、ドライバーが表示に従ってアクセルペダルを踏むか、ボタン②を上にかき上げて発進を確認してください。
- ・追従停車時間が長すぎる場合は、アダプティブクルーズコントロールが自動で終了し、電動パーキングブレーキが作動します。このとき、ドライバーが電動パーキングブレーキを解除してブレーキペダルを踏み続けることで、アダプティブクルーズコントロールを起動できます。

ACC 加速

- ・アダプティブクルーズコントロールの加速速度は運転モードに関連しています。
 - ・スポーツモードでは、加速が速いです。
 - ・ノーマルモードでは、加速が適度です。
 - ・エコノミーモードでは、加速が穏やかです。

警告

- ・ドライバーは現地の交通法規と実際の道路状況に基づいて目標速度と車間距離を設定してください。また、状況の変化に応じて適時調整を行い、常に安全運転を確保してください。
- ・アダプティブクルーズコントロールは対向車に対応できません。
- ・自車と前方の車両や歩行者との距離が近すぎる場合、アダプティブクルーズコントロールは正しく対象を認識できない可能性があります。
- ・カーブでの追従走行の際、車両は誤ったターゲットを追従する可能性があります。ドライバーは運転に集中し、追従エラーを発見した場合は速やかに車両を正しく制御する必要があります。
- ・衝突を防ぎ、正確で安全な車間距離を保つために、追従走行の速度調整や車間距離調整機能に過度に依存しないでください。ドライバーは車間距離を確認し、適切に確保する責任があります。
- ・ドライバーは常に警戒心を持ち、周囲の潜在的な様々な危険な状況に細心の注意を払い、必要に応じて速やかに手動で介入または車両を制御し（適切な減速、ブレーキ、ステアリング操作など）、安全運転を確保する必要があります。上記の操作に違反すると、ドライバーの安全運転に影響を及ぼし、事故を引き起こしたり、物的損害、人身事故につながる可能性があります。
- ・以下のような状況では、車両の制動性能が低下する可能性があるため、ドライバーは状況に応じて速やかにブレーキペダルを踏んで減速してください。

警告

- ・車両が重量物を積載している、または積載が不均一である場合。
- ・路面が滑りやすい、凹凸がある、砂利道やぬかるみ、急坂などの場合。
- ・ブレーキパッドが過度に摩耗している、または制動システムに異常がある場合。
- ・タイヤ空気圧の過不足、またはタイヤの過度な摩耗があるとき。
- ・規定に合わないタイヤを装着したとき。
- ・タイヤチェーンを装着したとき。
- ・長い下り坂の走行などにより、ブレーキシステムが過熱したとき。
- ・冠水路面や積雪路面を走行するとき、ブレーキパッドが湿っている。

ACC 使用時の自動速度調整

- ・ドライバーはマルチメディア  → ADAS → 運転支援 → アクセルで巡航速度を調整するで、機能の ON/OFF を設定できます。システムの初期設定は「OFF」です。
- ・ON にすると、ドライバーがアクセルペダルを踏んで加速することができます。アクセルペダルを踏んでいる間は運転支援システムでブレーキを作動させることができません。
- ・アクセルペダルを踏むと現在の車速を素早く上げることができ、アクセルペダルを離すと巡航速度の設定値を上げることができます。
- ・アクセルペダルを踏み込み、車速が目標の巡航速度設定以上の場合は、アクセルペダルを離すと目標の巡航速度設定がアクセルペダルを離れた際の車速と同じになります。
- ・目標巡航速度が 80km/h を超える場合は、加速後にアクセルペダルを離して

も、巡航速度の設定値は更新されません。

- ・目標巡航速度が 80km/h 未満で、加速後の実車速が 80km/h を超える場合は、アクセルペダルを離すと巡航速度は 80km/h に設定されます。
- ・目標巡航速度が 80km/h 未満で、加速後の実車速が 80km/h 未満の場合は、アクセルペダルを離すと巡航速度は現在の車速に設定されます。
- ・アクセルペダルを踏んでいる状態でボタン②を下に動かすと、現在の車速が目標巡航速度として設定されます。

ACC の解除

- ・車両が非静止状態の場合、ボタン③を押す、またはブレーキペダルを踏むことで解除することができます。また、車両が静止状態の場合、ボタン③を押すと解除することができます。

カーブ時の速度調整 (ICC 機能にも適用)

- ・カーブ時の速度調整はアダプティブクルーズコントロールが作動している場合にのみ有効です。
- ・ドライバーはマルチメディア  → ADAS → 安全補助 → カーブ時の速度調整で、機能の ON/OFF を設定できます。初期設定は「OFF」です。
- ・機能が ON になると、アダプティブクルーズコントロール作動中にカーブに進入する際、システムはカーブの曲率に基づいて適切な速度に減速し、安全かつ快適にカーブを通過できるよう支援します。

システムの限界

- ・アダプティブクルーズコントロールの外部センサー：
 - ・車両前部に設置されているフロントミリ波レーダーとカメラは、視界が障害物に遮られると本来の機能を発揮できなくなります。特に、センサーが完全に覆われるとシステムが OFF になります。システムは、HMI (ヒューマンマシ

ンインターフェース)を通じてドライバーにシステム OFF のメッセージを伝えます。このような場合は、障害物を取り除いて車両を再始動させる、または通常の道路を一定距離走行すると機能が回復します。

- ・状況によっては、感知に影響が出たり遅れることがあります。対象物のレーダー反射断面積が小さすぎる(自転車、三輪車、四輪馬車、歩行者、電動自転車またはバイクなど)場合、システムが前方の対象物との距離を正確に検知できないおそれがあり、反応が遅れる、または反応できない可能性があります。
- ・円形駐車場やトンネルなどの特別な道路を長時間走行した場合、フロントミリ波レーダーは特性の限界により一時的に機能しないことがあります。特別な道路を離れると、システムは自動的に正常に戻ります。
- ・ミリ波レーダーが他のミリ波レーダー源からの干渉を受けると故障や誤認識が発生する場合があります。
- ・フロントミリ波レーダーは、レールや道路工事用金属板などの金属物が中距離レーダーと干渉すると、正常に作動しないことがあります。
- ・ノイズや電磁波の影響を受けると、検知の遅延や干渉が発生することがあります。
- ・フロントミリ波レーダーとカメラが振動や衝突の影響を受けると、性能が低下することがあります。速やかに修理することを推奨します。
- ・カーブに進入またはカーブから抜け出したとき、先行車の選定が遅れたり干渉を受けることがあります。この場合、アダプティブクルーズコントロールが期待通りに作動しない、または作動が遅れることがあります。
- ・急カーブ(曲がりくねった道など)では、センサーが感知する前方の車両が数秒間

消えることがあるため、車両の走行速度が自動的に上がるおそれがあります。

警告

- ・アダプティブクルーズコントロールは急カーブや連続カーブなどの複雑なカーブに対応できません。ドライバーは常に前方の路面状況を観察し、必要に応じて速やかに車速を制御するか、ブレーキをかける必要があります。
- ・先行車の流れ、現在の道路周辺の環境状況などに合わせて追従走行時の車間距離を調整し、アダプティブクルーズコントロールを適切に設定してください。アダプティブクルーズコントロールを適切に設定した後も、いつでも減速して停止できるようにしてください。
- ・アダプティブクルーズコントロールは、車両、渋滞の後方、料金所、バイク、自転車や歩行者など静止している物体やゆっくり移動している物体を正確に認識できずに衝突事故を引き起こすおそれがあるため、ドライバーは常に周りの状況に気を付ける必要があります。
- ・アダプティブクルーズコントロールは制動力が限られているため、急ブレーキに対応できません。

警告

- ・アダプティブクルーズコントロールは衝突警報や衝突回避システムではなく、衝突防止警報や衝突防止ブレーキなどのアクティブセーフティ機能を代替するものではありません。衝突警報や衝突防止ブレーキなどのアクティブセーフティ機能を常にオンにすることを強くお勧めします(詳細は(173 ページ)を参照)。
- ・アダプティブクルーズコントロールは柱や石垣などの全ての障害物に対応できるわけではありません。運転者は常に前方の路面状況を観察し、必要に応じて速やかに車速を制御す

⚠ 警告

るか、ブレーキをかける必要があります。

- 衝突を回避するための十分な減速を、アダプティブクルーズコントロールに過度に依存しないでください。ドライバーは常に前方の道路状況を観察し、必要に応じて適時ブレーキをかける必要があります。
- 前方に衝突のリスクがある対象があり、特に、前方の対象物が停止している場合や、自車の速度が高すぎる場合、自車が衝突を回避できない可能性があります。
- ドライバーは常に警戒心を持ち、周囲の潜在的な様々な危険な状況に細心の注意を払い、必要に応じて速やかに手動で介入または車両を制御し(適切な減速、ブレーキ、ステアリング操作など)、安全運転を確保する必要があります。上記の操作に違反すると、ドライバーの安全運転に影響を及ぼし、事故を引き起こしたり、物的損害、人身事故につながる可能性があります。
- 車両のけん引/雪道などの特別な運転モードを ON にしている場合は、アダプティブクルーズコントロールを作動させることができません。
- アダプティブクルーズコントロールは、以下に示す(これらに限定されない)状況に遭遇した場合、アダプティブクルーズコントロールおよびその関連機能が適切に作動しなかったり、終了したりする可能性があります。
- 自車両の状態に関する問題(ドライバーの不適切な操作を含むがこれに限定されない)。
 - 速度が 130km/h 以上のとき。
 - 車両のいずれかのドア、フード・トランクが閉まっていないが、故障している場合。
- タイヤ空気圧異常。
- エアバッグ異常。
- 車両が以下のいずれかの状態にある場合:「D」レンジ以外、ブレーキ作動中、ヒルスタートアシスト機能またはトラクションコントロールシステムが作動中、衝突発生時、電源が OFF になっている。
- 車両のシャーシ、ブレーキシステム、トラクションコントロールシステム、車両安定制御システムに故障が発生した場合や、修理が必要な場合。
- ドライバーがシートベルトを着用していない。
- 運転支援システムに故障またはメンテナンスが必要な場合。
- 外部環境の影響(以下の天候、視界、道路環境などの要因を含みますが、これらに限定されません):
 - 夜間、雨/雪/霧の天候、砂塵/街灯なし/暗光/逆光/眩光など、視界が良くない状況。
 - 道路の切れ目、交差点、狭い道、急勾配。
 - 山道、田舎道。
 - 水たまり、凍結、積雪の区間。
 - 急カーブ、連続カーブ、山道などの大きな曲率のカーブ。
 - ぬかるみ、砂利道、オフロードなどの未舗装路面。
 - 縁石などの低くて動かない、または自車に近い障害物がある場合。
- 周辺車両やその他の交通参加者の影響(以下の要因を含みますが、これらに限定されません):
 - 渋滞した交差点。
 - 人や車が交差点で自由に行き来している場合。

- ・ 歩行者、自転車などの利用者、動物などが死角から突然飛び出してくる場合。
- ・ 前の車が急ブレーキをかけた場合。
- ・ 隣の車線から大型車が自車線に入ってきた場合。
- ・ 歩行者や他車による無理な割り込み、進路の妨害、大きな角度での斜め合流、さらには逆走などの場合
- ・ 特殊車両(大型トレーラー、工事車両、道路維持作業車、車外に鉄筋やコンクリート管などを積載している車両など)、停止車両、横転車両などに遭遇した場合。
- ・ 前方車両/斜め前方車両がドアを開けた場合や、車上から物が落ちてきた場合。
- ・ その他の問題：
 - ・ 以下を含みますが、これらに限定されません。一般的な制限事項に記載されているその他の状況。

警告

- ・ アダプティブクルーズコントロール機能はあくまでも運転支援機能であり、注意事項には本機能に影響を与える一般的な状況のみが記載されています。これら以外にも、機能の性能に影響を与える要因が存在する可能性があります。ドライバーは常に周囲の状況に注意を払ってください。
- ・ ドライバーのニーズ、交通状況や道路環境に応じて、アダプティブクルーズコントロール機能を使うかどうかを判断してください。

注意

- ・ 横滑り防止装置 (ESC) が作動していない場合、ACC は作動しません。

注意

- ・ アダプティブクルーズコントロールは、高速道路や状況が良好な公道で走行する場合に適しています。複雑な市街地や山道での走行には適していません。
- ・ 先行車との車間距離を保つのはドライバーの責任です。ドライバーが設定するアダプティブクルーズコントロールの車間距離は、現地の運転環境に要求される最小車間距離を満たしてください。
- ・ アダプティブクルーズコントロール作動時、ドライバーがアクセルペダルまたはブレーキペダルを踏むと、車両のコントロールはドライバーに引き継がれます。このとき、ドライバーは先行車との安全な車間距離を確保するように注意してください。
- ・ 先行車が急ブレーキを掛けた場合 (緊急ブレーキ) は、システムが反応できない、または反応が遅れてブレーキが遅れるおそれがあります。
- ・ 状況によっては (本車の速度に対して先行車が遅い、車線変更速度が速い、安全距離が短いなど)、システムが相対速度を落とすのに必要な時間がない場合があります。システムはあらゆる状況でタイムリーに警告を発することはできません。このような場合、ドライバーは適切かつ速やかに対応する必要があります。
- ・ 発進時の安全を確保し、予期せぬ発進による対象物への衝突を避けるため、車両が停止している状態でアダプティブクルーズコントロールを有効にすると、システムは前方にある静止物を車両として認識し、車両を停止状態に維持します。ただし、この機能はすべての障害物に対応できるわけではないため、ドライバーは正面方向に障害物や他車がないことを確認してください。

注意

- ・アダプティブクルーズコントロールが作動している場合、隣接車線を走行する他車との車間距離が狭い（隣接車線を走行する他車が本車の走行する車線に近すぎる）と、システムが作動することがあります。
- ・本車がアダプティブクルーズコントロール付き車両の進路に車線変更し、かつフロントビューカメラの検知範囲内に入っている場合、この車両を対象車両として認識してそれに応じた反応をするため、強力な制動力が掛かったり、ブレーキが遅れることがあります。
- ・アダプティブクルーズコントロールが前方車両を対象車両として認識できない場合（メーター上で対象がハイライト表示されない場合）、ドライバーは自ら車両を制御する必要があります。
- ・先行車に追従して停止する場合、まれに先行車の後端を検知できないことがあります（車高の高いトラックの後軸や車両のバンパーなど）。このとき、アダプティブクルーズコントロールが適切な追従距離を確保できなくなるため、ドライバーは常に注意を払っていつでもブレーキを掛けられる準備をしてください。
- ・車高を下げるなど、車両の構造的な改造はアダプティブクルーズコントロールに影響を与えるおそれがあります。
- ・視界が悪い場所、坂道やカーブが続く道路、滑りやすい路面（雪道、凍結路、濡れた道路や水浸しの道路など）を走行する場合は、絶対にACCを使わないでください。
- ・次の場合は、必ずフロントビューカメラの校正と確認を早めに行ってください。以下の内容を含みますが、これらに限りません。

注意

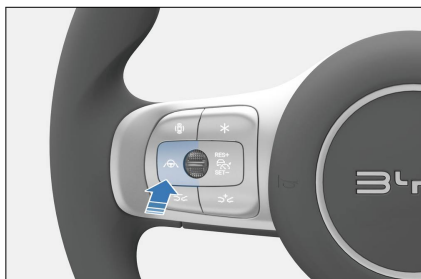
- ・フロントビューカメラとウィンドウガラスを外したとき。
- ・車輪の振れにより、新たにホイールアライメント調整を行ったとき。
- ・衝突したとき。
- ・アダプティブクルーズコントロールの性能低下、またはメーターからのシステム異常のメッセージに気づいたとき。

インテリジェントクルーズコントロール（ICC）

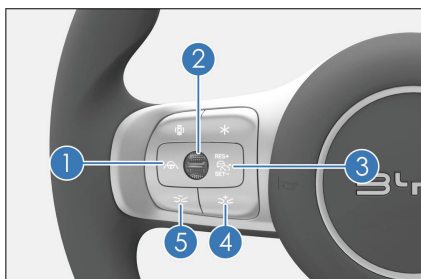
- ・ナビゲーションパイロット（ICC）は、0～130km/h の速度範囲内で、車線内の走行を維持できるようドライバーを支援します。車線が明確で道路状況が良好な環境での使用に適しています。
- ・ICC は、レーダーやカメラなどのセンサーによって車両前方の走行環境を検知し、それに基づいて車両の進行方向と速度を制御してドライバーの操作を支援し、ACC 機能に加えて車両が現在の車線内で走行できるようにします。
- ・ICC は、ドライバーが現在の車線内の走行を維持できるよう支援するのみで、ナビゲーションルートの制御は支援しません。
- ・ICC 使用時、ドライバーは常にハンドルを握ってください。走行ルートの調整が必要な場合は、ドライバーが自らハンドルを操作し、コンビネーションメーターの表示や音声通知に注意して、いつでも車両をコントロールできる準備を整え、車両が正確かつ安全に走行できるようにしてください。
- ・ドライバーが一定時間以上ステアリングホイールから両手を離すと、ドライバー運転離脱警告が作動します。

ICC の起動方法

- ドライバーはマルチメディア  → ADAS → 運転支援の設定画面から機能を ON/OFF することができます。コンビネーションメーターに  アイコンが表示されている場合は、ICC が ON になっていることを示します。
- 再始動した後の設定は前回の設定になります。
- 今回の車両電源投入サイクル内で ICC または ACC が作動していない場合は、ボタン①を押すと ICC が作動します。
- 作動条件を満たしていない場合（車線がないなど）は、まず ACC が作動します。作動条件を満たすと、ICC が自動で作動します。



- 今回の車両電源投入サイクル内で ICC を作動した場合は、ボタン②を上にも動かすと ICC が再度作動します。



- 作動に成功すると、コンビネーションメーターには ICC 作動表示灯が表示されま

す 。目標速度は  中央に表示されます。

クルーズアシスト

- ICC は、ACC 機能に基づき、ドライバーの運転操作を支援し、車両を現在の車線の中央付近で走行させます。走行中は、クルーズコントロールや車間距離制御など、ACC の全機能をサポートし、目標速度や車間距離などの調整を含む、ACC の全操作に対応しています。

警告

- ドライバーは現地の交通法規と実際の道路状況に基づいて目標速度と車間距離を設定してください。また、状況の変化に応じて適時調整を行い、常に安全運転を確保してください。
- ICC はすべてのリスクを認識できるわけではないため、ドライバーは前方の道路状況を常に観察し、必要に応じて車速を制御したりブレーキを掛けたりしてください。ドライバーは常に両手でハンドルを握り、道路と周辺状況を観察して迅速に車両を制御し、適切な対応が取れる準備をしてください。
- 車線内を走行するための操作を ICC に過度に依存しないでください。カーブなどの場面では、車両が車線をはみ出したり車線中央の範囲から外れたりするおそれがあるため、ドライバーは車両が正しいルートを走行できるようにしてください。
- ドライバーは常に警戒を怠らず、周囲の潜在的な危険な状況に細心の注意を払い、必要に応じて迅速に車両を制御して安全運転を確保してください。

ドライバー運転離脱警告

- ICC 作動中にドライバーがハンドルから手を離し続けると、ドライバー運転離脱警告が作動します。
- ドライバー運転離脱警告のレベル 3 が作動した後、自動で ICC を終了してドライバーに引き継ぎを促します。

- 車両が停止していない場合、ボタン①を押すか、ブレーキペダルを踏むことで機能を解除できます。
- 車両が停止している場合、ボタン①を押すことによってのみ機能を解除できません。

ICC アイコンの意味

ICC の解除

アイコン	意味
	ICC が ON になっているが作動していない
	ICC が ON で使用中
	ICC 故障のため使用不可

警告

- ICC 機能を作動させたとき、車両がすぐに安定した状態にならない場合があります。ドライバーは常にハンドルを握り、車両が現在の車線内で安全に走行することを確保してください。また、車両の運転状況に十分注意を払い、必要に応じてドライバーが自ら車両を制御してください。
- ICC 機能を作動させる際、ドライバーは車両周辺の安全を確保し、システムへの過度な依存を避けてください。
- ドライバーは常に警戒を怠らず、周囲の潜在的な危険な状況に細心の注意を払い、必要に応じて迅速に車両を制御して安全運転を確保してください。
- ICC システムは、天気や照明の明るさ、車線境界線の明瞭さの影響を受けるため、日陰、逆光、眩光、強光、路面の積雪および著しい摩耗がある

警告

- 車線では、性能が著しく低下します。このような場合は、ICC を慎重に使用してください。
- 急カーブが連続する道や凍結して滑りやすいカーブ、または悪天候（濃霧、大雨、大雪など）により、フロントビューカメラの視野が遮られている場合は、ICC システムの利用を避けてください。
 - システムによる道路の速度制限の認識結果は、車両ネットワークや道路環境の影響を受けやすく、速度制限値の認識に誤りが生じる可能性があります。ドライバーは常に現在の道路速度制限に注意を払い、ICC の巡航速度が交通法規の要求を満たすことを確認してください。

！ お願い

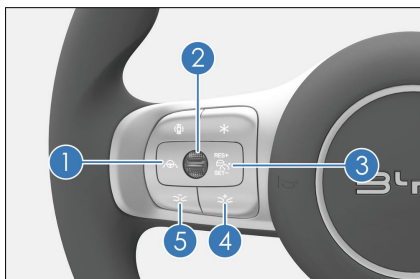
- 車両が安定した走行状態になってから(ステアリングホイールが直進位置に戻り、車両が真すぐに車線の中央エリアにあり、急旋回していない状態)、ICC の起動を試みてください。
- 車両が交差点を走行している場合は、ICC が起動できないことがあります。そのため、交差点を通過して安定した車線に入ってから起動してください。
- 以下のシーンでは、ICC 機能が一時的に解除され、車両はまず ACC 機能を起動し、条件が満たされた後に ICC 機能を復帰させます：
 - 現在の車線が広すぎる、車線が消失している、または車両が車線からはみ出して走行していることを認識した。
 - ドライバーがステアリングホイールを操作する、またはターンシグナルランプを点灯させる。
 - 車両に大きな横方向の動きが発生している。
 - ワイパーが高速モードで連続的に作動している。
 - パワーステアリングシステムが故障している。

スピードリミットコントロール (ISLC)

- インテリジェントスピードリミットコントロール (ISLC) は、アダプティブクルーズコントロール (ACC) と交通標識認識 (TSR) を組み合わせたシステムです。
- 交通標識認識システムが認識した制限速度とドライバーが設定した ACC 設定速度が一致しない場合は、システムが設定

速度を制限速度へ制御するかを確認します。

- ドライバーがレバー② (「SET-」または「RES+」) を操作すると、制限速度に基づいて設定速度が制御されます。
- システムの作動車速範囲は 30 ~ 130km/h です。



機能設定

- ドライバーはマルチメディア  → ADAS → 安全補助 → 交通標識の認識の画面から、この機能の ON/OFF を設定できます。
- スピードリミットコントロールの初期設定は「OFF」です。
- 再始動した後の設定は前回の設定になります。
- 交通標識認識システムが OFF になると、スピードリミットコントロールも同時に OFF になります。
- 交通標識認識システムを ON にすると、スピードリミットコントロールを ON/OFF することができます。

⚠ 注意

- スピードリミットコントロールはアダプティブクルーズコントロールシステムと交通標識認識システムを組み合わせた機能のため、アダプティブクルーズコントロールシステムと交通標識認識システムの使用説明を厳守してください。

前方衝突予測警告 (FCW)

- 前方衝突警告 (FCW) は、フロントミリ波レーダーやカメラなどを使用して、車両前方の車両、歩行者、および自転車運転者を検知します。システムが、本車両と前方車両または歩行者との衝突リスクがあると判断した場合、音声や視覚による警告を発してドライバーに必要な措置を取るよう促し、衝突リスクを軽減または回避します。

機能説明

前方衝突予測警告 (FCW) は、以下の 3 つの機能に分かれています。

- 安全距離警告 :
 - 本車両が約 65km/h ~ 130km/h の速度で走行中、システムはリアルタイムで前方の走行環境を検知し、本車両が長時間近距離で前方車両に追従していると認識した場合、安全距離警告を発してドライバーに前方車両との距離が近すぎることを知らせます。
 - 安全距離警告時、コンビネーションメーターには表示灯  が点灯し、「安全な車間距離を保ってください」というメッセージを表示してドライバーにリスクを知らせます。
- 事前警告 :
 - 本車が約 15km/h ~ 130km/h の速度で走行中、システムが本車と前方の対象物との間に衝突のリスクがあると判断した場合、事前警告を発します。ドライバーはただちに適切な車間距離を確保してください。
 - 事前警告時、視覚と聴覚による通知と、コンビネーションメーターには表示灯  が点灯すると同時にブザーが鳴り、「ブレーキを掛けてください」というメッセージが表示されます。
- 緊急警告 :

- 本車両が約 15km/h ~ 130km/h の速度で走行中、事前警告後もドライバーが適切な操作を行わず衝突のリスクが高まった場合、システムは緊急警告を発します。ドライバーはただちに適切な車間距離を確保してください。
- 緊急警告時、視覚、聴覚、触覚による方法で警告を行います。コンビネーションメーターの表示灯  が点灯してブザーが鳴り、「ブレーキを掛けてください」というメッセージが表示され、短いブレーキ操作で注意喚起を行うことがあります。

警告

- 前方衝突予測警告は運転支援機能であり、警報のタイミングは本車の速度、検知精度、対象物の種類、対象物との位置関係、システム遅延などの多くの要因に影響されます。そのため、警報が間に合わなかったり、警報が作動しなかったり、誤認識によりシステムが誤って警報を作動させるおそれがあります。また、前方衝突予測警告はドライバーの判断と操作に代わるものではありません。

機能設定

- ドライバーはマルチメディア  → ADAS → 安全補助 → 衝突回避アシスト の設定画面で前方衝突予測警告機能を設定します。
- 前方衝突予測警告のパラメーター設定値と意味は以下の通りです。
 - OFF : 前方衝突予測警告を OFF にします。
 - 遅い : 前方衝突予測警告が有効になり、警告タイミングは遅めです。
 - 中 : 前方衝突予測警告が有効になり、警告タイミングは中程度です。
 - 早い : 前方衝突予測警告が有効になり、警告タイミングは早めです。

！ お願い

- ・前方衝突予測警告の初期設定は「中」です。前回の走行で機能を OFF にしなかった場合、ドライバーが選択した感度を維持します。前回の走行で機能を OFF にした場合は、次回始動時には感度を初期設定の「標準」にします。

システムの限界

- ・以下の対象物に前方衝突予測警告が反応しないおそれがありますが、それらに限りません。
 - ・自車に向かって正面から接近してくる車両、歩行者、または自転車・バイクなど。
 - ・自車の走行経路に斜め方向から進入してくる車両、歩行者、または自転車・バイクなど。
 - ・隣接車線を走行する車両、歩行者、または自転車・バイクなど。
 - ・各種動物。
 - ・各種特殊車両、例えば散水車、バン型トラック、道路工事車両など。
 - ・夜間において、ヘッドランプの照射範囲外にいる車両、歩行者または自転車運転者。
- ・以下の状況では、前方衝突予測警告が影響を受けるまたは機能しないことがあります。それらに限りません。
 - ・雨、雪、霧など悪天候のとき。
 - ・暗闇、眩惑光、直射日光など、光照条件が悪い環境のとき。
 - ・センサーの汚れ、曇り、破損、または遮断しているとき。
 - ・ボンネットおよびトランクが完全に閉まっていない、または走行中にボンネットおよびトランクが開いた場合。
 - ・ドライバーがシートベルトを着用していない、または走行中にシートベルトを外したとき。
 - ・ドライバーがブレーキペダルを踏み込んだとき。
 - ・ドライバーがアクセルペダルを強く踏み込んだとき。
 - ・ドライバーが走行中にアクセルペダルとブレーキペダルを頻繁に操作したとき。
 - ・横滑り防止装置 (ESC) が OFF になっているか、または故障警告灯が点灯しているとき。
 - ・再塗装による車体塗装の厚み増加、フィルムやテープの貼り付け、装飾などのドライバーによる改造が、カメラやミリ波レーダーの性能に影響を与えるとき。
 - ・システム起動中 (車両の電源投入直後、システム再起動時など) のとき。
 - ・システムの一般的な制限事項で取り上げられたシーンのとき。
 - ・システムが故障した場合や修理が必要なとき。
- ・交通状況が複雑な場合、前方衝突予測警告システムは下記の場面に正しく対応できないことがあります。ただしこれらに限りません。
 - ・センサーの検知範囲内に素早く進入する歩行者や車両、例えば、車線変更後に前車との距離が近すぎる場合、前方車両が急ハンドルを切った場合など。
 - ・他のものに遮られている歩行者、または集まっている人の群れ。
 - ・歩行者や車両の輪郭が背景と区別できない場合 (例えば夜間に黒い衣服を着た歩行者、白い壁の前で白い衣服を着た歩行者など)。
 - ・特殊な衣服 (ロングスカートや着物など)、または他のもの (大きな荷物を背

負っているなど)に覆われているなどで検知されない歩行者。

- ・半径が非常に小さいカーブ。
- ・対象物のレーダー反射断面積が小さすぎる場合(例えば自転車、三輪車、四輪馬車、歩行者、電動自転車、オートバイ、または特殊車両など)。
- ・ミリ波レーダーが他のミリ波レーダー源からの干渉を受けて故障または誤認識が発生するとき。
- ・ノイズや電磁波の影響を受けると、検知の遅延や干渉が発生することがあります。
- ・前方衝突予測警告は、路面の水痕、影、マンホール、鉄板、道路標識などにより、不要な警告を発する場合があります。
- ・円形駐車場やトンネルなどの特別な道路を長時間走行した場合、フロントミリ波レーダーは特性により一時的に機能が制限されることがあります。特別な道路を離れると、システムは自動的に正常に戻ります。

警告

- ・必ず安全運転を心がけて運転し周囲の交通状況に注意してください。いかなる場合も、ドライバーの判断と操作の代わりに前方衝突予測警告システムを使用しないでください。
- ・前方衝突予測警告が警告を出している場合、ドライバーは交通状況に応じてブレーキを掛けて速度を落とす、またはハンドルを操作して障害物を回避してください。
- ・車間距離が近い状態で長時間走行すると、安全距離警告システムが車間距離を取るように警告を出します。先行車が急ブレーキを掛けると衝突は避けられません。
- ・歩行者保護システムは克服できない物理的な条件の制限があるため、システムの設定速度で十分に機能しな

警告

- いおそれがあります。そのため、ドライバーは自己責任で迅速かつ有効なブレーキ操作を行ってください。歩行者保護シーンでの警告の有無は、実際の状況に基づいて判断する必要があります。
- ・歩行者保護シーンをシステムそのものに頼っていると、事故や重大な傷害を完全に防ぐことができません。
- ・歩行者保護シーンは、曲がっている幹線道路などの複雑な状況では、不必要な警報を作動させることがあります。
- ・機能上の故障がある場合は、レーダーセンサーやフロントビューカメラの角度のずれなどにより、不必要な警告発信を行うことがあります。
- ・紙箱、鉄板、ダミー人形などで前方衝突予測警告の作動試験をご自身で行わないでください。システムが正常に機能せず事故を引き起こすおそれがあります。
- ・次の場合は、必ずミリ波レーダーの校正を早めに行ってください。
 - ・ミリ波レーダーまたはフロントビューカメラを取り外したとき。
 - ・ホイールアライメント調整中に、トーインやリアタイヤのキャンバー角を調節したとき。
 - ・衝突したとき。
 - ・ACCシステムの性能低下や異常。
- ・ドライバーの希望や交通状況、道路環境に応じて、前方衝突予測警告を使うかどうかを判断してください。

注意

- ・前方衝突予測警告は、いかなる状況でも警告を出せるわけではありません

注意

ん。交通状況が複雑な場合は、システムが車両、歩行者または自転車利用者の認識をきちんとできないことがあります。

- ・レーダーや前方カメラの表面に汚れや異物が付着した場合、コンビネーションメーターのディスプレイに該当する情報が表示されるので、指示に従ってセンサー表面の異物を取り除いてください（表面の汚れや異物の付着は、センサーの機能を失わせる可能性がある）。センサーが汚れていたり、異物で覆われている場合、前方衝突予測警告が OFF になります。汚れや異物を取り除くと正常に作動できるようになります。

自動緊急ブレーキ（AEB）

機能説明

- ・自動緊急ブレーキ（AEB）は、フロントミリ波レーダーやカメラなどのセンサーにより、本車両の前方の車両、歩行者、および自転車運転者を検知します。システムは、本車両の前方の車両、歩行者、および自転車運転者と深刻な衝突のおそれがあると判断した場合、必要な緊急ブレーキを自動的にかけることで、ドライバーが衝突を回避するか、または衝突の影響を軽減できるようサポートします。
- ・本車両が約 4km/h～130km/h の速度で走行中、自動緊急ブレーキは常に前方の走行環境を検出しています。前方車両、歩行者、自転車やオートバイと衝突すると認識した場合は、自動でブレーキを作動させて速度を落とします。
- ・緊急ブレーキ作動時、コンビネーションメーターには衝突予測警告警告灯  が点灯し、動画と「緊急ブレーキ作動中」というメッセージとともに音声警報が鳴ります。

警告

- ・自動緊急ブレーキは運転支援機能であり、衝突を回避するための設計ではなく、衝突回避または衝突被害の軽減を支援することを目的としています。
- ・ブレーキ性能は、本車の速度、検知精度、対象物の種類、対象物との位置関係、システムの遅延、ブレーキシステムの性能、タイヤ状態などの多くの要因の影響を受け、誤認識によりシステムが誤作動を引き起こすおそれもあります。また、自動緊急ブレーキはドライバーの判断と操作を代替するものではありません。

機能設定

- ・ドライバーはマルチメディア  → ADAS → 安全補助 → 衝突回避アシスト の設定画面で自動緊急ブレーキの ON/OFF を設定することができます。

警告

- ・自動緊急ブレーキは OFF にしないでください。自動緊急ブレーキを OFF にすると速度低下の支援ができないため、衝突を回避または軽減するための補助ができません。

お願い

- ・自動緊急ブレーキは初期設定で「ON」になっており、再始動後も「ON」になります。

システムの限界

- ・自動緊急ブレーキは走行速度が 4km/h 以上の場合にのみ作動し、衝突の可能性を軽減するための機能であり、すべての速度で衝突を回避できるわけではありません。このシステムはいかなるモードで

も正しく作動できるわけではないため、慎重に運転してください。

- 次の対象物に自動緊急ブレーキが反応しないおそれがあります。ただし、それらに限りません。

- 本車両に向かって正面から接近してくる車両、歩行者、または自転車・オートバイなど。

- 本車両の走行経路に斜め方向から進入してくる車両、歩行者、または自転車・オートバイなど。

- 隣接車線を走行する車両、歩行者、または自転車・オートバイなど。

- 各種動物。

- 散水車、バン、道路工事車など、各種特殊車両。

- 次の場合は、自動緊急ブレーキが影響を受ける、または機能しないことがあります。ただし、それらに限りません。

- 雨、雪、霧など悪天候のとき。

- 暗闇、眩惑光、直射日光など、光照条件が悪い環境のとき。

- 窪み、隆起、濡れている、坂道の角度が大きすぎるなど、路面状況が悪い場合。

- センサーの汚れ、曇り、破損、または遮断しているとき。

- フロントボンネットやトランクが完全に閉まっていない、または走行中にフロントボンネットやトランクが開いたとき。

- ドライバーがシートベルトを着用していない、または外した場合。

- ドライバーがアクセルペダルを強く踏み込んだとき。

- ドライバーが走行中にアクセルペダルとブレーキペダルを頻繁に操作したとき。

- 横滑り防止装置が OFF、または故障灯が点灯しているとき。

- 再塗装による車体の塗装の厚みの過多、フィルムやテープの貼り付け、装飾などドライバーによる改造が、カメラやミリ波レーダーの性能に影響を与えるとき。

- システム起動中（車両の電源投入直後、システム再起動時など）のとき。

- システムの一般的な制限事項で取り上げられたシーンのとき。

- システムが故障した場合や修理が必要なとき。

- 交通状況が複雑な場合、自動緊急ブレーキは下記の場面に正しく対応できないことがあります。ただしこれらに限りません。

- 速いスピードでセンサーの検知範囲に現れた歩行者や車両。

- 他のもに遮られている歩行者。

- 背景と見極めができない歩行者の輪郭。

- 特殊な衣服、または他のもに覆われているなどで検知されない歩行者。

- 半径が小さいカーブ。

- 対象物のレーダー反射断面積が小さすぎる（自転車、三輪車、馬車、歩行者、電動自転車、オートバイまたは異形車など）場合、状況によっては、感知に影響が出たり遅れることがあるため、システムが前方の対象物との距離を検知できないおそれがあります。そのため、反応が遅れる、または反応でなくなりします。

- ミリ波レーダーが他のミリ波レーダー源からの干渉を受けて故障または誤認識が発生するとき。

- ノイズや電磁波の影響を受けると、検知の遅延や干渉が発生することがあります。

- 次の場合は、システムが常に最適な性能を発揮することができないおそれがあります。ただしこれらに限りません。
- 事故や他の原因により、フロントバンパーに強い衝撃を受けたとき。
- ブレーキパッドが過度に摩耗している場合や、ブレーキシステムに異常があるとき。
- タイヤ空気圧の過不足、またはタイヤの過度な摩耗があるとき。
- 規定に合わないタイヤを装着したとき。
- タイヤチェーンを装着したとき。
- 小型スベアタイヤ、または緊急用パンク修理キットを使ったとき。
- 車両が過積載のとき。
- 自動緊急ブレーキは、路面の水痕、影、マンホール、鉄板、道路標識などにより、不要なブレーキをかけるおそれがあります。
- 円形駐車場やトンネルなどの特別な道路を長時間走行した場合、フロントミリ波レーダーは特性により一時的に機能が制限されることがあります。特別な道路を離れると、システムは自動的に正常に戻ります。
- スノーモードなどの特別な運転モードでは、自動緊急ブレーキは作動しません。
- 自動緊急ブレーキは頻繁に作動せず、前回の自動緊急ブレーキ作動から数十秒間はシステムが再度作動しない場合があります。

警告

- 必ず安全運転を心がけて運転し周囲の交通状況に注意してください。いかなる場合も、ドライバーの判断と操作の代わりに自動緊急ブレーキを使用しないでください。

警告

- 歩行者保護システムは克服できない物理的な条件の制限があるため、システムの設定速度で十分に機能しないおそれがあります。そのため、ドライバーは自己責任で迅速かつ有効なブレーキ操作を行ってください。歩行者保護システムでのブレーキ作動の有無は、実際の状況に基づいて判断されます。
- 歩行者保護シーンをシステムそのものに頼っていると、事故や重大な傷害を完全に防ぐことができません。
- 歩行者保護システムは、曲がっている幹線道路などの複雑な状況では、不要なブレーキ操作を行うことがあります。
- 歩行者保護システムに機能上の故障がある場合は、レーダーセンサーやマルチファンクションビデオコントローラーの角度ずれなどにより、不要なブレーキ操作を行うことがあります。
- 紙箱、鉄板、ダミー人形などで予測緊急ブレーキの作動試験をご自身で行わないでください。システムが正常に機能せず事故を引き起こすおそれがあります。
- 次の場合は、必ずミリ波レーダーの校正を早めに行ってください。
 - ミリ波レーダーまたはフロントビューカメラを取り外したとき。
 - ホイールアライメント調整中に、トーインやリアタイヤのキャンバー角を調節したとき。
 - 衝突したとき。
 - ACCシステムの性能低下や異常。
- ドライバーの希望、交通状況や道路環境に応じて、自動緊急ブレーキ機能を使うかどうかを判断してください。

！ お願い

- ・ 緊急警告時にドライバーが気づいている場合は（ドライバーがハンドルを切ったりアクセルペダルやブレーキペダルを踏んだりするなど）、自動緊急ブレーキは作動しません。
- ・ 自動緊急ブレーキ機能は、いかなる状況でも衝突が回避できるわけではありません。交通状況が複雑な場合は、システムが車両、歩行者、自転車・バイクなどをきちんと認識できないことがあります。
- ・ レーダーや前方カメラの表面に汚れや異物が付着した場合、コンビネーションメーターのディスプレイに該当する情報が表示されるので、指示に従ってセンサー表面の異物を取り除いてください（表面の汚れや異物の付着は、センサーの機能を失わせる可能性がある）。センサーが汚れていたり、異物で覆われている場合、自動緊急ブレーキ機能が OFF になります。汚れや異物を取り除くと、自動緊急ブレーキシステムが正常に作動できるようになります。

交通標識認識システム (TSR)

交通標識認識システム (TSR) は、カメラにより道路の制限速度情報を取得し、コンビネーションメーターに最高速度標識を点灯することで、ドライバーに制限速度の情報を伝えます。

機能の説明

- ・ 交通標識認識システム：制限速度標識認識 (SLIF)、制限速度警告 (ISLW) の 2 つの機能を含みます。
- ・ 制限速度標識認識 (SLIF)：カメラにより道路の制限速度情報を取得し、コンビネーションメーターに最高速度標識  を表示します。

- ・ 制限速度警告 (ISLW)：コンビネーションメーターに表示された速度がシステムの認識した制限速度を超えた場合は、コンビネーションメーターの制限速度アイコンで通知する、または音声警報によりドライバーに速度を抑えるよう促します。

機能設定

- ・  → ADAS → セーフティアシスト → 交通標識認識システム の設定画面から、交通標識認識システムおよびその他システムの ON/OFF を設定できます。
- ・ 交通標識認識システム OFF：交通標識認識システムおよびその他システムが OFF になります。
- ・ 交通標識認識システム ON：制限速度標識認識 (SLIF)、制限速度警告 (ISLW) をそれぞれ設定できます。
- ・ 制限速度変更時の音声通知：制限速度標識が変わった場合の音声通知の ON/OFF ができます。
- ・ 制限速度警告：速度が制限速度標識を超えた場合のアイコン表示・音声通知の ON/OFF ができます。
- ・ 制限速度警告音声通知 (ISLW)：マルチメディア、または「ショートカット」画面から制限速度標識の速度を超えた場合の音声通知の ON/OFF が設定できます。

！ 注意

- ・ 交通標識認識システムは速度制限標識のみを認識しており、他の交通標識は認識しないため、車両のアクティブ制御には関与しません。そのため、ドライバーは常に車両をコントロールできる適切な速度で運転してください。
- ・ フロントビューカメラの視界を遮ったり、強い光が干渉したりしないようにしてください。視野を一時的に遮る、または強い光が干渉するとシ

注意

システムが OFF になり、正常に戻ると自動で復帰します。自動で復帰しない場合は、速やかに修理してください。

- 交通標識認識システムが故障した場合、交通標識認識システムは使用できないため、速やかに修理を行ってください。

システムの限界

- 交通標識認識システムは運転支援機能の一つであり、すべての交通状況、天候、視界、道路に対応できるわけではありません。
- 交通標識認識システムの制限速度標識認識は環境の影響を受けやすく、以下の状況ではシステムが作動しないか、性能が著しく低下するおそれがありますが、これらに限りません。
- フロントガラスの汚れや曇り、またはマルチファンクションビデオコントロール前方への異物の付着。
- トンネルの出入口など周囲環境の明るさの急激な変化。
- 標識が不明瞭で、歪み、傾き、反射、部分的な遮蔽などがあるとき。
- 雪、雨、霧により、視界が悪くなったとき。
- 重量制限、幅制限の標識が定められたサイズに一致していない、または国の寸法要求を満たしていないとき。
- フロントビューカメラの視界内のガラスの割れ、色の付いたフロントガラス、不適合な塗膜、インストルメントパネルの上に置かれた反射物体、フロントビューカメラの視界を妨げる後付け部品は、システムの正常な作動に影響を与えるおそれがあります。

警告

- 交通標識認識システムに過度に依存しないでください。この機能は車両の速度超過警告情報を発するのみで、車速の制御を支援することはできません。
- 交通標識認識システムは運転支援機能の一つであり、記載されている制限事項や注意点は一般的な影響要因のみを含んでいます。多くの要素が機能性能に影響を与える可能性があります。ドライバーは常に周囲の状況を確認し、速やかに必要な措置を講じて車両を制御してください。

注意

- 以下の場合には認識される保証がありませんが、それらに限りません。
- 不明瞭な速度制限標識。
- 部分的に消えている制限速度標識。
- 以下の場合にはフロントビューカメラの機能障害または機能の作動遅れにつながるおそれがありますが、それらに限りません。
- フロントビューカメラの緩みや外れ、干渉があるとき。
- 雨、雪、PM2.5 など極端な気象のとき。
- 以下のシーンでは、交通標識認識機能が作動しない、不適切に作動する、または解除される可能性があります。
- 運転支援システム起動中のとき
(例：車両の電源投入直後、または運転支援システムの再起動時など)
- 運転支援システムの一般的な制限事項で取り上げられたシーンの場合。

注意

- ・運転支援システムの故障または修理が必要なとき。

先行車発進通知 (LCDN)

機能説明

- ・フロントミリ波レーダーやフロントカメラなどのセンサーを使用して前方車両の動きを検知し、先行車が発進したことを認識すると、コンビネーションメーターと音声でドライバーに車両の発進を促します。

機能設定

- ・マルチメディア  → ADAS → 運転支援 → 先行車発進通知で、先行車発進通知の ON/OFF を設定できます。
- ・先行車発進通知の初期設定は「ON」です。
- ・再始動した後の設定は前回の設定になります。

システムの限界

- ・一部の運転モード (スノーモードなど) では、フロントミリ波レーダーによる先行車発進通知が作動しません。
- ・以下のシーンでは、先行車発進通知が作動しません。ただし、これに限定されません。
 - ・スイッチが「OFF」になっている。
 - ・アダプティブクルーズコントロールが有効になっている。
 - ・シフトレバーを「P」または「R」レンジに入れている。
 - ・ハザードランプスイッチを押している。

- ・ドライバーがシートベルトを着用していない。

- ・操舵角が 45°以上有的时候。

- ・停車追従時に先行車との距離が遠いとき。

- ・フロントミリ波レーダーまたはフロントカメラなどのセンサーが遮蔽または故障したとき。

- ・以下のシーンでは、先行車発進通知機能が作動しない場合があります。

- ・前方車両が本車両の真正面にいない場合、例えば、前方車両または本車両が車線を跨いで走行している、車線変更している、または前方車両が急カーブ、急勾配などの道路にいるとき。

- ・前方車両が急加速、急ハンドルをしたとき。

- ・前方車両との距離が極めて短い、または前方車両が極めて低速で移動しているとき。

- ・光が薄暗いとき、前方車両がライトを点灯していない、または片側のライトが点灯していないとき。

- ・前方車両と本車両の間に他の車両、自転車、バイクなどが割り込んだとき、または自転車、バイク、歩行者などが横切るとき。

- ・システムの一般的な制限事項に記載されているその他のシーン。

注意

- ・先行車発進通知は注意を促すための補助機能であり、ドライバーに完全に取って代わるものではありません。ドライバーは常に道路交通法規に従い運転してください。
- ・衝突事故が発生した、またはカメラセンサーを脱着した場合は、システム性能への支障がないように、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サ

注意

ービス工場にセンサーの校正を依頼してください。

車線逸脱防止支援システム (LDA)

- ・車両が意図せず現在の車線から逸脱した場合、ドライバーへの警告、および車両を現在の車線に戻す支援を行います。

機能説明

- ・レーンサポートシステム (LDA) は、車線逸脱警告 (LDW) と車線逸脱防止 (LDP) の 2 つの機能を備えており、システムの作動速度範囲は 60 ~ 130km/h です。
- ・車線逸脱警告 (LDW) :
 - ・カメラなどのセンサーにより道路上の車線および道路境界を認識し、車線内における自車の位置を検出します。
 - ・ドライバーがステアリング操作 (ハンドルを大きく回す、ターンシグナルランプを点灯させる) を行わずに、車両が意図せず現在の車線を逸脱した場合、システムはメーター表示 (逸脱側の車線が赤色で表示される)、ステアリングホイールの振動、または警報音により車線逸脱警報を作動させてドライバーに警告し、車線逸脱によるリスクの回避または軽減を支援します。
- ・車線逸脱防止 (LDP) :
 - ・カメラなどのセンサーにより道路上の車線および道路境界を認識し、車線内における自車の位置を検出します。
 - ・ドライバーがステアリング操作 (ハンドルを大きく回す、ターンシグナルランプを点灯させる) を行わずに、車両が意図せず現在の車線から逸脱しそうになった場合、システムはメーター表示 (逸脱側の車線が青色で表示される) を行うと同時に、ステアリングを制御して車両の走行経路を修正し、車両が

現在の車線から逸脱するのを防ぎ、車線逸脱によるリスクの回避または軽減を支援します。

機能設定

- ・マルチメディア  → ADAS → 安全補助 → 車線逸脱防止から設定します。
- ・アシストモード：工場出荷時はすべて ON に設定されています。再始動した後の設定は前回の設定になります。アシストモードが ON の場合は、コンビネーションメーターに表示灯  が表示されます。
- ・OFF：車線逸脱防止機能をすべて OFF にします。
- ・警告：車線逸脱警報のみ有効になり、ステアリング操作の支援は行いません。
- ・逸脱防止：車線逸脱防止のみ有効になり、ステアリング操作で車両の走行軌道を修正します。
- ・両方：車線逸脱警告と車線逸脱防止の両方を有効にします。
- ・警報モード：工場出荷時は「振動」で、「サウンド」/「振動」/「両方」を選択でき、設定は次回以降も記憶されます。

注意

- ・以下の状況では、車線逸脱支援機能が停止します：
 - ・ドライバーがターンシグナルランプを点灯させて指示した方向へ車線を切り替えた場合。
 - ・ドライバーが継続的に車線をはみ出して走行したり、道路端に沿って走行している場合。
 - ・ドライバーがブレーキペダル、アクセルペダルを強く踏み込んだり、ステアリングホイールを急激に切ったりした場合。

⚠ 注意

- ・車両のいずれかのドアまたは前後フードが閉まっていない、または故障している場合。
- ・横滑り防止装置 (ESC)、トラクションコントロールシステム(TCS) が作動しているとき、または車輪が空転しているとき。
- ・横滑り防止装置 (ESC) が OFF になっている場合。
- ・カメラの視野が遮られたり、強い光の干渉、直射日光、または極端な高温下では、車線逸脱警報機能が一時的に停止します。環境状況が回復すると、機能は自動的に復帰します。自動で復帰しない場合は、速やかに修理してください。
- ・システム作動中は両手をハンドルから離さないでください。手を離している場合は、システムが音/振動でドライバーにステアリング操作を促します。
- ・車線逸脱防止支援機能に故障が発生した場合、コンビネーションメーターに  アイコンが点灯して、音声警告とメッセージが表示されます。このとき、車線逸脱防止支援システムは使用できないため、速やかに修理を行ってください。

システムの限界

- ・車線逸脱防止支援システムは運転支援機能であり、すべての交通状況、天候、視界、道路状況、車両状態に対応できるわけではありません。
- ・車線逸脱防止支援システムの車線検知は環境の影響を受けやすく、以下の状況ではシステムが作動しないか、性能が著しく低下する可能性があります。これらに限りません。

- ・フロントガラスの汚れや曇り、またはフロントビューカメラ前方への異物の付着。
- ・直射日光、路面の水たまりの反射、対向車などからの反射光。
- ・トンネルの出入口など周囲の環境の明るさの急激な変化。
- ・直射日光が路面に当たり、木の陰などで車線が見えにくくなったとき。
- ・道路と道端の草・土壌・緑石などとの境界線が認識できないとき。
- ・雪、雨、霧などにより、視界が悪くなったとき。
- ・車線表示が乱れていたり欠落している場合、例えば新旧の標示が重なっている、または道路工事により車線が一時的に変更されているとき。
- ・車線の分岐、横断、合流など、車線が急激に変化するとき。
- ・車線境界線が目立たない、細すぎる、摩耗している、不明瞭、汚れや氷雪や水たまりが付着している。
- ・車線が狭すぎる、車線数が増減する、誘導路や高速道路の出口などで車線表示が一時的に変化する、または車線表示が複雑な場合。
- ・路面上の異物や障害物が境界線として誤認識される場合。
- ・急勾配や急カーブの道路を走行中で、前方の境界線が見えない場合。
- ・先行車との距離が近すぎる、または車線境界線が先行車に遮られた場合。
- ・車両が大きく揺れて、車線境界線を正常に認識できない場合。
- ・ヘッドランプの故障、汚れ、または光軸調整の不具合により、車線境界線を正常に認識できない場合。
- ・道路がぬれている、車両の横方向への逸脱速度が大きすぎるなどの理由でタイム

リーに走行軌道を修正できない場合があります。例：

- ・路面状況が悪い場合、例えば、散水車の作業後や雨雪後の路面が滑りやすい、凍結している、またはぬかるんでいる場合など。
- ・車両の横方向への逸脱速度が大きすぎる、または小さすぎる場合。
- ・車両のステアリング性能に影響を与えたり低下させたりするその他の状況。
- ・フロントビューカメラの視界内のガラスの割れ、色の付いたフロントガラス、不適合な塗膜、インストルメントパネルの上に置かれた反射物体、フロントビューカメラの視界を妨げる後付け部品は、システムの正常な作動に影響を与えるおそれがあります。

警告

- ・車線逸脱防止支援機能に過度に依存しないでください。この機能はドライバーによる道路および周辺環境の監視に代わるものではなく、ドライバーの注意散漫や疲労運転によるリスクを回避することはできません。ドライバーは常に周囲の状況を確認し、機能が抑制または解除された場合、速やかに必要な措置を講じて車両を制御してください。
- ・車線逸脱防止支援機能の制限事項および注意事項は一般的な状況のみを含んでおり、その他の要因も機能の性能に影響を与える可能性があります。
- ・安全のために、自ら車線逸脱防止支援機能の作動試験を行わないでください。
- ・車線逸脱警告機能は車線逸脱の警報のみを発し、車両の進行方向を制御することはできません。
- ・ドライバーのニーズ、交通状況や道路環境に応じて、車線逸脱防止支援

警告

システムを使うかどうかを判断してください。

注意

- ・以下の場合には車線逸脱防止支援システムを OFF にすることをおすすめしますが、これらに限りません。
 - ・スポーティーな走りのとき。
 - ・悪天候（例えば、濃霧、大雨、大雪など）の場合。
 - ・泥道、砂利道などの未舗装路、凍結路、冠水路、積雪路などの滑りやすい路面、工事区間を走行する場合。
 - ・連続した急カーブや急な坂道の区間。
 - ・車線幅が狭い区間。
- ・以下の状況では、カメラの認識障害や機能の作動遅れにつながるおそれがありますが、それらに限りません。
 - ・カメラが緩んだり、外れたり、遮られたりしているとき。
 - ・雨、雪、PM2.5 など極端な気象のとき。
 - ・フロントビューカメラのレンズの一部、または全部が遮られているとき。
 - ・車両のけん引や雪道走行などの特殊な運転モードにある場合は、車線逸脱警告と車線逸脱防止を作動させることができません。
 - ・直射日光にさらされたり、極めて高温または極めて低温の環境下。
- ・以下の状況では、車線逸脱防止支援システムが作動しない、不適切に作動する、または解除される可能性があります。

⚠ 注意

- ・ 運転支援システム起動中（例：車両の電源投入直後、または運転支援システムの再起動時など）。
- ・ 運転支援システムの一般的な制限事項で取り上げられたシーンのとき。
- ・ 運転支援システムの故障または修理が必要なとき。

アダプティブヘッドライト (AFL)

機能説明

- ・ アダプティブフロントライティング (AFL)は、暗い環境下でドライバーがハイ

ビームを適切に使用できるよう支援する運転支援機能です。暗い場所ではロービームからハイビームに切り替えることで、ドライバーに最大限の視界を確保できます。前方に車両がいる場合は、他のドライバーの眩惑を防ぐために自動でハイビームからロービームに切り替えます。また、市街地やその他の条件下では、自動でハイビームからロービームに切り替えます。

機能設定

- ・ マルチメディア  → ライト → ヘッドライト → オートハイビームで、アダプティブヘッドライト機能を ON/OFF できます。
- ・ 再始動した後の設定は前回の設定になります。
- ・ アダプティブヘッドライト表示灯：

待機状態	有効状態	故障状態
		

ハイビーム ON/OFF 条件

- ・ 自動 ON 条件：
 - ・ ライトが「オートライト」モードのとき。
 - ・ 車速が 35km/h 以上、かつ 130km/h 未満のとき。
 - ・ 車両前方が暗い環境であるとき。
- ・ 自動 OFF 条件：
 - ・ 昼間/夜間の作動条件下で、運転環境周辺の道路照明が十分であれば、ハイビームを抑制します。
 - ・ 夜間の作動条件下で、車両前方の一定範囲内に他の道路利用者がいると、ハイビームを抑制します。
 - ・ 夜間の作動条件下で、ドライバーがターンシグナルランプを作動させると、

ハイビームを抑制します。ターンシグナルランプ消灯後、作動条件を満たすとハイビームが再度点灯します。

ⓘ お願い

- ・ システムの不具合または照明システムの故障は、アダプティブヘッドライトの機能に影響を与えます。
- ・ ドライバーが手動でハイビームを点灯させた場合は、アダプティブヘッドライトを抑制します。

⚠ 注意

- ・ アダプティブヘッドライトはライトを制御するための支援システムですが、システムはドライバーに完全に取って代わるものではないため、常

注意

に道路交通規則を遵守し、道路環境の変化に合わせてハイビームとロービームを適切に切り替えてください。

- ・衝突事故が発生した、またはカメラセンサーを脱着した場合は、システム性能への支障がないように、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にセンサーの校正を依頼してください。

警告

- ・様々な環境要因や条件に制限されるため、アダプティブヘッドライトが誤作動したり機能しなくなる場合があります。以下のような場合がありますが、これらに限定されません。
- ・濃霧や大雨、大雪などの運転が極めて不利な天候のとき。
- ・照明が弱い交通参加者（歩行者や自転車など）や、鉄道や水路に近隣する道路または野生動物が出没している道路を走行するとき。
- ・光を強く反射するものがあるとき（高速道路上の交通標識、路上の水たまりなど）。
- ・フロントガラスに曇り、汚れ、破損している、またはラベルや装飾などで覆われているとき。
- ・センサーやカメラが強い振動やレーザーなどの影響を受けているとき。

ドライバー注意喚起警告 (DAW)

- ・ドライバー注意喚起警告システムは、ステアリング角度、速度、シフトチェンジおよび車線変更など、車両に対するドライバーの操作状態からドライバーの疲労

度合いを評価します。評価結果に合わせてコンビネーションメーターのメッセージ表示および音声でドライバーに注意喚起し、運転の安全を高めます。

使い方

- ・車両が起動しているとき、マルチメディア  → **ドライブ** → **車内検知** → **ドライバー注意喚起警告** から設定できます。
- ・ドライバー注意喚起警告は センシティブ、Standard、OFF の 3 段階に設定可能です。

警告

- ・疲れている場合は、早めに車両を止めて休憩を取ってください。
- ・ドライバー注意喚起警告は補助的なシステムであり、いかなる場合でも危険を認識して警告を出すことができるものではなく、ドライバー自らの目視確認や判断に取って代わるものではありません。ドライバーは、常に車両をコントロールしながらすべての道路交通法を遵守して自己責任で運転してください。
- ・外部ノイズや車内オーディオの音量が大きい場合、警告音が聞こえない場合があります。

幼児置き去り検知 (CPD) *

- ・幼児置き去り検知 (CPD) *は補助的なリマインダー機能であり、車両の電源ポジションを「OFF」にした状態でドアを閉める、または施錠すると、車内に生命体が置き去りにされていないかを検知します。生命体が検出されると、システムはヘッドライトの点滅とホーンで警告を発し、エアコンを作動させて温度を調節します。

使い方

- ドライバーはマルチメディア  → **ドライブ→車内検知→幼児置き去り検知 (CPD)** から設定できます。
- 設定は「標準」、「遅延」、「OFF」の3種類があります。
- 車両を再始動すると、システムは前回選択した設定を維持します。
- 「OFF」を選択すると、機能は無効になります。
- 「遅延」を選択すると、警告機能は今回の運転のみ遅延して作動します (約5分)。

システムの作動条件

- 以下の条件がすべて満たされた場合、CPD システムは動作を開始します。
 - 車両の電源を切る。
 - 車両が静止した後、運転席ドアを開けてから閉める。
 - 車両のすべてのドアおよびテールゲートが閉まっている。
 - CPD 機能の設定が有効になっている。
 - CPD システムの故障がない。

システムの応答方法

- 機能が有効で「標準」の場合：
 - 車両の電源ポジションを「OFF」にして車両を施錠する場合、お子様などが車内に置き去りにされていることをシステムが検知すると、90 秒以内に初期警告を約 6 秒出します (ライトの点滅およびホーンを鳴らします)。
 - 車両の電源ポジションを「OFF」にして車両を施錠しない場合、お子様などが車内に置き去りにされていることをシステムが検知すると、290 秒以内に初期警告を約 6 秒出します (ライトの点滅およびホーンを鳴らします)。
- 機能が有効で「遅延」の場合：

- 車両の電源ポジションを「OFF」にしてドアを閉めた場合、お子様などが車内に置き去りにされていることをシステムが検知すると、5 分以内に初期警告を約 6 秒出します (ライトの点滅およびホーンを鳴らします)。
- 初期警告がキャンセルされていない場合：
 - 90 秒以内に警告レベルを上げ (ライトの点滅およびホーンを鳴らす) 約 25 分間継続します。
 - 警告レベルを上げてから約 3 分後、エアコンを約 30 分間作動させます。
- 警告のキャンセル：
 - 警告が作動した場合、マルチメディア PAD の通知ボタンを押すことで、今回の電源 OFF サイクル (今回の電源 OFF 開始から次の電源 ON まで) 内のすべての警告をキャンセルできます。
 - 警告が作動した場合、いずれかのドアを開けることで警告をキャンセルできます。ユーザーが車両のロックを解除すると、現在の警告を一時的にキャンセルできますが、ユーザーがいずれかのドアを速やかに開けない場合は、再度警告が作動します。

警告

- 幼児置き去り検知は補助的なシステムであり、警告漏れが発生する可能性があるため、いかなる状況においても効果的な識別と警告を保証することはできません。ドライバーは常に車内の生命体に注意を払い、安全に対して全責任を負う必要があります。

⚠ 警告

- ・事故を防ぐため、システムが警告を出したときは速やかにお子様などが車内に閉じ込められていないかを確認してください。

⚠ 注意

- ・システムは、大人やペットなどの生命体を検知した場合でも警告を発します。
- ・携帯用 APP によるリモート解錠で警告を消すことはできません。
- ・システムは、パワーバッテリー残量が少ないと警告を出せずエアコンを作動できないおそれがあるため、十分なパワーバッテリー残量を確保してください。

アクセルペダル踏み間違い防止 (AMAP)

- ・発進時または低速走行時にアクセルペダルを急激に踏み込み、システムが走行経路上の静止障害物（歩行者、車両など）と衝突するリスクを検知すると、アクセルペダル踏み間違い防止 (AMAP) 機能が作動します。車両の加速を抑制すると同時に、コンビネーションメーターに警告を出して衝突リスクを低減し、安全性を向上させます。
- ・機能の作動条件は以下の通りです。
 - ・設定項目の機能が ON になっている。

- ・車両の運転モードがノーマル/エコノミー/スポーツモードである。
- ・シフトレバーが「D」または「R」レンジに入っている。
- ・車両の走行速度が 10km/h 以下。
- ・すべてのドア、ボンネット、テールゲートが閉まっている状態。
- ・ドライバーがシートベルトを着用している。
- ・車両のドアミラーが展開されている。
- ・アクセルペダルを急激に踏み込んだとき。
- ・車両の進行方向に緊急衝突のリスクがあるとき。
- ・他の運転支援機能が OFF のとき。
- ・緊急ブレーキ機能が ON になっていないとき。
- ・車両に関連の故障がない。

ⓘ お願い

- ・機能作動時に車速が 5km/h 未満の場合は、車両のシフトポジションが「P」レンジに切り替わります。ドライバーが再度「D」または「R」レンジに入れた後、通常通り走行できるようになります。
- ・機能作動時、コンビネーションメーターには以下のようなメッセージが表示されます。

機能状態	コンビネーションメーター表示	警告音
AMAP 作動中	「障害物を検知しました。加速が抑制されています。アクセルペダルを軽く踏むと走行可能です」と表示	普通の警告音

機能設定

- 初期設定は「ON」で、ドライバーはマルチメディア  → ドライブ → アシスト (インテリジェントアシスト) 踏み間違い加速抑制で、この機能の ON/OFF を設定できます。再始動した後の設定は自動で「ON」になります。機能を OFF にする場合は、安全を確認した上で OFF にしてください。

システムの限界

- 機能が作動し、ドライバーが車両を制御した後、短時間に何度も作動条件を満たすと、機能が無効になる場合があります。
- ドライバーの操作や周囲の環境の影響により、機能が無効になる場合があります。例は以下の通りです。
 - 勾配の大きい路面。
 - 雨、雪、霧、煙霧などの悪天候。
 - 周囲が暗い場合や逆光の環境。
 - ブレーキペダルを強く踏み込んでいる。
 - ドライバーがステアリングホイールを大きく操作している場合、機能が作動しないことがあります。
- 以下のような場合は、車両状態や周辺環境の影響によりセンサーが正確に検知できないため、正常に作動しないことがあります。
 - センサーが遮られている (雪、氷、泥などで覆われている) 場合、または損傷している場合、機能が正常に作動しないことがあります。
 - 障害物がシステムの死角 (車両の前方または後方 0.2m 以内など) にある場合、機能が正常に作動しないことがあります。
 - 周囲環境に超音波干渉、無線干渉、強い騒音がある場合、機能が作動しない、または誤作動する可能性があります。
- 車両が重量物の積載または不均一な積載により車高が低くなったり、車体が大きく傾くと、機能が正常に作動しない可能性があります。
- 走行経路に突然車両が侵入したとき、機能が適時に作動しない可能性があります。
- 車両が通常とは異なる路面を走行している場合、機能が作動しない、または誤作動する可能性があります。
- 歩行者、自動車、自転車などの動的な障害物に対して、機能が作動しない、または誤作動する可能性があります。
- 直径が小さい細長い障害物 (ワイヤー、細いロープなど) に対しては、機能が作動しない場合があります。
- 空洞のある場所 (窪地、段差、溝、崖など) では、機能は作動しません。
- 縁石、マンホール、ゲートバーなどに対しては、機能が誤作動する可能性があります。
- 低い出入口や狭い出入口を通過しようしたり、不整地、草地、段差、冠水路面などの特殊な路面状況でアクセルペダルを深く踏み込むと、機能が誤作動する可能性があります。
- 斜めに設置された柱や壁が突き出ている、道路脇に障害物がある状態でアクセルペダルを深く踏み込むと、機能が誤作動する可能性があります。

警告

- この機能は運転支援機能であり、車両の加速を一定程度制限するのみです。過度に依存せず、ドライバーは常に注意を払い、適時にブレーキ操作して車両を停止させる責任があります。
- この機能は常用ブレーキ、電子パーキングブレーキ、自動駐車機能の代わりとして使用することはできません。この機能が障害物を認識して停

⚠ 警告

車した後も、車両が動く可能性があります。

- この機能は、車両の前方と後方で認識できる障害物が異なります。
- この機能を故意に作動させようとしないでください。
- アクセルペダル踏み間違い防止システムは、すべての状況においてアクセル操作ミス、過度なアクセル操作、または不注意による衝突を防止したり、衝突による損害を軽減したりできるものではありません。システム機能に依存して運転すると、衝突などの事故を引き起こし、生命の危険に至る可能性があります。ドライバーはシフトポジション、アクセルペダルの状態および周囲の環境を確認し、常に慎重に運転してください。

! お願い

- 運転中に急加速が必要な場合は、この機能を OFF にすることをお勧めします。
- 踏切内で立ち往生するなどの予期しない状況で、誤ってアクセルペダルを踏み込んでシステムが作動した場合は、ブレーキペダルを踏み、システムが解除されてから運転を再開してください。
- 路肩、縁石、または路面の段差によりシステムが作動し、停車や段差を越えるなどの障害物の通過ができない場合は、この機能を OFF にしてください。
- 車両が雪道や窪地で立ち往生し、脱出しようとした際にアクセルペダル踏み間違い防止機能が作動した場合は、ギアを入れ直した後、アクセルを急に踏まないようにするか、また

! お願い

は機能を OFF にしてから脱出を行ってください。

タイヤ空気圧モニタリング*

- タイヤ空気圧モニタリングシステム (TPMS)*は、タイヤの空気圧をリアルタイムにモニタリングすることで走行中の安全性や快適性を向上させ、空気圧不足によるタイヤの早期摩耗やエネルギー消費量の増加を低減する支援システムです。
- ステアリングホイールのボタン  を操作してメーターメニューに入り、 および  を操作して走行情報画面に切り替え、ホイール操作でタイヤ空気圧の表示画面を選択します*。

タイヤ空気圧モニタリングシステムの警告*

- システムが作動している状態で、いずれかのタイヤ空気圧が温度補正後の適正空気圧の 80% 以下になると、タイヤ空気圧故障警告灯  が点灯してタイヤ空気圧の値が黄色になります。ドライバーは車両を止めて該当のタイヤから空気が漏れていないかを点検し、空気圧が適正な範囲に入るように空気を補充してください。
- いずれかのタイヤ温度が 3 分間連続で 85°C を超えた場合は、システムが高温警告を発して対応するタイヤ温度の値が黄色になります。ドライバーは車両を止めて、該当のタイヤ温度が下がってから運転を再開してください。
- システム作動中に故障が起きた場合は、タイヤ空気圧故障警告灯が点滅してから常時点灯し、コンビネーションメーターに「信号異常」または「タイヤ空気圧モニタリングシステムを点検してください」と表示されます。対応するタイヤ空気圧モニタリングモジュールが正常であ

るか、長時間強い電界範囲に囲まれていないかを点検してください。警報が長時間続くときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に処置を依頼してください。

⚠ 警告

- タイヤの空気圧が正常でない場合でも、本システムは車両の走行を阻止することはありません。ドライバーは電源ポジションを「ON」にした状態でタイヤ空気圧がメーカー推奨の適正空気圧になっていることを運転前に点検してください。タイヤ空気圧がメーカー推奨の適正空気圧を満たしていないときは運転しないでください。車両の損傷や、自身または他人に怪我をさせるおそれがあります。
- 運転中にタイヤ空気圧の異常が見つかった場合は、ただちに空気圧を点検してください。タイヤ空気圧故障警告灯が点灯しているときは、急ハンドルや急ブレーキを避けながら速度を落とし、安全な場所に停車してください。
- 空気圧不足のまま走行し続けるとタイヤが破損して交換が必要になります。また、タイヤが大きく破損すると死傷者が出るほどの交通事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- モニタリングモジュールの使用時間は、毎日の走行距離などの要素に関係します。
- モニタリングモジュールは、タイヤ空気圧などの情報を定期的にコンビネーションメーターに送信しています。そのため、走行中に発生したタイヤ空気圧の急激な低下やバーストなどは、次にシステムが立ち上がるまでデータをコンビネーションメーターに送信することができないため、運転が制御不能になる場合があります。

⚠ 注意

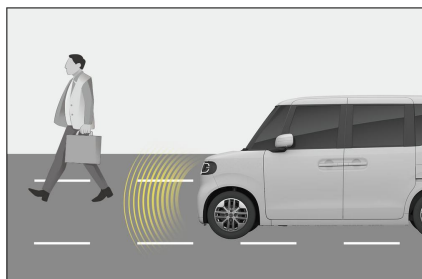
- ります。タイヤ破損と共にモニタリングモジュールも破損して情報が発信できない、またはタイヤの破損が疑われる場合は、コンビネーションメーターに警告が表示される前に、車両を安全な場所に停車させてください。
- モニタリングモジュールの取り付けを誤るとタイヤの気密性に影響を与えるため、モニタリングモジュールの取り付けや交換は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に依頼してください。
- タイヤ空気圧は外気温度により変化するため、コンビネーションメーターに表示されている空気圧および適正空気圧に合わせて、空気圧を調整してください。
- BYD 純正部品以外の電気部品を後付けしている場合は、システムが干渉を受けるおそれがありますが、システムの故障ではありません。

車両接近通報装置 (AVAS)

- 車両接近通報装置 (AVAS)は、低速走行時に歩行者に車両の接近を知らせるものです。

前進時

- 速度が $0\text{km/h} < V \leq 30\text{km/h}$ の場合、車両から一定間隔で警告音を出し続けます。
- 速度が $V > 30\text{km/h}$ の場合、警告音は自動で止まります。



後退時

- ・車両から一定間隔で警告音を出し続けます。

警告

- ・低速走行中に車両接近通報装置の通報音が聞こえない場合は、車両を安全で静かな場所に駐車し、ウィンドウガラスを開けてから「D」レンジにし、20km/h の一定速度で走行して音が聞こえるかを確認してください。音が聞こえないときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

BYD アラウンドビューシステム*

- ・BYD アラウンドビューシステム*は 360 度ビューシステムとも呼ばれ、車両の前後左右に設置された 4 つの広角カメラの画像をシームレスに合成したリアルタイム画像情報 (パードビュー画像) により、車両周辺の死角を把握し、ドライバーが車両の地面の死角をよりよく知るのに役立ちます。
- ・アラウンドビューは以下の方法で開きます。
 - ・マルチメディアのホーム画面で「車両カメラ」をタッチする。
 - ・ステアリングホイールの BYD アラウンドビューシステムボタンを押す (Ⓜ)。

- ・「R」レンジに入れる。



- ・BYD アラウンドビューシステム画面では、右側がサイドバー、中央が俯瞰合成画像、左側がシングルビュー/デュアルビューになっています。サイドバーのボタンは以下の通りです。

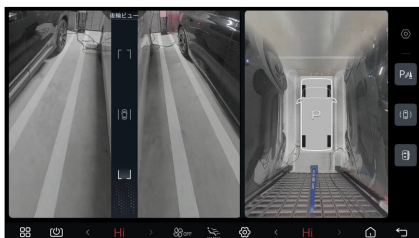
- ①BYD アラウンドビュー設定ボタン
- ② 後方レーダーボタン*
- ③デュアルビューボタン
- ④透明ボディーボタン



- ・後方レーダーのアイコンをタッチすると、レーダー表示が ON になり、再度タッチすると OFF になります。レーダー表示を ON にし、画像設定の「レーダー連動カメラ」設定項目のスイッチが ON の状態で車両が障害物に近づくと、カメラ映像に障害物警告が表示されます。
- ・デュアルビューボタンをタッチすると、シングルビューとデュアルビューの間で切り替えが可能です。
- ・マルチメディアのフロント側、リア側、レフト側、ライト側を表示するアイコンをタッチすると、左側の画面にフロント

ビュー、リアビュー、ライトビュー、レフトビューのシングルビューが表示されます。

- ・フロントビュー、リアビューで映像領域をダブルタップすると、180°視角の全画面表示に切り替わります。
- ・透明ボディーボタンをタッチすると、透明ボディーと現物ボディーの切り替えができます。
- ・始動直後、透明の全景画面には前回電源ポジション「OFF」時の画像が表示されるため、車両底部や周辺の死角領域にある物体は実物と異なる場合があります。車両が発進すると画像がリアルタイムで更新され、ボディー長と相当の距離以上を走行すれば更新が完了します。



警告

- ・BYD アラウンドビューシステムは、駐車や走行を補助するためのものであり、車両前後には死角領域が存在しているため、システムのみには頼るのは危険です。駐車または走行中の事故を避けるために、必ず室内外のバックミラーおよび直接目視で周辺状況を確認してください。
- ・システムは広角魚眼レンズを搭載しているため、表示画面に映っているものには若干の歪みが発生することがあります。
- ・BYD アラウンドビューシステムの画面に映されている距離は、目視で確認した距離とは異なることがあります。特に、障害物が車両に近くあるときは、室内ミラー、ドアミラー、

警告

および直接目視により、車両と障害物の距離を判断してください。

- ・ドアミラーが完全に展開されていない場合、およびすべてのドアが閉まっていない場合は、BYD アラウンドビューシステムを使用しないでください。
- ・カメラは、フロントバンパー、左右ドアミラーの下側およびリアライセンスプレートの上側に搭載されています。カメラの視界が異物などで遮られないようにしてください。
- ・カメラの故障や破損につながるおそれがあるため、カメラを叩かないでください。
- ・低速走行中、透明全景機能は速度の変化やブレーキ操作の繰り返しによる影響を受けるため、車両底部の画像位置が車外の画像と一致しないことがあります。

お願い

- ・始動直後のマルチメディアシステムが完全に立ち上がっていない状態では、BYD アラウンドビューシステムのスイッチ操作やシフトレバーを「R」レンジに入れても、BYD アラウンドビューシステム表示画面への出力が遅れたり画面がちらつくことがあります。これは、カメラ起動時の電源投入プロセスで正常な現象です。

バックモニターシステム*

- ・バックモニターシステム*は、車両後方の物体の画像をリアルタイムに表示してドライバーを支援します。これは駐車支援システムに該当します。

警告

- ・バックモニターのみに頼って駐車しないでください。画面上で感じる物体との距離と実際の距離には誤差があります。バックモニターシステムのみで頼って駐車すると、他の車両、歩行者、または障害物に衝突する可能性があります。駐車時には必ず室内ミラー、ドアミラーを併用し、直接目視で周囲の状況を確認してください。
- ・トランクが完全に閉まっていない場合は、システムを使用しないでください。
- ・バックモニターに表示される映像がぼやける、または暗くなることがあります。外気温が低い場合は、動いている映像が歪んだり、鮮明に見えなくなったりすることがあります。
- ・カメラが強い点光源を捉えた場合、画面上に光の斑点が表示され、周囲の景色に干渉して映像がはっきり見えなくなることがあります。
- ・ターニングシグナルまたはハザードランプを点灯している場合、または周囲に点滅する光がある場合は、バックモニターシステムを OFF にしてください。点滅する光は画面にちらつきを引き起こし、周囲の状況把握や駐車に支障を与えるため、事故を引き起こすおそれがあります。

注意

- ・以下の状況では、システムが正常に機能していても表示される映像が確認しにくい場合があります。
 - ・暗闇（夜間など）
 - ・レンズ付近の温度が極端に高い、または低いとき。
 - ・レンズに水滴が付着している場合や、湿度が非常に高いとき。

注意

- ・レンズに異物（雪や泥など）が付着しているとき。
- ・レンズに傷や汚れがあるとき。
- ・レンズに強い光が直接当たっているとき。
- ・追突されたり障害物に接触したりすると、カメラの位置と取り付け角度が変わります。BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、カメラの位置と取り付け角度を点検してください。
- ・カメラには防塵防水構造があるため、勝手に取り外し、分解または改造を行わないでください。そうしないと、操作できなくなるおそれがあります。
- ・温度変化が急激な場合は、システムが正常に作動しないおそれがあります。

お願い

- ・カメラに水跡、雪、泥などが付着した場合は、水で洗い流し、柔らかい布で拭き取ってください。油污れやゴムなどの拭き取りにくい汚れは、中性洗剤と水で洗い、柔らかい乾いた布で拭いてください。
- ・有機溶剤、カーウォックス、ウインドウクリーナー、またはガラスフィルムをカメラに付着させないでください。万が一付着した場合は、すぐに取り除いてください。

バック時の操作

- ・車両を駐車させる必要がある場合は、バックカメラシステムを作動させることができます。

- ・ 走行可能表示灯が「OK」の状態、シフトレバーを「R」位置に入れると、バックカメラ機能が作動します。

バックカメラ映像*

- ・ 表示されるエリアは、車両の進行方向や道路状況の違いにより異なります。
- ・ 本システムは駐車支援を目的としたものであり、過度に依存せず、バック時には十分なスペースがあることを確認してから操作してください。

駐車支援システム

- ・ 駐車支援システムには、バックソナー (Parking Distance Control, PDC) 機能が含まれています。
- ・ 車両が後退、駐車、狭い道路での走行中に障害物に遭遇した場合、バックソナーは超音波を利用して車両と障害物との距離を監視し、マルチメディアで視覚的に表示すると同時に、警告音を発して車両と障害物との距離情報をドライバーに知らせます。

機能設定

- ・ ドライバーはマルチメディア  → ADAS → **駐車補助** の設定画面から、後方レーダー機能の ON/OFF を設定することができます。
- ・ BYD アラウンドビュー画面のスイッチから、 後方レーダー機能の ON/OFF を設定することもできます。
- ・ 車両に後方レーダーボタン*が装備されている場合、このボタンを押すことで後方レーダー機能の ON/OFF を設定することができます。
- ・ 後方レーダー機能が ON の場合、ボタンのインジケータランプが点灯します。



! お願い

- ・ 後方レーダー機能を OFF にした後、車両を再起動し、シフトポジションが「R」以外から「R」に切り替わると、後方レーダー設定は ON 状態に戻ります。

機能 ON

- ・ 車両の電源が入っている状態で、「P」から「R」レンジに入れ、さらに「R」から「D」レンジに入れると、前後のレーダーが作動します。
- ・ 車両を「P」から「D」レンジに入れると、車両前方のレーダーが作動し、後方のレーダーは待機状態になります。
- ・ 車両が「P」レンジの場合、駐車支援システムは待機状態になります。
- ・ 車両が「N」レンジの場合、駐車支援システムは前のシフトポジション状態を維持します。
- ・ 駐車支援システムの作動速度範囲は 0 ~ 10km/h です。

! 注意

- ・ 駐車支援システムが警報を作動させ、車両が一定時間静止した後、後方レーダーはユーザーへの妨げを減らすため消音状態に入ります。車両が再び動き出したり障害物が近づいたりすると、警告音が再び鳴ります。

⚠ 注意

- ・ 駐車支援システムが作動し、車両がシステムの作動速度範囲内で一定距離走行すると、後方レーダーの検知距離範囲が変化しますので、慎重な運転を心がけてください。

- ・ システムが作動して障害物を検知すると、マルチメディアに線と距離数値で障害物の方位と距離情報を表示し、警告音で警告します。
- ・ 車両の真正面と真後ろの最大検知距離範囲は 120cm、前後コーナーの最大検知距離範囲は 60cm です。

視覚表示と音声警報

後方レーダー作動例(R レンジ)

警告範囲	視覚表示例	警告音
やや遠いが衝突の危険がある 約 71~120cm		ゆっくり鳴る
やや近い 約 31~70cm		速く鳴る
非常に近い 約 0~30cm		鳴り続ける

⚠ 注意

- ・ ギアポジションにより警報距離が異なりますので、慎重に運転してください。
- ・ 駐車支援システムに異常が発生した場合、メーターディスプレイに「バックソナーシステム故障」などの対応するメッセージが表示されます。
- ・ 車両が洗車モード*の時は、駐車支援システムは作動しません。
- ・ 周囲に障害物がないにもかかわらず警告が続く場合は、BYD 正規販売店で点検・修理を受けることをお勧めします。

または誤警告が発生する可能性があります。

- ・ レーダー表面の汚れ、取付位置のずれまたは位置ずれが発生した場合。
- ・ レーダーが雨雪、極端な高温または低温などの極端な気象条件の影響を受けた場合。
- ・ レーダーが異物（木の葉、泥など）、水、氷雪、車体カバー、曲がったり変形したナンバープレート、ナンバープレートフレームなどで遮られたり、その他の物体が近距離で遮っている場合。
- ・ 車両が過積載または不均一な積載により、車高が著しく変化したり、車体が著しく傾斜している場合。

システムの限界

- ・ 駐車支援システムは、以下の条件(ただし、これらに限定されない)において正常に作動せず、機能の不作動、警告の遅れ

- ・ 以下のような場面（ただしこれに限定されない）では、駐車支援システムは障害物の材質、形状などの様々な要因の影響により、機能の失効、警報の遅れ、または誤警報が発生する可能性があります。

- ・ 細い、尖った、低い、または宙に浮いた障害物、例えばケーブル、チェーン、柱の角、低い石垣、花壇、宙に浮いた消火器ボックスなど。
- ・ 障害物の表面材質が吸波特性を持つ場合、例えば積雪、綿素材など。
- ・ システムは、反射率が異なる道路の境界で誤警報を発する可能性があります。例えば、スロープの接続部、路面の継ぎ目、減速帯、マンホールの蓋など。
- ・ センサーの検知できない死角にある障害物、または車両に近すぎる障害物。
- ・ 横切る動的障害物、例えば成人、子供、二輪車など。
- ・ 車両周辺の外部からの超音波、大きな騒音、無線機器などによる干渉。
- ・ 車両に外部保護装置またはけん引装置を取り付けたとき。
- ・ 車速が速すぎるとき。

⚠ 警告

- ・ センサーの周辺に自転車ラック、外部保護装置などのアクセサリを取り付けしないでください。システムの正常な作動に影響を与えます。
- ・ レーダー領域にフィルムを貼る、純正以外の塗料で再塗装する、車体保護フィルムを貼る、またはコーティングを施すなどの操作を行わないでください。システムの正常な作動に影響を与えます。
- ・ センサーの検知には死角が存在するため、駐車支援システムはすべての状況において障害物を検知できるわけではありません。
- ・ いかなる場合においても、駐車支援システムを目視確認の代わりに使用することはできません。ユーザーは常に周囲の環境に注意を払い、この機能に過度に依存せず、必要に応じて直ちに停車してください。そうし

⚠ 警告

ないと、重大な財産の損害、人身傷害または死亡を引き起こす可能性があります。

安全運転支援システム

安全運転支援システムは、走行中の安全性を向上するためにさまざまな走行条件に合わせて自動で作動します。ただし、これらのシステムは補助的なものであり、車両を運転するときはシステムに過度に頼るべきではないことに注意してください。

インテリジェントパワーブレーキシステム

- ・ インテリジェントパワーブレーキシステムは、分離型電気油圧式ブレーキシステムで、マスターバック、電子真空ポンプおよびアンチロックブレーキシステム (ABS)、横滑り防止装置 (ESC) などの機能を集積しています。
- ・ インテリジェントパワーブレーキシステムは、ドライバーの制動操作上の必要性に応じて「オンデマンド」で車両の制動を支援し、車両の安定性や快適性を向上させ、制動エネルギーの回収効率を向上します。

ビークルダイナミクスコントロール (VDC)

- ・ 走行中に突然方向を切り替えた場合、VDC システムはステアリング角度や速度などの情報からドライバーの意図を判断し、車両の実際の状況と比較します。ドライバーの目的の車線から車両が外れると、VDC がサイドスリップの制御を支援し、車両の方向安定性を保つために関係車輪へ制動力を加えて修正を行います。

トラクションコントロールシステム (TCS)

- ・ TCS は、モーター出力を低減することで加速走行時の駆動輪のスリップ防止し、必要に応じて制動力を加えて駆動輪の空転を防止します。走行条件が悪いとき

は、TCS の作動により車両の発進、加速、上り坂の走行が容易になります。

警告

- 下記の場合は、TCS の機能が効果的に発揮できないことがあります。
- 滑りやすい路面を走行するときは TCS が正常に作動しますが、方向が制御できなかったり必要な駆動力が出ないことがあります。
- 安定性や動力が維持できなくなる状況では、車両を運転しないでください。

ヒルスタートホールドコントロール (HHC)

- ブレーキペダルを離した後、HHC は、約 1 秒間ブレーキ油圧を保持して車両の後退を防止します。

ハイドロリックブレーキアシスト (HBA)

- ドライバーが素早くブレーキペダルを踏んだ場合、システムが緊急ブレーキと認識してブレーキ油圧を能動的に高めることで、ABS をより早く介入させて制動距離を効果的に短くすることができます。

減速度制御 (CDP)

- 「P」ボタンを押し続ける、または EPB スイッチ (装備されている場合) を引き続けると CDP 機能が作動し、車両が一定の減速度で停車するまでブレーキを掛けます。ドライバーが「P」ボタンまたは EPB スイッチ (装備されている場合) を離すと、CDP が機能を停止します。

コンフォートブレーキ (CST)

- コンフォートブレーキ機能：緊急時以外の減速・停止時に、インテリジェントパワーブレーキシステムが 4 つのブレーキの油圧を制御することにより、停車時のサスペンションの揺れや衝撃を軽減させ、ドライバーにスムーズなコンフォートブレーキを提供します。

- ドライバーはマルチメディア  → **ドライブ** → **運転管理** → **快適駐車 (コンフォートパーキング)** で、この機能の ON/OFF を設定することができます。

- コンフォートブレーキが作動すると、制動距離が約 2 ~ 5cm 長くなることがあるため、停車前に先行車や前方障害物との距離を適切に空けてください。

ブレーキアシストモード

- ブレーキアシストモードは、ブレーキペダルフィーリングの調整に使用します。ブレーキペダルの深さと車両減速度の関係曲線がモードによって異なるため、ドライバーはお気に入りのブレーキペダルフィーリングを選択することができます。
- ドライバーはマルチメディア  → **運転** → **運転管理** → **ブレーキアシストモード** で、「快適 (コンフォート)」または「スポーツ」を選択して、ペダルフィーリングを調節してください。

ブレーキディスクワイピング

- ワイパースイッチを ON にする、または雨量センサーが雨滴を検知すると、インテリジェントパワーブレーキシステムが 4 つのブレーキにブレーキ油圧を軽く加え、ブレーキパッドをブレーキディスクに当ててブレーキディスクに付いている水分を落とすことで、ブレーキの素早い発揮や制動距離の短縮を図ります。
- システムが雨やワイパーの ON 信号を検知すると、安全性を向上させるために一定間隔でブレーキディスクの拭き取りを繰り返します。

横滑り防止装置 (ESC)

- 発進時にスリップや後退のおそれがある場合、またはいずれかの駆動輪が空転している場合、ESC 故障警告灯  が点滅し、ESC が作動していることを示します。この場合は慎重に運転してください。

警告

- ・車両を起動して走行可能表示灯を「OK」にしたとき、ESC が正常であれば、ESC 故障警告灯は数秒間点灯した後に消灯します。
- ・ESC 故障警告灯が下記の状態になった場合は、ESC に故障がある可能性があります。早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、車両の点検を依頼してください。
- ・走行可能表示灯を「OK」にしたとき、この警告灯は点灯しません。
- ・運転中に警告灯が点灯し続ける。

ESC を OFF にする

- ・積雪やぬかるみでスタックした場合、ESC はパワートレインからホイールへの出力を下げる場合があります。スタックした状態から脱出するときは、ESC を OFF にしてください。
- ・マルチメディア  → 運転 → 運転管理 → ESC OFF で、ESC を ON または OFF にできます。
- ・車両に ESC OFF スイッチ*が装備されている場合は、ESC OFF スイッチを押すことでも ESC を ON または OFF にすることができます。



- ・ESC を OFF にした場合、ESC OFF 警告灯  が点灯します。

警告

- ・ESC を OFF にした場合、ブレーキ時に ESC システム機能が作動しないため、急なコーナリングや突然現れた障害物を回避する際に車両が不安定になるため、ドライバーは十分注意して低速で走行してください。
- ・ESC は車両の安定性と駆動力を確保してくれるため、必要がない状況を除き OFF にはしないでください。

注意

- ・ESC を OFF にすると、システムは作動状態をリアルタイムで監視します。ESC 作動中の場合は、すぐに「OFF」コマンドを実行せず、まず能動的な制御介入を完了します。制御介入が完了するまでは、ESC が OFF になりません。
- ・ESC を再び ON にする際、システムが急に ON することがないように、ESC が車両走行の制御に介入していない場合のみ、再び ESC 機能を ON にすることができます。

ESC OFF スイッチの誤操作*

- ・ESC OFF スイッチを押し続ける時間が 10 秒を超えると、システムはそれを誤操作と判断し、ESC の内部機能はすべて正常に動作し続けます。

ESC の再開

- ・ESC を OFF にした後、車両を再起動すると、ESC は自動で ON になります。
- ・ESC が OFF の状態で速度がしきい値 (80km/h) を超えると、車両の姿勢が極めて不安定になるため、ESC が自動で ON になります。

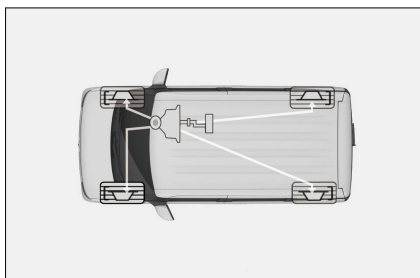
⚠ 警告

タイヤおよびサスペンションの ESC システムへの影響

- すべてのタイヤは、寸法、ブランド、トレッドパターン、軸荷重を同一にしてください。推奨空気圧になるまでタイヤに空気を入れてください。
- 異なる種類のタイヤを装着すると、ABS と ESC が正常に作動できなくなります。
- タイヤチェーンを装着すると、ESC、TCS が正常に作動しない場合があります。
- タイヤやホイールの交換については、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にお問い合わせください。
- 不具合があるタイヤの使用やサスペンションの改造は、安全運転支援システムに影響を与え、システムの故障を引き起こすおそれがあります。

アンチロックブレーキシステム (ABS)

- アンチロックブレーキシステム (ABS) は、急ブレーキや滑りやすい路面でのブレーキ操作時に、車輪のロックを防止してステアリング制御の維持に役立ちます。
- ABS 油圧システムには 2 つの独立した回路があり、それぞれの回路は対角線上にあります (右側フロントブレーキと左側リアブレーキとの接続など)。一方の回路が故障しても、もう一方の回路でホイールに制動力を加えることができます。



- ABS が作動すると、メーターの ESC 表示灯  が点滅し、ブレーキペダルが振動して、その作動音が聞こえることがあります。これは、ABS のポンピングブレーキによるもので異常ではありません。このとき、ブレーキペダルは踏み続けてください。断続的に繰り返し踏み踏むと、ABS が正常に作動しなくなる可能性があります。
- 危険を回避するためにハンドルを操作する場合は、ABS が作動するようにブレーキペダルを強く踏み続けてください。

⚠ 警告

- ABS は、制動時にドライバーのステアリング制御を補助するものであるため、車両を停止させるのに必要な時間および距離を短縮させることはできません。ドライバーは常に他の車両との安全な車間距離を保ってください。
- ABS は、安定性の低下を防ぐことはできないため、急ブレーキ時は適切なハンドル操作を行ってください。また、急カーブや狭いカーブでは、対向車線に飛び出したり道路からはみ出たりするおそれがあります。
- ABS は、急旋回や急な車線変更などのハンドル操作によるスリップを防ぐことはできません。路面状況および天候を問わず、常に安全な速度で慎重に運転してください。
- 滑りやすい路面や軟弱な路面、デコボコ路 (冠水しているコンクリート

警告

路面、冠水しているエポキシ樹脂系塗り路面、砂利道や積雪路面など）を走行する場合、ABS 搭載車は、非搭載車と比べると制動距離が長くなる場合があります。この場合は、速度を落として他の車両との車間距離を十分に確保してください。

- 車両が低速走行時は、車両の正常な停車を確保するため、ABS 機能は作動しません。
- 以下の場合は、ABS を効果的に発揮できません。
 - グリップ力が弱いタイヤを使っているとき（雪が積もっている路面で過度な摩耗があるタイヤを使うなど）。
 - 滑りやすい路面を高速走行するとき、または車両がスリップしたとき。
- ABS は、制動距離の短縮を目的として設計されたものではありません。次のような場合は、必ず先行車との車間距離を確保してください。
 - 滑りやすい路面、ぬかるみ、砂利道や積雪路面を走行するとき。
 - ヘコみが多い道路、または平坦でない道路を走行するとき。
 - デコボコ路を走行するとき。
- パーキングシステム故障警告灯  と ABS 故障警告灯  が同時に点灯した場合は、ブレーキをかけてもアンチロックブレーキシステムが機能せず、車両姿勢も極めて不安定な状態になるため、直ちに安全な場所に車両を停止し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場への連絡をお勧めします。

05

車内装置

マルチメディアシステム.....	180
空調システム.....	186
BYD App.....	191
収納ボックス.....	192
その他の装置.....	197

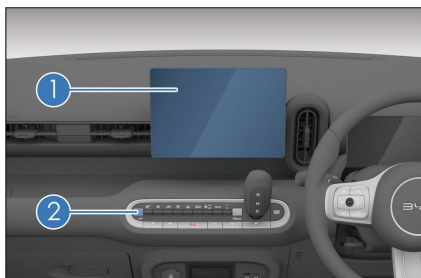
マルチメディアシステム

マルチメディアコントロールパネル PAD

- 車両の走行可能表示灯を「OK」にすると、初期画面を数秒表示してからシステムが作動します。マルチメディア関連の機能を使用するときは、インターネットに接続してから使用してください。

① マルチメディアタッチスクリーン

② ホイールボタン



- マルチメディアが作動している状態でホイールボタン②を1回押すと、オーディオがOFFになります。再度押すと、オーディオがONになります。3秒以上長押しすると、マルチメディアが再起動します。
- マルチメディアが作動している状態で上方向（フロント方向）にホイールボタンを回すと、音量が上がります。下方向（リア方向）にホイールボタンを回すと、音量が下がります。音量は0～39で変化し、音量が0のときは、ステータスバーにミュートマークが表示されます。

時刻と日付

- 本車両は自動的にインターネットに接続し、時刻と日付を同期することができます。

- 車両の時刻と日付を手動で設定する場合は、マルチメディア  → システム → 一般 で設定します。
- **自動時刻補正**：車両の時刻と日付の同期機能を ON/OFF できます。
- **時間**：自動時刻補正を OFF にすると、車両の時刻と日付を手動で設定できます。
- **タイムゾーン**：自動時刻補正を OFF にすると、現在のタイムゾーンを手動で設定できます。
- **時刻表示**：車両の時刻表示形式を設定します。12 時間または 24 時間を選択できます。

工場出荷時の設定に戻す

- ドライバーはマルチメディア  → システム → バージョン → 工場出荷時の設定に リセットのリセットボタンをタッチすることで、工場出荷時設定に戻すことができます。
- 工場出荷時設定へのリセット機能を使用すると、マルチメディア機器内のすべてのデータが工場出荷時の状態に戻ります。
- 工場出荷時の状態に戻している間は、車両の電源を切らないでください。また、エラーの発生を防ぐためマルチメディア機器のアイコンに触れないでください。
- 工場出荷時の状態に戻す作業は、2～5 分かかります。しばらくお待ちください。

警告

- 車内でハイパワーインバーターを使わないでください。マルチメディアシステムの異常につながるおそれがあります。
- オペレーティングシステム入れ替えや Root 化は禁止です。マルチメデ

⚠ 警告

エアシステムや車両の異常につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- ・ タッチスクリーンの損傷を防ぐため、使用時は指でタッチスクリーンを軽くタッチしてください。反応がないときは、タッチスクリーンから指を離し、再度タッチしてください。
- ・ グレー表示のアイコンは操作できません。
- ・ タッチスクリーンの温度が低いと、表示された画像が暗く見えたり、システムの作動がいつもより遅いときがあります。
- ・ サングラスをかけてタッチスクリーンを見ると、暗く見えたりきれいに見えないときがあります。タッチスクリーンの角度を変えるか、サングラスを外してください。
- ・ お手入れの際は、柔らかい布でタッチスクリーンを拭き、洗剤は使わないでください。
- ・ タッチスクリーンの表示は参考表示であり、具体的には現物に準じます。

ナビゲーションバー

☰ : アプリセンターボタンをタッチすると、アプリを確認して開くことができます。

🔒 : 画面オフボタンをタッチすると、画面はスリープ状態になります。再度画面をタッチすると、メイン画面に戻ります。

⚙ : 車両設定画面になります。

🏠 : メイン画面アイコンをタッチすると、メイン画面に戻ります。

⬅ : 前の画面に戻す、またはプログラムを終了します。

ジェスチャーおよび応答

ジェスチャー操作および応答は次の通りです。

- ・ タッチ : アプリケーションを立ち上げる、機能を選択する、スクリーン上のキーを押す、スクリーンのキーで文字を入力する場合は、スクリーンをタッチしてください。
- ・ ドラッグ : アイコン、サムネイル、またはプレビューを移動する場合は、押しながら目的の位置にドラッグして離してください。
- ・ スワイプ : メイン画面、またはアプリケーションの画面でこの操作を行うことができます。
- ・ ピンチイン/ピンチアウト : 指2本で画面をタッチして間隔を広げると、画像の一部分を拡大表示できます。間隔を縮めると縮小表示できます。
- ・ 3本の指でタッチして左/右にスワイプ : エアコンの風量を調整します。
- ・ 3本の指でタッチして上/下にスワイプ : エアコンの温度を調整します。
- ・ 画面の上から下にスワイプ : ショートカットメニューを開きます。
- ・ 画面の左側/右側を内側にスライド : 戻るを実行します。

シーンモード

洗車モード*

- ・ 車両が洗車モード*に入ると、窓が自動で閉まってミラーが自動で格納します。

使い方

- ・ 洗車前に、マルチメディアのクイックアクセスバーを下にスライドして、シーンモードから洗車モードを選びます。
- ・ 洗車モードに入ると、ウィンドウ、電動スライドドア*などのシステムが自動的

に閉じられ、同時にマルチメディア PAD に関連システムの状態が表示されます。

- 車両がコンベア上で洗車される場合は、ドライバーは「自動洗車」をタッチし、操作指示に従って自動洗車モードに入ることができます。自動洗車モードに入ると、自動でドアミラーが格納して「N」レンジに入ります。
- 洗車が終了したら、ドライバーはシフトを操作するだけで洗車モードを終了できます。

注意

- 洗車モードに入る前に、車速が 15km/h 以下であることを確認してください。車速が 15km/h を超えると、洗車モードは自動で終了します。
- 自動洗車タッチした後、ブレーキを踏んで「D」レンジに入れると、自動洗車モードに入ります。
- 洗車の安全を確保するため、コンベア上での自動洗車時には車両から離れないでください。

スマートフォンと車載システムの連携*

スマートフォンと車載システムの連携*とは、スマートフォンを車載システムに接続し、特定のアプリケーションを介して一部のスマートフォン機能を車載システム上で使用することを言います。

警告

- 慎重に運転してください。思わぬ事故を起こすおそれがあるため、運転中は注意散漫にならないようにしてください。

お願い

- シフトポジションを「P」に切り替え、マルチメディアシステムを ON にします。スマートフォンと車載システムの連携用アプリの設定が完了した後に車両を運転してください。
- 初期設定時は、スマートフォンまたはマルチメディアタッチスクリーンで認証操作が必要となる場合があります。スマートフォンのセキュリティ情報を確認し、プライバシーポリシーに同意して必要な認証を完了してください。
- 有線接続時は、スマートフォンのデータケーブルを車載システムの USB データ転送ポートに接続してください。
- 無線接続時は、まず Bluetooth のペアリング接続を完了してください。スムーズにペアリングするため、接続中はスマートフォンの Bluetooth、Wi-Fi、位置情報サービスを ON にしてください。
- スマートフォンと車載システムの連携機能の安定性を確保するために、車両のホットスポット名を変更して名前の重複による干渉を避けることができます。
- スマートフォンがモバイルデータ通信範囲内にあり、利用可能なデータ通信量があることを確認してください。
- スマートフォンと車載システムの連携サービスが利用できるかどうかは、国や使用言語によって異なります。一部のサービスを利用するには、サブスクリプションが必要な場合があります。
- ネットワーク干渉により無線接続が不安定になる可能性があります。

Apple CarPlay

有線接続*

- ・ **有線接続を有効にする**：対応するデータケーブルでスマートフォンを車両の USB データ転送ポートに接続すると、Apple CarPlay に接続できます。スクリーンミラーリングが成功すると、デバイスリストに現在のスマートフォンの情報が 1 件追加されます。
- ・ **有線接続を切り離す**：USB データケーブルを抜くと、Apple CarPlay ソフトウェアが終了します。

無線接続*

- ・ **無線接続を有効にする**：以下の手順に従って操作します。
 1. マルチメディアのアプリケーション画面で Apple CarPlay アイコン  をタッチし、画面表示に従ってスマートフォンと車両の Bluetooth ペアリングを行います。
 2. Bluetooth 接続が成功したら、画面表示に従って Apple CarPlay の接続を完了します。
- ・ **無線接続を切り離す**：以下のいずれかの方法を選択してください。
 - ・ 車載システム側でホットスポットを OFF にします。
 - ・ 車載システム側の接続済みデバイスリストからスクリーンミラーリングデバイスを削除または切断します。
 - ・ 車載システム側の Bluetooth リストからスクリーンミラーリングデバイスを削除します。
 - ・ 現在スクリーンミラーリング中のデバイスの Bluetooth に接続します。

！ お願い

- ・ 現在の CarPlay が切断された後は、他の CarPlay デバイスに自動的に接続されることはありません。

再接続する

- ・ USB を再接続し、有線 Apple CarPlay を再起動します。
- ・ Apple CarPlay アイコンをクリックし、無線 Apple CarPlay を再起動します。

Apple CarPlay と車両マルチメディアシステムの切り替え

- ・ Apple CarPlay 画面を終了する：Apple CarPlay 画面の BYD アイコン  をタッチします。
- ・ Apple CarPlay 画面に入る：マルチメディアのアプリケーション画面から Apple CarPlay アイコン  をタッチします。

複数デバイスの切り替え

- ・ クイックアクセスバーの接続済みデバイスアイコンから、接続済みデバイスリストに入ります。
- ・ デバイスリストは無線デバイスの切り替えのみをサポートしています。新しい無線デバイスを選択するとデバイス切り替えの通知が表示されます。有線接続デバイスに切り替えるには USB ケーブルを再接続する必要があります。
- ・ スマートフォンがワイヤレススクリーンミラーリングを実行中に、他のスマートフォンの USB を挿入すると、デバイス切り替えの通知が表示されます。

よくある質問

- ・ **スマートフォン状態の確認**
 - ・ スマートフォンのモデルや iOS バージョンが低いと、Apple CarPlay の動作が遅くなることがあります。
 - ・ スマートフォンの通信状況が良好であることを確認してください。スマートフォンの通信状況が悪いと、アプリの動作が遅くなることがあります。
- ・ **車載システムとの接続の確認**
 - ・ 有線接続を使用する場合は、データポートに接続されていることを確認し、

できるだけ MFi 認証のケーブルまたは Apple 純正のケーブルを使用してください。

- 無線接続を使用する場合は、以下の設定が正しいことを確認してください。
 - Bluetooth と Wi-Fi が ON になっている。
 - 初めて Apple CarPlay に接続する際は、「無線 CarPlay オン」を選択されていることを確認してください。確認できない場合は、スマートフォン側の設定→一般→CarPlay でご自身の車両をタッチし、「この車両を無視する」をタッチしてください。同時に、車両のデバイスリストから現在のスマートフォンデバイスを削除してください。その後、Apple CarPlay を再設定してください。
 - 現在接続している車載システムの Bluetooth/ホットスポット名が他と重複していないことを確認してください。
 - スマートフォンの Siri がオンになっていることを確認してください。
 - スマートフォンの Apple CarPlay に制限がかかっていないことを確認してください。
- Apple CarPlay が iPhone を検出しない場合は、スマートフォンの「設定→スクリーンタイム→コンテンツとプライバシーの制限」に移動してください。「コンテンツとプライバシーの制限」がオンになっている場合は、「許可されたアプリ」をタッチし、Apple CarPlay が有効になっていることを確認してください。
- 有線接続中にデータケーブルを抜いても無線接続を試みても接続できない場合は、スマートフォンの CarPlay 設定からデバイス情報をクリアするか、スマートフォンを再起動して復旧させてください。

- Apple 公式ウェブサイトでの Apple CarPlay の使用可能地域を調べてください。

Android Auto

有線接続

- 有線接続を有効にする**：対応するデータケーブルを使用して、Android Auto 機能に対応したスマートフォンを車両の USB データ転送ポートに接続し、画面の指示に従って Android Auto の設定を行います。
- 有線接続を切り離す**：Apple USB データケーブルを抜くと、Android Auto ソフトウェアが終了します。

無線接続

- 無線接続を有効にする**：以下の手順に従って操作します。
 - マルチメディアのアプリケーション画面で Android Auto アイコン  をタッチし、画面表示に従ってスマートフォンと車両の Bluetooth ペアリングを行います。
 - Bluetooth 接続が成功したら、画面表示に従って Android Auto の接続を完了します。
- 無線接続を切り離す**：以下のいずれかの方法を選択してください。
 - 車載システム側でホットスポットを OFF にします。
 - 車載システム側の接続済みデバイスリストからスクリーンミラーリングデバイスを削除または切断します。
 - 車載システム側の Bluetooth リストからスクリーンミラーリングデバイスを削除します。

再接続する

- USB を再接続し、有線 Android Auto を再起動します。

- Bluetooth を再接続するか、Android Auto アイコンをタッチして、無線 Android Auto を再起動します。

Android Auto と車両マルチメディアシステムの切り替え

- Android Auto 画面を終了する：Android Auto 画面のアイコンをタッチします。
- Android Auto 画面に入る：マルチメディアのアプリケーション画面から Android Auto アイコンをタッチします。

複数デバイスの切り替え

- デバイスリストは無線デバイスの切り替えのみをサポートしています。新しい無線デバイスを選択するとデバイス切り替えの通知が表示されます。有線接続デバイスに切り替えるには USB ケーブルを再接続する必要があります。
- スマートフォンがワイヤレススクリーンミラーリングを実行中に、他のスマートフォンの USB を挿入すると、デバイス切り替えの通知が表示されます。

よくある質問

- スマートフォン状態の確認
 - お使いのスマートフォンが Google サービスをサポートしていることを確認してください。
 - 最新バージョンの Android Auto アプリがインストールまたは更新されているか確認してください。
 - 車内で Android Auto を使用できるのは、この機能に対応した Android スマートフォンだけです。Google の公式サイトにアクセスして対応機種と対応地域を確認してください。
 - スマートフォンとマルチメディアタッチスクリーンの接続が正常であるかを確認します。

- 有線接続：高品質のデータケーブルでスマートフォンを車両の USB データ転送ポートに接続します。

- 無線接続：スマートフォンの Bluetooth と Wi-Fi がオンになっていることを確認してください。車両の Bluetooth とホットスポットもオンになっていることを確認してください。

Android Auto に再接続できない場合

使用中に再接続できない場合は、以下の操作を試して復旧してください。

- 有線接続が再接続できない場合は、スマートフォンの純正データケーブルを交換します。
- 無線接続が再接続できない場合は、スマートフォンの接続を削除して再接続し、スマートフォン内の接続済みデバイス情報を削除してください。スマートフォンの「設定」で Android Auto 設定を検索または開き、「以前に接続した車両」を選択します。右上のオプションボタンをタッチした後、「すべての車両を削除」をタッチしてください。

商標の所有権に関する法的声明

- Apple CarPlay は Apple Inc. の商標です。
- Android と Android Auto は Google LLC の商標です。

OTA アップデート

- 本車両はソフトウェアアップデート機能を備えており、車両のソフトウェアアップデートが必要な場合は、ソフトウェアアップデートを促すメッセージが表示されます。
- マルチメディア  → システム → バージョン → バージョンアップデートで車両システムをアップグレードします。

注意

- OTA アップデートは、車両を安全な場所に駐車してから「P」レンジにし、モバイル通信ネットワークが正常な接続状態にある場合にのみ実行できます。
- OTA アップデート中は車両を充電できません。そのため、アップデートを実行する前に車両が完全に充電されていることを確認してください。
- OTA のアップデート前およびアップデート中は、車載診断ポートにサードパーティ製デバイスを取り付けしないでください。
- OTA アップデート中は、車両を走行させることはできません。車両の施錠/解錠、室内灯スイッチ、緊急警告灯、パワーウィンドウスイッチ機能以外のすべての車両機能が一時的に無効になります。
- OTA アップデートが失敗し、メーター上の故障警告灯（パーキングブレーキ故障警告灯、ABS 故障警告灯、パワートレイン故障警告灯など）が異常点灯した場合は、車両を運転せず、速やかに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡して車両状態を点検してください。

お願い

- アップデート操作の手順は、車載システムの実際の手順と若干異なる場合がありますので、実際の手順に従って操作してください。
- OTA アップデート完了後、車両の一部の機能が変更されることがあります。新しいバージョン番号をタッチすることでアップデート内容を確認し、更新された機能を再度チェックすることができます。

Bluetooth

Bluetooth 接続

1. Bluetooth 電話画面で Bluetooth 接続アイコンをタッチすると、接続画面に遷移します。
2. 「デバイスを検索」をタッチして、利用可能なデバイスを検索します。
3. 接続可能な機器を選択してペアリングします。携帯電話とマルチメディアタッチスクリーンのペアリングコードが合っていることを確認します。
4. 接続完了後、接続済み機器の詳細設定を行うことができます。

Bluetooth 電話

携帯電話が Bluetooth に接続されると、Bluetooth 電話機能が使用できるようになります。

- 連絡先、最近の通話記録、不在着信記録から番号を選択して発信することができます。または、テンキーパッドで電話番号を入力して電話を掛けることもできます。
- 着信、発信、通話中には、対応するボタンをタッチして電話に出る、電話を切る、または通話画面を拡大/縮小できます。
- 映像画面が表示されている状態で着信がある場合は、最小化ウィンドウで開きドライバに伝えます。

空調システム

エアコンパネルイメージ

フロントエアコンパネル

- ①風量調節ボタン
- ②冷房ボタン
- ③循環ボタン

- ④吹き出しモードボタン
- ⑤フロントデフロスターボタン
- ⑥電気式デフロスターボタン
- ⑦エアコン ON/OFF ボタン
- ⑧オートボタン
- ⑨エアコン温度調節ボタン

エアコン操作画面

フロントエアコン操作画面



- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1 エアコン操作画面ボタン | 8 冷房ボタン |
| 2 シートベンチレーション/ヒーター画面ボタン | 9 換気ボタン |
| 3 エアコン設定ボタン | 10 オートボタン |
| 4 急速冷房ボタン | 11 エアコン ON/OFF ボタン |
| 5 フロントデフロスターボタン | 12 温度調節ボタン |

6 電気式デフロスターボタン

7 循環ボタン

13 吹き出しモードボタン

14 風量調節ボタン

エアコン設定項目

①エアコンオートモード設定

- ・エコまたは快適を設定することができます。

②リモートエアコンスケジュール設定

- ・リモートでエアコンを起動した際の運転時間を選択できます。

③駐車時の自動内気循環切り替え設定

- ・駐車時の自動内気循環切り替えの ON/OFF を設定することができます。

④Bluetooth 通話中のエアコン風量自動調整設定

- ・Bluetooth 通話中のエアコン風量自動調整の ON/OFF を設定することができます。



機能定義

- ・前席のエアコンパネルのボタンを上下に操作するか、マルチメディア上のエアコン操作画面ボタンをタッチすると、エアコン機能を設定できます。

エアコン ON/OFF ボタン

- ・エアコン ON/OFF ボタンを操作するか、マルチメディア上の対応するボタンをタッチすると、エアコンを起動または停止できます。

オートボタン

- ・オートボタンを操作するか、マルチメディア上の対応するボタンをタッチすると、吹き出し温度、風量、吹き出しモードなどが自動的に調整されます。
- ・風量や吹き出しモードを設定すると、オートモードが OFF になります。設定した操作機能を除き、その他の機能はオートモードのままです。

冷房ボタン

- ・冷房ボタンを操作するか、マルチメディア上の対応するボタンをタッチすると、冷房機能を ON または OFF にできます。

急速冷房ボタン

- ・マルチメディア上の急速冷房ボタンをタッチすると、エアコンの急速冷房制御を ON または OFF にできます。
- ・エアコンが急速冷房制御に入ると、コンプレッサーが ON になり、温度が Lo、風量が最大、外気導入/内気循環状態が内気循環、吹き出しモードが上半身送風になります。

フロントデフロスターボタン

- ・このボタンを操作するか、マルチメディア上の対応するボタンをタッチすると、フロントガラスの霜取りモードを ON または OFF にできます。

電気式デフロスターボタン

- ・このボタンを操作するか、またはマルチメディア上の対応するボタンをタッチすると、ドアミラーおよびリアガラスのヒーター機能が作動し、視界が素早くクリアになります。その後操作がない場合は、15 分間作動してから自動的に OFF になります。

- 再度このボタンを操作するか、マルチメディア上の対応するボタンをタッチすると、この機能を OFF にできます。
- リアガラスおよびドアミラーデフロスター機能は、雨滴を乾燥させたり雪を溶かしたりするものではありません。

⚠ 注意

- ドアミラーデフロスター機能を ON にすると、ミラー表面が熱くなりますので、ミラー面に触れないでください。

💡 お願い

- 長時間ドアミラーデフロスター機能を使うとガラスの早期劣化につながるおそれがあるため、不要なときは早めに OFF にしてください。

循環ボタン

- 循環ボタンを操作するか、マルチメディア上の対応するボタンをタッチすると、送風モードが内気循環と外気導入の間で切り替わります。

💡 お願い

- 駐車時オートリサキュレーションの設定が ON になっている場合、車両が駐車されるとエアコンは内気循環モードに切り替わり、空気の質を確保し、排気ガスが車内に侵入するのを防ぎます。

換気ボタン

- マルチメディアのエアコン操作画面の換気ボタンをタッチすると、換気モードの ON/OFF を切り替えることができます。
- エアコンが換気モードの場合は、自然風を吹き出します。

温度調節ボタン

- 温度調節ボタンを上動かすと、エアコンの温度が上がります。温度調節ボタンを下動かすと、エアコンの温度が下がります。
- マルチメディアのエアコン操作画面で、温度数値を下にスワイプすると、エアコンの温度が上がります。上にスワイプすると、エアコンの温度が下がります。
- 温度を最小に調節すると「Lo」と表示され、温度を最高に調節すると「Hi」と表示されます。

吹き出しモードボタン

- 上下に吹き出しモードボタンを動かすと、エアコンの吹き出しモードが切り替わります。
- マルチメディア画面上の対応するボタンを押して、対応する吹き出しモードを選択することもできます。
- 吹き出しモードは自由に組み合わせることができ、必要に応じて吹き出しモードを3つまで同時に作動させることができます。以下のように吹き出しモードを調節することができます。

← : 主に上半身へ送風します。

↓ : 主に足元へ送風します。

🌀 : 主にフロントガラスおよびサイドウィンドウガラスに送風します。



風量調節ボタン

- 風量調節ボタンを上動かすと、エアコンの風量が強くなります。ボタンを下動かすと、エアコンの風量が弱くなります。

- ・マルチメディア画面上の対応するボタンを操作して、エアコンの風量を調節することもできます。段数が高いほど、風量は大きくなります。

ご利用要領

- ・車内の温度が高い場合は、車内の温度を素早く下げるために窓を開けて数分間運転してください。熱気を車外へ出すことで、素早く車内を冷やすことができます。
- ・車内の温度を素早く下げるには温度を「Lo」に調節し、内気循環モードで一定時間エアコンを稼働してください。
- ・急いで冷やしたい場合は、急速冷房モードをONにしてください。エアコンが自動的に最適な冷房運転状態になり、車内環境を素早く快適にします。
- ・エアコンの効果が期待通りでない場合は、エアコンのオートモードをオンにすることをおすすめします。このモードでは、エアコンは自動的に適切な吹き出し温度、モード、および風量を調整し、乗員の快適性に関するニーズを満たします。
- ・フロントガラス前のエアインレットグリルが、落ち葉や雪などで詰まっていないことを確認してください。
- ・冷房を作動させた後、吹き出し口から霧が噴き出すことがありますが、これは湿った空気が急速に冷却されたことによるものであり、正常な現象です。湿気の多い天候では、冷気がフロントガラスに当たらないようにしてください。フロントガラスが曇ることがあります。
- ・車内の空気循環をよくするために、フロントシートの下に荷物を置かないでください。
- ・ウィンドウガラスの曇りを低減するため、寒いときは風量を強で1分間稼働し、吸気経路にある雪や湿気を取り除いてください。
- ・寒いときは、車内の温度を素早く上げるために内気循環で数分間エアコンを稼働します。車内が温まった後、窓の曇りを防ぐために、外気循環を選択します。
- ・寒冷時にオートエアコンモードを使用する場合、始動直後は空気温度が低いため、足元への風量は少なく、デフロスター吹き出し口の風量が多くなります。車内温度の上昇に伴い、足元への風量は徐々に増加します。
- ・暖房時、吹き出し口を足元に設定しても、上半身の暖房ニーズに対応するため、デフロスター吹き出し口からも温風が出ます。
- ・ほこりが多い道路で他の車両に追従して走行する、または風とほこりがある状況で走行するときは、すべてのドアガラスを閉めてエアコンを内気循環に設定し、エアコンのファンをONにすることをおすすめします。
- ・駐車時の自動内気循環切り替え設定がONになっている場合は、車内の空気の質を確保するため、排気ガスが車内に入らないように駐車時循環モードが内気循環に切り替わります。
- ・暖房運転時、冷房ボタンを押してボタンが点灯すると、空気中の湿気を減らすことができます。
- ・車両がエコモードで走行している場合、航続距離を延ばし、エアコンの消費電力を削減するため、エアコンの効きが弱くなることがあります。
- ・エアコンの風を長時間身体に当てないでください。特に子供、高齢者、皮膚が敏感な方、病気の方などはご注意ください。皮膚が長時間冷風や温風にさらされると、凍傷ややけどを引き起こす可能性があります。
- ・換気モードでは、車外の自然な空気を車内に導入するため、春や秋の運転に適しています。
- ・エアコンをON/OFFする際に、わずかな異音が発生することがありますが、これは正常な現象です。

！ お願い

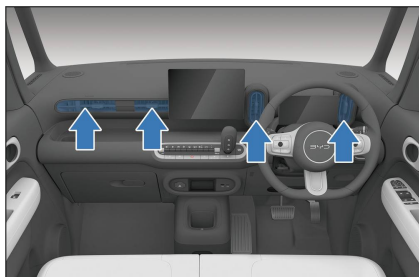
- ・ エアコンの異臭について：
 - ・ エアコンを初めて作動させた際、送風にカビ臭さを感じる場合がありますが、これは異常な現象ではありません。エアコン使用中はエバポレーターにエアコンの結露水や、フィルターで除去されなかった車内の乗員の汗や煙の粒子などが付着しやすいからです。湿ったエバポレーター表面には細菌が繁殖しやすく、長時間発酵すると異臭が発生しやすくなります。
- ・ 異臭の防止、軽減について：
 - ・ 停車前にエアコンを消し、外気導入で換気することにより、比較的乾燥した状態を保つことができます。
 - ・ エアフィルターを定期的に点検、清掃、交換します。
 - ・ できるだけ車内を清潔にし、車内の空気をきれいに保ちます。
- ・ 前述の操作を行っても異臭が改善されない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で修理してください。
- ・ エアコンからの異臭を改善するために、エアコンが作動している状態で車両の電源ポジションを「OFF」にしてから施錠すると、エアコンのブローパワーがしばらく作動し続ける場合がありますが、異常ではありません。これは、エバポレーター表面の結露を乾燥させてエバポレーター表面のカビによる異臭を防ぐためです。

吹き出し口

フロント吹き出し口

- ・ 調節レバーを操作すると、風量や風の向きを調節することができます。

- ・ 調節レバーを端まで操作すると、吹き出し口を閉じることができます。



BYD App

BYD App

BYD APP の紹介

- ・ BYD APP は、BYD が自ら開発した車両のインターネット関連モバイル APP で、遠隔制御や車両状況チェックなどの機能を手軽に実行でき、お客様を車のインターネットクラウド時代に導いてくれます。
- ・ Google Play、App Store などでキーワード「BYD」を検索し、BYD APP をダウンロード・インストールしてください。

アカウント登録

BYD APP をダウンロードしてインストールした後、携帯電話上の指示または次の手順に従って、登録およびアカウントへのサインインを行います。

1. APP を立ち上げて [登録] をタッチし、「登録」画面に入ります。
2. ご購入の際にディーラーで登録したメールアドレスを入力して [メールを送信] をタッチし、キャプチャ認証文字を取得します。その後 APP に戻りキャプチャ認証文字を入力します。

3. サインインパスワードの設定画面に入ってからパスワードを設定した後、[登録完了]をタッチするとメイン画面に入ります。

注意

- 必ずディーラーで登録したメールアドレスを入力してください。そうしないと、登録が完了できません。

車両状態および車両制御システム

APP トップページに入ると、車両に関連する情報や該当の制御項目を調べることができます。

1. トップページでは、車両の航続可能距離、バッテリー残量、異常情報、走行状態、充電状態、エアコン作動情報、ドアとウィンドウの状態、シートの通気・加熱状態、タイヤ空気圧の異常などを調べることができます。
2. 施錠、解錠のアイコンをタッチすると、該当の機能を直接制御することができます。
3. エアコンは、トップページで ON/OFF ができ、カードをタッチするとエアコン制御画面に入り、温度などを設定することができます。
4. シート、ドアとウィンドウ、タイヤ空気圧は、トップページ下の各制御項目をタッチして該当の画面に入り、状態を調べることができます。
5. お客様の同一アカウントに複数台の車両が登録されている場合は、車両名称をタッチすると車両を切り替えることができます。

注意

- APP の制御機能は主に遠隔制御シーンに対応するものであり、当該機能を利用する際は、携帯電話と車両をインターネットに接続している状態にしてください。

注意

- 車両を通信状況の悪い場所（例えば地下駐車場内）に駐車し、ユーザーがリモートキーを携帯していない場合、APP の制御機能のみでは解錠・施錠ができないおそれがあります。

個別センターおよび車両管理

トップページ右上のアイコンをタッチすると、個別センター画面を表示することができます。

- **車両管理**にアクセスすると車名とナンバーを変更できます。
- **アカウントとセキュリティ**に入ると、パスワードのリセットまたは変更ができます。
- **設定**に入ると、プッシュ通知の対象項目の選択や自動ログインなどの機能を ON/OFF できます。
- **当社について**に入って、プライバシーポリシーをご覧ください、ご意見のフィードバックをお願いします。

収納ボックス

グローブボックス

- スイッチを外側に動かすと、グローブボックスを開けることができます。
- グローブボックスを押し上げると、閉めることができます。



! お願い

- ・ 思わぬ事故や急ブレーキ時に怪我をする可能性を減らすため、運転時はグローブボックスを開めてください。
- ・ グローブボックスを開けるときは、ゆっくりと操作してください。蓋が突然全開になり、身体にぶつかって怪我をする可能性があります。

駐車券収納ボックス

- ・ 運転席側インストルメントパネルにあり、駐車券などを入れることができます。
- ・ 駐車券収納ボックスの蓋板の凹部を外側に引くと、開けることができます。



フロント収納ボックス

センターコンソール下部収納ボックス

- ・ フロントセンターコンソールの下には小物を収納できる収納ボックスがあります。
- ・ 収納ボックスのカバーを外側にスライドさせると開きます。



センターコンソール収納トレイ

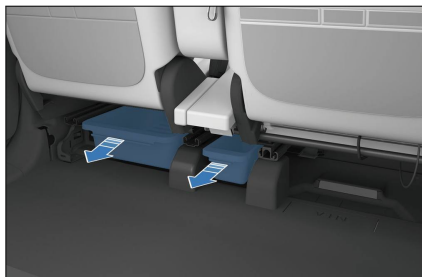
- ・ フロントセンターコンソールには、スマートフォンやカードなどの小物を収納できる収納トレイがあります。



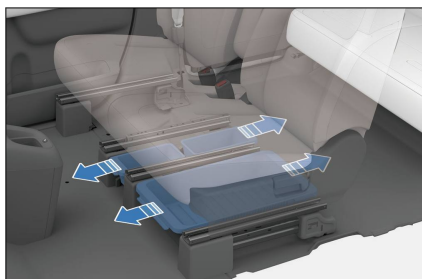
フロントシート収納ボックス*

- ・ 助手席シート下方、フロントシートアームレスト下方に収納ボックス*が設けられています。
- ・ 収納ボックスを使うときは、収納ボックス外側のハンドルを上方向に軽く持ち上げ、さらに外側に水平にゆっくりと引き出します。
- ・ 収納ボックスを収納する際は、ボックスをカーペットの上に置き、ゆっくりとシート下方に押し込み、収納ボックスが下

がって位置決め穴に固定されるまで押し込みます。収納ボックスの前後方向を区別してください。



- 助手席シート下方の収納ボックスは前方または後方に引き出すことができます。
- フロントシートアームレスト下方の2つの収納ボックスは、それぞれ前方または後方だけに引き出すことができます。



警告

- 車両を始動する前に、フロントシート収納ボックスが閉じられていることを確認してください。そうでないと、走行中に予期しない事故が発生する可能性があります。
- 車両の走行中にフロントシート収納ボックスを操作しないでください。

注意

- 収納ボックスを収納する際は、勢いよく押し込まないでください。勢いよく押し込むと、収納ボックスが反

注意

対方向に飛び出すおそれがあります。

- 収納ボックスを収納した後、前後左右に揺らして、収納ボックスが正しい収納位置にあることを確認してください。
- フロントシートの収納ボックスには小物のみを収納してください。物品の高さは収納ボックスの高さを超えないようにしてください。物を高く入れすぎると、シート調整機能の妨げになり、走行中に収納ボックスから落下するおそれがあります。
- 各収納ボックスの最大積載量は 2kg です。

センターコンソールボックス*

- センターコンソールボックス*を使用するには、運転席側にあるボタンを押してカバーを開けます。



警告

- シートベルトを着用する際は、ベルトをアームレストに掛けしないでください。万が一事故が発生した場合、シートベルトが機能せず、重大な傷害を引き起こす可能性があります。

⚠ 警告

- ・ アームレストおよびアームレストボックスを操作する際は、アームレストの隙間に挟まれないようご注意ください。絶対に、お子様にアームレストおよびアームレストボックスを操作させないでください。

⚠ 注意

- ・ アームレストの上に座ったり、荷物を置いたりしないでください。
- ・ アームレストに大きな力を加えないでください。アームレストが破損する可能性があります。

❗ お願い

- ・ 走行中は、センターコンソールボックスを閉めたままにしてください。

ドアポケット

- ・ フロントドアには、ペットボトルや小物などを格納するためのドアポケットが付いています。



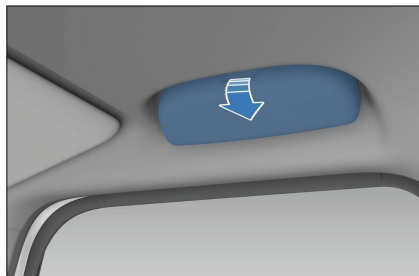
トランクポケット

- ・ トランクの左右側面にポケットがあります。



メガネケース*

- ・ メガネケース*は運転席ドア上部に位置し、下に回して開けます。



シートバックポケット*

- ・ フロントシートバックには、雑誌、新聞などを入れるためのシートバックポケット*が設けられています。



05

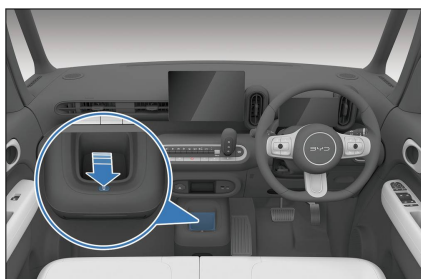
車内装置

フロントカップホルダー

- ・運転席側、助手席側のセンターコンソールに、カップや灰皿またはペットボトルなどを格納するためのカップホルダーがあります。



- ・フロントセンターコンソールの下に保温カップホルダー*が設置されています。
- ・保温カップホルダーの縁にあるボタンを押すと、保温機能がオンになり、指示灯が点灯します。
- ・もう一度同じボタンを押すと、保温機能がオフになり、指示灯が消灯します。



- ・保温カップホルダーに不具合がある場合、ボタンの指示灯が点滅します。保温カップホルダーをオフにし、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

⚠ 警告

- ・走行中に飲み物がこぼれないように、蓋が付いていないカップやしっ

⚠ 警告

かりと蓋をしていないボトルは、カップホルダーに入れないでください。熱い飲み物をこぼすと、保温カップホルダーが損傷したり、やけどを引き起こす可能性があります。こぼれた液体はドライバーの注意をそらし、事故発生のリスクを高めます。

- ・やけどや機器の故障を防ぐため、保温カップホルダーを使用する際は以下の事項を守ってください。
- ・カップホルダーに衝撃や強い力を加えないでください。
- ・カップホルダーをご自身で取り外しまたは改造しないでください。
- ・カップホルダーの内側に触れないでください。
- ・カップホルダー内部に液体が飛散しないようにしてください。
- ・大きすぎる、または不適切な容器を無理に保温カップホルダーに入れないでください。
- ・カップホルダー内にスマートキー、金属物、ライター、可燃物や爆発物などを置かないでください。

! お問い合わせ

- ・中身をこぼさないために、カップやペットボトルはカップホルダーに格納してください。
- ・車両の電源ポジションを「OFF」にした場合、保温カップホルダー機能はオフになります。

傘ホルダー

- ・フロントシートバックの側面には、傘ホルダー*が設置されており、長柄の傘を固定することができます。

- ・フロントアームレスト下のホルダー*を引き出し、傘の先端部分をホルダーに入れることで、傘の水が車内に流れ込むのを防ぐことができます。



⚠ 注意

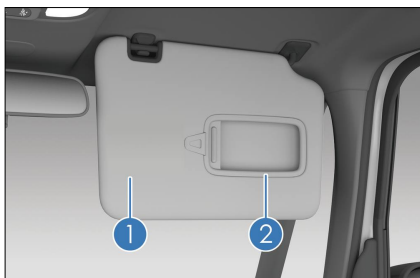
- ・傘ホルダーは長柄の傘を固定する目的でのみ使用でき、その他の物品を固定したり吊り下げたりすることには使用できません。

その他の装置

サンバイザー

① サンバイザー

- ・前方からの日差しを遮るには、サンバイザーを下方向に操作してください。
- ・側方からの日差しを遮るには、サンバイザーを下げた状態でフックから外して横へ回します。



② バニティーミラー

- ・バニティーミラーは運転席側および助手席側サンバイザーに付いています。
- ・サンバイザーを下ろし、バニティーミラーのカバーを開けるとバニティーミラーを使用できます。バニティーライトが自動的に点灯します。

❗ お願い

- ・正しく適切にサンバイザーを使うと、運転時の快適性や安全性を向上させることができます。

アシストグリップ

- ・アシストグリップは、乗車時に身体を安定させるための補助として使用できます。
- ・アシストグリップを使うときは下に引き、使わないときは手を離すと自動で戻ります。



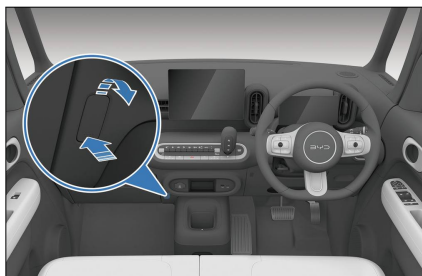
⚠ 警告

- ・アシストグリップは、乗降時の補助として使用しないでください。外れて怪我をするおそれがあります。
- ・怪我やアシストグリップの破損を避けるため、アシストグリップに重量物をかけないでください。

フック

フロントセンターコンソールフック

- ・フロントセンターコンソールの左下にフックが設置されています。フックの下部を押すと上部が開き、物を掛けることができます。



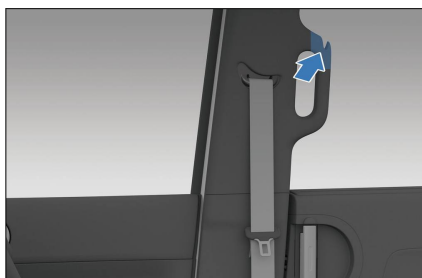
トランクフック

- ・トランク左側のインナーパネルに固定式フックが設置されています。物を掛けることができます。



アシストグリップフック

- ・両側 B ピラーのアシストグリップにはフックが付いており、衣類、手提げ袋/バッグ、リュックサックなどを掛けることができます。



⚠ 注意

- ・人身事故やフックの破損を避けるため、耐荷重（3kg）以上の物を掛けないでください。
- ・液体などのこぼれやすいものを掛けないでください。

USB ポート

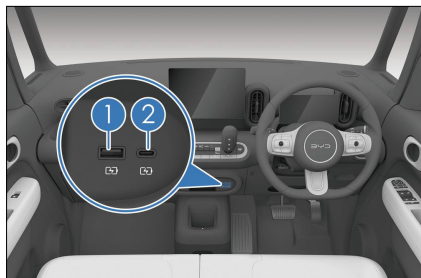
センターコンソール USB ポート

- ・センターコンソールの下部には USB ポートが 2 つ設置されており、充電専用です。

①Type-A ポート。

②Type-C ポート。

- ・使用時は、事前に車両の走行可能表示灯を「OK」にしてください。



⚠ 警告

- ・USB ポートに液体や金属製の異物などを落とさないでください。故障の原因となる可能性があります。
- ・車両から離れるときは、デバイスを車内で充電したままにしないでください。
- ・車内温度が高すぎると、USB ポートが給電を停止することがあります。

⚠ 警告

- USB ケーブルを強く抜き差ししたり、USB ポートに強い力や衝撃を加えたりしないでください。

マルチメディアコントロールパネルの USB ポート

- マルチメディアコントロールパネルの右側に、データ転送用の Type-C ポートが設置されています。



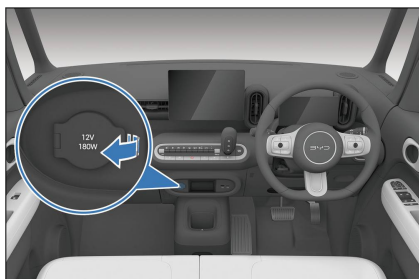
⚠ 注意

- フォーマット形式 FAT32、ExFAT、NTFS、メモリ容量が 8~128G の USB デバイスを使用してください。
- 本マルチメディアシステムまたはユーザーの USB デバイスに入っているデータの破損を避けるために、特殊な USB デバイスを使わないでください。

車載電源

フロント側 12V アクセサリー電源

- フロント側 12V アクセサリー電源はセンターコンソール下部にあり、保護カバーを開けると使用できます。
- 12V アクセサリー電源を使用する際は、車両の走行可能表示灯を必ず「OK」の状態にしてください。



⚠ 警告

- 車両から離れる際は、アクセサリ電源ソケットに接続した機器を取り外し、保護カバーを閉じてください。
- 使用しないときは、速やかに電源ソケットの保護カバーを閉じて、液体や異物の侵入による故障や火災を防いでください。

⚠ 注意

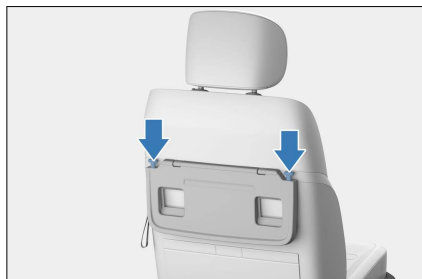
- アクセサリ電源は、動作電流 15A 未満、かつ消費電力 180W 未満のアクセサリに対応します。
- 12V アクセサリー電源は車載アクセサリに給電します。

後席小型テーブル*

- テーブルはフロントシートのシートバックに折りたたまれていました。
- テーブルを展開するには、テーブル中央部分を上方に持ち上げ、軽く上方に押し、カチッという音がするまで押し上げ、テーブルが固定されていることを確認してください。
- テーブル中央部分を下方に押し、テーブルを折りたたんでください。



- ・各テーブルには2つのフックが付いています。



⚠ 警告

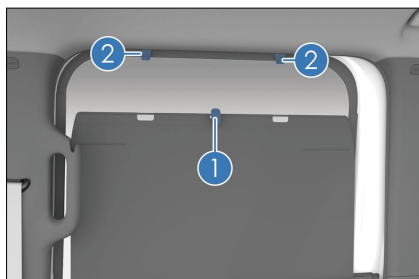
- ・テーブルを使用する際は、以下の注意事項を遵守してください。そうしないと、事故や急ブレーキの際に負傷する可能性があり、最悪の場合死亡に至ることもあります。
- ・操作時は、手をテーブルの収納位置に置かないでください。回転機構に注意しないと手を挟む可能性があります。
- ・走行中にテーブルを開けないでください。
- ・テーブルに2kg以上の物を置かないでください。重い物を置くと、テーブルが閉じて思わぬ怪我をする可能性があります。
- ・テーブルを使用する際は、手で押さないでください。テーブルが突然閉じて思わぬ怪我をする可能性があります。

⚠ 警告

- ・フックに1kg以上の物や大きすぎる物を掛けしないでください。フックが破損する原因となることがあります。
- ・使用しない時は必ずテーブルを収納してください。
- ・テーブルが展開された状態で、前席シートを調整しないでください。テーブルの破損や、後席の乗員が思わぬ怪我をする可能性があります。
- ・フロントシートバックを倒す前に、テーブルが閉じていることを確認してください。これによりテーブルの破損を防ぎます。

リアウィンドウサンシェード

- ・リアスライドドアの窓には手動式サンシェード*が装備されています。
- ・サンシェードハンドル①をしっかりと握り上方に引き上げて、天井フック②にかけると、サンシェードが固定されます。
- ・サンシェードハンドル①をしっかりと握って外し、ゆっくり下ろすと、サンシェードが収納されます。



警告

- ・ サンシェードを引き上げたり下ろしたりする際は、サンシェードハンドルをしっかり握ってください。途中で手を離すと、急速に巻き上がるサンシェードにより怪我をする恐れがあります。

注意

- ・ 天井フックはサンシェードを固定するためにのみ使用してください。他の物を吊り下げないでください。事故発生時に、吊り下げた物が衝撃やエアバッグの展開により飛散し、乗員の傷害を悪化させる可能性があります。
- ・ サンシェードを強く引っ張ったり、天井のフックに強い力を加えたりしないでください。
- ・ 走行中にサンシェードを使用する場合は、あらかじめ使用する側の窓を閉めてください。
- ・ 窓やスライドドアの開閉時は、サンシェードを操作しないでください。サンシェードが破損する可能性があります。

06

お手入れとメンテナンス

メンテナンスについて.....	204
定期メンテナンス.....	208
セルフメンテナンス.....	216

メンテナンスについて

メンテナンス周期およびメンテナンス内容

車両メンテナンス計画

- ・メンテナンス計画は、安定した走行、故障の低減、安全運転およびエコ運転を実現するために設計されています。
- ・メンテナンス周期表には、車両を常に最適な運転状態に保つために必要なすべて

のメンテナンス項目を記載しています。これらは特に重要なメンテナンス項目であるため、表に明記されている周期でメンテナンスを行ってください。

- ・メンテナンス項目に記載されているホースに劣化や破損などが起きた場合は、直ちに交換してください。ホース（冷暖房システム、ブレーキシステムなどに使われるホース）は、メンテナンス周期表に従い、専門の技術者に点検を依頼してください。

メンテナンス周期

メンテナンスは、走行距離と使用時間のうち、いずれか早い方に準じて行います。

メンテナンス項目	メンテナンス周期
シャーシ各部固定ネジの確認および締め付け	12 ヶ月または 20000km 毎に点検する。
ブレーキパッドとディスクを点検	12 ヶ月または 20000km 毎に点検する。
ブレーキペダルと電動パーキングブレーキスイッチの点検	初回は 6 ヶ月または 5000km で点検し、二回目は 24 ヶ月または 40000km で点検する。その後は 24 ヶ月または 40000km 毎に点検する。過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月または 20000km で点検する。その後は 12 ヶ月または 20000km 毎に点検する。
ブレーキシステムのラインおよびホースを点検	初回は 6 ヶ月または 5000km で点検し、二回目は 24 ヶ月または 40000km で点検する。その後は 24 ヶ月または 40000km 毎に点検する。過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月または 20000km で点検する。その後は 12 ヶ月または 20000km 毎に点検する。
ブレーキキャリパー ASSY のガイドピンを点検	初回は 12 ヶ月または 20000km で点検する。その後は 24 ヶ月または 40000km 毎に点検する。
ステアリング、タイロッドの点検	初回は 12 ヶ月または 20000km で点検する。その後は 24 ヶ月または 40000km 毎に点検する。
ドライブシャフトダストブーツの点検	24 ヶ月または 40000km 毎に点検する。過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月または 20000km で点検する。その後は 12 ヶ月または 20000km 毎に点検する。

メンテナンス項目	メンテナンス周期
ボールジョイントダストブーツの確認	24 ヶ月または 40000km 毎に点検する。過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月または 20000km で点検する。その以後は 12 ヶ月または 20000km 毎に点検する。
前後サスペンションの確認	24 ヶ月または 40000km 毎に点検する。過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月または 20000km で点検する。その以後は 12 ヶ月または 20000km 毎に点検する。
前後輪アライメントの点検	24 ヶ月または 40000km 毎に点検する。過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月または 20000km で点検する。その以後は 12 ヶ月または 20000km 毎に点検する。
タイヤと空気圧の確認 (TPMS を含む)	初回は 6 ヶ月または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月または 20000km で点検する。その以後は 12 ヶ月または 20000km 毎に点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
タイヤの摩耗状況を確認 (毎月 1 回以上空気圧とタイヤを点検)	メンテナンス時に点検を行い、必要に応じてタイヤのローテーションを実施する。 過酷な使用条件の場合、点検頻度を増やし、必要に応じてタイヤのローテーションを実施する。
ホイールベアリングの遊びを確認	24 ヶ月または 40000km 毎に点検する。過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月または 20000km で点検する。その以後は 12 ヶ月または 20000km 毎に点検する。
EPS グラウンドに異物や焼損がないかを確認	12 ヶ月または 20000km 毎に点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
EPS コネクタの緩みがないか、コネクタのピンが焼損していないかを確認	12 ヶ月または 20000km 毎に点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
EPS ECU が腐食していないかを確認	12 ヶ月または 20000km 毎に点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
EPS ECU とモーターの接続に異物や腐食がないかを確認	12 ヶ月または 20000km 毎に点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
サブタンクの冷却水レベルを確認	初回は 6 ヶ月または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月または 20000km 毎に点検する。その後は 12 ヶ月

メンテナンス項目	メンテナンス周期
	または 20000km で点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
ブレーキフルードの点検	初回は 6 ヶ月または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月または 20000km 毎に点検する。その後は 12 ヶ月または 20000km で点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
車両モジュールの故障コードを確認 (記録後にクリア)	12 ヶ月または 20000km 毎に点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
パワーバッテリートレイ、クラッシュ ユパー、ガード、防爆バルブ、断熱 綿、取付部のトルクを確認	12 ヶ月または 20000km 毎に点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
パワートレインに液漏れや衝突など がないかを確認	12 ヶ月または 20000km 毎に点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
高電圧ワイヤーハーネスまたはコネ クタの緩みがないか、ピンが焼損し ていないかを確認	12 ヶ月または 20000km 毎に点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
高電圧モジュールの外観部品の変 形、油の付着の有無を確認	12 ヶ月または 20000km 毎に点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
各充電コネクタのインターフェース に異物、焼損などがないかを確認	12 ヶ月または 20000km 毎に点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
高電圧部品に浸水の痕跡がないか を確認	12 ヶ月または 20000km 毎に点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
車両モジュールのソフトウェア更新 がないかを確認し、あれば更新する	初回は 3 ヶ月または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月または 20000km で点検する。その後は 12 ヶ月または 20000km 毎に点検する。破損がある場合は、早めに交換する。
電球と LED が正常に点灯してい るかを確認	初回は 6 ヶ月または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月または 20000km 毎に点検する。その後は 12 ヶ月または 20000km で点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
ハイビームアシストが正常かを確認	12 ヶ月または 20000km 毎に点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
ロービームの高さ調整が正常か を確認	10000km 毎に校正する。

メンテナンス項目	メンテナンス周期
HEC フィルター (クリーンエアフィルター) の確認* (HEC : High-Efficiency-Carbon)	12 ヶ月または 20000km 毎に定期点検し、必要に応じて交換する。環境が極端に悪い地域では、6 ヶ月毎に点検し、必要に応じて交換する。
ドアストッパーの確認 (湿らせた柔らかい布でチェックロッドのほこりを取り除き、チェックロッド、リベットジョイント、回転軸に 0.3 ~ 0.8g のグリスを塗布)	12 ヶ月または 20000km 毎に点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
ボンネットロックおよびストライカーを確認	12 ヶ月毎に点検する。
スライドドアのレール、ローラー、およびセンターレールの耐磨耗プレートの摩耗状態を点検	12 ヶ月または 20000km 毎に、砂塵や異物を除去し、潤滑グリスを塗布する。
スライドドア上部のガイド機構可動部のゴムパッドの摩耗状態を点検	12 ヶ月または 20000km 毎に交換する。
ワイパーアームロックナットのトルクを確認	12 ヶ月または 20000km 毎に点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
パワーモーター冷却水の交換	4 年または 100000km 毎にロングライフ有機酸系冷却水を入れ替える。
ブレーキフルードの交換	2 年または 40000km 毎に入れ替える。
トランスミッションオイルの交換	初回は 24 ヶ月または 40000km で、その後は 24 ヶ月または 40000km 毎にギアオイルを入れ替える。
注意 : シャーシ各部固定ネジの確認および締め付けを点検するとき、シャーシ部品に異常や破損が見つかった場合は、早めに交換してください。	

- 通常のメンテナンス周期表に従って、車両のメンテナンスを実施してください。

! お願い

- パワーバッテリーを最適な状態に保つため、定期的 (少なくとも 6 ヶ月、または 72000km で、いずれか早い方に準ずる) にフル放電とフル充電を行い、バッテリーの自己校正による活性化を行います。または BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にバッテリー容量の

! お願い

テストおよび校正を依頼してください。

- 過酷 (劣悪) な使用条件では、メンテナンス周期表に従ってメンテナンス項目を追加する必要があります。過酷な使用条件とは、以下のようなものを指します。
 - ほこりの多い地域を走行する、または塩分を含む空気にさらされる場合。
 - デコボコした道路、浸水した道路や山道を走行する場合。

- ・寒冷地を走行する場合。
- ・パワートレインの長時間アイドルが頻繁に発生する場合、または寒冷期に短距離走行を頻繁に行う場合。
- ・頻繁にブレーキをかける、または急ブレーキをかける場合。
- ・頻繁にトレーラーをけん引する場合。
- ・タクシーまたは商用車として使用する場合。
- ・気温が 32℃以上で、交通量の多い市街地を走行する時間が、総走行時間の 50%を超える場合。
- ・気温が 30℃以上で、120km/h 以上の速度で走行する時間が、総走行時間の 50%を超える場合。
- ・頻繁に過積載で走行する場合。
- ・所定のメンテナンス記録：
 - ・BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で、所定のすべてのメンテナンス記録をフォームに記入してもらうことを推奨します。お客様の車両に対して行われたメンテナンス作業のすべての領収書を保管してください。

定期メンテナンス

定期メンテナンス

- ・車両を最適な稼働効率で運転して故障の発生を減らすため、メンテナンス周期表に従ってメンテナンスを実施してください。
- ・メンテナンスの間隔は、メンテナンス周期表を参照して走行距離や時間間隔に合わせて判断し、いずれかの早い方に準じます。
- ・期限を過ぎたメンテナンス項目も、同じ間隔でメンテナンスを行ってください。

- ・メンテナンス作業は、BYD の基準および規格に従い、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で実施することをおすすめします。
- ・メンテナンス周期表に記載されている点検項目および走行時間や走行距離は、車両を通常の交通手段として乗員や荷物の搬送に使用する用途を想定して設定しているため、過積載がないようにしてください。

警告

- ・車両のメンテナンスを行う際は、車両が安全な場所にあることを確認し、可燃性または爆発性の液体や気体から遠ざけてください。
- ・車両の充電中にメンテナンスや清掃を行わないでください。メンテナンスまたは清掃を行う前に、必ず充電/放電プラグを抜いてください。
- ・メンテナンス時は、フロントコンパートメント内の高電圧・高温部品および冷却ファンに触れないように注意し、フロントコンパートメント内に液体をこぼしたりしないでください。オイルや液体を交換する際は、部品が十分に冷却されるまで待つてから作業してください。

注意

- ・BYD の「品質保証書およびメンテナンスノート」の記載内容に従って、車両メンテナンスを定期的の実施してください。

車両の点検

- ・車両の性能や音の変化、および点検が必要であることを示す明らかな兆候に注意してください。下記の状況が発生した場合は、速やかに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で車両の点検や修理を依頼してください。

- ・ モーター始動時の異音。
- ・ 冷却水の高温状態が続いている、冷却水が流れない、水漏れ。
- ・ モーターの引っかかりおよび異音。
- ・ モーター回転時の激しい振動。
- ・ モーターが始動できない。
- ・ 電動パワートレインからのオイル漏れ。
- ・ 電動パワートレインからの異臭。
- ・ 動力が明らかに弱まっている。
- ・ 車両下部からの水漏れ（エアコンからの水は異常ではない）。
- ・ タイヤの空気漏れ、コーナリング時の過度なタイヤのノイズ、不均一なタイヤ摩耗。
- ・ 平坦な道を直進中に車両が片側に流れる。
- ・ サスペンションの動きに伴う異音。
- ・ ブレーキが効かない、ブレーキペダルが軽い、ペダルがフロアに接触する、ブレーキをかけたときに車両が片側に流れる。
- ・ モーター冷却水の温度が高い状態が続いている。
- ・ バッテリー容量が明らかに下がっている。
- ・ バッテリーの高温状態が続いている、過熱保護が作動し、電力が出力されない。

警告

- ・ 未点検の車両を運転しないでください。車両が大きく破損したり、人に怪我を負わせるおそれがあります。

車両の防食について

車両腐食でよくある要因：

- ・ 車両の下に塩分、ほこりや湿気が付着する。
- ・ 湿度の高い環境、または車両の一部が長期間高温高湿にさらされる。
- ・ 軽微な衝突、または小石や砂利で塗装や下地が傷付く。

車両腐食を防ぐために、下記のルールを守ってください。

- ・ こまめに洗車する。
 - ・ 冬場に塩分のある路上を走行する、または海沿いに住んでいる場合は、毎月1回以上、土や泥がよく付着する箇所を洗浄してください。高圧洗浄機や蒸気でシャーシとホイールハウスを洗浄することで腐食を軽減します。冬が終わったら、シャーシ部分を徹底的に洗浄してください。
- ・ ボディーの塗装とアクセサリーを点検する。
 - ・ 塗装の欠けや塗装割れがある場合は、腐食を防ぐためにただちに補修してください。塗装剥がれがある場合は、BYD正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で補修してください。
- ・ 車内を点検する。
 - ・ 水分やほこりが長時間カーペット下に堆積すると腐食につながるため、カーペット下をよく点検し、乾燥した状態を保ってください。
 - ・ 化学薬品、洗浄剤、化学肥料、塩などを運ぶ場合は、注意しながら適切な容器で運んでください。あふれたり漏れたりしたときはすぐに洗浄して乾かしてください。
- ・ マッドガードを使用する。
 - ・ 塩分やアルカリ分が多い地域または砂利舗装路を走る場合は、マッドガードで車両を保護してください。マッドガ

ードは、寸法が大きく地面に近いほど効果があります。

- ・ 風通しの良い乾燥した場所に駐車してください。

塗装メンテナンスのお願い

- ・ 定期的に車両を洗浄してください。
- ・ 色ムラや密着不良を防ぐため、塗装に明らかな擦り傷がない場合は、安易に再塗装しないでください。
- ・ 長期間車両を放置する場合は、車庫や風通しの良いところに駐車してください。また、冬場は専用のボディーカバーで覆ってください。一時的に駐車するときは、直射日光が当たらない涼しい場所を選んでください。
- ・ ボディーの塗装への強い衝撃を避け、当たり傷や擦り傷などを防いでください。塗装の傷、へこみ、剥がれは錆の原因となるおそれがあるため、可能な限り早めに専門のカーケアショップで補修してください。
- ・ 化学反応を避けるため、油の付いた手でボディー塗装の表面を触ったり油の付いた布で塗装の表面を拭く、また、油汚れが付いている工具や有機溶剤を含んだ布をボディーの上に置かないでください。
- ・ 毎月1回、またはボディー表面の撥水性が落ちている場合は、車用ワックスを塗布して定期的に（四半期毎に1回）お手入れを行い、早めにボディー塗装の輝きを取り戻してください。
- ・ ワックスがけの前に、ボディー表面の汚れを洗い流し、ボディー表面が冷めるまで待ってください。
- ・ 高品質の艶出し剤とカーワックスを使用します。ボディーに艶がないときはカーワックスとは別にカークリーニング艶出し剤を使用してください。使用するときは、メーカーの指示と注意事項をきちんと守り、クロムメッキ面も塗装面と同様

に必ず艶出しと車用ワックスを塗布してください。

- ・ カメラ、プラスチック部品、樹脂塗装部品にワックスを塗布しないでください。

注意

- ・ 車両を再塗装し、高温の塗装ブースに置く間は、高温によりバンパーを破損させるおそれがあるため、車両の樹脂製バンパーを取り外してください。
- ・ 樹脂塗装部品にガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着した場合は、直ちに柔らかい布で拭き取り、汚れや塗膜の剥がれを防いでください。
- ・ 樹脂塗装部品の修理が必要な場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にご相談ください。

ホイールのメンテナンス

- ・ ホイールに汚れが付着した場合は、中性洗剤を使用して速やかに除去し、その後、水で十分に洗い流してください。

注意

- ・ 塗装の損傷を防ぐため、以下のことを必ずお守りください。
- ・ 酸性、アルカリ性、および研磨剤を含む洗剤は使用しないでください。
- ・ 硬いブラシは使用しないでください。
- ・ 夏場の走行後や駐車後、ホイールが熱くなっている場合は、スチーム洗浄などで、熱湯を直接ホイールに吹き付けしないでください。

スライドドアシステムの点検

ガイドレール、スライドローラー、およびセンターガイドレールの耐摩耗プレートの点検

- スライドドアのアップパー/センター/ロアのローラー、レール、および耐摩耗プレートの表面に、ほこり、変形、へこみ、または異物の付着がないか、定期的に点検してください。
- ローラー、レール、または耐摩耗プレートに上記の異常がある場合、エアガンを使用してレール内壁とローラー表面を清掃するか、湿らせた布でセンターレールの耐摩耗プレート表面を清掃します。

注意

- レール、ローラー、および耐摩耗プレートの点検を行う前に、スライドドアの電動機能を OFF にしてください。
- 清掃後、ドアの開閉を 3 回繰り返してください。ローラー、ガイドレール及び耐摩耗プレートから明らかな異音が発生する場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場での点検修理をお勧めします。

ガイド機構の点検

- ガイド機構の可動部品の緩衝パッドは合成ゴム製で、消耗品に該当します。各種車両の使用環境や使用サイクルの違いにより、ガイド機構の緩衝パッドには程度の異なる摩耗が生じます。
- 電動スライドドアが走行中に揺れや騒音を発生しにくくするため、下記の内容に注意してください。
- ガイド機構可動部品のゴムパッド表面を定期的に点検し、明らかな摩耗が見られる場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場での交換をお勧めします。

- 車両の走行中にスライドドアのガイド機構部分から明らかな異音が発生する場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で専門スタッフによる点検修理を受けることをお勧めします。

全開リミットロックリングの点検

- 定期的にドア全開リミットロックリング ASSY のゴムバークッションの状態を確認してください。緩みや外観の損傷、または完全に脱落している場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で専門スタッフによる点検・修理を受けることをお勧めします。

車両外部洗浄

- 下記の場合は、塗装剥がれやボディーまたは部品の錆びを引き起こすおそれがあるため、早めに車両を洗浄してください。
 - 沿岸部を走るとき。
 - 凍結防止剤をまいている道路を走るとき。
 - コールトールが付いている道路を走るとき。
 - 樹脂、鳥の糞や虫の死骸が付いたとき。
 - 煙塵、石炭灰、ほこり、鉄くずや化学物質を大量に含んでいる地域を走るとき。
 - ほこりや泥で車両が明らかに汚れているとき。
 - 雨が降った後。

注意

- 洗車する前に、すべてのドア、ボンネット、テールゲートおよびキャップが閉まっていることを確認してください。

注意

- 車両を洗浄する際は、充電ポートフラップを開けて内部を洗浄しないでください。
- 高温で直射日光が当たる環境で洗車しないでください。
- 洗車時、ドアミラーの隙間に水が入る場合があります。速やかに拭き取り、気温が低い時にドアミラーが結露するのを防いでください。

手洗い洗車をするとき

日が当たらない涼しい場所に車両を止め、車両が十分に冷えてから洗車をします。

1. ホースで表面の汚れを洗い落とし、下回りやホイールの奥に付いているすべての泥や塩分汚れをきれいに洗い落とします。
2. 中性洗剤で洗浄する場合は、洗剤の取扱説明書に従って洗剤を混ぜ合わせてください。洗剤で湿らせた柔らかい布で、水が流れる方向に上から下へ拭きます。円を描くように拭いたり横方向に拭いたりしないでください。
3. 洗剤が乾くと痕が残るため、水で十分に洗い落とします。夏期に洗車する際は、洗車後に水で各部分をきれいに洗い流します。
4. 水垢が残らないように、清潔な柔らかいタオルでボディの水分を拭き取ってください。また、塗装が傷付くおそれがあるため、強く拭いたり押し付けて拭いたりしないでください。

高圧洗浄機で洗車をするとき

- 高圧洗浄機で車両を洗浄する場合は、次の操作説明に従ってください。そうしないと車両および部品の損傷や破損につながるおそれがあります。
- 高圧洗浄機のノズルとボディの洗浄面の距離が 30cm 以上であること。

- 高圧洗浄機の水圧は 60bar 以内で使用することを推奨し、最大で 100bar を超えないこと。
- ノズルの噴射モードは扇形または霧状を選択してください。高圧の直射水流を使用しないでください。
- 洗浄時はノズルを常に移動させ、1 か所で止めないでください。
- 高圧洗浄機でドアや窓の開閉部分、カメラ、駆動部品、ステアリング部品、サスペンション部品、ブレーキ部品などを直接洗浄しないでください。

お願い

- 強アルカリ性の粉石鹼、石鹼水、洗剤、脱脂洗浄剤、有機物質（ガソリン、灯油、揮発油、強溶剤）を使わないでください。
- ライトを洗浄する際は、アルコール類（アルコール、ウォッシュ液など）、ケトン類（シンナー、虫取りクリーナーなど）、有機溶剤（ガソリン、シンナー、四塩化炭素など）、または硬いブラシを使用してライトの表面を洗浄しないでください。ライトカバーに亀裂が入るおそれがあります。
- 沿岸部や汚染が深刻な地域で走る車両については、毎日 1 回の洗車をすすめます。
- ボディーの汚れをカッターで削ったり、ガソリンで洗ったりしないでください。有機物質によってプラスチック製ホイール装飾部品が損傷します。有機物質がホイール装飾部品に付いた場合は、必ず水で洗い流してから部品に損傷がないかを点検してください。著しい破損があるプラスチック製ホイール装飾部品は、移動中に外れて事故を起こすおそれがあるため、速やかに交換してください。
- 研磨剤を含んだ洗浄剤でバンパーやライトを拭かないでください。

！ お願い

- メッキ処理の金属部品の洗浄は、専用の洗剤を使って定期的に車用ワックスを塗布することをおすすめします。
- BYD アラウンドビューシステム機能に影響を与える可能性があるため、カメラを傷つけないでください。
- 変色の原因となるため、アルコール、ベンゼン、シンナーを使用してカメラを清掃しないでください。
- 洗車時、モータールームに水をかけないでください。電気部品などが水に濡れると、車両火災を引き起こす可能性があります。
- フロア下やシャーシを洗浄する場合は、手を切らないように注意してください。
- 洗車後、ブレーキパッドに水が入ることがあります。車両を運転して数回ブレーキをかけ、ブレーキパッド上の水を除去し、ブレーキ性能への影響を避けてください。

自動洗車

- 塗装面に傷が付くおそれがあるため、自動洗車場で洗車する場合は、ブラシのタイプ、ろ過していない洗浄水、洗車機に設定された洗浄プログラムに注意してください。
- 特に色が濃い車両は、塗装表面の擦り傷により塗膜の耐久性や光沢度が低下します。
- 洗車前に洗車場のスタッフに問い合わせるか、自動洗車機の指示を確認して、塗装面に最も安全な洗車プログラムを確認してください。

！ 注意

- 自動洗車機を使用する前に、以下のことを確認してください。
- オートビークルホールド機能がOFFになっている。
- ドアミラーを内側に折りたたんでください。また、運転する前にドアミラーを展開してください。詳細は (79 ページ) を参照してください。
- ドアミラーの損傷を防ぐため、洗車機の「ミラー洗浄なし」モードを選択してください。
- 車内への水の浸入による故障を避けるため、エアコンを内気循環モードに設定してください。
- 車体表面に取り付けられたアンテナ (ある場合) を取り外してください。

！ お願い

- 車両に洗車モード*がついている場合、自動洗車前にこのモードをオンにすると、車両は自動的に窓を閉め、ミラーを折りたたむなどの動作を行います。詳細は (181 ページ) を参照してください。

車内の清掃

！ 警告

- 車内に水を噴射したり液体をこぼしたりしないでください。オーディオシステム、スイッチ、配線、電気部品などが損傷するおそれがあります。電気部品の故障は、SRS エアバッグ部品や電気配線の作動不良を引き起こし、傷害や死亡事故につながる可能性があります。

注意

- ・ガソリンなどの有機溶剤や酸性・アルカリ性溶剤、染色剤、漂白剤を使用して清掃しないでください。センターコンソールやその他の内装の変色、斑点、塗装剥がれの原因となります。
- ・洗剤や艶出し剤を使う場合は、その成分に上記の物質を含んでいないことを確認してください。
- ・新規の液体洗剤を使う場合は、液体に上記の成分が含まれている可能性があるため、車内の表面にこぼさないでください。液体をこぼした場合は素早くきれいに拭き取ってください。
- ・ポリッシングコンパウンドや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他の内装の塗装が剥がれたり、溶解・変形したり、インストルメントパネルがフロントガラスに映り込んで運転者の視界を妨げ、走行の安全性に影響を与える可能性があります。
- ・損傷の原因となるので、硬い物で車内部品をこすったり、傷つけたりしないでください。
- ・内外装を洗浄する場合は、インストルメントパネルやフロア、近くの電気部品に水が直接流れ込まないようにしてください。水の侵入により機能の異常につながるおそれがあります。
- ・塗装剥がれや錆の原因となるので、消毒時には、塩素系（二酸化塩素または次亜塩素酸）の洗浄液を使用しないでください。75%以下のアルコールを使用し、乾いた布にアルコールを塗布し、アルコールがなくなるまで車内部品を拭いてください。アルコールは燃えやすいため、火災を起こさないよう注意してください。

注意

- ・ボディの腐食を防ぐため、水で車内のフロアを洗浄しないでください。
- ・消臭剤、芳香剤、化粧品、日焼け止め、リキッドフレグランスなどが容器から漏れたり内装部品に接触したりしないようにしてください。これらが樹脂部品や布地に付着すると、色褪せ、変色、ひび割れ、塗装剥がれを引き起こす可能性があります。

カーペット

- ・定期的に掃除機を使用してカーペットのほこりを除去してください。
- ・定期的に、適切な泡タイプの洗剤を使用し、泡をたっぷり含ませたスポンジや柔らかいブラシで円を描くように洗浄してください。
- ・泡タイプの洗剤に水を加えず、できるだけカーペットを乾燥状態に保ってください。
- ・カーペットがずれないように、フロアアンカーを使用してしっかりと固定してください。

シートベルトのメンテナンス

- ・シートベルトは、中性洗剤を溶かしたぬるま湯で洗浄してください。
- ・スポンジや柔らかい布でシートベルトを拭きます。洗浄中に、シートベルトに過度な摩耗、破れや切れがないかを点検してください。

注意

- ・シートベルトの強度が落ちるおそれがあるため、染色剤や漂白剤でシートベルトを洗浄しないでください。
- ・ガソリンなどの有機溶剤でシートベルトを洗浄しないでください。

注意

- ・シートベルトは、乾燥するまで使用しないでください。

ドアおよびウィンドウガラス

- ・ドアは、一般家庭用の洗剤で洗浄できません。
- ・定期的にドアチェッカーを点検してください。ドアチェッカーのロッドにほこりが付着している場合は、水で濡らした布でドアチェッカーのロッドを拭いて、表面のほこりを落としてください。
- ・水またはぬるま湯を含ませた清潔な柔らかい布で窓を清掃してください。
- ・フロントドアガラスの内側には UV カットコーティングが施されています。フロントドアガラスの内側に汚れが付着した場合は、速やかに水またはぬるま湯を含ませた清潔な柔らかい布で拭き取ってください。

注意

- ・UV カットコーティングの傷や劣化を防ぐため、ガラスを清掃する際は以下の要件を守ってください：
 - ・フロントドアのガラスがひどく汚れている場合は、なるべく窓の開閉を控えてください。
 - ・清掃時には、ガラスクリーナーや洗剤などを使用しないでください。
 - ・砂やその他の汚れが付着した布で清掃しないでください。
- ・リアガラス内側の清掃を行うときは、熱線およびその接続部を傷付けたり破損させないように注意してください。

エアコンパネル、カーオーディオ、インストルメントパネル、コントロールパネルとスイッチ

- ・水で濡らした布でエアコンパネル、カーオーディオ、インストルメントパネル、コントロールパネル、スイッチを清掃します。
- ・水やぬるま湯で濡らしたきれいな布でほこりを軽く拭き取ります。

車内の人工皮革部分*

- ・人工皮革部分は、毛織物に使える中性洗剤で洗浄することができます。
- ・中性洗剤の溶液を浸けた柔らかい布でほこりを拭き取ってから、水で濡らしたきれいな布で残りの洗剤を完全に拭き取ります。
- ・洗浄後または人工皮革が濡れている場合は、清潔な柔らかい布で水分を拭き取り、風通しが良い涼しいところで人工皮革を乾かします。
- ・シートはフォームタイプの皮革用洗剤で洗浄し、その後清潔な柔らかい布で拭き取ってください。
- ・車両の洗浄についてご質問がある場合は、現地の BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に問い合わせてください。

注意

- ・中性洗剤で汚れが取れない場合は、有機溶剤を含まない洗剤で洗浄してください。
- ・揮発油、アルコール、ガソリン、酸性やアルカリ性溶液などの有機物質で、人工皮革を洗浄しないでください。人工皮革の色落ちの原因になります。
- ・ナイロンブラシや人造繊維製の布などを使うと、人工皮革表面の模様が傷付きます。

注意

- 汚れている人工皮革部分はカビが生えることがあります。特に油污れに注意し、人工皮革部分を常に清潔に保ってください。
- 長時間日光に当たると、人工皮革の表面が固くなったり縮むことがあります。特に夏場は、日が当たらない涼しい場所に駐車してください。
- 夏の暑い時期は車内の温度が上昇しやすいので、人工皮革部分の上には、ポリエチレン製やワックスを含む材料で作られたものを置かないようにしてください。これらのものは、高温になると人工皮革に固着します。
- 人工皮革部分の洗浄を誤ると、色が落ちたり、まだらになったりします。
- シートが液体で濡れた場合は、すぐに柔らかいタオルまたはティッシュで拭き取って乾かしてください。ドライヤーを使用して急速に乾かさないでください。
- 濃色のデニムや衣服の染料などは皮革装飾部品に移りやすいため、付着した場合は直ちに洗浄する必要があります。

セルフメンテナンス

セルフメンテナンス

セルフメンテナンス上のご注意

- メンテナンスをご自身で行う場合は、本章に記載されている手順で正しくメンテナンスしてください。
- 不適切で不完全なメンテナンスは、車両の正常な使用に影響を与えることをご了承ください。
- 本章には、ユーザーが実施できるメンテナンスのみを記載しています。ただし、

資格のある技術者が専用工具を使って作業する必要があるメンテナンス項目は、数多くあります。

- メンテナンスを実施する場合は、思わぬ怪我を防ぐために下記のいくつかの注意事項を必ず守ってください。

注意

- 車両の一部回路や部品には高電流や高電圧が掛かっているため、ショートさせないように細心の注意を払ってください。
- 冷却水があふれた場合は、部品や塗膜の破損を防ぐために、乾燥した布や紙できれいに拭き取ってください。
- ブレーキフルードがあふれた場合は、部品や塗膜の破損を防ぐために、水できれいに洗い流してください。
- ワイパーブレードを交換するときは、ワイパーでガラス表面に傷が付かないようにしてください。
- ボンネットを閉めるときは、工具や布などがモータールーム内に残っていないかを確認してください。
- 車内や車外を問わず、異物や液体が目に入らないように、作業時は保護メガネをかけてください。
- ブレーキフルードは皮膚や目を傷めるため、ブレーキフルードを注入する場合は注意してください。ブレーキフルードが皮膚や目に付着したときは、ただちに水で付着部位を洗い流してください。それでも手や目に痛みなどがあるときは、ただちに医師の手当てを受けてください。

点検

使用状況や推奨の走行距離に従い、下記の項目を点検してください。

- 冷却水レベル——充電のたびにラジエーターの冷却水レベルを点検してください。
- ウォッシュ液——毎月1回ウォッシュ液タンクのウォッシュ液の残量を点検してください。悪天候で頻繁にウォッシュ液を使った場合は、充電のたびにウォッシュ液の残量を点検してください。
- フロントガラスワイパー——毎月1回ワイパーを点検してください。ワイパーがフロントガラスをきれいに拭き取れない場合は、摩耗、亀裂やその他の損傷がないかを点検してください。
- ブレーキフルードレベル——毎月1回レベルを点検してください。
- ブレーキペダル——ブレーキペダルがスムーズに操作できるかを点検してください。
- 電動パーキングブレーキスイッチ——スイッチが正常に機能しているかを点検してください。
- 起動バッテリー——毎月1回バッテリーの状況および端子の腐食状況を点検してください。
- 空調システム——毎週エアコン装置の稼働状況を点検してください。
- タイヤ——毎月1回タイヤ空気圧を点検してください。タイヤトレッドの摩耗状況および異物の挟み込みがないかを点検してください。
- ガラスデフロスター——毎月、暖房装置やエアコンを使うときは、デフロスター装置の吹き出し口を点検してください。
- ライト——毎月1回ヘッドライト、ポジションランプ、テールライト、ハイマウントストップランプ、ターンシグナルランプ、フロントフォグラмп、ブレーキランプ、リアライセンスプレートランプの状況を点検してください。
- ドア——トランクリッドおよび他のドア（リアドアを含む）すべてがスムーズに開

閉し、確実に施錠できるかを点検してください。

- ホーン——ホーンに異常がないかを点検してください。

！ お願い

- 未点検の車両を運転しないでください。車両が大きく破損したり、人に怪我を負わせるおそれがあります。

コンビネーションランプ

フロントコンビネーションランプの光軸調整

- 工場出荷時、フロントコンビネーションランプの光軸調整が行われています。重い荷物を運ぶことが多い場合は、新たにフロントコンビネーションランプの光軸調整を行う必要があります。フロントコンビネーションランプの光軸調整については、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に依頼してください。

ライトの曇り

- 大雨や洗車後、コンビネーションランプやテールランプの内側に曇りが生じることがあります。これは空気中の湿度が非常に高い場合や、車両と周囲環境の温度差が大きい場合に起こる現象で、故障ではありません。

！ お願い

- コンビネーションランプ、テールランプの内側に曇りが発生した場合は、コンビネーションランプやターンシグナルランプをつけてしばらく走行すると、ライト内の水蒸気が消えます。
- ライト内に明らかに水が入っている場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。

！ お願い

- ・ ランプカバーの損傷を防ぐため、ランプ表面にワックスを塗らないでください。

車両の保管

- ・ 長期間（1ヶ月以上）車両を放置する場合は、下記に示す準備を実施し、適切な準備を行うことで、車両性能などの劣化を効果的に防止できます。また、可能な限り屋内に駐車してください。
- ・ 推奨の時間通り充電します。長期駐車時のバッテリー使用に関する推奨事項については、(109 ページ)を参照してください。
- ・ ボディーの外側を徹底的に洗浄し、乾かします。
- ・ 車内を掃除し、カーペットやマットなどを完全に乾かします。
- ・ パーキングブレーキを解除し、シフトレバーを「P」レンジに切り替えます。
- ・ ウィンドウガラスを1枚少し下げます（屋内駐車の場合）。
- ・ 起動バッテリーの負極（-）端子を取り外します。
- ・ フロントワイパーアームがフロントガラスと接触しないように、ワイパーアームの下に折りたたんだタオルや布を入れておきます。
- ・ 固着を軽減させるために、すべてのドアのシール部にシリコン潤滑剤を塗り、ドアウェザーstripp接触部の塗膜表面にボディーワックスを吹き付けます。
- ・ 布のような「多孔質材料」で作られた通気性カバーでボディーを覆います。ビニールシートのような無孔質材料では湿気が溜まるため、ボディー表面の塗膜を破壊させるおそれがあります。

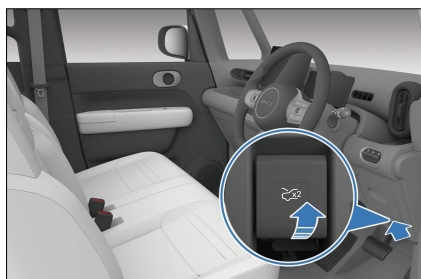
- ・ 可能な限り、定期的に車両を始動させます（毎月1回を推奨）。1年間、またはそれ以上に放置した場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で車両全体のメンテナンスを行ってください。

ボンネット

ボンネットの開け方と閉め方

ボンネットの開け方

1. シフトレバーを「P」または「N」に入れ、電子パーキングブレーキを掛けます。インストルメントパネル下の右側にあるボンネットリリースレバーを2回連続で引き上げると、ボンネットが少し隙間ができるように開きます。



2. ボンネットを持ち上げて、サポートロッドでボンネットを支えます。



ボンネットの閉め方

1. サポートロッドを外し、ボンネットを低い位置まで下げたところから、両手を離し、自重で落下させ、ロックします。

2. ボンネットを開いたら、確実にロックされているかを確認してください。メーターパネルにボンネットが閉まっていない警告が表示されていないか確認してください。

警告

- ボンネットが閉まっており、確実にロックされていることを確認してください。ロックされていないと、走行中にボンネットが突然開き、事故につながるおそれがあります。
- ボンネットを閉めるときは、勢いよくボンネットを落とさないでください。ボンネットを 30cm 以下の高さまで下げてから手を離してください。
- ボンネットを落とした後、完全に閉まっていない場合は、無理にボンネットを押さえ付けず、ロックを解除してからボンネットを閉め直してください。
- ワイパーを立てているときは、ボンネットを開けないでください。ワイパーを破損するおそれがあります。
- ボンネットを閉めるときは、ボンネット周辺に人や異物がないことを確認し、挟まれたりボンネットが破損したりすることを避けてください。
- 点検修理完了後は、工具、布、または雑物をボンネット内に残さないように注意してください。車両の故障につながるおそれがあります。
- 強風時には、ボンネットが突然落下するおそれがあります。

冷却システム

- 冷却水の液面がリザーバタンクの最大値 (MAX) と最小値 (MIN) の間にあれば問題ありません。

- 冷却水は、添加剤を入れずに BYD 指定の冷却水と同じ仕様のものを使ってください。異なるブランドや型番の冷却水を混ぜ合わせて使用しないでください。



- 最小値 (MIN) の目盛りを下回る場合は、最大値 (MAX) の目盛りに達するまで冷却水を補充し、冷却システムに漏れがないかを点検します。

お願い

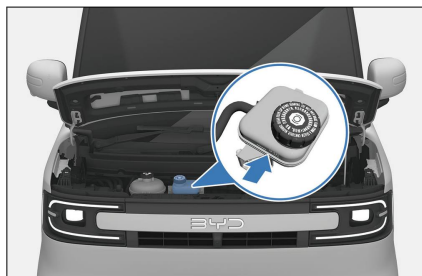
- 冷却システム内に防錆剤や他の添加物を絶対に加えないでください。添加物は、冷却水やモーターの部品と相性が悪い可能性があります。
- リザーバタンクの蓋を開ける前に、モーター、集積型高電圧電気制御モジュール、リザーバタンク、ラジエーターがすべて冷えていることを確認してください。モーターが完全に冷えていない状態でリザーバタンクの蓋を開けると、冷却水の噴出により、重度のやけどを負うおそれがあります。

ブレーキシステム

- 毎月 1 回、ブレーキフルードリザーバタンク内のフルードレベルを点検してください。ブレーキフルードは、定期メンテナンス表に記載された走行時間と走行距離に従い交換してください。
- ブレーキフルードは、純正品のブレーキフルードと同じものを使用してください。

い。また、規格外のブレーキフルードを混ぜ合わせて使用しないでください。

- フルードレベルガリザーバタンクの最大値 (MAX) と最小値 (MIN) の間にあれば問題ありません。
- コンビネーションメーターにブレーキフルードレベルが低いと表示された場合は、ブレーキシステムからの液漏れやブレーキパッドの摩耗がないかを点検してください。



- 高地環境がブレーキフルードに及ぼす影響：
 - 標高の上昇により気圧が低下すると、ブレーキフルード中の空気含有量が増加し、ブレーキシステム故障警告灯 (H) が点灯する可能性があります。高地に入る前に、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場、または専門の修理機関で、インテリジェントパワーブレーキシステムの標準的なエア抜きを行ってください。

注意

- 高地に入る前にエア抜きを行わなかった場合、走行中にブレーキペダルが柔らかくなったり、制動距離が長くなったりする可能性があり、深刻な場合には動力が制限されることもありますので、慎重に運転してください。

ウォッシャー

- 毎月 1 回以上、ウォッシャー液タンクのレベルを点検してください。
- 悪天候でウォッシャーをよく使う場合は、ウォッシャー液タンクのレベルを確認する頻度を増やしてください。
- 高品質のウォッシャー液を使用することで、汚れをよく落として凍結を防ぐことができます。



- ウォッシャー液が補充時にこぼれた場合は、清潔な布で拭き取ってください。拭き取った布でワイパーゴムを清掃すると、ゴムを良好な状態に保つことができます。

注意

- 絶対にウォッシャー液タンクに洗浄液以外の液体を注入しないでください。
- pH 値が 6.5~10 のウォッシャー液を使用してください。
- ウォッシャー液を補充する際は、液体をフロントコンパートメント内にこぼさないように注意してください。

空調システム

- 空調システムはクローズドシステムです。重要なメンテナンス作業のすべては、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で行ってください。

- 空調システムを正常に機能させるため、下記の内容を確認してください。
- ラジエーターおよびエアコンコンデンサーを定期的に点検します。
- 異物が詰まると空気の流れを妨げて冷房能力が落ちるため、前側の表面に詰まっている落ち葉や虫、ほこりを取り除きます。
- 冷媒に含まれている潤滑油を循環させるため、寒い季節は、毎週1回以上、毎回10分以上エアコンをつけてください。
- 空調システムの冷房能力が通常より落ちている場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。

注意

- 空調システムの点検は、冷媒の再循環装置を確実に使用してください。この装置は、冷媒をリサイクルすることができ、冷媒を大気中に放出することで発生する環境汚染を防ぎます。

ワイパーメンテナンス

ワイパーブレードの材質は合成ゴムで消耗品です。車両の使用環境やドライバーの使用習慣により、ワイパーブレードが破損するおそれがあります。ワイパーブレードの寿命と安全を確保するため、下記の内容に注意してください。

- フロントガラスの表面に付いている氷をワイパーブレードで拭き取らないでください。氷は車両専用のアイスクレーパーを使ってください。
- 汚れや油、ワックスが付着しているフロントガラスの表面をブラシでこすらないでください。
- ガラスの表面をきれいに保ってください。また、ガラスの表面に付着している

ほこりや砂、虫、異物などを取るときは、ガラスの表面をこすらないでください。

- 洗車やボディー塗装のメンテナンス時は、フロントガラスに車用ワックスを吹き付けしないでください。夜間走行時にワックス層が光を反射して視界が悪くなり、安全な走行に影響を与えます。洗車後は水でワイパーブレードを洗い、専用のワックス除去剤でフロントガラスに付着したワックスを落としてください。
- ワイパーブレードの破損を防ぐため、洗車時は高圧洗浄機をワイパーブレードに直接吹き付けしないでください。

メンテナンスガイドライン

- 定期的にウィンドウガラスとワイパーブレードを洗浄してください(1週間~2週間毎に1回を推奨)。
- 定期的にワイパーを作動させてください(1日~2日毎に1回を推奨)。ワイパーブレードでウィンドウガラスを拭くときは、ガラスが濡れた状態で行ってください(雨が降っていないときはウォッシュ液をガラスに噴射してください)。
- ウィンドウガラスを専用の洗剤で洗浄します。
- ウィンドウガラスに付着している泥や虫の死骸は、早めに布できれいに拭き取ってください。
- ウィンドウガラスに飛び石などの傷が付いている場合は、早めに修理してください(ウィンドウガラス修復用樹脂製品の使用を推奨。傷が多かったり大きいときは、ウィンドウガラスの交換を推奨)。
- ワイパーブレードを定期的(半年に1回)に交換することをおすすめします。詳細は(78ページ)を参照してください。
- ウィンドウガラスを洗浄するときは、事前にワイパーアームを立てておきます。操作方法の詳細は次の通りです。

1. マルチメディア  → サービス → メンテナンスの画面からフロントワイパー

の点検/リアワイパーの点検を ON にすると、ワイパーアームが立てられる位置に移動します。

2. ワイパーアームの上側を持ち、ワイパーアームとブレードアセンブリをしっかりと引き上げます。

タイヤ

- 安全運転のために、車両に適合する型番やサイズのタイヤを選定してください。また、トレッドパターンが良好で、空気圧を適正にする必要があります。

警告

- 過度な摩耗、空気圧不足、空気圧が高すぎるタイヤを使うと、生命にかかわる事故につながるおそれがあります。
- 本マニュアルに記載されている空気圧調整およびメンテナンスに関する内容に従ってください。

空気を入れるとき

- タイヤ空気圧を適切に調整することで、操縦性、タイヤトレッドの寿命および運転快適性の最適な組み合わせを実現します。
- 空気圧不足のタイヤを使用すると、タイヤの偏摩耗や操縦性、エネルギー消費に影響を与えるだけでなく、過熱による空気漏れにつながるおそれがあります。
- 空気圧が高すぎるタイヤを使うと車両の快適性が悪くなり、路面のデコボコによりタイヤが傷付くため、最悪の場合はバーストを引き起こすおそれがあります。また、タイヤの偏摩耗が起こればタイヤの寿命が短くなります。
- 冷間時、メーターに表示されたそれぞれのタイヤ空気圧*により、空気補充の必要性を判断することができます。タイヤ空

気圧モニタリング値の確認方法については、(166 ページ)を参照してください。

- タイヤ空気圧は冷間時に測定してください。冷間時とは、少なくとも停車してから 3 時間経ってから測定することを意味します。タイヤ空気圧を測定する前に走行する必要があるときは、走行距離が 1.6km を超えなければ冷間時と考えて問題ありません。
- 温間時 (数 km ほど走った後) のタイヤ空気圧を測定すると、冷間時より 30 ~ 40kPa (0.3 ~ 0.4bar) 高くなりますが異常ではありません。また、空気圧不足につながるため、推奨の冷間時空気圧になるまで空気を抜かないでください。

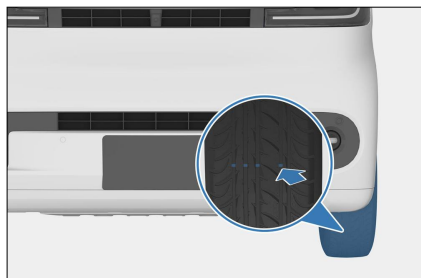
お願い

- 推奨するタイヤ空気圧のラベル (運転席側ドア開口部に貼ってあります) には、推奨の冷間時空気圧が明記されています。
- チューブレスタイヤは、パンク時に一気に空気が抜けにくく、少しずつ空気が漏れていきます。タイヤ空気圧が下がり出したら、空気漏れの位置を特定してください。

タイヤの点検

- タイヤ空気圧を点検するときは、タイヤの傷や摩耗状態、異物などが刺さっていないかも合わせて点検してください。
- タイヤトレッドや側面の傷および膨らみ、いずれかがあった場合はタイヤを交換してください。
- タイヤ側面の擦り傷、割れや切れ、カーカスやビードワイヤーが見えた場合はタイヤを交換してください。
- タイヤトレッドの過度な摩耗。
- タイヤトレッド内部にはスリップサインがあります。タイヤトレッドの摩耗によりスリップサインが現れると、溝の深さが 1.6mm 以下であることを意味しま

す。摩耗がここまで進んだタイヤは、滑りやすい路面で走るときのグリップ力が悪くなります。



- ・タイヤトレッドにスリップサインが現れるまで摩耗した場合は、タイヤ性能が著しく落ちるため、タイヤを交換してください。

メンテナンス

- ・適切な空気補充のほかに、正確なホイールアライメントもタイヤトレッドの摩耗を効果的に軽減します。
- ・タイヤの偏摩耗が起きた場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でのホイールアライメントの点検を行ってください。
- ・工場出荷前にホイールアライメント調整が行われていますが、一定時間走行後に、ホイールアライメント調整を新たに行う必要があります。
- ・比較的速い速度 (80km/h) で運転中に継続的な振動を感じ、低速時は振動を感じない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でのタイヤの点検をしてください。
- ・補修したタイヤが 1 つでもある場合は、必ずホイールアライメント調整を新たに行ってください。
- ・新しいタイヤや新しいホイールに交換した場合は、必ずホイールアライメント調整を行ってください。

⚠ 注意

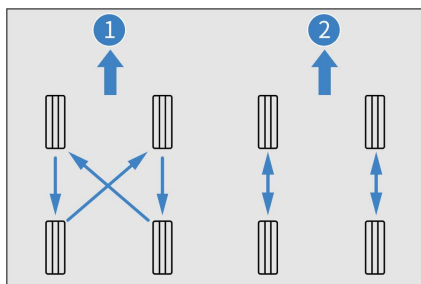
- ・バランスウェイトの取り付けを誤ると、ウェイトが脱落し、走行時に自転車や周りのものを破損させるおそれがあります。
- ・バランスウェイトの取り付けを誤ると、アルミホイールを破損させるおそれがあります。バランスを確実に取るため、純正のバランスウェイトの使用をおすすめします。

タイヤローテーション

- ・タイヤの摩耗を一定に保って長持ちさせるため、10000km 毎にタイヤの内側と外側のトレッドの摩耗を確認し、必要に応じてタイヤローテーションやホイールアライメントの点検と調整を行うことをおすすめします。
- ・タイヤ交換後は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でのタイヤ空気圧の調整を行ってください。
- ・タイヤを購入する際、「方向性」が決まっているタイヤがあります。このようなタイヤは同じ回転方向でローテーションしてください。方向性が決まっているタイヤを使う場合、タイヤローテーションはフロントタイヤ、リアタイヤの入れ替えしかできません。
- ・タイヤローテーションは図のようになります。

①方向性が決まっていないタイヤおよびホイール

②方向性が決まっているタイヤおよびホイール



タイヤとホイールの交換

- 本車両のオリジナルタイヤは、車両性能を最大限に引き出すために選定されたもので、それと同時に、操縦性や乗り心地の良さおよび使用寿命の最適な組み合わせとなっています。
- BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で指定タイヤに交換してください。
- ABS（アンチロックブレーキシステム）は、タイヤの回転数を比較することで機能するものです。タイヤを交換する場合は、オリジナルタイヤと同じサイズのものを使用してください。タイヤのサイズおよび構造は、ホイールの回転数に影響を与え、システム動作の不一致につながるおそれがあります。
- ホイールを交換する必要がある場合は、オリジナルホイールの仕様と同じホイールを選定してください。新しいホイールは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場から購入することができます。交換する前に BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にお問い合わせください。

警告

- サイズ、荷重範囲、定格回転数および最大の冷間時空気圧（タイヤ側面に表示）が異なるラジアルタイヤに交換したり、ラジアルタイヤとバイアスタイヤを混用すると、制動能力

警告

や駆動力（グリップ力）、および操舵精度の低下につながります。

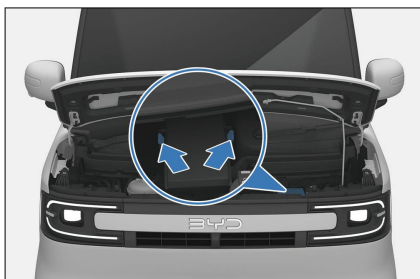
- タイヤを誤って装着すると、車両の操縦性や安定性に影響を与えるため、生命にかかわる事故につながるおそれがあります。
- タイヤは 1 本だけ交換せず 4 本を同時に交換してください。そうしないと、車両の操縦性に著しい影響を与えます。

注意

- 下記の事項を守ってください。運転中の典型的な危険を引き起こして、車両が制御できなくなるおそれがあります。
- ラジアルタイヤとバイアスタイヤを混用しないでください。
- メーカーの推奨サイズ以外のタイヤを使わないでください。
- ホイールハブナットの締め付けトルクは $130 \pm 13 \text{ N} \cdot \text{m}$ です。

フューズ

- ショートや過負荷を防ぐため、回路ごとにフューズを設置しています。フューズは、モータールームのフューズボックスとインストルメントパネルのフューズボックスに格納されています。
- フューズボックスの中にはフューズのラベルが貼ってあり、ラベルでフューズと電気部品との関係特定できます。
- モータールームのフューズボックスは、モータールームの右側にあります。モータールームの化粧板を取り外して図のようにクリップを押すと、フューズボックスが開きます。



- 車内のインストルメントパネルのフューズボックスは、運転席側インストルメントパネルの右側にあります。インストルメントパネル下側を取り外すと、フューズの点検ができます。



警告

- BYD 純正のフューズまたは同等品をご使用ください。
- フューズやフューズボックスの無断改造は行わないでください。
- 定格アンペア数より高いフューズを使わないでください。また、著しい破損を引き起こしたり火災を招くおそれがあるため、フューズの代わりに他のものを使わないでください。
- フューズが切れたら、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場での点検や交換をしてください。

07

故障が発生した時

非常信号灯.....	228
リモートキーのバッテリーが切れたら	228
緊急時シャットダウンシステム.....	229
衝突事故が発生したら.....	229
バッテリーの液漏れが発生したら...	230
車両火災が発生したら.....	231
レッカー移動が必要なとき.....	231
タイヤの空気漏れまたは空気圧が足りない場合.....	233

非常信号灯

非常信号灯

- ・ 高速道路や踏切などで故障・事故により緊急停車したときに使用します。

使い方

1. 助手席側のセンターコンソールの左下にある固定クリップから非常信号灯を取り出します。
2. 非常信号灯のスイッチを入れ、点滅を確認してください。
3. 底部のマグネットを使って非常用信号灯をボディに取り付け、後方の車両に危険信号を発します。



⚠ 注意

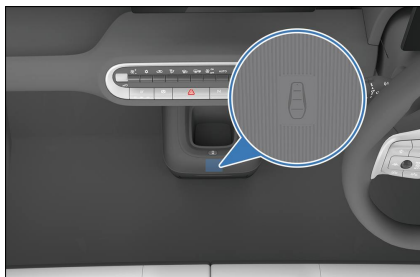
- ・ 非常用信号灯に強い衝撃を与えないでください。
- ・ 底部のマグネットでボディを傷付けないように注意してください。
- ・ 非常信号灯を設置した状態で走行はしないでください。また、使用後は元の位置に戻してください。
- ・ 緊急時に使用できるように定期的に点検を行ってください。

リモートキーのバッテリーが切れたら

リモートキーのバッテリーが切れたら

- ・ リモートキー表示灯が点滅せず、スタート機能を使っても車両が始動しない場合は、バッテリーが切れている可能性があります。できるだけ早く BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してバッテリー交換を依頼してください。このようなときは、電池レスモードで車両を始動することができます。

1. メカニカルキーで解錠します。
2. リモートキーをフロントシート収納ボックスの電池レスモードマーク(図の位置)にかざします。
3. ブレーキペダルを踏み込んでから「スタート/ストップ」ボタンを押して始動します。



⚠ 注意

- ・ 温度が高い場所にリモートキーを置かないでください。
- ・ ラジオ局、変電所や航空無線発信機などで発生する磁界は、リモートキーへの干渉が起きやすく、電池レスモードでのキー操作によって車両を始動させる機能の正常作動に影響を与えることがあります。

注意

- ・ドアを施錠してイモビライザーが作動状態にあり車両を使わない場合は、リモートキーを車両から遠ざけてください。車両がリモートキーに電波を自動的に送信し続けるため、起動バッテリーの電力が消費されます。

緊急時シャットダウンシステム

緊急時シャットダウンシステム

- ・以下の条件を満たすと、緊急時シャットダウンシステムが ON になり、高電圧システムが自動で OFF になります。
- ・前方衝突後、エアバッグが作動しなかったとき。
- ・一部の後面衝突のとき。
- ・一部の車両システム故障のとき。
- ・上記の衝突や車両システムの故障が発生すると、走行可能表示灯（「OK」表示灯）が消灯します。
- ・上記の衝突により緊急時シャットダウンシステムが作動することで、傷害や思わぬ事故の発生リスクを最小限に低減することができます。
- ・緊急時シャットダウンシステムが作動すると、車両は走行準備完了状態に移行できなくなります。電源スイッチを走行可能状態に切り替えても、システムは瞬時に OFF になります。そのため、速やかに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

衝突事故が発生したら

衝突事故が発生したら

- ・車両が衝突した場合：
 1. 車両の電源ポジションを「OFF」にしハザードランプを点けます。乗員を安全な場所に避難させた後、法令に基づいて警告標識を車両後方に置いてください。
 2. 通報用の番号に電話を掛け、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡して救援を要請してください。
- ・車両が衝突した際、緊急時シャットダウンシステムが作動して「OK」表示灯が消灯すると、車両は走行可能状態に移行できなくなります。このような場合は、速やかに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場まで連絡してください。
- ・車両衝突後の被害程度が予測できない場合は、高電圧感電の危険を避けるために車両へ近づかないでください。
- ・ドライバーと同乗者が閉じ込められて救助のために車両を切断する必要がある場合は、専門の救援者に連絡し高電圧システムを切ってから切断してください。切断のイメージ図は、車載資料の救助情報カードを参照するか、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場から受け取ってください。

警告

- ・車両の電源が完全に OFF になっていない状態で、メンテナンス作業をしないでください。
- ・高電圧のバッテリー部品および接続ケーブルの分解、移設、改造をしないでください。コネクタによって

07

故障が発生した時

警告

は、重度のやけどや感電が発生し怪我や死亡につながるおそれがあります。オレンジ色の接続ケーブルは、高電圧ワイヤーハーネスです。高電圧ワイヤーハーネスを勝手に修理しないでください。修理が必要な場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で行ってください。

バッテリーの液漏れが発生したら

バッテリーの液漏れが発生したら

衝突後にバッテリーの液漏れが発生している、車内から酸性の液体の臭いがする、車外から酸性の液体が漏れている、バッテリーバック内部から煙が出ている場合は以下の措置を取ってください：

1. 車両の電源ポジションを「OFF」にして車両から離れ、速やかに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡して救援を要請してください。
2. 可能であれば、保護マスクと防食手袋を着用した状態で起動バッテリーを切り離します。
3. 状況が許せば、自ら簡単な点検を行ってください。例えば、パワーバッテリートレイの縁に割れがないか、明らかな液体の流出がないかなどを確認してください。
 - ・液漏れが少量の場合は、車両を火元から遠ざけて漏れた液体を吸水シートで吸収し、吸水シートを密閉容器に入れるか焼却処分してください。また、作業する場合は防食手袋を着用してください。大量に液漏れしている場合は、漏れた物をまとめて危険化学物質とし

て処理してください。有毒ガスであるフッ化水素（HF）の処理には、グルコン酸カルシウム溶液を添加する方法もあります。

- ・漏れた液体が身体に付着した場合は、ただちに大量の水で 10～15 分ほど洗い流してください。痛みを感じたときは、2.5%のグルコン酸カルシウムジェルを塗るか、2～2.5%のグルコン酸カルシウム溶液に浸してください。効果がなく気分が悪いときは、すぐに医師の手当てを受けてください。

警告

- ・漏れた液体には触らず、液漏れしている車両やパワーバッテリーから遠く離れてください。
- ・漏れた液体を水や土壌などへみだりに流さないでください。
- ・本車両のシステムは、高電圧の直流電源を使用しています。車両始動時や車両の電源ポジションを「OFF」にすると、システムには大量の熱が発生するため、高電圧や高温に注意してください。
- ・高電圧のバッテリー部品および接続ケーブルの分解、移設、改造をしないでください。コネクタによっては、重度のやけどや感電が発生し怪我や死亡につながるおそれがあります。オレンジ色の接続ケーブルは、高電圧ワイヤーハーネスです。高電圧ワイヤーハーネスを勝手に修理しないでください。修理が必要な場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で行ってください。
- ・リモートキーや高電圧部品は、身体に医療機器を付けている方に影響を与えたり、傷害を負わせたりするおそれがあります。

車両火災が発生したら

車両火災が発生したら

車両火災が発生した場合は、ただちに車両を停止し車両の電源ポジションを「OFF」にした後、車両から離れた場所に避難してください。自身の安全を確保したうえで、実際の状況に合わせて実際の状況に合わせて以下の措置を取ってください：

1. 現場の状況に応じて緊急通報番号に電話を掛け、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
2. 火勢が弱い場合は、乾燥粉末消火器で鎮火してください。
3. 火勢が強く勢いよく燃え広がる場合は、ただちに車両から遠く離れて風上で救援を待ってください。

⚠ 注意

- ・ 指定された消火器を使用してください。少量の水や消火器の使い方を誤ると、感電につながるおそれがあります。
- ・ 状況により部品(内装部品やガラス)などが飛ばされるおそれがある際は車両から離れ、速やかに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に現場対応を依頼してください。
- ・ 誤って煙を吸い込んだ場合は、ただちに医師の手当てを受けてください。

レッカー移動が必要とき

レッカー移動が必要とき

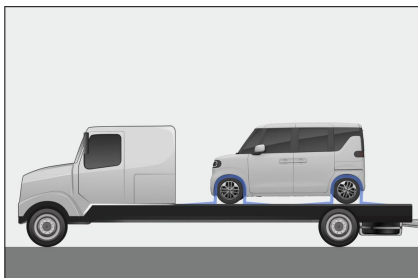
- ・ 車両のけん引が必要な場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場、もしくはけん引サービス専門業者またはご入会のロードサービスに救援を依頼してください。

⚠ 警告

- ・ 他の車両でロープやチェーンだけでのけん引はしないでください。

おすすめのけん引方法：

- ・ 積載車
 - ・ 車両故障で救援が必要な場合は、積載車を利用してください。
 - ・ 車両を搬送する際は、前輪または後輪のいずれか一方が路面に接していると高電圧部品が損傷するおそれがあるため、必ず 4 つの車輪すべてを路面から離してください。



⚠ 注意

- ・ 積載車で移動する場合は、車両が後退しないようしっかりと固定してください。

07

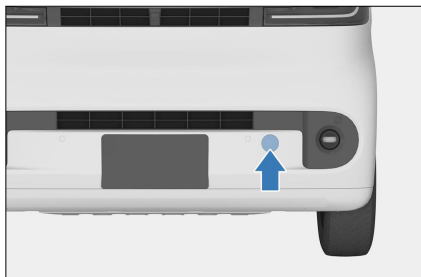
故障が発生した時

⚠ 注意

- 専門のタイヤ結束バンドと締め具の使用してください。また、移動対象となる車両を固定するにはストレート結束方法を使用してください。
- 車両の損傷を避けるため、固定するときは結束バンドやロープなどの固定具を車輪に通したり、シャーシやサスペンションなどをボディーに結びつけたりしないでください。
- 車両の損傷を避けるため、移動するときは車輪が回転しないようにしてください。

けん引フック

- けん引フックカバーの取り付け位置は、図のようにフロントグリルの右下にあります。
- 1. マイナスドライバーやキーを使用して、けん引フックのキャップをこじ開けます。
- 2. けん引フックを差し込み口に取り付けます。



- 救援が必要な場合は、ロードサービス専門業者、またはロードサイドアシスタンスに連絡してください。
- 車両破損や人に傷害を負わせないために、緊急時でレッカー移動が必要な場合は次の注意事項を遵守してください。
- レッカー車の状態は良好であり、レッカー移動する車両のシフトレンジが

「N」で、レッカー始動速度が 5km/h を超えないようにします。

- レッカー移動時は急発進しないでください。
- レッカー移動する車両は、ドライバー以外乗車しないでください。
- レッカー車とレッカー移動する車両は、ハザードランプを点けてください。
- 車両を破損させるおそれがあるため、車載工具に入っているけん引フックのみ使用してください。
- レッカー車とレッカー移動する車両の距離は 4m 以上 10m 未満にしてください。
- レッカー移動する車両の幅および重量は、レッカー車の幅および重量を超えてはいけません。
- 車両をレッカー移動する場合は、周りが広くて障害物がなく、けん引装置の近くに人がいないことを確認してください。
- スタックから脱出するときは、車両の進行方向がけん引力のかかる方向と合うように制御してください。側面や垂直方向からけん引しないでください。
- レッカー移動する車両のドライバーは、車両に乗車してステアリングシステムとブレーキシステムが正常な状態になるよう制御してください。

⚠ 警告

- 乗り上げなどのスタックが起きた場合は、けん引フックによる脱出を避けてください。ロードサービス専門業者、またはロードサイドアシスタンスに連絡してください。
- レッカー移動する車両のステアリングシステム、またはブレーキシステムが機能しない場合は、レッカー移動を直接行わずにロードサービス専



警告

門業者、またはロードサイドアシスタンスに連絡してください。

タイヤの空気漏れまたは空気圧が足りない場合

タイヤの空気漏れまたは空気圧が足りない場合

- ・ 直線走行を保ちながらゆっくりと速度を落とし、交通量の多い場所を離れて安全な場所に移動してください。
- ・ 高速道路の中央分離帯などは避け、堅固で平坦な地面に駐車してください。
- ・ 「P」ボタンを押して、電動パーキングブレーキをONにします。
- ・ 車両の電源ポジションを「OFF」にして、ハザードランプを点滅させます。
- ・ 乗員全員が車両から降りて、ガードレールの外などの安全な場所に避難してください。
- ・ 自然発火を防ぐために車両を確実に固定してください。また、空気漏れしているタイヤの対角線上のタイヤに輪留めを設置してください。



注意

- ・ 修復できないほどにタイヤが破損するおそれがあるため、短距離走行でも空気漏れしているまま運転を続けないでください。

車載工具

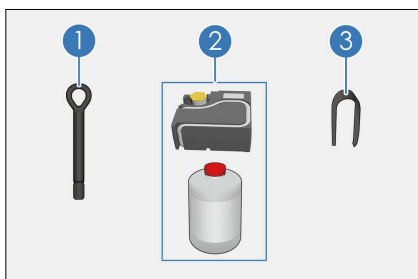
- ・ 車載工具は、トランクカバーの下の工具箱に格納されています。



①けん引フック

②パンク修理キット

③トリムカバー取り外しクリップ



注意

- ・ 車載工具を使用しない場合は、トランク内の工具箱に適切に保管し、トランクカバーボードをしっかりと閉めてください。



お願い

- ・ 緊急時に自ら修理をする場合は、車載工具の使い方および保管場所を確認してください。

パンク修理キットを使用する

- ・ パンク修理剤は、小さいパンク穴、特にトレッドパターン内の穴を塞ぐことができます。パンク修理剤で補修するのは、最寄りのサービス店まで走行できる状態まで復旧するための応急処置にすぎません。タイヤから空気が漏れていないとし

ても、緊急時の短距離走行にのみ使用してください。

警告

- ・パンク修理剤は、トレッドパターン内に開いた直径 6mm までの穴を補修することができます。直径が 6mm より大きい穴、またはタイヤの他の位置に開いた穴は、パンク修理剤を使わずにロードサービスを依頼してください。
- ・パンク修理剤は、引火性が高く、かつ健康に害を及ぼすため、蒸気を吸い込まないでください。修理中は、裸火の使用や喫煙を禁止し、皮膚や服、目に付着することを避けてください。また、お子様の手が届かないところに保管してください。

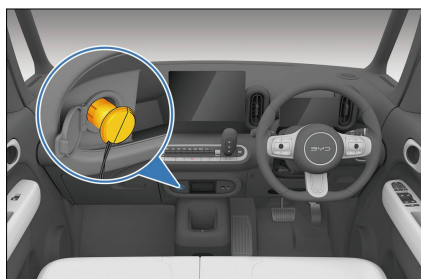
パンク修理剤に触れたとき

- ・パンク修理剤が皮膚や目に付着した場合は、ただちに多量の水で付着部位を洗い流してください。
- ・ただちに汚れた服を脱いでください。
- ・アレルギー症状が出た場合は、ただちに医師の手当てを受けてください。
- ・誤ってパンク修理剤を飲み込んだ場合は、ただちにうがいで口の中をきれいに洗い、多量の水を飲んでください。その後、吐かせずに速やかに医師の手当てを受けてください。

パンク修理キットの使い方

- ・パンク修理キットの使い方の詳細については、コンプレッサーおよびパンク修理剤容器の本体に貼られているラベルを参照してください。
- ・コンプレッサーに電源を接続する必要がある場合は、車内の 12V ソケットに電源プラグを挿し込み、車両を始動してコンプレッサーのスイッチを ON にします。コンプレッサーのホースを通して空気と

共にパンク修理剤をタイヤ内に注入します。



お願い

- ・電源プラグを車内の 12V ソケットに挿し込む場合は、コンプレッサーのスイッチが OFF になっていることを確認してください。
- ・コンプレッサーの 1 回の稼働時間は 10 分以内にしてください。
- ・コンプレッサーの空気圧計の指示値を確認します。
- ・タイヤ空気圧が 10 分以内に 180kPa にならない場合（タイヤ空気圧計の赤色のエリア）は、コンプレッサーを OFF にして BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- ・タイヤ空気圧が 180 ~ 320kPa の範囲内にある場合（空気圧計の黄色と緑色のエリア）は、できるだけ早くパンク修理剤を取り外して、1 分以内に 80km/h 以下の速度で最大 10km を走行してタイヤ全体にパンク修理剤を広げてください。
- ・車両を止めて修理後のタイヤを点検し、コンプレッサーの空気圧計を再度確認します。
- ・タイヤ空気圧が 220kPa を超えている場合は、80km/h 以下の速度で最寄りのサービス店まで走行してください。
- ・タイヤ空気圧が 130 ~ 220kPa の範囲内にある場合は、パンク修理剤を注入

して空気圧計を確認する作業を繰り返してください。

- ・タイヤ空気圧が 130kPa にならない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

警告

- ・砂地や水中でタイヤ補修キットを使用したり、油液をタイヤ補修キットに接触させたりしないでください。故障の原因となる可能性があります。
- ・タイヤ補修キットを分解、改造したり、強い力を加えたりしないでください。
- ・使用しないときは、タイヤ補修キットをトランク内の工具ボックスに適切に保管してください。

注意

- ・パンク修理剤で破損したタイヤを補修するのは応急処置のみです。可能な限りお早めに専門のサービス工場 でタイヤを交換し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡することをおすすめします。修理時には、タイヤにパンク修理剤が入っていることを整備士に伝えてください。
- ・タイヤパンク修理剤で補修したときは、急発進や高速でカーブを曲がることを避けてください。
- ・80km/h の最高制限速度を守ってください。走行中に激しい振動や走行性能が不安定になったり、騒音が聞こえた場合は、運転を止めてください。
- ・パンク修理剤の有効期限が切れたときは (有効期限はパンク修理剤の容器に付いているラベルを参照)、新品

注意

のパンク修理剤に入れ替えてください。

- ・パンク修理剤を使用した後は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場 で新品のパンク修理剤を購入してください。
- ・次のような場合は、タイヤ補修キットを使用した緊急修理ができません。BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場へご連絡いただくか、ロードサービスをお呼びください。
- ・6 ミリメートルを超える切り傷や刺し傷の場合。
- ・釘やネジがタイヤに刺さっている場合。このような状況でタイヤパンク修理キットを使用すると、穴が広がり、空気が漏れやすくなる可能性があります。
- ・タイヤ側面が損傷した場合。
- ・タイヤがほぼ完全にパンクしている場合。
- ・タイヤがリムから外れている場合。
- ・2 本以上のタイヤがパンクしている場合。
- ・パンク修理剤が期限切れの場合。

07

故障が発生した時

08

車両仕様

データ情報.....	238
表示情報.....	241
適合宣言書.....	245

データ情報

車両諸元

車両の寸法データ

項目	諸元	
車種仕様	仕様 1	仕様 2
全長 (mm)	3395	3395
全幅 (mm)(ドアミラーを含 まない)	1475	1475
全高 (mm)	1800	1800
ホイールベース (mm)	2520	2520
フロントトレッド (mm)	1295	1295
リアトレッド (mm)	1305	1305
フロントサスペンション (mm)	450	450
リアサスペンション (mm)	425	425
アプローチアングル (°)	30	30
デパーチャーアングル (°)	27	26

車両重量データ

項目	諸元		
車種仕様	仕様 1	仕様 2	仕様 3
車両重量 (kg)	1160	1220	1230
前軸荷重 (kg)	620	640	650
後軸荷重 (kg)	540	580	580
車両総重量 (kg)	1380	1440	1450
車両総重量前軸荷重 (kg)	700	720	730
車両総重量後軸荷重 (kg)	680	720	720

項目	諸元		
乗車定員 (人)	4	4	4

駆動モーターの諸元

項目	諸元
駆動モーター型番	TZ180XSAB
駆動モーターの種類	永久磁石同期モーター
駆動方式	フロントエンジン・ フロントドライブ
定格出力/トルク (kW/N・m)	25/50
最高出力/トルク (kW/N・m)	47/160

動力性能および経済性能の諸元

項目	諸元	
車種仕様	仕様 1	仕様 2
最高設計速度 (km/h)	130	130
最大登坂角度 (%)	≥40	≥40
WLTC モード時の 100km 当たりの消費電力量 (kW・ h/100km)	10.42	10.6



お願い

- ・ 実際のエネルギー消費量は、車両の状況、道路条件、運転習慣などによって異なります。

ホイールとタイヤの諸元

項目	諸元
タイヤサイズ	165/65 R15
タイヤ空気圧 (kPa)	250
ホイールバランス (g)	< 10

ホイールアライメント調整値 (車両重量時)

項目	諸元
フロントタイヤキャンバー角 (°)	-0.3±0.75
フロントタイヤトーイン (°)	0.3±0.16
キングピン角 (°)	10.92±0.75
キャスト角 (°)	4.24±0.75
リアタイヤキャンバー角 (°)	-1.08±0.75
リアタイヤトーイン (°)	0.06±0.5

ブレーキシステム技術諸元

項目	諸元
ブレーキペダルの遊び範囲 (mm)	≤15
フロントディスクローターの基準厚さ (mm)	20
フロントディスクローターの最小厚さ (mm)	18
リアディスクローターの基準厚さ (mm)	9
リアディスクローターの最小厚さ (mm)	7
フロントディスクパッドの基準厚さ (mm)	8
フロントディスクパッドの最小厚さ (mm)	2.5
リアディスクパッドの基準厚さ (mm)	6.5
リアディスクパッドの最小厚さ (mm)	2.5

パワーバッテリー諸元

項目	諸元	
車種仕様	仕様 1	仕様 2
パワーバッテリータイプ	リン酸鉄リチウムイオンバッテリー	リン酸鉄リチウムイオンバッテリー
パワーバッテリー定格容量 (Wh)	22400	35840

シート諸元 (シートクッション座面の深さ
測定時)

項目	諸元	
車種仕様	仕様 1	仕様 2
フロントシートのシート前後位置	前方へ 210mm、後方へ 20mm	前方へ 220mm、後方へ 20mm
フロントシートのシート前後位置	前方へ 210mm、後方へ 20mm	前方へ 210mm、後方へ 20mm
フロントシートのシートバック角度	19°	19°
フロントシートバックの通常使用状態	設計位置から前方へ 18°、後方へ 82°	設計位置から前方へ 18°、後方へ 82°
リアシートのシート前後位置	前方 80mm、後方へ 120mm	前方 80mm、後方へ 120mm
リアシートのシートバック角度	23°	23°
リアシートバックの通常使用状態	設計位置から後方へ 4°	設計位置から後方へ 4°

推奨オイルと注入量

項目	諸元
トランスミッションオイル型番	BOT 384
トランスミッションオイル注入量 (L)	0.5±0.05
ブレーキフルード型番	HZY6/DOT4
ブレーキフルード注入量 (mL)	900±50
モーター冷却水型番	有機酸系冷却液：不凍液-氷点-40°C (耐寒型)
モーター冷却水の注入量 (L)	3.4±0.2
ガラスウォッシュ液の注入量 (L)	1.5±0.15



注意

- 推奨されるオイルの種類は BYD に
よってテストし承認されています。
他のオイルを使用すると、車両の性
能に影響を与えたり、車両の故障や
部品の損傷につながるおそれあり
ます。

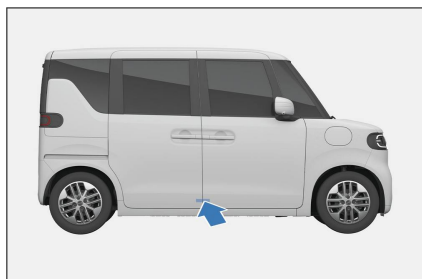
表示情報

車両の表示

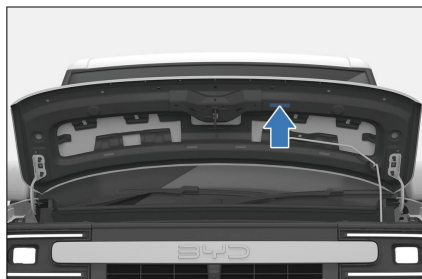
車両識別番号 (VIN)

VIN コードの貼り付け位置：

①運転席側 B ピラー下方

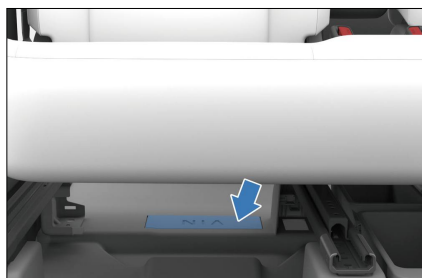


②ボンネットインナーパネルストライカーの右側



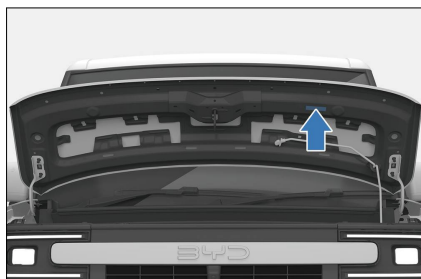
VIN コードの刻印位置：

- ・車両識別番号 (VIN)は運転席シートの下部に刻印されています。VIN 番号は車両 VDS への接続を通じて読み出すことができます。詳細は VDS 取扱説明書を参照してください。



駆動モーターの型式および番号

- ・前輪駆動モーターの型式および番号は、ボンネットインナーパネルのストライカー右側に貼り付けられています。

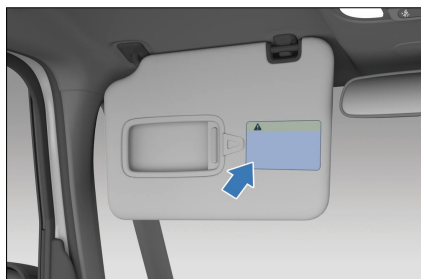


警告ラベル

- ・サイドエアバッグの警告ラベルは、左右 B ピラーの下側にあります。



- ・エアバッグの警告ラベルは、助手席側サンバイザーにあります。



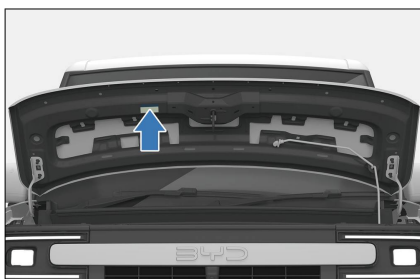
- ・タイヤ空気圧のラベルは、左側 B ピラーの下側にあります。



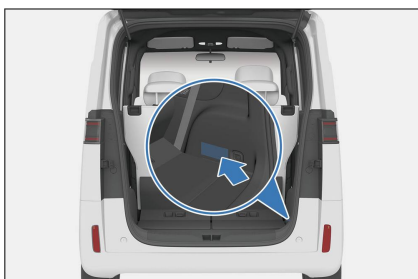
- 冷媒ガスチャージ、冷却ファンの表示ラベルは、ボンネットインナーパネル左側にあります。



- トランクのスライドプレートの注意表示は、トランク右側ボディサイド下部にあります。



- 充電コネクタの警告ラベルは、充電ポートフラップ裏側にあります。



- スライドドアの注意表示は、両側リアウィンドウ、左右 B ピラーリア側にあります。



- チャイルドロックの表示は、両側スライドドアのチャイルドロック上部にあります。





- トレイテーブルの注意表示は、テーブル中央部にあります。



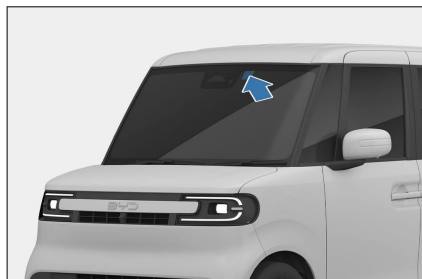
ダンパーステー機構警告標識

本車両のダンパーステー機構には高圧ガスが封入されており、危険性があります。決して個人で分解しないでください。製品上の警告シンボルの意味は以下の通りです。

シンボル	シンボル名称
	警告
	加圧シリンダー
	ユーザーマニュアルを参照してください
	火気厳禁
	ユーザーによる修理不可
	廃棄禁止
	(注: BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、回収を依頼してください。)
	手回し禁止
	足踏み禁止

マイクロ波通信用ウィンドウ

マイクロ波通信用ウィンドウは、フロントガラスの左上にあります。



⚠ 注意

- 電子タグを貼り付けるときは、ガラスの枠や他の物体に重ならないようにしてください。

適合宣言書

適合宣言書

リモートキー認証



日本

認証番号：214-118832

型番：D0-315



日本

認証番号：210-260993

型番：CK-B

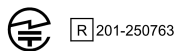
ミリ波レーダー認証



EU 諸国

認証番号：T.2024.03.0010

本デバイスは、有害な妨害からの保護対象外であり、また、正規認証を取得しているシステムに妨害を与えることはありません。



日本

認証番号：201-250763

本デバイスは、有害な妨害からの保護対象外であり、また、正規認証を取得しているシステムに妨害を与えることはありません。



日本

認証番号：217-252668

08

車両仕様

本デバイスは、有害な妨害からの保護対象外であり、また、正規認証を取得しているシステムに妨害を与えることはありません。

記号

安全運転支援システム.....	173
安全運転上のご注意.....	112
一般的な充電故障の診断.....	95
運転支援システム概要.....	131
運転上のご注意.....	128
運転前の準備.....	121
運転前の点検.....	121
横滑り防止装置 (ESC)	174
家庭用 AC 普通充電*	96
火災予防.....	117
荷物の積み込み.....	115
回生ブレーキの設定.....	107
外部給電*	103
外部洗浄.....	211
冠水路の走行.....	116
機械式チャイルドロック.....	66
起動バッテリー.....	110
起動バッテリー電圧不足時のスリープ 解除機能.....	111
緊急時シャットダウンシステム.....	229
空調システム.....	186
空調システムの点検.....	220
警告ラベル.....	242
後席小型テーブル*	199
交通標識認識システム (TSR)	155
航続距離の表示.....	106
傘ホルダー*	196
自動緊急ブレーキ (AEB)	152
自動緊急通報システム E-Call.....	88
自動洗車.....	213
車外からスライドドアを開閉する... 58	
車線逸脱防止支援システム (LDA)	158
車内からスライドドアを開閉する... 59	
車内の清掃.....	213
車両の始動.....	118
車両の点検.....	208
車両の防食について.....	209
車両の利用に関するご注意.....	113
車両メンテナンス計画.....	204
車両火災が発生したら.....	231
車両識別番号 (VIN)	241

車両諸元.....	238
車両接近通報装置 (AVAS)	167
車両保管上の注意事項.....	218
手洗い洗車をするとき.....	212
手動防眩ルームミラー.....	79
集中ドアロックスイッチ.....	85
集中ドアロックの施錠/解錠.....	57
充電スタンドでの AC 充電.....	99
充電スタンドでの DC 急速充電*	100
充電に関する警告.....	92
充電ポート盗難防止ロックの緊急解錠	106
充電ポート盗難防止ロック機能* ...	105
充電上のご注意.....	92
充電前の点検.....	96
充電前予熱機能.....	101
助手席側パワーウィンドウスイッチ	86
衝突事故が発生したら.....	229
節電で車両を長持ちさせる方法につい て.....	114
先行車発進通知 (LCDN)	157
洗車モード*	181
前方衝突予測警告 (FCW)	149
走行距離切替スイッチ.....	86
駐車券収納ボックス.....	193
駐車支援システム.....	171
定期メンテナンス.....	208
適合宣言書.....	245
電動パーキングブレーキ (EPB) ..	123
塗装メンテナンスのお願い.....	210
冬期の運転について.....	129
冬用タイヤ.....	129
非常信号灯.....	228
表示灯/警告灯.....	37
幼児置き去り検知 (CPD) *	162
幼児用補助装置 (チャイルドシート)	27
幼児用補助装置の取り付けについて	27
冷却水.....	219

数字

12V アクセサリー電源..... 199

A

AC 充電電流制限機能..... 101

B

Bluetooth キー*..... 50

Bluetooth 電話..... 186

BYD App..... 191

BYD アラウンドビューシステム*... 168

N

NFC デジタルキー*..... 51

NFC デジタルキーでの施錠/解錠*... 55

O

OTA アップデート..... 185

U

USB ポート..... 198

あ

アクセルペダル踏み間違い防止

(AMAP) 164

アシストグリップ..... 197

アダプティブクルーズコントロール

(ACC) 137

アダプティブヘッドライト (AFL) 161

アンチロックブレーキシステム (ABS)

..... 176

い

イモビライザー..... 30

インテリジェントクルーズコントロー

ル (ICC) 145

インテリジェントパワー ON/OFF* 120

インテリジェントパワーブレーキシス

テム..... 173

う

ウィンドウロックボタン..... 85

ウォッシュ..... 220

え

エアバッグについて..... 19

お

オートビークルホールド (AVH) . 126

お子様の乗車に関する安全事項..... 26

く

グローブボックス..... 192

こ

コンビネーションメーター..... 36

コンビネーションランプ..... 217

さ

サンバイザー..... 197

し

シートについて..... 66

シートバックポケット*	195
シートヒーターシステム*	68
シートベルトについて	16
シートベルトの着用	16
シフト機構	122

す

ステアリングホイールコンビネーションスイッチ	72
ステアリングホイールの手動調節	75
ステアリングホイールヒーター機能*	75
スピードリミットコントロール (ISLC)	148
スマートエントリー&スタートシステム	64
スマートフォンと車載システムの連携*	182
スマート充電	102
スライドドアシステムの点検	211

せ

セルフメンテナンス	216
センターコンソールボックス*	194

た

タイヤ	222
タイヤチェーン使用上のご注意	130
タイヤの空気漏れまたは空気圧不足が発生したら	233
タイヤ空気圧モニタリング	166

て

データの収集および処理	31
テールゲートの開/閉	56

と

ドアポケット	195
ドアミラーの調整	79
ドライバー注意喚起警告 (DAW)	162
トランクポケット	195

の

ノブ操作でドアを開ける	52
-------------	----

は

ハザードランプスイッチ	87
バックモニターシステム*	169
バッテリーの液漏れが発生したら	230
パワーウィンドウスイッチ	84
パワーステアリングモード	75
パワーバッテリー	108
ハンズフリースライドドアオープナーによるスライドドアの開閉*	61

ふ

フック	197
フューズ	224
ブレーキフルード	219
フロントカップホルダー	196
フロントシートの手動調節*	68
フロントシートの調節	67
フロントシート収納ボックス*	193
フロント収納ボックス	193

へ

ヘッドライトの高さ調節	84
ヘッドレストの調節	71

ほ

ホイールのメンテナンス.....	210
ボンネットの開け方と閉め方.....	218

ま

マイクロスイッチ操作での施錠/解錠.....	54
マイクロスイッチ操作によるウィンドウガラスの開/閉.....	55
マイクロ波通信用ウィンドウ.....	245
マルチメディアコントロールパネルPAD.....	180

め

メカニカルキー.....	49
メカニカルキーでの施錠/解錠.....	52
メカニカルキーでの全ドア緊急施錠.....	57
メガネケース*.....	195
メンテナンス周期.....	204

も

モードスイッチユニット.....	86
------------------	----

ら

ライトスイッチ.....	81
--------------	----

り

リアウィンドウサンシェード.....	200
リアシートの調節.....	69
リアワイパーおよびウォッシャー.....	77
リモートキー.....	48
リモートキーのバッテリーが切れたら.....	228

リモートキー操作での施錠/解錠.....	53
リモートキー操作によるウィンドウガラスの開/閉.....	54

る

ルームミラーの手動調節.....	79
ルームランプスイッチ.....	87

れ

レッカー移動が必要なとき.....	231
-------------------	-----

わ

ワイパー.....	77
ワイパースイッチ.....	76
ワイパーブレードのお手入れについて.....	221

略語一覧

略語

用語	フルネーム	用語	フルネーム
ECU	エレクトロニックコントロールユニット	EDR	イベントデータレコーダー
NORMAL	ノーマル	ECO	エコ
SPORT	スポーツ	EPB	電動パーキングブレーキ
AVH	オートビークルホールド	ACC	アダプティブクルーズコントロール
ICC	ナビゲーションパイロット	ISLC	インテリジェントスピードリミットコントロール
FCW	前方衝突警告	AEB	自動緊急ブレーキ
TSR	交通標識認識システム	LDA	レーンサポートシステム
LDW	車線逸脱警告	LDP	車線逸脱防止
AFL	アダプティブフロントライティング	TPMS	タイヤ空気圧モニタリングシステム
AVAS	車両接近通報装置	ABS	アンチロックブレーキシステム
ESC	横滑り防止装置	VDC	ビークルダイナミクスコントロール
TCS	トラクションコントロールシステム	HHC	ヒルスタートホールドコントロール
HBA	ハイドロリックブレーキアシスト	CDP	減速度制御
CST	コンフォートブレーキ	MAX	最大値
MIN	最小値	VIN	車両識別番号

